丹波志 總論 卷一

京都府立総合資料館所蔵

特
992
31
1

○北村先生編　丹波誌　一部拾五卷

先生に請ひて二部を淨寫し京都帝國大學圖書館と京都府立圖書館に各一部を寄託す

大正拾四年七月一日

北村龍象先生喜壽會

（北村先生喜壽會結末報告書を添附す）

丹波誌自序

世界誌ありて世界の事情知るべく五洲誌ありて諸洲の事情知り得べく英國誌ありて諸王の情知り得べく府縣に郡町村郡に各自の誌ありて其の生立道程や知るべし舊根據

京都府立総合資料館所蔵

ま[illegible]り新機軸を出だし百年の世
[illegible]国[illegible]府郡町村[illegible]を建設す
る[illegible]を[illegible]国[illegible]に[illegible]其[illegible]者
志者[illegible]事をば古史[illegible]を探究[illegible]
す[illegible]丹波[illegible]前
[illegible]数十年只[illegible][illegible][illegible]なす去

旅秋霧[illegible]踏[illegible]数百件朝[illegible]
和[illegible]数冊[illegible]邑淺井[illegible]
[illegible]平[illegible][illegible]
[illegible]世[illegible]必[illegible]者
[illegible]奏[illegible]と
[illegible]完全[illegible]

を予が門下生に授り共事業を遂げ
ヨゲ平生の感恩を感じ強て其乃
至に及ぶず恨ちらくハ予の先ゝて永を
完結する能ハざるを祝渓霞隠者
志を以て以を待ち
大正十三年 天長祝り 八十翁 龍象記す

此の結果に関係ある紹氏門生諸氏に
告ぐ
予が此を徒に望みしにあらず唐ハ序文に示すが如し
又後に録すべし
去る大正九年十月十日者志を門生が本の名乃
森寿命を発起し本命者右協議乃上
乃志業として浄宮先生に為年二命を
以て出資者となる所志を原諸す
命を四百十名中発起人一人なる浅井栄次郎氏が
自来命を二代ゝ搭者法を年知せらるゝ

毎年の労を謝す
浄写し労を執られたる岡崎一り氏の労を謝す
挿画し労を執られたる川恒三郎氏の労を謝す
各類出資せられたる角鹿三郎田中源太郎五氏が
労を謝し全部を目録として相成せられたるを送
慰とす

大正十三年十月一日

芳賀誌

全部
十五卷

總論　一卷　南桑田郡　二卷
亀岡町　一卷　北桑田郡　一卷
船井郡　二卷　何鹿郡　二卷
天田郡　二卷　多紀郡　二卷
氷上郡　二卷　以上

丹波誌卷一

總論

丹波國ハ山陰道八ヶ國ノ首位ニアリテ北緯三十四度五十餘分ニ起コリ同三十五度二十分餘ニ至リ西經四十度ニ起コリ四度五十分餘ニ至ル山陰道諸國ノ内ニ於テ廣袤ハ第二位ノ地域ヲ占メテ石見國ニ亞グ其ノ東西最長ノ所ハ二十二里南北十一里強而シテ疆界ハ七國ニ接ス南方ハ山城攝津ノ間ニ角入シ西方ハ播磨但馬ニ角入シ東北モ亦丹後若狭ノ際ニ角入シ只東方僅ニ近江ニ繞ル山陰道中海洋ニ接セザル國ハ此ノ國アル而已太古ニ於テ出雲民族ノ根據地タリ山陰トハ日本ノ西北

京都府立総合資料館所蔵

方ニ當ル山嶽陰影ノ地トナルヲ以爾名ヅケタリ
成務天皇ハ神武天皇ヨリ十三世ノ明帝ナルガ早ク
モ天下ノ形勢ヲ續ハセ玉ヒ五畿七道ノ制ヲ建テサ
セラル其ノ詔書ニ曰ハク
五年秋九月（當時年號未始マラズ天皇ノ即位ヲ以テ元年トセリ）國山河ヲ而分國縣隨阡陌ニ以定邑里因以東西爲日縱南北爲日横山陽爲影面山陰爲背面ト
太古ノ一トテ斯ク雜トシクルモノニテ丹波ハ地勢上背面ノ部ニ屬ス
天武天皇ニ至リ漸次判然クル區劃ヲ見ルガ山城ヲ以テ帝都ノ地トシ周制ヲ模擬ストセバ西江州ト當國ノ南北奈田郡ノ東部ヲ組ミ入レ邦畿千里ト爲ラ

京都府立総合資料館所蔵

ルベキモノト思ハル

山城國愛宕郡水尾嵯峨村及ビ八瀬村北桑田郡黒田村ノ一部邊一帶愛宕山ニ至ルノ地ハ丹波地域中ナリシヲ何日カハ之レヲ割キ山城ニ編入シ王城ノ地ヲ弘メタリトカヤ和漢三才圖會ニ云フ愛宕山傍也蓋愛宕水尾大明神在ニ桑田郡一註ニ云フ愛宕山ハ爲ニ丹波円權現鎮座以後屬ニ山城一

貞觀六年三月十日授ニ丹波國正六位上愛當護神社一從五位下

元慶三年閏十月廿四日授ニ丹波國從五位上阿當護神一從四位下

同四年四月廿八日授ニ丹波國阿當護山一無位雷被無

京都府立総合資料館所蔵

神祇「従五位下」

右ノ文ハ國史ニ在リ證トスベシ

播津ノ一部モ丹波ナリシコト南桑田郡曾我部村與能神社ノ部ニ出グス参看セヨ

京都七口ノ一ニ居ル丹波口ハ長坂口ヲ兼ネテ一トシ二道ヨリ京都ニ通ス丹波口ハ京都ノ五條以北ニ通ズベク長坂口ハ鞍馬口以南ニ通ズベシ七口トハ東三條口　伏見口　鳥羽口　七條口　丹波口　長坂口　鞍馬口　大原口

國形ハ東髮婦人ノ面影ニ似タリ東髮ノ所ハ天田郡ニシテ咽喉ヨリ項背ヘカケテ何鹿郡トシ腹部ハ船井郡トシ帶ナリ裳ナリ折レタル足ノ甲ヤ膕ハ北桑田郡トシ帶ノ結ビ目ヲ以テ若狭ヲ衝クモノトシ而シテ其ノ屈曲セル膝ヲバ南桑田郡トス

山脈ハ東北近江若狭ノ両國境ヨリ波線狀ヲ為シテ流レ來リ愛宕山トナリテ累起シ西南ニ奔

京都府立総合資料館所蔵

注シテ巒トナリ嶺トナリ丘阜トナリ凹形ヲ為ス
ノ多キ蓋山陰道ニ冠絶ス試ニ高キニ登リ眺矚セバ
丹波ナル國土ノ何處ニ存在スルカヲ訝ルベシ平野
ノ狹少ニシテ邑居ノ散在セル人戸人口ノ後ヲ稀
薄ナルヲ覩ルニ足ラン
地勢ノ高低ハ山勢ノ趣ク所ニ從ヒト共ニ氣候ニ變
化ヲ來シ雲霧ノ陰霽濃淡亦從テ關係シ北方必シ
モ酷寒ナラズ南方必シモ温暖ナラズ然レトモ普通
北方ハ冬期霜雪早ク下リ極寒ノ時ニ於ケル華氏寒
暖計二十七度ヲ示ス所下リ極暑九十五度ヲ示ス所
アリ是レ平地ヲ以テ計ルモノ其ノ山谷幽邃ノ所ニ
至リテハ四月ノ末ニ於テ草木ノ未萌芽セザル所ア

リ　明治二十九年冬至最低温度三十九度六　午前
九時五十二度七　同三十一年元日五十三度ナルハ
古來未曾有ノ温度トス
降霜ノ高地ニ早ク低地ニ遲キハ普通ナルガ明治二
十七年ハ其ノ反例ナリ初霜ノ日ヲ示セバ
南桑田郡　十月九日　北桑田郡　十月廿五日
何庚天田郡　同二十四日
木氷花トハ霜ガ木ニ着キ下垂シテ花ノ如キヲ云フ
稀ニ見ル所ナリ
降雪ハ明治二十八年十一月十四日曉高山ニ微白ヲ
見ル船井郡ハ平地一白他郡大同小異　園部一寸八
木五分亀岡千ヲ々々與ノ方ハ真白ナドノ諺アリ

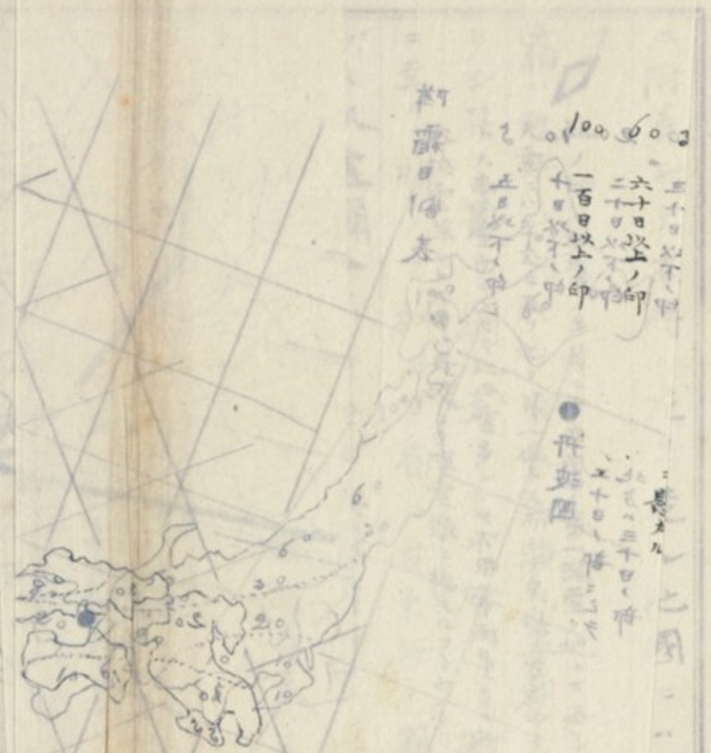
京都府立総合資料館所蔵

同三十年十一月二十八日南桑田郡小冥天田郡其ノ他郡々皆雪降ル

降雪ノ最多ク最深ク且一年間百二十日平均ノ宗谷ト皆無ナル那覇及ビ臺中ノ中間ニアル丹波ハ平均有雪期間ヲ大凡三十八日トシ其ノ早キ上川ハ十月二十三日頃ニ片々タル白影ヲ認ノ其ノ融解ノ終末ハ宗谷上川邊ニシテ五月初旬トシ丹波ハ三月末ヲ以テ降雪ノ終期トス

九雪ハ大正十年一月末ニ兩度降ル六出ノ常形ニ異ニシテ柔軟團九ナリ其ノ日大阪方面ニハ凍雨アリ凍雨トハ雨ニ氷ノ雜レルモノナリ

霧氷ハ希中ノ希ニシテ又奇中ノ奇ナル霧ナリ樹枝



丹波ニ農家ニ取リテ大事ノ一ニ居ル歐州ニテ

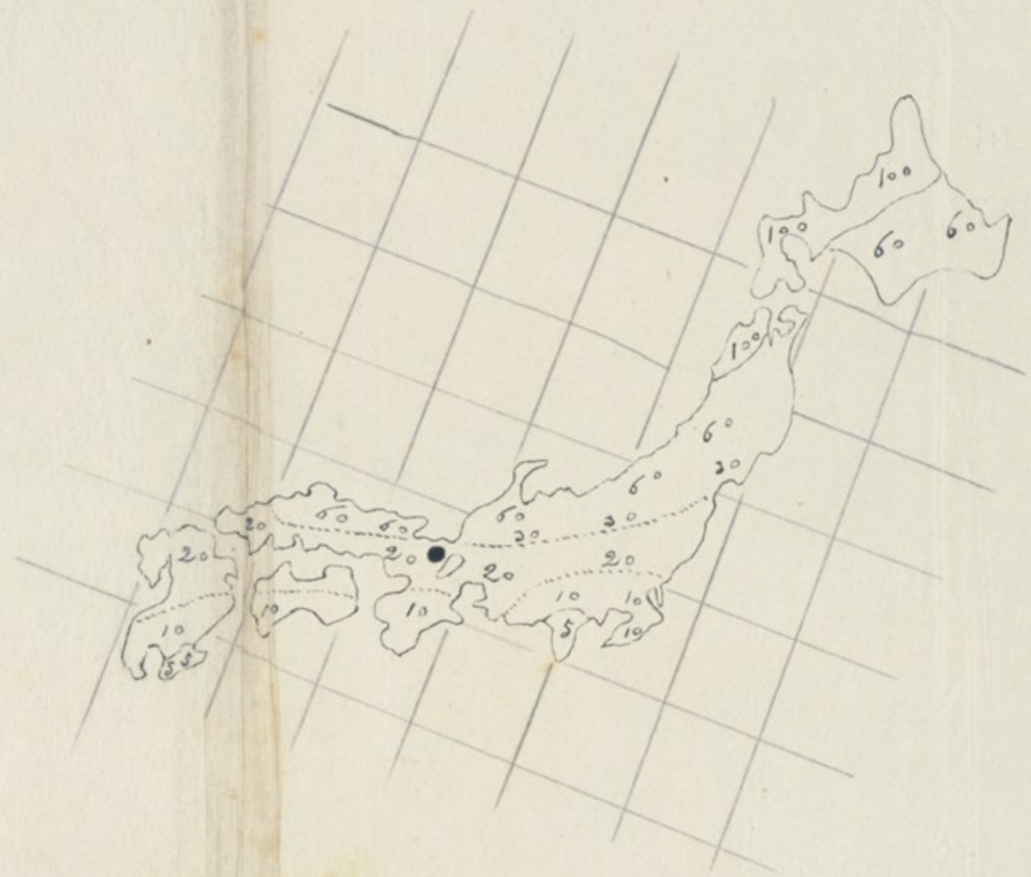
京都府立総合資料館所蔵

東京ト八雨ニ氷ノ結レシモノナリ

霧氷ハ希中ノ希ニシテ又奇中ノ奇ナル霧ナリ 樹枝

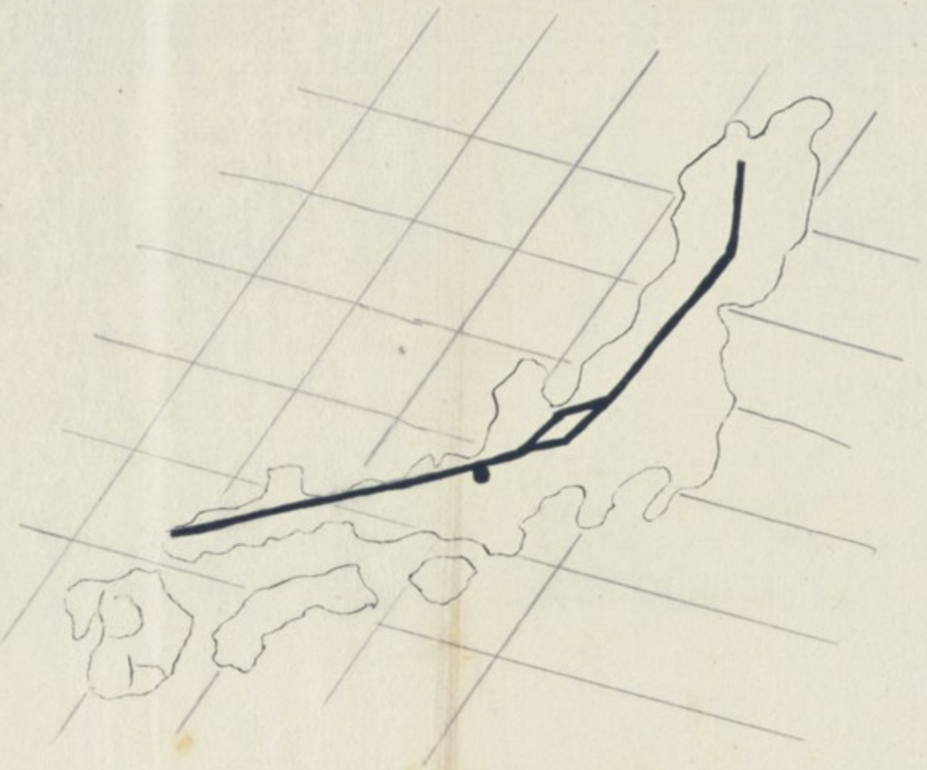
隣霜日割表

5	五日以下ノ印シ
10	十日以下ノ印
20	二十日以下ノ印
30	三十日以下ノ印
60	六十日以上ノ印
100	一百日以上ノ印



● 所渡國
二十日ノ部ニシテ
北方ハ三十日ノ部
ニ懸カル

京都府立総合資料館所蔵

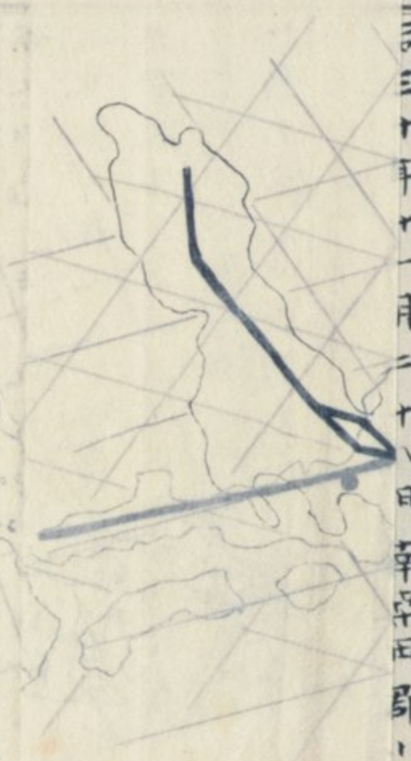


此ノ印ハ加賀ノ牛首ニテ本図中第一深雪ノ地トス毎年一丈五尺大雪ニハ三丈ニ及フ之ヲ第一位トス而シテ黒線ノ左右中ヲ深雪線トス南必雪サシトセズ北必雪多シトセズ平常雨量多キ所ハ冬季大抵雪深シトス●ハ丹波ニテ深雪線ニ接スルコトヲ少シ

霧氷ハ希中ハ希ニシテ又奇中ノ奇ナリ霧ナリ 樹枝

京都府立総合資料館所蔵

同三十年十一月二十八日南桑田郡い奥天田郡其ノ



大雷雲彩ノ如キ●ハ丹波ニモ彩雲彩ニ類スルヒイヤ
ハ常ニ雲ヤウイヤ大ハ雲ヤウイヤ次年常西量多ク而ハ冬ノ季
大雲ニハ三次ニ過ギ少ク第一番イヤ命ノ黒雲ハ立ち中モ彩雲彩
如ク明ハ此ノ黒ハ本国中漢一彩雲ハ此イヤ毎年一次五月

霧ハ秋半ニ始マリ春季ニ渉リ毎朝多少コレ無キハ
少シ其ノ甚キ朝ニ至リテハ咫尺ヲ辨ゼズ或ハ午時
ニ至リ初ノラ紅日ヲ看ル古来北ノ國ヲ霧ノ海ト呼
ブモ又虚稱ニハアラズ兵家者流ノ進退其ノ意ヲ要
ス可シト曰ヘリハ宜ナル哉菅原道真公ガ其ノ領地
ナル園部ノ小麥山ニテ

谷ヲ分リ霧ハさながら海ヨ似て
なしうとまぐ松風の音

ト詠ミタルヨリ看レバ霧モ中々詩趣ニ富ノルモ一
般殊ニ農家ニ取リテハ大禁物ノ一ニ居ル歐州ニテ

ニ附着シテ不時ノ花ヲ造ル他國ニハ稀少ナリト云
フ

京都府立総合資料館所蔵

ハ瑞西國ノ夏時ニ之レアリテ彼ノ國人モ亦稱シテ
霧ノ海ト呼ビ之レニ遭遇シタル旅客ハ之レヲ詩柄
トシ之レヲ旅日記ニ入レナドシテ世間ニ誇示スト
ケヤ霧ヲ海ニ見立テタル所ハ内地ニ於テ飛彈國ニ
モ之レアリ丹生川村ノ袈裟山千光寺ハ夏日曉天ニ
御嶽山乘鞍嶽等ノ諸尖頭ヲ顯ハスノミノアラ土
人コレヲ霧ノ海ト呼ビ山頂ヲ以テ嶋嶼トスルガ丹
波ニテハ嶋嶼無キノ洋海面ナリ山陰道諸國過半霧
ノ海ナルニ丹波獨リソノ名ヲ取リタルハ管公ノ詠歌
コレヲシテ然ラシメタル歟口碑ノ傳フル所ニ由レ
バ太古此ノ土地ハ一大湖面ナリシガ漸次乾枯シテ
水脈土中ニ潛伏シ朝日ノ出ヅルニ先タチ氣狀ヲ為
シテ立チ登ルナリト理學ト普及スルト共ニ疑問ハ
水蒸氣ト與ニ霽レニキ

降壓　大正十年四月十四日黄色泥沙降レリ新義州
京城方面ヨリ來リタルモノ恰霽狀ヲ為シ薄暮ニテ
休ム三年前ニモ之レアリテ人皆怪ミタリ之レヲ送
ルモノハ蒙古風ニテ風速二十米突ナラシニハ一晝
夜ナラズシテ蒙古ヨリ此ノ地ニ達スベシトハ氣象
學者ノ說ク所ナリ

高原ノ所ハ秩父層ニシテ飛彈國山脈即赤石山脈ト
ス秩父古成層ハ太古界ノ岩層ニテ岩層ヲ不成績ニ覆フタル
岩層ニテ武藏國秩父郡ニ於テ發達シ飛彈丹波ニ露
出ス其ノ高峻ノ姿ヲ為スヤ深ク刻ミテ山谷ヲ作ル

京都府立総合資料館所蔵

四周ノ山地ハ皆太古大統ノ層ニシテ中央ノ平野ハ
即第四期層ナリ大堰川段級ヲ作リテ其ノ間ヲ流ル
平原ハ大抵三角洲ニシテ蒔多ノ町村ハ人工ヲ加ヘ
テ建設シタルモノニ非ズ單ニ自然ノ便ヲ利用シタ
ルニ過ギズ其ノ平原ハ火山噴出石灰ノ堆積シタル
乾地ゲ田畠ヲ供給シタル所ニシテ亞細亞火山亞細
亞平原ヲ狹小ナル一幅ニ收縮シタル遺影現況ト見
ルベシ

地震　地質ヨリ視レバ丹波ハ丹後若狹但馬トモ安
全ノ域内ニ在リ

三角洲ニ高低アリ雨水潦水コレニ由リテ流下ス其
ノ東向スルモノハ山城國ニ向フ保津川ナリ南流ス

ルモノハ播磨國ニ入ルノ佐治川ナリ北ニ注グモノ
ハ丹後國ニ下ル和知川ナリ之レヲ丹波ノ三大川系
トス

國名ノ起コリハ詳ナラズ太古ハ太爾波トシ中古丹波
羽ノ字ヲモ用ヒ後ニ丹波トナル其ノ義ハ田庭ナル
ベシ其ノ說ニ曰ハク
度會ノ豐受太神（伊勢外宮）此ノ國ニマシヽテ内宮ノ皇
太神ニ朝夕ノ大御食（オホミケ）ヲ奉リ玉フ故ニ其ノ米ヲ作ラ
ヒラル、田庭（タニハ）トモ又雄畧天皇ノ御夢ニ太爾波（タニハ）ノ比
沼ノ真奈井ノ御饌（ミケ）ノ事ヲ感ゼサセラレ頻テ此所ヨ
リ神宮ヘ詣進スルヿトハナレリ其ノ庭ト曰フハ平
カニ廣ヤカナル意ナリ齋キ清ノクル稻ヲ忌庭ノ穗

京都府立総合資料館所蔵

ト云フニテモ知ラル古歌ニ海エヲ庭ト詠ミ後世ニ
テモ海波ノ靜穩ナルヲ善キニハト云フモ亦同ジ丁
ナリ中古國名郡名ヲ二字ニ取リ極ノラレ音讀シテ
古義ヲ失ヒ垂仁天皇ノ御記ニ旦波ト書カレタルハ
マダシモ儒生ガ唐風ノカセテ丹陵トシタルハ一笑
スルニモ餘リアリテ苦々敷リコソ思ホエレ
神代ニハ此ノ邊常ニ丹キ波立ツ海ナリ故ニ丹波ト
云フト又ハ大江山ノ麓ニ大池アリテ大蛇往ミ往来
ノ人ヲ呑ハ夫婦ノモノ其ノ畔ヲ過ギ婦ハ蛇ニ呑マ
ル續キテ夫モ亦呑マル夫ハ横腹ヲ己ガ攜ヘタル劔
ニテ斬リ出デヽ免レタリ蛇ノ腹ヨリ出デタル血ガ
池ノ波ヲ丹ク染ノタルヨリ丹波トハ呼ベリト

孰レモ丹ヲ赤ト訓セルヨリ起ヲシ、誤ノミ亀岡町
字余部ノ赤川ノ傳説モ相似タリ篠村大江山ノ條下
ニモ同樣ノ傳説ヲ出ダス
丹後國中郡ノ丹波村ハ古ノ丹波郡丹波村ナリトカ
ヤ元明天皇ノ御宇ニ風土記ヲ作ラシノ地名ハ二字
ヲ用ヒシノラレタリ同記ハ出雲豐後二國ノ外見ル
ベキモノ無キヲ以テ丹波ノ事モ知レ難シ他國ノ例
ニ由レバ丹前國ト云フベキモノ越前越
中越後トナリ火ノ國ガ肥前肥後トナリ都ニ近キヲ
前トシ遠キヲ後トシ其ノ例ニ由リテ丹後アルニコ
ソ
浦嶋太郎モ丹波ノ人ナリ傳フル所ニ由レバ本名浦

京都府立総合資料館所蔵

嶋子丹波餘社郡（今ノ與謝郡）菅川ニ生マレ雄略天皇ノ二十二年七月舟ニ乗リ釣シテ大龜ヲ獲タリ亀化シテ美女トナル浦嶋子大ニ悅ビ婦トシ遂ニ共ニ海ニ入リ蓬萊山ニ至リ仙窟ノ樂ヲ極メ歳月ノ立ツヲモ忘レ居タルガ故郷ヲ思フノ情ヲ興コセシカバ婦之レヲ察シ玉ノ箱ヲ封ジテ贈リ曰ハク再會セント思ハヾ之レヲ啓クヿ勿レト相別レテ舟ニ乗ラシム頃刻ニシテ澄ノ江浦ニ至ル時ニ淳和天皇ノ天長二年乙巳ナレバ故郷ハ昔ニ變ハリ一人モ知ルモノ無シ衣ヲ洗フ老媼ヲ見テ親故ヲ問フニ知ラス昔ノヿヲ問ヘバ曰フ君年一百七歳昔話ヲ聞キ記臆ス浦嶋子トカヤ呼ベルモノ此ノ澄ノ江ニ釣シ舟ニ乗リテ海ニ出デ歸ラズト浦嶋子コレヲ聞キ惘然自失シ玉匣ヲ開ケバ紫雲匣中ヨリ起コリ俄ニ形容ヲ變ジ老衰ノ翁トナル是ニ於テ人界ニ望ヲ絶チ形ヲ鍊リ神ヲ養ヒ岩窟ニ入リ終ニ其ノ居ル所ヲ知ラズ

丹波丹後ト分カレタルハ四十三代元明天皇ノ和銅六癸丑ノ年ニテ備前ヲ割キ美作ノ國ヲ置キ日向ヲ割キ大隅ノ國ヲ置キタルト同時ナリ元ハ十一郡ナルガ五郡ガ丹後トナリ六郡ガ丹波トナル

桑田船井天田何鹿多紀氷上　丹波

加佐與謝丹波（今ノ郡）竹野熊野　丹後

此ノ分國ハ行政上ノ便宜ニ出デタル事ニテ別ニ意味アルニ非ズ世間ニハ三丹トテ丹波丹後但馬ヲ總

京都府立総合資料館所蔵

稱スルガ丹ハ但ノ音ガ丹ニ通フ所カラ用ヒタルヿ
テ是レ亦深キ意味アルニ非ズ併シ乍ラ更ニ沂リテ
古ヲ探レバ丹波道延長數十百里ニ渉ル崇神天皇ノ
御時ニ全國ヲ四道ニ分ツテ將軍ヲ置キ一道一將軍
ノ制ヲ立テ北陸道ハ大彦命東海道ハ武渟川別ニ西
海道ハ吉備津彦ニ而シテ此ノ丹波道ハ丹波道主命
ニ命ゼラレテ教ヲ布キ政ヲ施シ命ヲ受ケザルモノ
ハ之レヲ伐タシノラレタリ是レニ由リテ之レヲ視
レバ丹波道ハ東海北陸而海ノ三道ニ比類スベキ道
ニテ一國ヤ二國ノ一ニハナラザリシコト推知スベ
キナリ他ノ三道主ハ各自ソノ名ヲ列ネテ道主ト云
ヘガ丹波道ノミ主ト云フテ其ノ名ヲ擧ゲザルハ其

ノ官ニ居ルヿト長クシテ終ニ官ヲ以テ名氏ノ如ク
ナセシモノ歟多紀郡雲部村ニ其ノ墳ナリト云フモ
ノヲ見出ダセリ由リテ其ノ條下ニ於テ陳述スル所
アリ參看アルベシ

同天皇ヨリ前三代ノ孝元天皇ノ御宇ニ彦坐王ヲ丹
波ニ遣ハシ玖賀耳ノ御笠ヲ討タシメラレタルコト
アリ王ハ道主命ノ父ニシテ玖賀ハ周防國ノ地名ニ
テ後ノ玖賀郡ト云ヘバ丹波道ハ周防ヲクリマデヲ
含有シタリシモノ乎仁明天皇御記ニモ玖賀媛アリ
又玖賀奈田ノ併稱セラルヽ所モアリ
丹後ニ道主命ヲ主神トシテ奉祀スル社アルハ命ガ
豐受大神ニ奉仕シタル故ナリト

京都府立総合資料館所蔵

中國ト云フヿハ古人ノ語ル所ナルガ其ノ範圍ハ丹波丹後但馬因幡ニ山陽道數國ヲ加ヘクルモノトス丹ハ右四國ヲ以テ山陰道ノ近國トシ伯耆出雲ヲ以テ山陰道ノ近國トシ石見隱岐ヲ以テ山陽道ノ遠國トシクルヨリ起コレル名稱トシ剩ヘ南海道ノ一嶋ヲ加ヘテ四國中國ト呼ベリ

國府ハ中古南桑田郡ニ在リタリト見エ行程上一日下半日ノ定メナリ京都ヘ行役スルニハ一日ノ供給ヲ仰ギ縣休スルニハ輕裝シテ半日ヲ費スノミナリ之レニ因レバ龜岡アタリカ船井郡屋賀村ニ其ノ故迹アルコト古來ノ傳說ナルカ信據スベキ證左モ無シ南桑田郡内ニ在リタリトスルモノ信ニ近シ

和名類聚抄ニモ國府ガ南桑田郡ニ在リタルヿヲ語リ且曰ハク六郡ヲ管ス曰ハク桑田注ニ久波多國府曰ハク船井注ニ不奈井曰ハク多紀曰ハク氷上注ニ比加三曰ハク天田注ニ安萬多曰ハク何鹿注ニ伊加留加　上近ノ國　注上國ニシテ京都ニ近キヲ云フ

郡里ノ制

上郡　二十里以上　大郡　廿里以下十六里
中郡　八里以上　下郡　四里以上
里ハ　五十戸　一里ハ六町
一里ニ長一人　戸口ヲ檢査シ農桑ヲ勸課シ非違ヲ禁察シ賦役ヲ催課ス
人口　一人ヲ一口ト云ヒ一家ヲ一戸ト云フ

京都府立総合資料館所蔵

田畑數一萬六百十五町延喜年間一萬六百六十六町
二百六十二歩トモ云フ最古ノ調査
田法貢法　田長サ三十歩廣サ十二歩ヲ一段トシ十
段ヲ一町トス
一町ニ公田上田ノ貢五百束
百姓ノ男ニ一段ヲ給シ女ハ其ノ三分ノ二ヲ給ス之
レヲ口分田トス
粗稻　一町ニ二束二把　但シ一束ニ舂米五升
粟　上戸三百根　中戸二百根　下戸一百根
漆　上戸一百根　中戸七十根　下戸四十根
貢　丹波ハ中　十月參
正稅二十二萬束　公廨二十五萬束

國分寺料　四萬束　文殊會料　二千束
圓成寺料　一千束　雜園寺料　一千束
修理池溝料三萬束　救急料　四萬束
修理驛家料二萬束　官舍料　四萬束
造院料　一萬束
法華會米　五十石　油　四斗
年穀舂米　二十石內藏寮ヘ四百五十石大炊省ヘ
糯　十石　年穀粗舂米一千石
舂米ハ二月三十日以前ニ京ヘ運ブ若シ未進ノ者アレ
バ數ニ準ジテ專當郡司ノ直ヲ奪フ若シ猶不足スル
ニ於テハ國司ノ公廨ヲ沒ス
正公二十二萬束公二十五萬束ナド書ケルモノハ前

京都府立総合資料館所蔵

示ノ正税ト公廨トリ
本額六十六萬四千束　雜額十八萬四千束ノ目アリ
雜税目ヲ雜額ト云ヘルトハ　額ハ本字額ニテ
米ニ屬シ稻ノ穗先ヲ云フ
貢米ハ束ヲ以テ數フ一束ノ稻ハ舂キテ米五升ヲ得
ルモノト定ノラル丹波貢米二千三百五十石ニ當ル
毎年二月三十日以前ニ京都ヘ運ビ主税ノ役人ニ收
ム運送費ハ正税ノ内ヨリ出グス正米ニスル時モ亦
同シ
公廨ハ公廨田トモ呼ブ丹波公廨ハ丹波守ノ司掌ス
ルモノニシテ丹波國衙ノ所用ニ供スル者ソレハ地
方費ニ供スルナリ

聖武天皇ノ天平十七年ニ定メテレクル制ニ據レハ
大國　四十萬束　上國　三十萬束
中國　二十萬束
丹波ハ上國トシテ丹波國倉ニ定額ノ束ヲ納メルモ
ノトス若シ凶作ニシテ不足ヲ生ズル時又ハ皆無ナ
ル時ハ他國ノ正税ヲ以テ填補スルナリ
孝德天皇御宇大化二年ノ定メ
段ニ租稻二束二把　四町ニ二十二束
山谷阻險ニシテ地遠ク人稀ナルノ處ハ便ニ隨ヒテ
量ヲ置キ舊制段ヲ罷ム
當時ノ農民ハ稻納ナルヲ以テ手數少キモ運搬ノ煩
勞ニ堪エズ官衙モ亦製米上農家ノ為ス所ヲ為サヽ

京都府立総合資料館所蔵

ル可ラズ今日ノ金納ニナルマデノ運路ヲ辿レバ稲
納糙納米納等ノ數變革ヲ經タルナリ
文殊會ハ淳和天皇ノ天長元年ニ肇ノラレ四月ニ會
料ヲ定ノラル仁明天皇ノ承和二年三月五日天下ニ
令シテ其ノ會ヲ修ノシノラル最初ハ東寺西寺ノ二
ケ寺ナリシヲ終ニ天下ノ國毎ニ之レヲ行ハシノ法
華會モ亦同ジキ沙汰ニテ之レヲ行ハシム是ヨリ前
ニモ法華會アリ開ハ元明天皇ノ和銅三年三月ニ藤
原不比等ガ興福寺ヲ建テ毎年九月三十日ヨリ七ケ
日コレヲ行ヘリ開ハ又内麻呂ノ忌日ガ十月六日ナ
ルヲ以テナリ事項クダクダシケレバ畧ス
圓成寺雜園寺モ南都ニ在リシナラン

此等ノ賦税ハ課外ノ課ナルヲ以テ人民ノ負擔ニ堪
キヲ加ヘクルヤ知ル可シ史家ガ仁明天皇朝前後國
用多端ニシテ民力衰弊シ天下困苦スト論評シクル
モ亦宜ナリ

年料別貢雜物 延喜式

墨	二百挺	紙麻	七十斤	漆	二斗七升
栢	百二十俵	以五十把為俵	把別五十枚	掃墨	一石
斐麻紙	一百斤				

貢穫

十一壺	三口各大一斤	八口各小一斤	

取得乳者肥牛大八合 瘦牛減半
作穫之法乳大一斗煎得穫大八升
天武天皇御宇ニ使ヲ丹波ニ遣ハシテ穫ヲ貢ヒシノ

京都府立総合資料館所蔵

國牛十圖ノ丹波牛

テル

蘇ノ字ニ付キ

本字ハ臘ニテ其ノ元ハ醍醐ナリ三字共ニ其ノ意ヲ同フシ牛酪ノコトナリ其ノ法牛乳ヲ釜ニ入レ煎ズルヿ二三沸ニシテ釜ヲ傾ケ盆内ニ入レ冷エテ後ニ其ノ面ノ皮ヲ取リ再煎スレバ油出ヅ滓ヲ去リ鍋ニ入ルレバ酥油トナルトアリ酥ハ蘇ニ同ジ

國牛十圖ニ曰ハク馬ハ賢哲ヲ教ヘたく明ヲ牛ハ蒭蕘ノ疑ヒを殘るところなくす見及ぶ所僅ヵ十ケ國見んとの覚りやすうら人為るそノ形狀を記して十圖と名づく

筑紫牛　御厨牛　肥前國　淡路牛　但馬牛

京都府立総合資料館所蔵

丹波牛　大和牛　河内牛　遠江牛　越前牛
越後牛

丹波牛大略但馬牛ニかなじ毛たかの髪しげりま
なこ大ニ出でたり口のひりて皮さきの骨つき出
でよせなはりあなりくゝれたらどもるけやし近年
逸物多し

但馬牛ほねほそく穴くゝさく皮うすく腰背まろ
しつり蹄ことまるくはなり穴ひろし逸物多
し

近年産牛ノ地ハ但馬ヲ推ス次ヲ丹波トシ丹後備前
摂津備中周防之レニ次グ維新後ハ朝鮮支那ヨリモ
来ル

京都府立総合資料館所蔵

紙ハ主計寮ニ貢進セリ德川氏ノ時ニモ丹波紙買上
ゲノ一アリタリ
延喜ノ制ニ例進雜器并ニ櫛ハ十月以前ニ充進スト
アリ丹波ハ都ニ近キ國ナルヲ以テ畿内ニ比セラレ
毎年諸道ノ國々ヨリハ早ク調進シタルナリ貢租ト
混同スヘカラズ
交易雜物ノ如シ稅品調物ニハ非ズ定稅ニ代ヘ得
ベキモノ
白絹　十二疋　赤絹　五百五十疋
絲　七百五十絇　油　三石
鹿茸　十張　粟　十石
大豆　三十石　胡麻子　五石

粟子　三十石　曝黑葛　二十斤
刈安草　五百圍　爲ニ年進
醬大豆　五石
調輸錢
調　兩面五疋　小計春羅　一疋
一窠綾　二窠綾　七窠綾　各五疋
白絹　十疋　絲帛　十疋　帛　二百二十疋
自餘輸絹絲
元明天皇敕シ丹波ニ綾錦ヲ織ラシノ挑文師ヲ遣ハ
シ織ルヿヲ習ハシメ玉ヲ
桓武天皇敕シテ窠子錦ヲ織ラシノ玉ヲ筆北ノ國
ハ早クヨリ産ヲ産スルヲ以テ綾錦ノ原料ニ富ミ織

工モ亦隨ヲテ在リシナルベシ

伊勢宮幣物ノ菓子錦ハ文武天皇ノ慶雲元年ニ始マル

菓ハ謂ハ所ル菓ノ紋ニテ一菓ヨリ多キハ七菓ニ至ル透カシ見レハ重ナリテアル

庸　工役ナリ租調ノ外ナリ

塗漆著鐙五合　白木三十七合　中男作物

黄蘗四百斤　紙墨曷漆胡麻油蜀椒　平菓子搗栗子

年料雜藥三十三種

芎藭石韋栝樓石南升麻射干　各十斤　黄連三斤三兩　前胡藁本秦皮　各五斤　柴胡十二斤王不留行十二斤獨活三十三斤茹毋五斤萆薢六斤白朮十二斤三兩二分藍漆十五斤八兩漏蘆十三斤人參三斤龍膽商陸各七斤厚朴二十斤芍藥恒山各八斤連翹四斤八兩蛇脫皮五兩梗子五斗五升薯蕷二斗二升二合麥門冬一斗桃仁六升車前子二斗二升五合兎絲子二升一合麻子三斗五升鬼箭一斗三升五合吳茱萸二斗三升蜀椒二升鹿具一角白蠟蠟二兩　三十八種不足五種延喜式

年粮正親司　生鮭三捧六隻三度鮨年魚二擔四壺　塩塗年魚二擔入折櫃　收贄殿擬供御　同式

干擬每日一荷自十一月五日至五月四日中宮準之

京都府立総合資料館所蔵

運送雜物功賃　駅別稲三束　但氷上　天田何鹿三個郡十束　同式

貢進菓子　甘葛煎六升　甘栗子二棒　搗栗子二石一斗　平栗子椎子菱子二棒　同

調　絹絁絁綿等ハ郷土ノ産ニ適フテ田一町ヨリ絹ナレバ長サ四丈廣サ二尺半　絁ナレバ長サ二丈但二町ヨリ一疋廣サ絹ニ同ジ　絹布ハ四丈ニシテ長サ同ジ　絹絁ナレバ一町ヨリ一端　別ニ戸別ノ調アリ一戸ヨリ布一丈二尺調ノ副物アリ塩ノ贄アリ郷土ノ産物タ出ダス是レ大化年割ノ法度ノ煩瑣想フ可シ

供氷　桑田郡池邊ノ氷室ヨリ奉ル　外二十九國氷室ヨリモ奉ル

國飼御馬　五疋　左寮　毎年五月五日ニ船井郡胡麻郷及ビ諸國ヨリ牽キ來ル馬ニシテ京都ニテ不用ノモノハ又胡麻ノ牧ニ放飼シ命アレバ左馬寮ニ送ル事實ハ胡麻郷ノ部ニ出ダス

驛馬　大枝野口　小野　長柄　星角　佐治　各八疋　日出　前波　各五疋　同式　驛址詳ナラズ

傳馬　桑田多紀氷上各五疋

驛馬直法　畿内ノ國ハ上馬二百五十束中馬二百束下馬百五十束　伊賀志摩近江飛驛若狭丹波丹後但馬因幡伯耆備前備中備後阿波等十五國ハ上馬百束中馬二百五十束下馬二百束其ノ傳馬ノ直ハ各五減五十餘國ナリ

京都府立総合資料館所蔵

孝德天皇大化二年驛馬傳馬ヲ置ク　急ナルハ驛馬ヲ出ダシ緩ナルハ傳馬ヲ出ダス

射田　射場　持統天皇ノ四年ニ諸國ニ射場ヲ築カシメ孝謙天皇ノ天平勝寶六年ニ射田ヲ置カレ隼人司權司生一人兵庫寮權史二人近江丹波備前ノ射田ヲ管理セシメラル近江國ハ八町丹波國ハ六町備前國六町　大射ノ射手ハ親王以下五位以上ノ者ノ調習ノ資トセシム

甲四領　横刀六口　弓十張　征矢十具　胡籙十具

健兒　五十人

皇極天皇元年百濟ノ使ヲ朝ニ饗シ健兒ノ相撲ヲ見セシメラル

聖武天皇諸國ノ健兒ヲ停止ス光仁天皇コレヲ再興シ郡司ノ子弟ノ武術アルモノヲ以テ充テラル諸衛兵士ノ太平ニ慣レ緩急ノ用タラザルヲ以テナリ

物産　米、糯、墨、紙、麻、漆、柏、斐紙、麻、蘇、絹、絲、油、鹿革、藁、大豆、胡麻子、胡麻油、栗子、（平栗子、鳥栗子、甘栗子、菓子ナリ）曝黒葛、刈安草、綾黄蘗、蜀椒、甲、刀、征矢、胡籙、甘葛煎、菓子ナリ　椎子、同上　菱子、同上　生鮭、鮨年魚、馬、牛、式

同　久保栁、手々打栗、松茸、烟草、煎茶、葉茶、壺、佐伯砥、柏原墨、鞘木、綿、小豆、疊表、杉九丈、鹿皮、太布、前胡、桔梗、伏苓、柴胡、款冬、蓋草、椿灰、辛灰、下草灰、山椒、同皮

京都府立総合資料館所蔵

梨、鮎、楪、雀部矢根、似人參、ミヲ、木瓜、蠟、獨活、林檎、
木天蓼、木瓜實、山椒魚、筆柿、花落米、
緒太草履、雍州府志ニ曰ハク丹波姫栗谷ノ人、交
代シテ禁裏御所ヘ出勤シ汚穢物ヲ取リ除ケ掃除
ノ事ヲ為ス此ノ徒厠用ノ草履ヲ造リ之ヲ獻ズ其
ノ形蝦蟇ニ似タリ鼻緒ノ太キヲ以テ緒太ト云フ
著者ガ維新前宮庭ヲ往來スルニハ常ニ此ノ品
ヲ用ヒ而時ニハ御免下駄ト呼ブモノヲ用ヒタ
リ履物ニ齒附ノ品ハ禁ゼラレタリ姫栗谷ノ所
在詳ナラズ北桑田郡ヨリ覆ナル者出デ、宮庭
ノ汚物鳥獸ノ屍體等ヲ取リ片付ケタレバ其ノ
徒ガ作レルモノヤモ知ル可ラズ（北桑田郡ソ部惣鎮ニ出タス）

知更雀　コマドリ　丹波ノ外デハ下野相模甲斐
武藏大和山城信濃等ニ產ス其ノ鳴音ガ走駒ノ鈴
音ニ似タルヨリ駒鳥ノ名アリトシテ知更雀トハ
漢名ナリ
菜種油ハ丹波ヲ以テ十二個國中ニ數ヘラレ其ノ
產出夥多ナリシモ石油使用ノ為ニ減少シタリ
產物概要　數量ノ多大ナル者ヲ擧グ
○山葵　船井郡上和知村　○茄子　天田郡福知山町
ノ曾我井　○上當歸（ソウド）　南桑田郡亀岡町　吉川村　曽
我部村　大井村　馬路村　氷上郡神樂村
○蘿蔔　何鹿郡東八田ノ高根大根　○瓜　天田郡中
六人部村　○甘藷　南桑田郡篠村　○水瓜　北桑田

京都府立総合資料館所蔵

郡神吉村○牛蒡　何鹿郡東八田村○甘藍　何鹿郡諸村○百合　北桑田郡神吉村○葱　天田郡西中筋村○蒟蒻　天田郡下夜久野村○梨　南桑田郡稗田野村　何鹿郡東八田村○桃　何鹿郡西八田村佐賀村吉美村口上林村○柿　天田郡金山村三嶽村上夜久野村下夜久野村曾我井福知山　氷上郡久下村○栗　南桑田郡本梅村船井郡下和知村氷上郡小川村北桑田郡諸村○茶　氷上郡栢原町大路村神樂村前山村○經木　氷上郡栢原町佐治村○薯蕷　氷上郡神樂村○繭絲　氷上郡大路村前山村佐治村○筍　何鹿郡佐賀村○竹細工氷上郡大路村○薑　南桑田郡千代川村○氷蒟蒻

氷上郡和田村○氷豆腐　同村○串柿　同村○桑　同村及和田村○山椒　同郡久下村○炭　同郡神樂村○赤小豆　同郡國領村○鮎　同郡久下村佐治村田良川大堰川等ノ沿岸諸村○鯉　氷上郡生郷村○滑草　南桑田郡篠村○酸漿　同郡龜岡町同郡吉川村曾我部村大井村等○米穀到ル處以上

諸藩江戸邸地規定

○一萬石以上　二千五百坪○二萬石以上二千七百坪○三萬石以上三千五百坪○四萬石以上四千五百坪○五萬石以上五千坪○六萬石以上五千五百坪○八萬石以上六千五百坪○十萬石以上

京都府立総合資料館所蔵

七千坪ヨリ以上ハ定準無シ

高山　大蛛川以北老ノ坂山脈

半國山　七百米突　老ノ坂　二百五十米突

深山　九百五十米突　彌十郎嶽　八百米突

天狗岩　七百五十三、　朝路山　五百五十、

愛宕山　八百、　高仙寺山　七百六十、

西光寺山　八百六十八、　清水山　八百四十一、

由良川竹田川以西ノモノ

高宮山　六百米突　權現山　六百米突

金山　六百、、　夏栗山　六百、、

笹ヶ峯　七百二十、、　近江山　五百、、

遠坂峠　五百七十四、、　城山　二百六十、、

白山　四百八十、、　佐治峠　五百二十六、、

小倉山　五百八十、、　三國山　五百四十、、

錢鉢山　六百三十八、、　天ヶ峯　五百九十七、、

赤石山　七百二十、、　登尾山　四百五十六、、

大江山　八百十二、、　國見山　八百六十四、、

小坂峠　五百十、、　小野寺山　六百六十一、、

高坂峠　六百五十一、、　雲須山　九百二十六、、

栗鹿峠　九百二十六、、　三國山　八百二十、、

上林川和知川以北飯盛山脈

九山　五百五十、、　三國嶽　五百五十九、、

田甲山　六百二十五、、　三千嶽　四百四十四、、

源仙山　四百四十四、、　烏ヶ嶽　四百四十四、、

京都府立総合資料館所蔵

鬼ヶ城山　五百二十、、

愛宕山脈

三國ヶ嶽　五百五十二、、　櫃ヶ嶽　五百五十七、、

八ヶ尾山　六百四十七、、　御嶽　八百八十六、、

長尤ヶ嶽　八百、、　知坂峠　四百四十二、、

大悲山　九百、、　金山　七百六十、、

西ヶ嶽　七百七十二、、　毘沙門山　六百八十、、

畑山　八百四十、、　盃ヶ嶽　五百八十、、

湯船山　三百八十六、、　天神山　六百、、

洞峠　六百二十七、、　桟敷ヶ嶽　八百七九、、

假守峠　七百、、　越畑山　九百五十、、

地藏山　九百四十九、、　千年山　五百二十八、、

金昆羅山　六百七十五、、

佐々里山脈

佐々里峠　七百七、、　神樂坂　三百八十九、、

朝山　二百八十四、、　觀音峠　二百八十四、、

以上　右所在判然セザル者アリ後日ノ調査ヲ要ス

古昔ノ四箇本山

弘誓寺　多紀郡北河内村ノ上板井村

龍藏寺

高仙寺　文保寺ヲ含ム

神池寺　氷上郡鴨庄村戸平

貞觀七年六月十五日　癸巳　太政官ヨリ丹波外五國

京都府立総合資料館所蔵

ニ下知シ材木ノ短狹ナルヲ禁ズ車戴ノ法ヲ定メ
歩板簀子ハ楫榑トス
同八年五月太政官ヨリ丹波外八國ノ年貢馬革百
張ヲ停ム
同六月三日大允從六位下中臣朝臣伊度人史生將
領等ヲ率ヒ丹波ノ國ニ向ヒ應天門并ニ東西樓ヲ
造ル料材ヲ採ラシム
同五月八日勅シテ丹波國年中ニ下ス蠲符雜色人
ノ數五十人ヲ定ム式部省ハ三十四人ニ定メ治部
省ハ三人ニ定メ兵部省ハ十三人ト定メ伊勢内親
王ノ野宮ヲ造ルニ丹波外九國ノ人夫ヲ出グス
聖武天皇天平四年丹波外四國ヲシテ遣唐使ノ船
四艘ヲ造ラシム
廢帝ノ天平寶字三年山陰道諸國ニ船一百四十五
艘ヲ造ラシム丹波モ之レニ與ル
同八年丹波外五國ヲシテ池ヲ築カシム
同九年丹波外諸國ニ兵事ヲ習ハシム
稱德天皇崩御ニ付キ丹波外八國ヨリ役夫ヲ出ダ
サシム山陵ニ供スルナリ
桓武天皇延曆十二年新宮諸門ノ造營ヨリ丹波ハ
偉鑒門ノ造ル猪飼氏ナリ
同十九年役夫ヲ出グシ葛野川堤ヲ修ム
元慶八年九月丹波近江ヲシテ高瀨舟三艘ヲ造ラ
シム其ノ二艘ハ長サ三丈一尺廣サ五尺一艘ハ長

京都府立総合資料館所蔵

サ二丈廣サ三尺神泉苑ニ送ル
同七年十二月丹波外十ケ國ノ百姓ヲ禁野内ニ樵
スルヲ聽ス
天武天皇白鳳三年二月九日百姓ノ善ク詐ヲ男女
及ビ侏儒伎人ヲ丹波ヨリ貢セシム
後一條天皇寛弘四年五月丹波及外六國ニ防河
役ヲ課セラル
此ノ外ニ國司申請ノ事ヤ公廨ノ事ヤ檢非違使
ノ事ヤ租庸調ヤノ事アレド畧ス
地方官吏名稱略載
山陰使者　按察使　鎮撫使　節度使　觀察使
首長　知事　守　介　守護　國司　郡司

新任國司ノ任ニ赴ク者伊賀伊勢近江丹波播磨紀
伊等ノ六國ハ食馬ヲ給セズ
國司五位以上ノ朝集使ニ就キ京ニ入ル者ハ節會
ニ預カルヿヲ聽サル但シ畿内及ビ近江丹波等ノ
國司ハ使ヲ奉ルモノニ非ズト雖亦參ニ預カルヿ
ヲ聽サル
守司ノ刑事權限　守ハ杖流及ビ杖ヲ加フベキ徵
贖者ヲ配決スルヲ得　其ノ徒罪以上ハ京ニ送ル
郡司ハ笞罪ヲ處斷スルヲ得　其ノ杖以上ハ國司
ニ送ル
郡司　大郡ニハ大領少領各一人　大領ハ長官ナ
リ少領ハ次官ナリ　主政三人判官ナリ主政三人

京都府立総合資料館所蔵

主典ナリ主帳三人
天平十一年改正大領少領各一人主帳二人
上郡ニハ大領少領各一人　主政二人　主帳二人
同年改正各一人
中郡ニハ大領少領各一人　主帳一人
改正無シ
下郡小郡右ニ同ジ　改正無シ
（以上）
悠紀主基ノ事ニツキ
天武天皇ノ白鳳元年十二月丙戌ノ日ニ大嘗會ヲ
行ハセラレ丹波播磨ノ二國ガ之レヲ供奉セリ由
リテ二國ノ郡司以下ニ祿ヲ賜ヒ郡司ニハ爵一級ヲ
賜ヘリ但シ悠紀主基ノ各郡ノミナリ史上ニ見エ
タル大嘗會ノ創始ナリ清寧天皇ノ御宇ニ其ノ前
年ヲ生ジ天武天皇ノ時世ニ完成シタリトモ云フ
此ノ祭式ハ其ノ年ノ新穀ヲ天皇御自身ニ之レヲ
諸神ニ供ヘ玉フ所ノ大禮ニシテ天皇御一代ニ一
度行ハセ玉フモノトス古言ノおほにへガ轉ジテ
おほむべトナル文字ニスレバ大嘗トナル後世音
讀シテ大嘗會ト云フ祭祀ヨリスレバ大嘗祭ニテ
大祀ヲ意味ス節會ヨリスレバ大嘗會ナリ毎年十
一月ノ新嘗祭即新嘗會ハ大嘗祭ノ小ナル者ニテ
卯ノ日ニ始マリ辰巳兩日ノ節會ヨリ午ノ日ノ豊
明節會ニ至ル四日間ノ大式祭禮アリ上世ニハ大

京都府立総合資料館所蔵

嘗新嘗ノ別無カリシニ大寶令ニテ二禮全備ス
天武天皇コレヲ定メ玉ヒ後花園天皇御宇マデ
續行アラセラレシヲ後土御門天皇ノ御時天下
大ニ亂レテ丹波ニ於ケル古式モ其ノ迹ヲ斷チニ
百餘年ヲ經テ東山天皇御時ニ其ノ復興ヲ見ル
廢帝ノ天平寶字二年十一月辛卯天皇乾政殿ニ御
シテ大典ヲ行ハセラレ丹波ヲ由機トシ播磨ヲ須
岐トシ兩國ノ郡司ニ位階ヲ加ヘ並ニ祿ノ賜フト
アリ悠紀ヲ由機トシ主基ヲ須岐トス文字ニ於テ
昏ハルモ意義ニ於テハ昏ハル丁無シト食ノ義ニ
テ悠紀ヲいはきよりはるノ詞トモいつきノ意ト
モ云フ主基ハつぎニテ悠紀ニ次グノ意ナリト云

フ齋忌次トアルモ共ニものいみ次ぐとのいミノ
義トカ丁悠紀ト主基トノ兩國ヲ兩齋國ト呼ブモ
其ノ義ニテ優劣ノ差無キナリ天皇ハ臨御シタマ
ヒ神明ノ御心ニ叶ハシメンガ為ニ之レヲト部ニ龜
ノ甲ヲ焚カシメテ吉凶ヲ占ハセラレタルモ龜トノ
傳失セタレバ墨ヲ以テ龜ノ形ヲ畫ト之レヲ燒
キ其ノ燒ケタル方ヲ見テ其ノ吉凶ヲ定メラル、
コトハナレリ本朝往古鹿トノ法アリ此ノ法失セ
テ支那古代ノ龜トトナリ今又此ノ紙燒トトナリ
タリト云フトカニ由リテ其ノ地ヲ定メタルヲ以
テ一定ノ國郡ハ無カリシヲ桓武天皇ノ天應元年
十一月ニハ越前國ヲ以テ由機トシ備前國ヲ以

京都府立総合資料館所蔵

テ主基トセラレタリ悠紀ノ郡ヨリ奉レル鮮味ヲ
天皇ニ供シ二郡ノ國司風俗ヲ奏スルノ式種々アリ宮内官人吉野國樔人ヲ率ヒ左腋門ヨリ入ル悠紀ノ國司ハ歌人ヲ率ヒテ又入ル伴ノ佐伯詰部十五人ヲ率ヒ東西腋門ヨリ入リ各位ニ就ク群官入レバ隼人吹ユル聲ヲ為ス國樔古風ヲ奏スルコト五成スレバ悠紀ノ國ハ國歌ヲ奏スルコト四成ス詰部古詞ヲ奏ス隼人司右腋門ヨリ入リ手ヲ拍テ歌舞シ訖リテ各自退散ス

詰部ハ丹波ヨリ一人丹後ヨリ二人但馬ヨリ七人美濃ヨリ八人因幡ヨリ三人出雲ヨリ四人淡路ヨリ二人ヲ進ム

ト定ノ方ハ往古ニ於テ國郡ナリシガ爾後郡ノミヲトシ平安遷都以後ハト筮東方ニ當タリ吉ヲ示セバ近江國ヲ以テ悠紀トン西方ニ當タリ吉ヲ示セバ丹波國ヲ以テ主基トス村上天皇ノ御時ニ備中國ヲ以テ主基ニト定セラレタルコトアリ爾後郡ノミヲトシテ國ヲトセズ近江國ヲ以テ悠紀國ト定ノ丹波備中ヲ以テ主基國ト定ノラレタリト定セラレタル田ヲ太田ト呼ビ其ノ田ノ米ヲ撰子稻ト呼ブ之レヲ供物ニシ又黒キ酒白キ酒ヲ造ルノ料トス

京都以東以南ニ悠紀以西以北ニ主基

寛平　悠紀近江國愛知郡　主基丹波國多紀郡

京都府立総合資料館所蔵

天祿　悠紀近江國坂田郡　主基丹波國氷上郡
寛和　同　同　野洲郡　同　備中國下道郡
承平　同　同　神崎郡　同　丹波國氷上郡
康保　同　同　同　播磨國飾磨郡
天慶　同　同　野洲郡　同　備中國下道郡
永觀　同　同　高嶋郡　同　丹波國天田郡
寛弘　同　同　坂田郡　同　同　同
長和　同　同　甲賀郡　同　備中國下道郡
長元　同　同　愛智郡　同　丹波國氷上郡
永承　同　同　甲賀郡　同　備中國英賀郡
治暦　同　同　愛智郡　同　同　同
延久　同　同　坂田郡　同　丹波國多紀郡

寛治　同　同　甲賀郡　同　備中國賀夜郡
天仁　同　同　同　同　丹波國氷上郡
以外畧ス
進上物　康治元年大嘗會
近江國丹波國司解申進上多米都物事
合酒　百瓶　蚫　百斤　鮭　百尺
干鳥　百羽　雉　百羽　鶉　百羽
堅魚　百斤　雑腊百斤　鮨鮒　百疋
醤　五十疋
右件物等進上如件
康治元年十一月十六日
丹波國

京都府立総合資料館所蔵

開鮑　百帖　半鮑　五十目　石花　二疋
細螺　二疋　辛螺　百貝　寄居子　二疋
堅魚煎三疋　甲羸　二疋　飯　百椀
酒　五十疋　餅　五十合
右進上如件
康治元年十一月十六日
舞姫　可獻五節舞姫　殿上　丹波守俊平朝臣
尾張守公基朝臣
永和大嘗ノ歌　永承元年十月十三日　大定會定文
悠紀

うけつミてちくらうあまる稲をしれハ
つさせめ弟代のためしをなをこ
右　勘解油小路大納言兼綱卿
主基
なりとミのむらあはゝ田をしめぬさを
よろつよ　ふへさまつほをそめく
右　日野大納言　忠光卿
元暦元年七月廿八日大嘗會主基方春歌
ウミよりくるのためしハ八束穂を
長田ハ以ねりしをそめをて
其ノ詞書ニ曰ハク平家ノ人々ハ筑紫ヲタ
ヽよひて先帝ヲさきたてまつる御兄弟ノ二

十五日ニ御禊十一月十八日大嘗なり主基の御
屏風の歌兼光の中納言といふ人丹波の國長田
村など前書し神代より長田とつけたるによ
り見れバナガタと云ふ所なれオサダにハ非
ざるを知るべしオサ田ハ天田郡にあるも十ガ
タハ何地にや云々南桑田郡大井村ノ部ヲ参看
スベシ

雨露もめぐみあまねき時にあひて　兼仲
ながたの里の早稲とるなり

しづかなる長田の村にすむ人の　正宗
かりつむいねのかぎりなきかな

文政元年十一月十一日　主基方丹波國御屏風六帖

和歌十八首ノ内

長良谷々有菊水
君がよをながらの村の谷水も
きくの千年のしるくなりけり

右ノ歌ノ郡詳ナラズトアリ長田ノ事カトモ云フ

いのちたる長田の杜のなかりせは
たよりに君が宿をえましや　為頼

長田モ何郡ナルヤ詳ナラズ天田郡ニアル長田ハ
オサダナレバ此ノ歌ノモノトハ異ナリ
大嘗ト云ヒ新嘗ト云フ共ニ飲食ノ意味ナルコト
文字ニ知ル得ベシ悠紀ハ夕ベノ御饌ヲ奉リ主基ハ
暁ノ御饌ヲ奉ル

京都府立総合資料館所蔵

東山天皇御即位貞享四年四月廿八日同十一月十六日大嘗祭御再興ハ後柏原天皇以後海内ノ大亂ヲ以テ此ノ大典ノ擧ガラザルコト九世百三十年此ノ時近江丹波ノ悠紀主基タルコト古例ノ如シ因ニ記ス山城嵯峨ノ野宮神社中ニ悠紀主基ノ兩社アリ

光格天皇御即位大嘗文政元年戊寅十一月廿一日

悠紀ノ樂歌ハ近江ノ名所ヲ詠ミ主基ノ樂歌ハ丹波ノ名所ヲ詠ム伶人ノ音頭アリ樂器五品ヲ以テ音聲ヲ調フ簫篁篥ハ用ヒズ七ノ外ニハ催馬樂等ノ謠物アリ

悠紀　撰者　廣橋大納言兼陳卿

卯日神樂歌　豊明

うこきなき岩根の山の柳葉を
ふるき君のよろつ代
音高山　風俗　辰日參入　音聲盤渉
末遠く君の壽さゝへとて
ちとせをこめたる山
高宮里　樂破
民の戸のそゝろ〳〵豊さ
みくさそゝ仰くたゝみやのさと
長等山　樂急
よろつ代をそゝふも書しるす君の
よろつ山のさゝつゝ

勢田　退出音聲

たゝゝゝ國のみゆる所さゝ
又てゝゝゝゝゝ
松本村　稲蔭歌
すへうきの法代よりつゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝ長寿の心地
千坂浦　已日參入音聲
君のためちゝゝゝうる幾ちゝ
ゝゝゝゝゝゝゝ
益田　樂破
年を經てけふこゝきもふたゝゝ戸の
ゝすもゝゝ田のさゝゝゝけさ

會坂　樂急

おさゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ代はあゝさゝの
関路のゝけゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
打出濱　退出音聲
さゝへゝゝ君のゝゝゝゝゝ數なゝゝ
打出のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

主基　撰者　柳原石少弁隆光朝臣

卯日　神樂歌　壹越
稲総の山のさゝゝ蓑とゝゝゝ
心のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ君のゝめ
鳥居村　稲蔭歌
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

京都府立総合資料館所蔵

多度のむらりちほをそつく

千年山　風俗音取　参入音聲　盤渉

しらかさねの千年の山の峯にして

なほうけたりき君のよろつき

八千世池　樂破

すへらきの御代八千しにりぬるかな

よろさて　なみをうけるこけをくれ

篠杜　樂急

以ものしるしけりそまさる篠のとり

ふりせぬ以ろ者の代をうさねて

小松崎　退出音聲

ふく風ふく小松の崎のへりの

花さくらけハ君のそえん

官吏任命略記

丹波道主命　崇神天皇十年敕シテ教ヲ受ケザル者ヲ伐タシム

元正天皇靈龜四年按察使ヲ置キ諸國ヲ巡察セシム小野朝臣馬養丹波但馬因幡ヲ管ス

成務天皇四年國造ヲ定ム國造ハ國司ナリ後ニ改メテ守トス

從五位上太神朝臣狛麻呂爲丹波守　元明天皇和銅元年コレヲ丹波守ノ初任トス　同三年

佐太忌寸若爲丹波守　同靈龜二年

從五位下榎井朝廣國爲丹波守

京都府立総合資料館所蔵

藤原麻呂爲山陰道鎮撫使

從五位上石上朝臣乙麻呂爲丹波守　聖武天皇天平四年

外從五位下佐伯宿禰常人爲丹波守　同十年

正五位下大井王爲丹波守　同十九年

從四位下巨勢朝臣堺麻呂爲丹波守　孝謙天皇天平勝寶五年

從五位下藤原朝臣武良自爲丹波守　天皇大炊天平寶字三年

參議藤原惠美朝臣久須麻呂兼丹波守　同七年

大師藤原惠美押勝爲丹波外二國兵事使　天皇大炊天平寶字八年

兵部卿從三位和氣王兼丹波守　稱德天皇天平寶字八年

藤原訓儒麻呂爲丹波守

外衛大將從四位下藤原朝臣田麻呂兼丹波守

從五位下石上朝臣息継爲丹波守　光仁天皇寶龜二年

右兵衛督從五位下藤原朝臣宅美兼丹波守　同　同　五年

從四位上坂上大忌寸苅田麻呂爲丹波守　同　同　年

羽栗翼爲丹波介　桓武天皇延曆年中

藥師廣名爲丹波椽

從五位下淺井王爲丹波守　同　同　七年

從五位上守近衛少將兼東宮亮大伴宿禰爲丹波守　同　同　十九年

山田春城爲丹波博士　同　年

正躬王爲丹波守　仁壽二年

橘永名爲丹波權介　淳和天皇天長二年

從五位下丹墀門成爲丹波介　同　天長年中

藤原三守爲丹波介　仁明天皇承和年中

從四位上右衛門督使別當東宮大夫文室秋津兼丹波守　同　同　三年

京都府立総合資料館所蔵

左少將從四位下橘峯繼兼丹波守　同　同　四年
正四位下知章朝臣爲丹波守　同年頃
大江音人爲丹波守　天安中
從五位上大宿禰貞守爲丹波權守
從五位上大宿禰貞雄爲丹波介　清和天皇貞觀元年
百濟王俊聰爲丹波權掾　同　同　二年
從四位下行左中辨兼大藏大輔高階真人峰緒爲丹波守　同　同　三年
從五位下行彈少弼滋野朝臣善蔭爲丹波守　同　同　同年
散位外從五位下秦宿禰永原爲丹波介　同　同　五年
民部少輔從五位下笠朝臣弘興爲丹波權守繼爲守　同　同　六年
散位從五位上坂上大宿禰貞守爲丹波權守　同　同　八年
散位從五位下三善宿禰清江爲丹波介　同　同　九年

從五位上彈正少弼安倍朝臣房爲丹波權守　同　同　十一年
正五位下右中辨橘朝臣三夏兼行丹波守　同　同　十七年
從四位下良岑朝臣經世行丹波守　同　同　同年
從五位上安倍朝臣房上爲丹波守　同　同　同頃
源朝臣平麻呂　從五位下爲丹波守　同　同　十六年
從五位上藤原朝臣是行爲丹波守　同　同　十七年
源朝臣覺爲丹波守　同　同　十八年
源直幹爲丹波權守　同　同
從五位下藤原文弘爲丹波守　同　同
良岑木連爲丹波守　同　同
從五位下伊伎是雄丹波權掾更爲丹波介　同　同
正五位下橘良基爲丹波守　陽成天皇

京都府立総合資料館所蔵

從四位下興範王行丹波權守	同	同六年
從五位下清内宿禰雄行爲丹波介	同	同六年
外從五位下行左大臣家令佐宿禰枝雄爲丹波介	同	同六年
散位從四位上源興範爲丹波守		仁和二年
從五位下藤原朝臣忠主爲丹波守		同三年
九河内躬恒爲丹波權目		醍醐天皇
本康親王爲丹波守		朱雀天皇天慶年
平真盛爲丹波守		村上天皇天曆年
賀茂忠行爲丹波守		同年
正四位下植樹左衛門督重房爲丹波知事 外二國		冷泉天皇年
典藥頭侍醫丹波重雅爲丹波權守		圓融天皇
典藥頭侍醫丹波忠明兼丹波介		同

建仁二年關東ニ十八ヶ國ヲ鎌倉二代將軍頼家ノ女一幡ニヲ領ス關

藤原頼任爲丹波守		後一條天皇寛弘年
侍從大江匡衡爲丹波守		同 同七年
典藥頭右衛門佐丹波雅忠爲丹波介兼爲權守		後冷泉天皇永承年
師隆爲丹波守 正二位修理大夫内藏寮大宰大貳 春宮亮左兵衛督丹波守兼權蔡守		
正二位中納言山科敎盛爲丹波守		白河天皇年
少將藤原盛經爲丹波守		高倉天皇承安年
高橋判官盛國爲丹波守護代		同
和氣知康爲丹波介		同年
平清邦 清盛養子 爲丹波守		安德天皇養和年
前權大納言平宗盛爲丹波 外二國 總管		同 同元年
源義仲管丹波		同 平家没落後
土肥実平土肥実章行丹波守護事		鎌倉時代

京都府立総合資料館所蔵

西三大名國司預象ノ外貴朝之ヲ領ス

鎌倉ノ制

國司ハ祖父公家ノ長業業業績著ニ從事勤特シ

守護ハ盜賊追捕及ビ關中警衛等ヲ掌ル

國司年限アリ

守護年限ナシ終々子孫ニ傳フ

守護料ハ國中ノ收穫米ヲ量リテ五十分ニ其ノ一分ヲ守護所ニ納ム殘ルヲ二分ニ分チ一ヲ將軍ニ收メ一ヲ地主ノ有トス

足利義詮

右年分一式後別ヲ

仁木氏長　名紀郡福住村ノ部參照

波多野次郎中務丞忠綱丹波檢斷	兩檢斷	同	
右馬允遠元爲丹波檢斷		同	
山内三郎爲目代下知丹波	外二國	同	
首藤經俊爲目代下知丹波	同	同	
中納言四條隆資爲丹波國司		後醍醐天皇御時	
參議源忠顯爲丹波國司		同	
碓井丹波守盛景爲守護代		同	
仁木頼章爲丹波守	兵部大輔 左京大夫	從五位下	足利氏時
仁木義尹爲丹波守護	左京大夫 兵部大輔		正平十六年 足利
仁木氏江田行義分領丹波			同年中
山名時氏領丹波	從五位下伊豆守		同
山名滿幸爲丹波守護			足利義滿時代

山名氏清領丹波	陸奥守	同	元中八年
山名時清領丹波		同	應永中
細川頼之領丹波	從四位下右馬頭 管領 丹波五郡ヲ領ス	同	明德中
細川頼元領丹波	從四位上右京大夫	同	明德三年
細川持元領丹波	右京大夫		
細川勝元領丹波半國	勝元 右京大夫		
細川政元領丹波	從四位下右京大夫 成長 兵部大輔		
大内義興領丹波			
細川澄之領丹波半國	丹波守護職		
細川高國取丹波	從四位下 刑部少輔 丹波守 藝職		
内藤繁則取丹波			
西陣山名義直取丹波		應仁元年	

京都府立総合資料館所蔵

波多野植通取丹波
管領細川取丹波半國
波多野秀治取丹波
明智光秀領丹波
細川信良領桑田船井二郡
羽柴秀吉領丹波
德川氏領丹波封七大名
篠山　亀山　福知山城主　園部　綾部
柏原　山家　四陣屋
五味備前守（金次郎）丹波奉行トナリ幕領地ヲ支配
ス　天領地ヲモ兼又
禁裏御領（天領トモ云フ天子様ノ御領分トヨク義）ハ諸國ニ散在セルモノヲ

大永中
文安中　北桑田郡山國村ノ部ニ出ダス

京都ノ四邊ニ集ノ板倉四郎左衛門勝重（後ニ周防守トナル人）
加藤喜左衛門正次ヲ以テ之レヲ管セシム是レハ慶
長五年ノ丁ナリ二人ハ京都所司代ナリ後ニ代官ハ
堀數馬ヲ以テ天領三萬石京都近傍ニ在ル所ヲ支配
セシム天領トハ天下ノ領地ト云フ意味ニテ幕府ノ
直轄地ナリ以後所司代ハ租稅收藏ノ丁ニハ管係セ
ズ京都近畿ノ政事武事ノ專務トナリ明治維新ニ至
ルマデハ堀數馬ハ其ノ下吏手代數十名ヲシテ事ニ
當ラシメ支配地ノ訴訟ヲモ裁斷セリ刑事ハ之レヲ
町奉行所ニ送ル所司代邸ハ二條城北ニ在リ小堀邸
ハ城西ニ在リ
一萬石御料　此ノ時山城攝津及ビ丹波ニ一萬〇〇

京都府立総合資料館所蔵

元和九年更ニ一萬石ヲ加ヘ二萬石トス
延享四年右中ヨリ勘定奉行ヘ達
御取箇之儀者年々時々有之事ニ付
共向後御代官所ト
中條村ヲ一様ニ文
事ニ用紀立毛ヲ不
隔村所等考ヘ難
ヲ何程迄取
分ニ付ヒ貢所致し為
差出ハ訳を所ハ先
年ヲ石縄間ニ為引
合文事ニ豊山之様ニ吟
味仕候ハ訳ハ今度
ハ代官共ニ任置度出
仕候ヲ以ヲ伺ヒ

上

十二石五斗ノ高アリ之レヲ一萬石御領地ト稱シ此ノ收税ニ由リ禁裏御所ノ御經濟ヲ立テタルナリ其ノ實收ハ年ノ豊凶ニモ由ルベケレドモ其ノ半數ト見テ大差ナカルベシ其ノ丹波ニ在ル御高ハ

一 一千〇七十五石五斗八升六合 桑田郡内三村
一 三十四石六斗三升 同 上田村
一 七十九石三斗六升一合 同 千ヶ畑村
一 六百十六石四斗六升六合 同 四村
合一千七百〇六石〇七升三合

安政五年戊午三萬二千二百六十四石四斗五升五合
慶應三年山城ノ地ニテ御料地ヲ増ス 丹波ニ在ル
小堀支配地ヲ加ヘタルヤ否知リ得ズ

國高二十八萬五千七十石 慶長年間以來ノ定
寛政年度二十九萬三千石余計上
文久年度二十九萬九千七百〇二石三斗八升四合一
勺八才
維新明治初年改三十二萬四千百三十六石余
明治十一年改田圃二萬九千三百二十七町四段七畝
二十一歩五厘六毛 此ノ草高
合三十二萬九千四百六十五石四斗七升三合八勺
六撮 此ノ租税
高壹拾四萬一千四百四十〇石六斗三升九合三勺二
撮
京都府所轄六萬二千八百三十二石六斗一升三合

京都府立総合資料館所蔵

豊岡縣所轄七萬八千六百〇石〇二升六合三勺二撮

正租米拾三萬四千六百五十四石五斗八升九合三勺二撮

大豆四百七十七石四斗八升四合

米六百五十二石六斗四升五合

金納六百四十四圓六十三錢三厘

此米二百五十〇石五斗六升五合

雜税米一千四百三十三石四斗三升二合

金納一萬一千六百五十四圓十一錢七厘一毛

此米四千四百四十九石四斗〇八合

貢租改正　慶長年間前田德善院所定ノ高ヲ後世ヨリ呼ンデ元高又ハ舊高古高ナト云ヘリ

延寶七年松平九十郎所檢ノ山役林役ト呼ベル草高アリ山林年貢トモ云フ

寛文十七年菅沼織部正所定ノ檢地高ハ維新改正マデ用ヒラレタリ

明治初年ハ萬事改正期ニシテ年貢方法モ改正セラレ田畑家敷地池敷其他ニ及ブマデ貢納法ヲ廢シ地券ニ照ラシ地價百分ノ三ヲ以テ金納トシ十年更ニ百分ノ二半トシ民費ハ正税五分ノ一ニ過グルヲ許サズトノ法ヲ出ダセリ

此ノ二分五厘減ハ伊勢ノ百姓一揆ノ起コリタルニ由ル當時ノ人民ハ納米ノ習慣ニ由リ納金ノ方

京都府立総合資料館所蔵

ヲ嫌ヒ且又金銭ノ融通圓滑ナラザルヨリ竹槍席旗モテ三重縣廳度會縣廳ヲ襲撃セントハシタルナリ事長ク國異ナルヲ以テ畧ス川柳アリ曰ハク

竹槍でちよつと衛さ出す二分五厘

八人口ニ膾炙喧傳セラレタル句ナリ

郡村數

元祿改　六郡二百十四村

寛政改　六郡千百二十村

桑田郡（南北一郡ナリ）二百二十一村

船井郡　二百十九村

何鹿郡　一百六十五村

天田郡　一百四十九村

氷上郡　二百〇三村

多紀郡　一百六十三村

明治九年　六郡千〇七十村

同十一年　六郡六町一千〇五十九村

同四十五年六郡六町一千〇五十九村

戸數六萬八千五百十戸　明治九年

人數二十九萬五千六百八十一人　同上

内京都府所轄　三萬一千一百九十七戸、

内寄留　五十六戸

内豐岡縣所轄　三萬七千三百十三戸

内寄留　五十七戸

最近　戸數同上　男拾四萬七千八百三十人

京都府立総合資料館所蔵

内寄留　三百二十三人
女捨四萬四千六百九十七人
内寄留　二百〇四人
外出寄留男女合三千六百八十一人
農十分ノ八　維新前　二分ハ商ト雑業
同十分ノ六　明治十三年　四分ハ同上半農
同十分ノ五、三　同二十三年　四分七ハ同上
各種上地段別　明治初年藩有支配地ノ山林
ハ官林ト稱シ社寺ノ山林ハ上地林ト呼ベリ
官林七百三十八町九段二畝廿四歩
一官有地ノ一　神地二十五町三段八畝二歩
官有地一町二段九畝八歩

一官有地ノ二　畑六畝廿二歩
宅地二町一段四畝廿一歩
原野七段二畝廿一歩
一官有地ノ三　池十町八段五畝三歩
雑種地十一町七畝六畝二歩
一官有地ノ四　寺院十町七畝廿二歩
以上
一民有田五千三百十二町八畝二歩
同畑六百二十町九段七畝三歩
同宅地四百十二町三段十九歩
同山林二萬一千七百三十六町三畝七歩
同原野一百二町五段九畝八歩

京都府立総合資料館所蔵

後花園天皇康正二年内裏ヲ造營ス將軍足利義政ヨリ諸大名ハ名社寺朝臣ニ三ルヲテ納錢助エセシムヽ之レヲ段錢ト稱ス祝法四公六民割ノ外一段ノ耕地ヨリ一貫文ノ錢ヲ徵收スルモノト云フ　武士ノ知行ヲ貫ト云フハ一坪ノ田ニ稻苗一把ヲ植ウレバ百坪ニ百把トナル之レヲ百文トシテ一坪ヲ一貫トス此ノ算法ヲ以テ十貫ハ百石ト知ルベシ

段錢并國役引付書

五貫文　五月廿八日定　結城越後入道

四貫八百八十文　同月廿六日定　丹州丹波鄉段錢（丹後ニアリ）

大雄寺領

三貫文　同三　十日定　伊勢國幡入道

丹州賀悅庄段錢（丹後）

六百五十文　同日定　竹藤五郎

丹波國桐野河内段錢

三貫文　同二十日定　伊勢肥前守

丹波國所々段錢

五貫文　同上　金山修理亮

丹波國兩所ノ内段錢

同　六月二日定　南都西大寺

丹州志樂庄段錢

十貫文　六月三日定　赤松刑部大輔

京都府立総合資料館所蔵

三貫六百五十文 六月七日定　丹波國春日部庄段錢

一色式部少輔

丹州所々段錢

六貫八百七十三文 同六日定

片岡與五郎

丹州永久保段錢

結城越後

丹波國穗津保段錢

三貫文 同日定

飯河兵庫助

丹波國二ヶ所段錢

二貫文 六月七日ヨリ十一日ニ至

鴨社領

一貫五百文

丹波三和庄公文職段錢

伊勢因幡入道

丹波國相肺河内村段錢

二貫七百文

鹿苑寺領

丹州味野段錢

十三貫百五文

八幡宮領

丹波國篠村庄所段錢

二十三貫六百文

三寶院御門迹領

丹波國曽地領段錢

八貫六百文

以上

次ニ出ダス所ノ高帳ニ仙洞御所トアルハ上皇ノ御住所ニテ准后ジュゴウヲトアルハ皇后御所ナリ准后ヨリ中宮トナラセラレ後ニ皇后トナラセラレタリ

二條殿トアルハ五攝家ハ一ナル二條家ニアラズシテ親王家ナル
梶井御門迹ノ上ニ置アルハ其ノ関白職ニアルヲ以テアリ
文久年度丹波惣高帳記載スル所ニ據レバ
合貳十九萬九千七百零三石三斗八升四合一勺八才
ニテ
内
壹萬六千五百八十五石一斗二升三合二勺八才 御代官所
千五百五石八斗六升九合六勺 禁裏御所
千八百十一石五斗七升一合六勺 仙洞御所
七百四十七石四斗二升四合七勺 准后御料
四百十七石六斗三升三合 二條殿家領
三百石 梶井御門迹領

元祿十三年庚申十一月調
國高二十八萬八千九百三十三石八斗四升九合
御藏入ノ始メ四十三ヵ年ヲ御藏入トハ京都二條城内
ノ米廩ニ收納スルモノヲ云フ
貳萬二千八十五石九斗七合 御藏入
千百八十九石五斗七升七合 禁中御料
四百十七石六斗三升三合 二條殿領
四萬八千八百二十三石九斗五升 筱山領
四萬五千七百六石三斗七升 福知山領
三萬八千石 亀山領
三萬六千石 柏原領
二萬八千七百二十五石四斗四升八合 薭部領

京都府立総合資料館所蔵

二萬石
壹萬八十二石八斗三升
六千石
五千八石七斗七升六合
四千百三十五石三斗一升
三千五百六十九石一斗一合
二千五百石五斗
二千三石五斗八升二合
千五百石
千百石
千百石
千五百七斗六升三合

綾部領
山家領
九鬼領
藤懸監物知行所
古田兵部少輔知行所
川勝丹波守知行所
谷矢助知行所
谷藏人知行所
谷八助知行所
菅沼主殿知行所
菅沼主水知行所
松田善右衛門知行所

千百三十九石二斗九升八合
千石
千五百五合
九百七十四石九斗五升七合
九百六十八石一斗三升五合
七百十三石三斗
五百石
五百石九合
三百七十五石
三百石
三百八十石
二百九十石

嶋 猶左衛門知行所
津田平左衛門知行所
村上次郎右衛門知行所
能勢宇右衛門知行所
前田左太郎知行所
平野十左衛門知行所
川勝太郎兵衛知行所
佐々權四郎知行所
山田八左衛門知行所
森 平左衛門知行所
瀧川與三右衛門知行所
平野平左衛門知行所

京都府立総合資料館所蔵

二百五十石　和田彦矢衛知行所
百十九石　妻木吉左衛門知行所
五十石　河野新七知行所
四十石五斗五合　常照院
四十石　等持院
二十石　了安寺
二十石　加茂祝部
二十五石　遣迎院
二十五石　西光寺
二十五石　加茂森
百石　梅若六郎
以上

千石　萩原殿家領
四萬四千五百三十八石　青山下野守領
四萬三千八十六石二升五合　松平豊前守領
三千六百七十四石　永井庖殿守領
三萬八百三十七石八斗八升一合　朽木土佐守領
貳萬六千八百十一石七斗六升九合　小出信濃守領
六千二十二石四斗四升二合　九鬼和泉守領
壹萬八千五百八十五石三斗八升一合　織田出雲守領
五千二十二石八斗三升八合　保科彈正忠領
千九百十二石二斗六升三合五勺　安部摂津守領
壹萬九千九百二十八石七合九勺六才　九鬼大隅守領
七千七百六十五石五斗六升四合四勺六才　水野壹岐守領

京都府立総合資料館所蔵

二千十八石六斗六升九合　内藤播磨守領
壹萬八十二石八斗三升　谷出羽守領
五千五百七十二石一斗二升五合一勺　杉原若狭守知行
二千石　本多淡路守知行
千石四合五勺　藤堂肥後守知行
五千五百八十七石六斗六升五勺　柴田河内守知行
二千八百十七石六斗七升七合　安藤出雲守知行
四千四百七十八石五斗七升九合　武田河内守知行
千石　前田平右衛門知行
八百八十八石三斗五升三合八勺　佐野肥前守知行
四千五十一石二升四合　藤懸監物知行
三千六百十二石七斗五升八合二勺　川勝新藏知行
千十六石二斗六升三合五勺　津田好之丞知行
三千石　織田衛守知行
二千五百八十六石一斗八升六合　鳴瀧左衛門知行
五百石　太田善太夫知行
二千三石五斗八升三合　谷内藏助知行
千五百石　谷縫殿助知行
千三十七石　松田善右衛門知行
八百四石二斗五升　村上三十郎知行
九百七十四石九斗三升　能勢惣十郎知行
千石　小宮山定之助知行
千石　松野八郎兵衛知行
五百石　井上志摩守知行

京都府立総合資料館所蔵

七百石　川勝千吉知行
五百石　川勝主税知行
五百石　能勢市十郎知行
五百石　九鬼十兵衛知行
五百石　牧　助右衛門知行
五百石　藤懸弁之助知行
五百石　藤懸伊織知行
五百石　佐々氏之助知行
五百石　村上志摩守知行
三百石　村上左門知行
四百十石一斗四升二合　澁川源八知行
四百石　水野長左衛門知行
四百石　須田與十郎知行
四百石　川窪佐太夫知行
三百石　市岡佐太夫知行
三百石　安藤軍次郎知行
三百石　諏訪亀五郎知行
三百石　森　佐仲知行
二百五十石　妻木弁次郎知行
二百五十五石七斗五升　和田八郎知行
二百二十四石　平野勝三郎知行
百十九石　河野仁十郎知行
百三石七斗五升四合　武田勝三郎知行
四十五石　上賀茂社領

京都府立総合資料館所蔵

十八石　下賀茂社領
六十五石九斗一升五合　愛宕社領
五十石　泉涌寺領
五十石　常照寺領
五十四石　等持院領
十三石　光院領
二十石　淨禪院領
五石　高塔場領
五百石　平岩七之助知行
六十六石二斗九升五合四勺　山役高御代官所納
百石　梅若六郎知行
外ニ九石五斗四升二合八勺　山役高淮石御所納

四百七十四石六斗　御免除高

〆

町役村役ノ事

町役　惣年寄　名主　五人組頭　略シテ五頭トモ云フ寛政二年以後

村役　莊屋　庄屋ト書ケリ　頭百姓　名主　肝煎　五人組頭　同上　寛政二年以後

其ノ役義

惣年寄　各町ノ惣轄ト町内人民ノ保護ニ任ス　土地ノ事ニハ関カラズ

名主　土地臺帳宗旨人別帳ノ事ヲ掌リ納貢戸籍ヲ専任ス　年寄ノ助手ナリ

五人組頭　五人組内ヲ管理ス　年寄　組頭無キ所ニ多シ組頭ノ事ヲ篇ス

莊屋　一村ノ土地高附帳宗旨人別帳ヲ管掌シ納

京都府立総合資料館所蔵

貢戸籍村治ヲ管理ス

頭百姓　一村ノ會ニ立會ヒ諸事ノ評決ニ參加ス

莊屋トハ莊園家屋ノ畧語ナリ權門勢家ガ荒蕪ヲ開墾シテ別莊地トナシタルモノ又ハ私領地トシ自家ノ名モテ田園ノ名トシタルモノ其ノ主人ハ名主ナリ大名主小名主アリ大名小名ノ稱號モ之レヨリ起因ス

五人組ハ即チ五保ニテ周代ノ五家制ニ淵源シ唐代ニテ行ハレ吾ガ邦ニ入ル五戸ヲ糧準トシテ内部ノ行政ヲ執行シ國ニ對シテ共同ノ責任ヲ負擔ス德川氏ガ民間ニ施シタル自治制ノ一ニ居ル

大莊屋ナルモノアリ之ヲ置ケル所アリ置カザル所アリ　庄屋ノ上ニ立チ諸村ヲ看督ス領主代官ノ事務ヲ分擔スルヲ以テ其ノ人ヲ得レバ代官ノ事務ソノ半ヲ節ス今ノ郡長ノ如シ　大抵門閥世襲ニシテ權義士分ト伍ス

庄屋職務條項左ノ如シ

夫食植附食ノ出願ト貸與

年々夏作ノ取入ヲ見計ラヒ稻苗ノ準備ヲ爲サシメ冬作ニテ不足スルノ小百姓下作人ノ爲ニ代官ニ出願シ貸與セラレタル米ヲ夫食又ハ植附食ト名ヅク即チ借米ナリ之ヲ償フ方法ヲ立テ秋熟ヲ待ツテ返納スルヲ常規トス利息ハ附セズ

京都府立総合資料館所蔵

此ノ事タルヤ至重ニシテ領主ノ庫藏ニ影響ス
ルガ故代官ノ私見ニ委セズ代官ヲシテ其ノ実
地査定ヲ為サシメ貸與スベキモノトスレバ其
ノ程度ヲ奉行ニ進達ス奉行ハ更ニ之ヲ査察シ
私見ヲ附シテ家老年寄ニ呈出シ其ノ裁可ヲ仰
ク　其ノ結果貸與トナレバ植附終リ植附濟ノ
届ヲ為ス　領主ヨリハ水道目附出張見分セシ
ム庄屋ソノ案内ヲナス目附ノ帰報ハ郡奉行ニ
ナス奉行ノ届ハ家老年寄ニナス而シテ領主ニ
上申ス
庄屋ハ時々村内ヲ巡視シテ民情水利衆害等ノ
ニ注意ス助郷夫役ノ事ニ注意ス（後文参照）浮雲子發生

ノ徴ナレバ農人ト謀リ衆議ヲ出願ス代官コレヲ
奉行ニ通シ其ノ許諾ヲ得テ之ヲ村内ニ通知シ其
ノ村々ノ習慣ニ從フテ之ヲ擧行ス是ノ手續ノ室
キハ村税ニ影響スルヲ以テナリ雨乞モ亦同シ酒
ヲ供スル村モアリ
生者死者ノ届出ハ戸主ヨリ口頭ニテ庄屋ニ通ズ
庄屋ハ届出人ト連署シテ代官ヘ達ス代官コレヲ
奉行ニ達ス　養子縁組亦同シ但シ奉行ノ許可ヲ
要ス　他領ノ者ト関係スルモノナレバ家老年寄
ノ稟議アリ領主ノ許可ヲ要ス
庄屋ノ名ヲ以テ願ヒ出ス條件
一年貢ニ係カルヿ　一村普請官普請ニ係カル

京都府立総合資料館所蔵

一園社ニ係カル〻　一社寺ニ係カル〻請
ノ〻　一神官僧侶ノ進退ノ〻　一共有森林伐
採ノ〻　一鰥寡孤獨ヘノ救育ノ〻　一貧困者
片輪者救助ノ〻　一夷送雨乞ノ〻
同届出ヅル條件
一忠孝節義者　一家業勉勵者　一行倒人旅行
病人変死人　一盗難拾物　一出奔人欠落者
一植付濟
宗旨人別帳　庄屋名主舊記人別帳ニ照準シ一個
年中ノ加除ヲ調査シ翌年正月ヨリ其ノ清記ヲ為
サシムル之ヲ以テ營業トスル者アリ當ニ村ノ書キ
物ヲ為スニ因リ年々多少ノ米ヲ與ヘ常雇トス清

寛文九年八月達
關所通行人手形
丹波ハ京都所司代ヘ
發出スヘ
女上下　何人衆
物偽装　尼髪型
無髪ハ髪ヲ剃ル
元町女　私ハ何
ノ母々男方兄
以上
天保二年近江丹波
兩國最寄御領私領
高辻御陣ノ廣之味

寫成レバ庄屋ヨリ代官ヘ達ス代官之ヲ調査シ奉
行ヘ達ス奉行記名捺印シテ家老年寄ヘ達ス家老
年寄ハ之ヲ領主ニ上申ス天領ニ於テハ多ク小堀
等ノ代官手代ニテ吟味シ庄屋ヨリ差出シタルヲ
代官ニ上申ス御所仙洞御所女院中宮親王御料同
シ

庄屋員數ハ一様ナラズ大抵一村一員トス大村ニ
テハ二三員ヲ置キ部落ニ配置ス小村ニ於ケルハ
之ニ及シ數村ニ一員ヲ置ク　名主ハ一町一員ト
ス（名主下ニ出ズス）　寛延以後ノ規定トナル　領主又ハ幕
府ノ代官支配主ヨリ門地名望財産等器具ハリ品
行方正ニシテ一村ノ模範トモ為ルベキモノ其ノ

佛前寺立合可申聞事
右兩國より女手形ニ付偽装なと
伏見奉行水野右
見奉行ニ通知を以
人之を出すべし

京都府立総合資料館所蔵

上筆算アルモノヲ撰ヒ代官ヨリ呼出狀ヲ發ス禮服暑用ニテ代官役所ヘ出ルヤ辭令書ヲ渡ス大名ニ於テハ大目付奉行代官立會ノ上奉行ヨリ渡ス幕府代官所ニ於テハ代官又ハ名代手代ヨリ之ヲ渡ス庄屋ハ代官所ニ於テシ肝煎ハ白沙ニ於テス肝煎ノ令書ハ代官コレヲ渡ス庄屋就職スレバ家老年寄用人奉行代官手代等ヘ扇子料若干ヅヽヲ持參シ廻禮ス其ノ他治民ニ關スル役人ノ宅ヘ廻禮スレ元扇子料ハ出サズ幕府代官所ニ於ケル手續暑同シ　是レヨリ村民ニ對スル權利ヲ生シ義務亦起コル町入貢村入貢等庄屋ノ掌ルベキ項目ヲ擧グ

堤防溜池井堰作道溝樋橋梁普請費　池敷溝敷堤敷水越料　水當堰樋守給　村歩行用人給筆紙墨　蠶送雨乞費　村人足賃　庄屋肝煎給庄屋肝煎頭百姓轉當料及郷宿支拂費　家出人年貢償　鳥獸逐攘費　役人出張賄費　村内貧困者救助費　旅行病人行倒人取扱費　變死人扱費　神官給　非人番給　目盲人就位　普化宗修驗布施　郷藏敷　圍籾捨子　初納捨子　大豆餅米捨子　干草買入費償　火防費　水防費　火防水防器械費　普請器械費　村社修繕費　村會議所修繕費　會議所消耗費　目盲人就位トハ盲目ノ者ガ檢校トカ勾當ト

京都府立総合資料館所蔵

カ云フ名位ヲ受クルヲ云フ京都御所乾門前
北ニ久我ト云フ清華公家アリテ天下ノ盲
人ヲ支配ス品位ヲ得ントスル盲人ハ冥加
金若干ヲ納メテ其ノ品位ヲ獲ルヿトス盲人
ノ品位ハ其ノ携フル所ノ杖ニ因リテ知ルヲ
得
普化宗トハ普化禪師ヨリ肇マル所ノ虛無僧
ナリ町村又ハ家々ニ就キ布施合カヲ乞フノ
權利ヲ幕府ヨリ其ノ本山ナル明暗寺ニ許可
シタルヲ以テ此ノ僧ガ尺八ヲ吹奏シ来レバ
若干ノ米銭ヲ與ヘザル可ラズ一宿ヲ乞ヘバ
之ヲ旅亭ニ伴ハザルヲ得ズ　此ノ事ハ南来

田郡馬路村童勝院ノ部ニ出ダス参看セバ概
略ヲ知リ得ン
修驗トハ山伏ナリ京都川東聖護院村ニ聖護
院宮アリテ親王其ノ住職トナラセラレ天下
ノ修驗僧ヲ支配シ玉フ法印法橋法眼ナトノ
品位ヲ下賜セラルヽニヨリ之ヲ賴ミテ道中
ニ合カヲ乞ヒ投宿ヲ乞フヿアリ之ニ應セザ
レバ無法ノヿヲ言ヒ懸ケ遂ニハ聖護院宮ト
菩藤ヲ生スルニ至リ大弊害ヲ釀スノ前例ニ
懲リ其ノ乞ヲ容レ無事ヲ圖ルナリ
捨子トハ不足ヲ補フノ名稱ナリ例之ハ初納
捨子ハ精選ノ末ヲ納ムルニ普通米中ヨリ極

京都府立総合資料館所蔵

精選スルヲ以テ量數ノ不足ヲ来ス故之ヲ填補セザルヲ得ズ之ヲ補フヲ捨子トハ言ヘルナリ

役人出張賄費トハ幕府ノ役人ガ土沙留或ハ川方巡廻ニ付キ宿泊支度ニ要スル費目ナリ

領主支配知行主等ノ出張役人ニハ一泊玄米一外畫支度同五合ヲ仕掛フ規定ナレドモ其ノ數ニテハ支辨シ難クシテ不足ヲ生ズルヲ以テ補フノ費ナリ

京都ニ町奉行所ナルモノアリ地方ノ行政訴訟ヲ掌ル江戸ヨリ旗下士ノ才幹アルモノニ人来リテ東西役所ニ在リ之ニ屬スル

士着ノ與力四十騎同心百人中座以下ノモノ數十名アリ其ノ内土沙掛カリナルモノ川掛カリナルモノ年々地方ヲ巡廻ス

米勘定　前項示スガ如ク一宿玄米一外畫食五合ナド大抵ハ米ヲ目安ニ立テヽ勘定シ支掛ニモ玄米ヲ渡スガ常例ナリ是レハ運賃欠闕ノ地ハ勢甫ムセサルヲ得ズ米ヲ銀ニ直シ地方通用ノ銀札ニテ渡スコトモアリ

諸役免除高　往古ヨリ許與シタル免税アリ大堰川筏ノ如シ南桑田郡山本村保津村ニ於ケルガ如ク多紀郡北河内村ノ宮田鍛冶ニ於ケルガ如シ又村限リノ免除アリ寺社ニモアリ伊勢謨持地面愛

京都府立総合資料館所蔵

宮講持地ノ如ク特別賞與ノモノニテ公組マデモ免除セラレタルアリ孝子烈女等ノ如シ村郡諸村ニ出ダス如キモノ是等ノモノヲ除キ村惣高ニ賦課スルモノヲ村役米トス

右村役米及諸掛銀銭ハ一年間庄屋ニテ立替置キ十二月精勘定ニ之ヲ辨償ス村ニ於テハ戸別賦課方ハ無シ　地持惣体ノ調印ヲ取リ各権利者ノ兼認ヲ経タルノ證トスルナリ

名主　名主ノ就職ハ大抵庄屋ニ同シ　六月十二月ノ両度ニ一年内ノ精算ヲ為シ一定ノ戸別割ニ隨フテ徴收ス此ノ組銀ヲ斬役ト唱フ此ノ斬役ニハ不同アリ一家ニシテ二斬分ノ納税スルモアレバニ斬ニシテ一斬役ヲ勤ムルモアリ其ノ原因ハ詳ナラズ各町ハ普ク賦課スルモノヲ惣割ト云ヒ一町ニ課スルモノヲ町入費ト云フ此割方ヲ定ムルニハ名主ヨリ組頭ノ内数名ヲ指名シテ評議者トシ之ヲシテ決定セシム毎年李ノ出費ハ名主ノ手許ニテ取替置キ精勘定ノ際辨償ス東国ニテハ名主ト呼ビタリ即チ西国ノ庄屋ナリ庄屋ハ世襲多ク名主ハ選擧多シ

評定者　頭百姓其ノ主脳トナリ庄屋ノ扣ヘ置キタル金銀ヲ精算ス庄屋肝煎連席ス違算無シト認定スレバ各自調印シ庄屋ノ名モテ地持ヘ示ス

町方ニ於テハ五月ト十一月トニ於テ各町ノ名主

京都府立総合資料館所蔵

ガ扣ヘ置キタル金銀價格ヲ集メ名主ヨリ普ク賦課シ以テ之ヲ辨償ス各町ニ負擔セシムルヲ惣割ト云ヒ一町ノミノ負擔ヲ町入賃ト云フ町ノ評定者ハ名主ト各町ノ名主トヨリ成ル

村普請　堤防井堰溝池樋等ヲ村普請ノ主要ナルモノトス春秋二季二月ト八月トニ代官ヘ出願ス代官ヨリ奉行ヘ達スレバ奉行ヨリ家老年寄稟議シ日ヲ期シ代官及ヒ手代ヲシテ實地ノ檢分ヲ為サシム庄屋其ノ場ニテ設計ノ申立ヲ為ス家老年寄ハ代官ノ帰較ニ因リ許諾ヲ與フ幕府直轄代官支配地ノ分モ大同小異ナリ工事用ノ竹林木杖等ハ大名ナレバ山方役人及ヒ川方役人ヨリ渡ス依

藁縄類ハ現品又ハ代價ニテ渡ス　天下普請ノ橋梁トハ幕府ノ経営ニ係カルモノニテ是レハ京都町奉行ヨリス領主普請ハ領主ヨリシ村普請ハ村民ヨリス幕府ニモ諸藩ニモ作事奉行ナル役柄アリ常ニ普請修繕ノ事ヲ掌ル

町村山林ハ人民自由ニ伐採ス　明治六年ニ至リ公有私有ノ別ヲ明ニシ濫伐ヲモ禁ゼラレ山ニ立木アリ林ニ下草アルヲ見ル

宗旨人別帳ハ寛延前後ヨリノ名簿ニテ明治四年戸籍帳ト改ム

村ハ庄屋ニテ町ハ名主ニテ管理ス一年中ノ人別加除ヲ記載シ正月ヨリ下調ヲ為シ四月ニ代官ヘ

京都府立総合資料館所蔵

差出ス代官コレヲ奉行ヘ達ス奉行ハ綜町村ヨリ
ノ出揃フヲ待チ記名調印シテ家老年寄ヘ達ス之
ヲ宗旨人別ト曰フハ宗旨ノ神佛ニアリ邪宗門ナ
ラザルヿヲ證明スルナリ（制札文以下参看）是等記載ノヿヲ
写スヲ職業トスル者ニ一任スルナリ　外年西年
ニハ中改ト稱シ代官ハ宗門方手代ヲ隨ヘ町村ヘ
出張シ戸主ヲ呼出シ宗旨ヲ糺シ人別ヲ改ム子年
午年ニハ大改ト稱シ奉行ハ宗門方手代及ヒ目付
ヲ隨ヘ之ヲ改ムルノ法ヲ行フ毎戸十五歳ヨリ以
上ノ男女残ラズ呼出シ面貌ヲ檢査シ帳簿ニ對照
ス他國他方ニ在ルモノハ必コレヲ呼戻サシメ當
日ノ不参ヲ許サズ嚴行セラレタリ　前段参照

一般町人百姓ノ送籍入籍ハ戸主組頭莊屋名主等
連署シテ代官ヘ願書ヲ出ス代官ヨリ奉行ヘ達ス
奉行之ヲ許否ス官位アルモノ神官僧侶藩中ノ者
ハ家老年寄ヘ達ス町人百姓ニテモ他領ノ者ト縁
組スルニハ家老年寄ノ許ヲ要ス　許サルレバ庄
屋ハ先方ノ庄屋ヘ送状ヲ出ス宗旨送状ハ其ノ檀
那寺ヨリ先方ノ檀那寺ヘ出ス兩送状トモニ本人
コレヲ携帶ス藩中ノモノハ之ヲ要セズ
奉公人ハ戸主ヨリ名主庄屋ヘ届ケ出デ戸主庄屋
又ハ戸主名主連署ノ願書ヲ代官ヘ出ス代官ヨリ
奉行ヘ達ス奉行之ヲ許否ス願書ニ年限ト雇主ノ
所町村ヲ記ス

京都府立総合資料館所蔵

全戸出稼ハ送入籍手續ノ如シ町村トモ組頭以上ノ者寄合ヒ評議ス出稼トシテ来ル者アル時ハ評議ノ上庄屋名主之ヲ許ス之ヲ棚借ト云フ

寄合　正月ニハ十五日迄ニ初寄合ヲ為ス　同二十三日ト十月十四日ニハ日待ノ夜會アリ　正五九月ノ寄合ヲ伊勢講ト云フ　臨時ノ事ニハ又臨時ノ寄合ヲ為ス

初寄合ハ五人組頭以上　日待ハ在籍戸主（借家人ハ使役セラル以下同）

庄屋名主組頭ノ進退ニ関スル臨時寄合ハ組頭以上　入籍人棚借人ニ付キテハ戸主一同　神官僧侶ノ進退ニハ在籍戸主一同　社寺修復ハ同上

道路修繕同上　神祭準備同上　共同物處分ハ組頭以上　日待ハ外ハ女戸主幼戸主ヲ除ク

初寄合ノ議事　町村ノ規約規則　新設スベキ事項　交情ヲ親密ニスルノ酒宴アリ町ニ於テハ名主ニ袴料ヲ贈ル例モアリ

日待　日ノ出ヲ待チ之ヲ待スルヲ主旨トス　町村ノ養子嫁娶ノ披露ヲ為シ祝金ヲ出ダス身分相應ニテ定額無シ　庄屋名主出席シ掟書倹約書ヲ讀ム夜半酒飯ヲ出ス庄屋名主其ノ人ヲ得レバ此ノ一席ニ於テ抱懐ヲ演ベ一同ノ精神ニ訴ヘ又ハ誘導スルノ功アルナリ是ノ夜ノ入費ハ祝金モテ充チ足ラザレバ頭割ノ出金ヲ為ス

十月ノ寄合ヲ火祭ト云ヒ愛宕山ヘ参詣スル惣代

京都府立総合資料館所蔵

アリ鎮火ノ祈禱ヲ為スヲ主旨トス

伊勢講ハ信仰者ノ集合團ニテ組合區々ナリ

番人話　幕府時代ノ警務最下級ニ位スルモノニシテ番人トモ番太トモ唱ヘ一町ニ二人又ハ一人一村ニ一人ヅヽ必雇フ給料ハ朔日十五日二十八日ノ三ケ日ニ持場ヲ斬毎ニ回ハリ袋ニ滿ツル丈ノ白米ヲ受ケ取ルノ定トス　家屋ハ領主ノ補助ヲ仰グアリ町村ニテ建造修理スルモアリ大抵ニ間ト板間位ニテ入口ノ壁ニ棒鐵棒鳶口モジリヲ建テ十手捕縄ノ類ヲ具フ大名ノ下ニアリテハ水道目付同心ノ下ニ就キ其ノ下知ヲ受ケテ警察シ自分ノ支配トシテハ京都町奉行ノ下ニアル悲田院ノ支配トシテ相續婚姻等ノ出願許可裁判等ノ言渡ヲ受ケ先祖代々同一職務ニ從事ス若シ自分持場ノ内ニ犯罪アリテ捕縛ニ向フ時ハ平常給米ヲ與フル檀那ナルヲ以テ之ヲ実行スルニ忍ビズ已ムヿヲ得ズ隣村隣町ノ中間ヲ雇フテ捕縛セシム家ノ裏手ニ小牢ヲ設ケテ囚人ヲ容レ罪定マレバ領主又ハ知行主或ハ代官ノ本牢ニ繰リ入ルヽモノトス　平素町村人ヲ呼ブニハ檀那又ハ大家ニ向ヒテハ檀那様ト云フ一郡ニ其ノ頭アリ年頭ノ禮トシテ一郡ノ番人集會シ年酒ノ式アリ配下ノ者ヨリ一封ヅヽノ銀札少許ヲ贈ル頭ハ又京都ニテ悲田院ニ其ノ式ヲ行フ　悲田院トハ往古悲

京都府立総合資料館所蔵

施

田施藥ノ二院ヲ置キ貧者病者ヲ集容シタル處ニテ幕府ノ時ソノ地ニ番人許多ヲ住居セシメタルノ故ヲ以テ寺号ヲ役名トナセルナリ

自身番ノ話　自身番トハ町村自分々々ニテ警固スルノ意ニテ朝廷ニ御大事アルトカ幕府ニ大事アルトカノ時ニハ領主支配頭知行主ヨリ命ズルモノニシテ町村人相互交代シテ小屋ニ詰メ切リ非常ヲ警ムルナリ小屋ハ一坪足ラズノモノヲ作リ藁帚ト藁ニテ團扇形ノモノヲ製シ高ク斜ニ小屋前ニ掲グ待通行スレバ頭ヲ下ゲテ禮ス

隱坊　火葬人部落ハ丹波ニ十九箇村ヲリトスフ

織太　編笠ヲ冠ラネバ他出ヲ許サズ　神詣スベカラズ　商賈ヲ許サズ

京都府立総合資料館所蔵

助郷ノ法ハ元禄三年ニ東海道中仙道ト奥羽街道ノ一部ニ始マリ丹波ハ元禄ノ頃始マル其ノ元年ヨリ始マル其ノ遠国ニ便ナルヨリ賞金ヲ出シテ之ヲ償フ又ヲ以テ加助郷ノ法始マリ人民困苦ヲ増スヲ以テ嘱願幾度遂ニ聴カレズ

助郷ノ丁　助郷トハ道中運送人夫不足ノ時ニ之ヲ助ケ働ク郷人足ニテ宿駅役人ヨリ申シ来レバ村民ヲ徴発シ之ニ赴カシムル日當ハ駄賃ヲ取リ不足ハ村ニテ償フ大名旗本其ノ他通行人荷物多数ナルニ従ヒ助郷ノ丁起コリ尚又不足スルニヨリ加助郷起コル郡村多大ノ苦痛トナル（多記郡福住村ノ部参看ノ丁）

元文以後山城壹萬九千八百三十石餘　禁裏御料

丹波　五千石　新院御料

寛永二年二月十三日田壹萬石ヲ供御ニ充ツ同三年正月二十九日上皇ノ供御田三千石ヲ益奉ス寛永三年改禁裏御料貳萬九千七百三十石

仙洞院宮御料壹萬五千三百二十五石

京都府立総合資料館所蔵

親王公卿共四萬四千百九十七石
門迹院家壹萬九千四百七十六石
女中方三千三百六十五石
尼御所四千二百〇二石
諸役人二千三百六十二石
姫宮ノ合力米公卿ノ藏米等
合計十二萬二千百五十四石餘　畿内及ビ近江丹波ヨリ納ム

此ノ國ハ海ニ沿ハザルノ山地ナルヲ以テ廣衍ノ土地無シ故ヲ以テ古来有名ナル城下都市無ク大名アレドモ皆小藩ナリキ山國ナレドモ名ヲ四方ニ駛スルノ山嶽無ク千尺二千尺海拔ノモノ有レドモ隣國ノ人ニダニ賞セラレズ長流トシテ三十里

ニ近キ由良川アリテ稍人意ヲ強フスベキモ惜ムベシ西北ニ偏シテ國内ヲ潤スニ足シ産物ニ至リテモ織物陶器手工品加工品ノ以テ海外人目ヲ惹クニ足ルモノ無シ殊ニ嘆ズベキハ人物ニアリ英雄出デス學者出デズ噫

戰國時代ニアリテ丹波ハ容易ニ手ノ着ケラレヌ國ト云ハレ甲斐信濃ナドニ比セラレシ丈ノ要害アリテ他國人ノ籌量シ難キ處ナリキ戰國割據ニハ利便ナリシヤハ之アランモ今日ノ恭平トナリ文化ニ浴スル以上ハ四面ノ山嶽ハ文明ノ曙光ヲ遮ルノ恨ミ社アレ

町村制施行明治二十二年

京都府立総合資料館所蔵

戸數割　明治十三年四月大政官布告第十六号十七号ニテ規定道府縣會ニテ豫算シタル割ヲ以テ縣内戸數ニ平均シ各市町村ニ分賦シ市町村ハ其ノ住民ニ對シ大約ノ見込ヲ以テ負擔能力ノ等級ヲ立テ之ヲ賦課ス市町村ニハ貧富不平均ナルヲモカマハズ之ヲ平均シテ賦課ス故ニ制限ナク取リ立テルノ悪税デアル

三十七年

南桑田郡	総面積 八方里九三	一方里中現耕地	四百五十四町七四
北桑田郡	十四方里二七		一百四十六町九九
船井郡	十四方里二九		四百三十四町五八
何鹿郡	八方里四四		五百九十町一九
天田郡	八方里四九		五百九十八町三二
氷上郡	十七方里七六		四百六十八町一二
多紀郡	十八方里七八		三百十三町三六

現耕地　百分ノ二十七、九五
百分ノ九、四五
百分ノ二十七、九四
百分ノ三十七、九五
百分ノ三十八、四七
百分ノ三十、一〇
百分ノ二十、一五

農家ガ耕地ヲ使用スルヤ多少アリ多クハ地位氣候地方經濟等之ガ關係ヲ爲ス左ニ作付反別ヲ對照シテ耕地面積ニ比對シ其ノ厚薄ヲ示ス

各作物ヲ網羅シ蔬菜ニ至ル

南桑田郡　耕地面積百ニ對スル　一百五十一、三一

京都府立総合資料館所蔵

北桑田郡	一百二十三、二五
船井郡	一百三十九、一一
何鹿郡	一百六十一、四六
天田郡	一百七十二、一四
氷上郡	一百七十四、〇〇
多紀郡	一百三十一、六〇

右ノ表ニヨリ丹波全國ヲ一百二十〇、七五ノ農カアルモノトシ之ヲ諸國ニ比較スベシ中等ノ位ニ居ルナリ

最優等ノ國	讃岐一百七十九、五五	肥後	一百六十九、〇〇
	筑後一百八十二、六九	阿波	一百六十八、七八
劣等ノ國	土佐七十、二〇	隱岐	九十三、六〇

京都府立総合資料館所蔵

飛彈九十一、五三　越中九十、六五

丹波面積三百二十一萬四千五百九十八町

十五度以下ノ傾斜面地五萬六千七百九十五町

総面積ニ對スル平地百分ノ十七、六

現耕地三萬七千二百二十三町

未耕地一萬九千五百七十二町

平地ニ於ケル未耕地一萬九千五百七十二町

平地ニ對スル現耕地百分ノ六十五

陸奥羽前陸中越後信濃石狩北見十勝等ハ面積最廣ノ國ナリ

現耕地ノ最多ナルハ常陸武藏石見出雲越後伊豫肥前薩摩大隅日向肥後等トス

面積細小ノ嶋國及ヒ安房志摩　又耕地ノ細小ナル嶋國等ニ比スレバ丹波ハ中等ニ位ス

元治元年甲子四月幕府ヨリ諸藩ヘノ達シニ諸大名國産ノ内年々壹両品貢献可有之事但諸藩疲弊ノ折柄ニ候ヘバ申合セ五ケ年目手軽ノ産物以便者所司代ヘ差出シ貢献可致事ト朝廷ヘ伺ヒシニ朝廷ヨリ奏者所ヘ差出可申事ト使令アリタリ云々

從前諸大名ヨリ幕府ヘ年々献上品ヲ奉リシニ政權西遷シテヨリ此ノ事イツシカ行ハレヌ姿トナレリ幕府ハ尚モ所司代ノ手ヲ經テ奉納スベク伺ヒシニ傳奏ヨリノ返事ニ奏者所ヘト達セラレタリ奏者所トハ清所御門俗ニハ御臺所御門ト云フ

京都府立総合資料館所蔵

ヨリ入リ諸献上物ナドスル所ナルガ此ノ一例ハ
幕府ニ對シ権利剥奪ノ一大勢力トナリ諸藩復タ
東向シテ贄幣ヲ捧グルナキニ至レリ此ニ於テ丹
波大名相謀リ従来幕府ヘ納メタルモノ又ハ新規
ノ品等思ヒ〳〵ニ差出スコトナレリ
大名ガ幕府ヘ献上スルコハ方大將頼朝ガ天下ヲ
一統シタル時ニ創マリタルヲ徳川氏ニ至リ之ヲ
再興シタルナリ其ノ品々ハ各藩條下ニ之ヲ記ス
旗下士ハ由緒アルモノヽ外之無シ
小林區管轄　丹波ハ京都小林區ニ編入セラレ山
城摂津丹後河内ノ五國ト京都區ノ支配ヲ受ク
天和三年幕府勘定奉行諸國細見山樹林木保護令
ヲ發ス　貞享元年山城以下七國ニ実施シ大河ハ
國役中河ハ領主役小河ハ村役トシ補助給與ノ法
ヲ立ツ

式内神社　九座　大二座　小七座

貞観元年丹波荒木神社列於官社　同十一年授丹波
國物部賀茂神從五位（慈恵正六位上）
維新ノ際　寺院千百餘字　寺格ニ長老地　色衣
地　知識地　和尚地　平僧地ノ區別アリ　無
宗一箇寺　南桑田郡杉村ニアリ
明治十一年再調査　社　壹千八百七十六　京都府下　一千百五十一
豐岡縣下　七百二十五
寺　壹千百六十四　京都府下　六百六十二

京都府立総合資料館所蔵

全國寺之万宗派五十信徒四千五百万神道部六万九千教派十三信徒千六百万基督宗派十三信徒二十万
佛教寺院七千一千六百九十二境外佛堂三万六千百九十三合計十万七千八百八十五寺院住職六分五百四十一

明治三年十二月社寺ノ禄制ハ廢セラレタリ　同四年僧侶ノ品階ハ廢セラレタリ

明治五年三月本願寺門徒宗ヲ淨土眞宗ト改稱セリ

明治二十七年三月鄉社祠官ハ社司　村社祠掌ハ社掌トナル給料ハ戸數ヨリ給與ス

神社ノ丁ハ氏子惣代之ヲ掌リテ經濟ノ方法ヲ立テ寺院ノ丁ハ檀家之ヲ維持ス

延長五年ノ神名記ニ　大宮賣神社　各神大　咋岡神社　波彌神社　多久神社　稻代神社　名木神社　矢田神社　比沼麻奈爲神社

式内神社ノ式微シテ式外神社ノ盛昌ナルヿアルハ諸方ト其ノ規ヲ一ニス延喜式ニ七十一座大五座小六十六座名神五座トアリ仁明天皇承和二年二月乙巳奉帶天下名神攘風雨ナドアリテ古ハヨサ〳〵尊崇セラレ玉フ神々ナリシガ哀シ今ハ其ノ俤アルモノ十中一ニ無シ當今式内ハ三千一百三十二神社

能樂本座ハ丹波ニアリ而シテ神社ニ奉仕ス次座ハ新座ト云ヒ河内ニアリ泰成寺ナルモノ摂津ニアリ本座トハ本元ト云フガ如シ是ハ秦ノ川勝ガ造トル三十六番ノ猿樂ニシテ聖德太子ガ口吉ミ誂ヘ給ヘルモノト云フ

京都府立総合資料館所蔵

伊勢太神宮ニ　和屋　勝田　主内ノ三座

近江日吉社ニ　山階　下坂　比叡ノ三座

加茂住吉両社ニ　本座　新座　法成寺

奈良春日社ニ　圓満井　結城　外山　坂戸

因ニ記ス川勝ヲ姓トスルモノ頗ル多キハ本座ガ秦ノ川勝ヲ祖先ノ如ク尊崇シ之ヲ名乗リシニ始レルモノニヤ

川勝ノ系　秦始皇帝―胡亥皇帝―孝武皇―笠區宋孫王―法成王―功満王―（来朝帰化）融通王―晋胡王―酒秦公―意美秦公―忍秦公―丹照秦公―河秦公―国勝秦公―川勝秦公

猿

正月室町將軍家ノ左義長ニ丹波ノ猿樂初太夫ガ儀式ヲ勤ムル例ナルガ其囃子ニ　ほうしやしゆやとん〳〵ト唱フ何ノ事ナルヤ　法成寺ノ事ニヤ（前文能樂本座ノ条参看セヨ）

海無キ国ノ歌トテ　海無きハ山城大和伊賀河内筑紫ヨ筑後丹波美作　近江路や美濃飛弾信濃甲斐乃国上野下野これハうミ無しノ二首ハ山鹿因山ノ作トテ古来人口ニ膾炙シタルガ或ル人ノ言ヘル所丹波未ダ嘗テ海無キニ非ザルナリ和銅ノ天子コレヲ奪ヘルナリ丹波ノ國未ダ嘗テ湖無キニ非ルナリ大山咋ノ神コレヲ奪ヘルナリト誑語ト云フベシ（前文参考　南桑田郡保津村請田神社ノ文参看アルヘシ）

ふれ〳〵このき丹波乃こゆきとゆふことよわつ

京都府立総合資料館所蔵

きふるひたるみ似たれハ粉雪といふたまれこゆ
きといふがべきをあやまりてたんぞ乃とハいふな
ルト兼好法師ハ徒然草ニ載セタリ　丹波ヲ京都
ニ對照セシメ雪多キ所ナル故爾言ヘルニハ非ザ
ルカ丹波風吹ケ此所風吹クナ、ド言フ小唄アリ
どこへ行く丹波へゆく丹波ノ路ニハ蛇がゐる
ナド京童ベカ口ニスル所ト同意ナラズヤ
宇治茶摘歌謂ハ所ル定情曲ノ一節
大和山城河内ニ丹波しら奴ほ方もお茶乃縁
攝津方面寒天製造人ノ唄フ所
山がなけれハ丹波ヶ乙よりたんぞ若いとこ山みくや
方言　風ガ堅イ　堅イ風　嚴風寒風　びりし（雨ノ降

リカケノ形容語
生暑イ（ナマ）　生寒イ　生寢タ　生痒イ　生痛イノ類
京都言葉ニモ生温（ヌル）イノ語アルか如シ　かイニ働ク　がイニ重イ
ガイニ　早イノ類　太（ハナハダ）ノ意ニ用ユ
シカマゲル　シミタレルノ意　後レヲ取ルノ義　窶（ミツタレ）
ウヘル　太ノ吼ルヲ言フ　竹籠（イドコ）　瓢箪（ヒヨツタン）
ナンコ　仕直スノ意ヲシナンコ　書キ直スヲカキナンコト云フノ類
ナアン　否ノ義　カタクワ　頑（カタクナ）　片意地ノ義
早乙女　田植スル女子ノ通稱トナレリ　さうとめト
呼ブ其ノ笑フベキハ老婆ヲ揶揄スル間ハさうとめ
ナリ稚袂ヲ手ニスル老婆ニ逢ヒ道ヲ問ハントシテ
之ヲ呼ブニさうとめさんヲ以テスレバ返辭ス他

方ノ人ハ大ニ訝ルベシ

物價表　及金銀ト錢トノ相場　人足賃物價

慶長初年米一石價銀十匁

同十九年金一兩ニ米四石八斗　金一兩ニ錢四貫文

米一石銀十二匁五分　金一兩ニ銀六十匁

錢百文ニ米一斗二升

人足一日銀二分

寛永十九年寛文九年延寶三年米穀不作米一石三百匁上下相場區々人氣不穩其ノ後平年ニ

金一兩ニ米一石五斗ヨリ六斗マデ

元録十三年十四年金一兩ニ米七斗飢饉餓者アリ

平均金一兩ニ米一石トナル

天明三年　米一石　銀百十三匁　百文ニ付一升五六合

同四年　米一石　銀百十八匁　百文ニ付一升七合

同五年　米一石　二百三十匁　百文ニ付七合

享保七年凶作金一兩ニ米六斗二升　最高ハ賣錢百文ニ米一升二合

同十八年金一兩ニ米五斗　一石銀百二十匁　錢百文ニ米八合

文化元年子七月　米一石代五十四匁ヨリ四十八九匁トナリ大豆五十三匁　綿六十二匁

丑年　米四十八匁ヨリ四十六匁五分

寅年　米四十九匁ヨリ五十一二匁

大豆五十七匁　小豆四十五匁

卯年　米六十六匁五分

辰年　米七十一匁五分ヨリ七十五六匁七十七八匁

遂ニ八十匁ニ至ル八月ニハ七十二匁トナル

京都府立総合資料館所蔵

新米新直六十匁　新綿一本百十匁　大豆六十匁
十一月米六十二匁
己年　米七十三匁ヨリ七十四匁五分ニ上リ又七十
匁ニ下ル　新米取入六十五匁ヨリ六十一匁ニ
下ル
午年　米六十一匁ヨリ六十匁トナリ五十七匁八分
トナル餅米六十四匁　菜種一石六十一匁　麥
一石三十二匁　大豆六十匁
未年　米五十九匁ヨリ五十三匁ニ下ル　鰹節上物
一貫匁代十六匁ヨリ十七匁　木綿八十五匁ヨ
リ九十五匁マデ
申年　米五十四匁ヨリ五十匁ニ下ル冬ニ至リ四十
六七匁トナル　古米四十四五匁　豐年ナリ
酉年　米四十九匁ヨリ四十六匁　大豆六十五匁
小豆七十五匁　カンテン草十メ目一貫三百文
戌年　米六十七匁ヨリ七十二匁又六十八匁六十六
匁ト次第下リ
亥年　米六十二匁　六十三匁　麥四十一匁

雜品

鰤一本　十一匁九分　干物十枚　五分
かます十枚　一匁　縄一把　一匁
上板一枚一匁二分五厘　烏賊一枚　同上
鮹一疋　一匁一分　いぢいら　二匁五分
ぶりご一本　二匁五分　蜜柑十　二分

京都府立総合資料館所蔵

白米一升　八分　豆腐　一匁四分
麩十　三分二重　醤油一升　五分五重
酒一升　一匁　諸白一升　二匁八分
俵　一ツ　三分
夜廻り賃　五匁
同六年五月二十日米百文ニ四合　一石二百二十三匁
江戸相場百文ニ二合ニ匁金一両ニ一斗六升
糯一升　二百文　大豆一升二百文
小麥一升　百七十文　蠶豆一升百六十文
小豆一升　百六十文　大豆一升百二十文
豌豆一升　百六十文　酒一升盆後二百二十文
天保四年米百五十匁　五年百八十匁

六年　闕　七年二百匁
八年三百五十匁ヨリ俄ニ三百匁三百八十匁ト
次第ニ揚ガリ飢饉トナリ後世コレヲ三百目年
トテ恐ロシキ記憶トナル
九年平作ニ百五十匁
十年二百匁以後下直ノ年少シ
文久三年二百二十匁ヨリ二百三十匁
元治元年京都騒動米相場變動シテ一定セズ
同二年二月二百五十匁ヨリ二百六十匁　十月五百
四十匁ヨリ九百八十五匁
慶應元年　五百四十六匁五分二重　白米一升五匁
七分

京都府立総合資料館所蔵

同二年四月七百七十五夕　六月八百五十二夕

天災地變　大寶元年地震三日ニ渉ル　文祿四年七月十二日夜大地震　延寶元年四月大雨大水人家簷ヲ浸ス　享保十七年爇害不稔（西南諸國餓死九十六萬九千九百餘人）　寛文元年五月朔日地震

七年牛馬疫流行　文政四年大風雨洪水　安政元年地震　明治二十九年洪水　同四十年洪水

京都府立総合資料館所蔵

同二年四月七百七十五人　六月八百五十三人

天災地變　大寶元年地震三日ニ渉ル　文祿四年
七月十二日夜大地震　延寶元年四月大雨大
水人家簷ヲ浸ス　享保十七年疫害不穏（西南諸國餓死九十六萬九千九百餘人）　寛文元年五月朔日地震　寶永十
七年牛馬疫流行　文政四年大風雨洪水　安
政元年地震　明治二十九年洪水　同四十
年洪水

京都府立総合資料館所蔵

地震ノウキハ地方ノ幸福ナリ山城ノ震災ガ當地方ニ波及セズ維新以來熊本ニ美濃尾張ニ山形ニ起リタルモ山陰道ニハ其ノ影響無シ山陰山陽共ニ舊成堅實ノ土質ナルニ因ル摂津ノ有馬山脈ノ鳴動モ丹波ノ南部ヲ一驚セシメタルニ過ギズシテ休ムモ亦ソノ故トカヤ故ニ火山地震陷落地震斷層地震等ノ中ニ於テハ斷層地辺リニテ他國ノ餘波ヲ蒙ルノミト云フ

治水ニ就キテハ一小地方ト數多地方ニ渉ルモノトヲ區別シ單獨ノ工事ト連合ノ工事ト又其ノ負擔ニ堪エ難キモノハ天下普請トス天下トハ幕府ヲ言フナリ由緒ノアルモノニシテ小工事ニシテ天下普請ナルモノ無キニアラザルモ極メテ少ナリ國主大名封内ニアリテハ大抵其ノ自辦タルモ中小藩ニ至リテハ其ノ大工事ヲ幕府ノ手ニ附スルヲ例トス其ノ方ハ大名ノ京都留守居ヨリ所司代ニ願ヘハ所司代ヨリ之ヲ町奉行ニ處分ノ令ヲ下ス町奉行ハ與力ヲシテ從事セシム與力ハ同ジ數名ヲ隨ヘテ臨場シ其ノ地ノ領主ヨリ派遣セシメタル代官ト立會見分シテ其ノ方針設計ヲ立テ長官ニ稟請シテ或ハ出張シテ工事ヲ監督シ或ハ領主派遣ノ代官ニ委任スル等其ノ時ノ便宜ニ因ル天下普請トナルニ於テハ勘定奉行勘定吟味役等ノ吏員カ江戸ヨリ來檢スルアリ其ノ工費ガ

京都府立総合資料館所蔵

幕府ノ出資ニ係カルヲ以テナリ小額ナラシニハ
町奉行ヨリノ申立ニヨリ送金スルノミトス
丹波ハ道ニシテ國ニアラザリシ昔事ハ上ニ記シ
タルカ如ク境域廣濶ニシテ今ノ十國程ヲモ兼ネ
タルモノナリシヲ後ニ但馬丹後トヲ合セタル三
國ノ稱トナリ終ニ今境界ニ拭マリタルモノヽ如
シ中古三丹ト云ヘバ丹波丹後但馬ヲ指シタル林
見ルベシ猶ホ近時ニ至リ倍々縮少シタルヲ見ル
山城愛宕郡ハ外一帯ノ地モ元ハ丹波ナリシヲ大
悲山大峰寺ノ舊記ニモ見エ山國ノ名稱モテ北桑
田ニ屬シタルモノト云フ是ハ正保二年ニ記載セ
ラレタル所ニテ桑田ニ二郡ノ別未立タザシ時ノ

ナリ愛宕山モ丹波域中ニアリシヲ上文已ニ之
ヲ載セタルガ大堰川ニ臨ム所ノ水尾一帯亦同シ
歌枕秋ノ嶽覺ニモ之ヲ丹波ノ名所トシ丹波國ノ
部ニ入レタリ其ノ歌ハ爲家ノ詠ノルモノニテ
ものヘリ水乃尾川ふさす竿のみなれし迹ゝりすむ
春ゝなトアリ摂津能勢郡河邊郡沿界一帯モ丹波
ノ版圖ナリシヲ人口ニテ傳ヘラレヌ左ニ記スル
所一括雜纂スルモ其ノ故ナリ
孝元天皇納丹波竹野媛爲妃生彦湯産隅命次妃姥
津媛生彦坐王トモ云ヒ又開化天皇娶且波大縣主
女竹野比賣生御子比古由須美命大縣名由基理
比古由須美ハ即チ彦湯産隅ナリ　竹野媛ハ延喜

式神名帳ニ謂フ所ノ丹波竹野郡竹野神社ナリ

崇神天皇十年秋九月以丹波道主命遣丹波国詔之曰有不受教者擧兵伐之以彦坐王遣丹波殺玖賀耳之御笠道主命彦坐王第七男也 系圖多紀郡雲部村ノ分是合ヒ

垂仁天皇五年狹穗彦王伏誅皇后狹穗姫自殺曰妾始所以逃入兄城若有因妾子免兄罪乎今不得免乃知有罪何得面縛自往而死耳唯妾難死之敢勿忘天皇之恩願妾所掌后宮之事宜授好仇丹波国有五婦人志並貞潔是丹波道主王之女也當納掖庭以盈後宮之數天皇聽焉時火起城崩衆悉奔狹穗彦與妹共城中

十五年丙午春二月乙卯朔甲子與丹波五女納於掖庭第一曰日葉酢媛第二曰渟葉田瑞入媛第三真砥野媛第四曰筋瘦入媛第五曰竹野媛 八月壬子朔立日葉酢媛為皇后以皇后第之第三女為妃唯竹野媛者因形姿醜返於本土則羞其見返到葛野自隨輿而死之

雄略天皇二十三年秋七月丹波国餘社郡管川人水上浦島子乘舟而釣遂得大亀便化為女於是浦島子感以為婦相逐入海到蓬萊山歴觀仙衆 丹後與謝郡日置里筒川村

嵯峨天皇天長三年倩經 三百四十七年云

安康天皇父市邊押磐為大泊瀬天皇所殺天皇避難於丹波餘社郡改字曰丹波小子

雄略天皇二十二年秋七月遣大佐々命迎丹波與佐真井原所在豊受大神九月十五日祀之伊勢度會郡山田原新宮

文武天皇元年丹波ヨリ白鹿ヲ献ス　元明天皇靈亀元年白鴿ヲ献ス　和銅六年白雉ヲ献ス　陽成天皇元慶四年十一月九日慶雲丹波ニ見ハル　夏觀八年六月十四日白燕一ヲ丹波ヨリ奉ル

元慶四年八月十五日丹波國司言史生檜前宗範無故不上検非違使丹波宗雄坐私鑄錢人刑部永渕之事隱匿不出請以此二人公廨稲一千七百二十四束四把補國儲之所不足太政官處分依請焉

同六年丹波國人右近衛從八位下丹波直有數兄從七位下丹波直有貞正八位下丹波直數宗從八位上丹波直核頴弟從八位上丹波直有道等故從五位下丹波直人足孫清雄之子也而偽稱葛孫奸著圖籍貢奉蔭孫選叙位階有數男秀助惟影三人入貢位子共免徭役國司申請依實改正勅從之

丹波權守伴成益起身大學寮學生在任民稱其廉潔文武天皇時人

釋仙命丹波人也幼入天台山無動寺習止觀兼念誦陀額彫三寶字背黥彌陀像

永禄七年二月七歳女産兒

朱雀天皇時紫震殿位版上有大矢又大風発屋占者曰主兵革乃下官符於東海山陽山陰等道及丹波太

京都府立総合資料館所蔵

宰府令嚴如備　又祭二道及丹波太宰府等神
淳和天皇天長年中丹墀門成為丹波人民篠疾舊
稱難治門成蓋以猛政廳事之前笞杖疊積數年部内
大治
仁明天皇承和四年六月十一日遣使山城丹波等七
國五國畧之鎮祭以禦疹氣　同嘉祥三年三月八日
遣使兩京丹波他六國畧之等一百寺圖畫帝釋像一百鋪
安置各寺
三條天皇寛弘二年六月十九日丹波百姓相帥叫號
訟于陽明門二十日丹波守藤原頼任以吏卒捕之下
檢非違使獄
桓武天皇延暦十七年勅禁諸國斯蓄錢但丹波他五國畧之
不在禁限
迦爾米雷王聚丹波之遠津臣之女高杯比賣生息長
宿禰王
元弘中北條高時遷皇聖尊于但馬州人太田守延三
郎左衛門為守護乃奉皇聖尊起義追源忠顯於丹波
與俱攻六波羅光之皇聖尊謂恒良
淡印靜憲藤原通憲子也平治之亂以父故流于丹波
建武二年久下時重波々伯部為光長澤云甫等應尊
氏攻州守護雄井盛景々々走摂津
延元々年春尊氏西上新田義貞守大渡賜屋義助守
山崎楠正成守宇治源忠顯名和長年結城親光等守
瀬多藤原權大納言帥基守峰堂

延元々年義貞自向山陽道使右衛門佐脇屋義治定
山陰道同七月額田爲綱奉大覺寺宮于長坂路絶丹
波路
正平九年足利直冬山名時氏發伯耆兵討尊氏進到
丹波尊氏夾後光嚴院走近江
同十六年仁木頼夏攻仁木義任于丹波而敗頼夏者
屬南朝人也
興國九年足利直冬與山名時氏進兵入丹波尊氏走
近江　十七年山名師義徇丹波
弘治九年論諸將討山名氏清功分配其所管十國賜
丹波于細川頼元
正平十五年足利直義桃井直常夾攻義詮々々聞之

丹波
同十七年山名師義率小林重長等兵七百分道略丹
波但馬仁木義尹等相將糧乏引歸
同年足利義詮送款帝親御軍宣言幸京都實欲襲義
行次住吉伊勢國司右衛門督源顯能將伊賀伊勢兵
三千自丹波路進和田正忠等率兵五千應渡桂川昧
爽與細川顯氏戰敗之
正平三年山名時氏與師義將兵五千自丹波大納言
藤原隆俊楠正儀自淀並向京師足利義詮陣東山時
氏攻大破之義詮東走
細川頼元初名頼基爲右馬助右京太夫叙從四位下
爲將軍義滿執事攻吉野拒山名氏清並有功義滿給

京都府立総合資料館所蔵

以丹波　大内義興入將軍義尹於京賞其功賜丹波及
他六國
後鳥羽上皇起兵補城南寺流鏑馬召十四國兵丹波
與焉　荻野美作守久下長澤等應山名滿幸黨氏清
十二月晦日渡上桂瀨丹波勢俄致山名而降
將軍義輝與三好長慶和細川晴元前髮逃遁乃以氏
綱爲管領義輝憫晴元容召祿之長慶怒入京師義輝
晴元出奔丹波
源廣綱者賴政第三子也兄仲綱養爲子以源賴朝推
輓爲駿河守不得預國務廣綱請而不許及賴朝斜右
近衛大將不使其例朝儀因之懷怨亡命爲僧匿上醍
醐賴朝聞之與書陳謝卒不出子孫居丹波稱山田氏

錄田政家死於義朝之難其子盛政戰死一谷建久中
賴朝憫政家嗣絕廣求其胤得一女賜志能麟（尾張國）田
名部（丹波國）二莊以酬政家之功
丹波國人左近衛將監從六位丹波直副茂改本居貫
山城國愛宕郡
丹波權椽櫻井田部連貞相改本居貫右京六條一坊
長亨元年九月十一日常德院義尚江州御動座當時
鉤里在陣衆着到丹波武田下條彦三郎

京都府立総合資料館所蔵

田畑ノ所有ハ開拓者其ノ子孫又ハ譲受人（買得者）タリ

溜池ハ領主知行主ト村民ノ共営ヨリ成ルモノヽ如シ　堰堤井路郷倉等ノ起原ハ知レルナリ知レザルナリ修繕ハ領主知行主ト村民共営タリ

私有山林ハ各自其ノ近傍ヲ自由ニ伐採シタルニ始マルモノヽ如シ　役山ハ私人ニ分割シタル山林ノ名称ナルベシ　村山ハ其ノ残餘ヲ村有トシタルモノヽ如シ

人戸ノ多キ所ヲ千軒ト呼ブハ丹波古来ノ習慣歟　福知千軒馬路千軒河原尻千軒雲田（コマダ）千軒ト云フガ如シ　中ニ就キ福知山ノ如キハ有名有實ナルモ　馬路（南桑田郡）河原尻（同郡河原村内）雲田（天田郡上六人村内）ノ如キハ有名無實ナリ　其ノ近傍諸村ニ比シテ較大村タルノミ

丹波大名嶋真家ノ紋所

八木家紋

西田家紋

塙保己一ノ著書中ヨリ抜萃セシモノ而シテ此ノ三家ノ所在ヲ詳ニセズ記シテ後日ヲ待ツ

京都府立総合資料館所蔵

城

治承ヨリ寛永迄ノモノニテ山ニ據リテ岩石樹木寨柵ヲ用ヒ防禦的工事ヲ施シタル實用的ノモノハ高山寺　畑　八上　神尾山　関八木　長谷　等トス

戰國ヨリ明治維新ニ至ルモノ平地ニアルモノ又ハ山ニ據リタルモノ專威嚴ヲ示スニ用ヒ兼ネテ防禦的工事ヲ施シタルモノハ　亀岡　筱山　福知山　等トス

稲城ノ制ヤ知ル可ラズ古史其ノ名ヲ存スルノミ後世ニ至リ城ヲ作リ郭ヲ造レルハ一ノ谷ヲ以テ濫觴トシ續キテ楠公ノ築造ニ係カル千劔破アリ茲ニ初メテ周圍ノ版築深壕ノ制成リ織田氏ノ安

京都府立総合資料館所蔵

土ニ於ケルヤ天守閣ヲ築キ規模ヲ大成シ範ヲ後昆ニ垂ル德川氏及ビ其ノ大名ハ築城スルヤ必法ヲ安土ニ取リ取捨折衷ス築城家ナル者出テ築城術起コル十萬石以上謂ハ所ル大名ナルモノハ必城無カル可ラズ爭フテ築城家ヲ聘シ之ヲ作營セシム其ノ十萬石ニ充タサル小名タリトモ其ノカ營辦ニ堪フルモノハ亦コレヲ築造セシム工就リテ其ノ制ヲ秘シ湯ニ世ニ示サズ要害ヲ漏ラシ敵ニ資センヿヲ恐レテナリ封建ノ世ハ治平タリトモ大名ハ相互讎敵視シタルハ勢ノ免レザル所ナリ

因ニ記ス大名小名ノ起リハ大名主小名主ニシテ田園ヲ所有スル多小ニヨリテ稱呼ヲ異ニシタルナリ德川氏ノ制度村々ノ水帳宗旨改帳其ノ他村治ニ關スルモノニハ必庄屋年寄名主ヲ記名ス之ヲ春秋左氏傳ノ義城之大名也トアルヲ引證シテ城ヲ有スルモノヽ稱呼トシタルハ漢學者ノ說ナリ當時大名小名ノ稱呼アリテ十萬石以上以下ヲ區分セシモ民間ニテハ押シナベテ御大名トハ呼ヒ微セリ十萬石以上五十三家アリ以下百五家アリ城無キモノ百家ナリ内ニ城主格トスヘルモノ十八家アリ此ノ格アルモノハ幕府ノ待遇差厚クシテ國主格ニ亞ク寛永七年定新築ノ城郭私ニ經營スルヿヲ許サズ其ノ修築ニ至リテハ堀土居石

京都府立総合資料館所蔵

垣等ハ上裁ヲ仰グベシ矢倉門扉等ハ制限ニアラザル

明治元年正月ノ制ニ四十萬石以上ヲ大藩トシ十萬石以上ヲ中藩トシ壹萬石以上ヲ小藩トセリ故ヲ以テ丹波ニハ国主大名無ク又大藩中藩モ無ク城主小藩三家ト無城小藩四家アリシナリ中ニ就キ小出ハ舊城山ニ櫓ヲ設ケ城形ヲ作リタルモ只感嚴ヲ示セル虛榮ナリシノミ

大名小名ニ亜グモノハ旗下トス其ノ起因ハ足利氏ノ末ニアリテ小名ハ大名ノ旗下ニ就ケルヨリ始マルト云フ而ルニ德川ノ制度ニテハ大小名ノ下ニアル位班ノ稱トセリ

大小名ニ外様譜代ノ別アリ豊臣家又ハソレ以前ヨリ封土ヲ有シ関原及ビ大阪陣以後江戸ニ向フテ参勤シ領土安堵ノ朱印ヲ下サレタルハ外様ナリ外藩ト稱セラルトモノ同ジ遠江参河等ヨリ君臣相離レズシテ始終シタルモノヲ譜代トス此ノ間ニ於テ大ナル權義ノ相異アリ老中トナリ若年寄トナリ天下ノ政事ヲ取ルハ譜代大名ニ限リ德川家ノ機密ヲ料理塩梅スルノ機関トナル　中古外様ニシテ大阪城代トナリ所司代トナリ遂ニ老中トナルモノ之アルハ其ノ藩ノ譜代同様德川氏ニ心服従隷シタルヲ知ラスシテノ結果ナリ之ヲ世上ニテ御譜代格トハ唱ヘタリ

京都府立総合資料館所蔵

御代替ハリ御誓書ハ將軍ノ代替ハリ毎ニ大名旗本ヨリ奉ル所ノモノニテ新將軍郎ヶ公方様ニ對シ先々ノ通忠勤ヲ勵ムベキヿヲ書ケルモノナリ諸藩ノ部ニ出ダス公方トハ將軍ヲ言フクバウト謂ム當時士民ハ將軍ト云ハズシテ公方様ト云フ習慣ナリ但シ朝廷ハ尤言ハズシテ將軍ト云ヒ中ニハ東(アズマ)ノ代官ナド輕蔑ノ詞ヲ用ヒタリ

領主ニシテ領民ノヿヲ知ラス知行主ニシテ知行所ノヿ知ラヌハ比々皆是ナリト云フ概況ナリキ

維新後舊領主知行主カ本領安堵ノ命ヲ承テ領地知行所ヘ帰住シ人民ト接近シ雙方胸襟ヲ啓キ懷舊ノ談話ヲ交換スルヤ人民ヨリ何年度此クノ次第ニヲ嘆願御聞届ナキヲ以テ斯ク〳〵ノ擧動ニ及ビ御心配相掛ケ恐レ入ルナド村民ニ取リ死生問題トモ言フベキ重大事件ヲ話頭ニ上スモ殿様一向ニ知ラズ真シナ事アリシヤ代官ハ誰ニテアリシヤ等恰餘所事ノ如キ様ニテ領民カ今迄無慈悲ナル殿様カナト怨情ヲ抱キタルヿノ全ク壅蔽コレヲシテ然ラシメタルヿ今更ノ如ク茫然タル往々ナリシ且又旗下士ニシテ初メテ知行所ヘ來リ宿所ナキヲ以テ代官ノ家ニ投シ其ノ身分不相應ナル生活程度ニ驚キ從前代官ニ翻弄セラレシヲ悔イタリ

元和二年六月廿八日布達

京都府立総合資料館所蔵

御軍役ノ定

一五百石　鐵砲一挺　鑓三本　持鑓共
一千石　同　二挺　弓一張　鑓五本　持鑓共　馬上一騎
一二千石　同　三挺　同二張　同十本　同　同　三騎
一三千石　同　五挺　同三張　同十五本　同　同　四騎　旗一本
一四千石　同　六挺　同四張　同二十本　同　六騎　同一本
一五千石　同　十挺　同五張　同二十五本　同　七騎　同二本
一一萬石　同　廿挺　同十張　同五十本　同　同　十四騎　同三本

以上

右ノ軍役ト云フハ戰時出陣ヲ云フ平時ニ於テハ大名退轉ノ時其ノ城受取出役ニ用ユル勤役ナリ亀山卿ヲ亀岡藩ノ部ヲ參看スベシ大阪城番大交代モ畧〻同ジ篠山藩ノ部ヲ看ヨ

軍役出張ノ外弓銃ノ類ハ東海道ニテハ荒井ノ番所箱根ノ番所ニテ其ノ通行ヲ禁止シ木曾街道ニ於テハ福嶋ノ番所ニテ之レヲ禁止セシメタルヲ嘉永年間外國事件屢々起コルヲ以テ幕府ハ同六年其ノ禁ヲ廢ス茲ニ於テ再度大名中コレヲ其ノ行列中ニ加ヘ往來スルモノ出デ來レリ其ノ令示ニ曰ハク

一萬石以上ノ面々當地ヘノ憚ニテ是迄ハ鐵砲不持越向ニ有ラ哉ニ付ヘ共當時ハ防合ニテハ近海ニ限固メヲ有ラ可ニ付ヘハ其地ニ鐵砲取參ル若不若云ヒ　嘉永六年八月十日達

京都府立総合資料館所蔵

談伴衆　元和二年十二月廿一日設定

談伴衆トハ將軍ノ顧問トモナリ時トシテハ師範トモナリ話相手トモナルモノニテ其ノ初ハ豊臣家ノ幽衆ト呼バレ世間ノ尊崇スル所タリ豊臣氏ノ幽衆タリシ者ニハ特ニ安西町ニ宅地ヲ下賜セラレタルニ由リ自部ニ在ルモノニモ其ノ稱號ヲ附シ何日ト無ク左呼バレシナリ其ノ人々ニハ丹羽立花細川三好等三十六人アリ尤者ハ直日ヲ定メズ其ノ他ハ毎夜登城シ將軍ニ侍スル中ニハ儒者林信澄アリ醫師二名アリ就レモ戰功アリ閲歴アルモノ渡邊圖書助宗綱永井監物白元牧野清矢衛正成ノ三人ナリ平常ハ四五年又ハ十年之ヲ行フ

寛永十年ニハ五畿南海。關東。九州。中國。奥羽松前。北國ノ六部ニ分チ中國即チ山陰山陽ハ市橋壹岐守長政使番杉植三四郎正時小姓組村越七郎左衛門正宣等巡廻ス

寛永十二年國郡奉行ヲ置キ十一月廿七日小出大隅守三尹市橋下総守長政コレヲ勤ム三河以西ハ市橋コレヲ掌リ上方奉行ト云ヒ以東ハ小出コレヲ掌リ関東奉行ト云フ船井郡園部ノ部ニモ出ダス

桑山左衛門佐一直ヲシテ巡廻セシメ寛文七年閏二月ニハ使番甲斐莊喜右衛門書院番神保四郎右衛門小姓組鳥居權之丞ニ命ゼラレ正德元年八月

京都府立総合資料館所蔵

十五日諸大名弐日ノ登城ヲ以テ老中列座大目付ヲ以テ左之通リ達ス曰ハク諸國巡見使言上之趣ニ付キテ國郡ノ治否悉ク御聽ニ達候所ニ御料私領ノ間其ノ善政特ニ相著レ聞ヲ立ル所無ク大抵風俗衰ヘ煩ハ敷ク一困窮ニ及ブ由被聞召御憂慮不淺所ナリ云々正德二年ニハ勘定方二十人徒士十人ヲ以テ天下巡見使トス寛永六年ニハ使番一名両番二名ナリ斯ノ如ク諸吏ヲ人撰シテ一行ヲ組織スルヲ以テ一定ナラズ國部庶ノ如キ大名ヲ以テ一行ニ加ヘタルアスラ有リ

巡見使ノ掟トシテハ大抵左ノ如キ個條ヲ申シ渡サル曰ハク

一今度國廻之刻以　御威光何事ニヨラズ奢仕間敷候勿論召連候下々迄堅可申付事

一召連下々喧嘩口論仕ニ於テハ双方可誅罰之令荷擔者共ハ本人可爲同罪事

附所之者ト曲事仕ニ於テハ其ノ領主并ニ代官等相談之上理非をうち有様ニ可申付事

一駄賃宿賃御定之如く条度可相渡ミ代物不出ミ人馬不可使事

一竹木一切不可切取事

附不可押買猥藉事

一國々所々ニ於而何ニゝらず馳走を一切請べ
うざる事

右可相守此旨ゝの也

一近年御代官諸事手代等ニ打任セ不吟味ゝ面々
ゝ有ゝ撿見ゝ次第川除其外地方普請公事沙汰
を始め猥なる事百姓ゝ訴訟を押えて進達せし
めざる事等を乱さしむ

巡見使ノ上申ニ由リ効カノ驗著ナルモノヲ擧ゲ
レバ嶋原藩ノ領民ガ領主ノ虐政ヲ條陳訴出シタ
ルヲ以テ巡見使ノ復命後間モ無ク藩主高力左近
太夫隆長ハ高三萬七千石ヲ没収セラレ隆長及ビ
其ノ家族ヲ大名預ケト爲セシガ如キアリ

德川行政支配圖

寛永十二年松平信綱以下五名ヲシテ連署加判セシムヲ中ト云フ遂ニ上下ノ通稱トナル

- 老中
  - 大名ヲ支配ス
- 所司代
  - 京都ニ在リテ關西大名ヲ監督ス
- 大目付
  - 大名旗本登城中監督ス
- 目付
- 若年寄
  - 旗本ノ事ヲ支配ス

開府以來大名ノ就職々名　老中所司代若年寄寺社奉行大阪城代等ハ其ノ重キモノ

京都府立総合資料館所蔵

風俗
舊家門閥自尊
舊家再興
株内
士分ヲ希望ス
大工ノ子ハ大工

巡見使ニシテ効カアラン乎福知山ノ強訴ハ起コ
ラザラン（福知山藩記事参照）馬路村領主ト両苗トノ君民葛
藤モ始マラザリシナラン（南桑田郡馬路村ノ部ヲ参看）安政元
年巡見使五ヶ年延期ノ旨老中ノ達アリ國事多端
ニ由ル巡見使ニ付キテノ地方ノ迷惑弊害等ハ園
部藩ノ記事ニ看ヨ

入國記ニ曰ハク丹波ノ風俗ハ人ノ氣惰弱面々格
ニシテ十人ハ十様ニテ我身ヲ自満シ人ヲ誹リ人
ノ譽アルヲ譽ムベシトハセズ而人ノ夫ヨリ譽レ
多キニタクラベラ是ヲ誹ルノ類ニテ悉皆女人ノ
風俗ニ不異下劣モ從テ己ガ日夜勤ル所ノ耕作ノ
道ハ第二而商賣ヲ本トスル事偏ニ身ノ榮華ヲセ

京都府立総合資料館所蔵

シテヲ常ニタクミ都而勇寡而諂強ク昨日味方ニ有リシ人モ今日ハ敵トナリ亦前ニナリ替リ渡世スル類ノ風俗最哀レナル形儀不及是非事トモ也雖然自然ニ能キ人出生セバ氣ノ柔ナル意地ヨリ成立風儀ナレバ雙ブ方ナキホドノ人モ出來ベシ天下乱レテ是國ヲオサメバ五月ノ内ニ可從ナリ」

儉約令出デ大名献上品代金納トナリ手數ト失費ヲ省略ス　嘉永六年九月朔日丹波大名分限左ノ如シ

慶長二年江戸城石壁役ヲ受クルノ大名江戸ニ集マリ其ノ臣ヨリシテ伊豆ノ國ヨリ大石ヲ運送ス船九ツ三十雙宜一雙ニ百人持ノ石二個ヲ入ル一月兩度之ヲ漕送ス石價一個銀三十枚栗石ハ方一歩ニ金三兩トス丹波大名ニシテ此ノ役ニ與リシモノアルベキモ未詳ナラズ

五萬石以上　樽一荷代金五百疋　五萬石以下三百疋　者一種五萬石以上百疋

延享三年江戸ヨリ勘定徒目付等來リテ公料地ヲ檢定ス

寶暦五年四月廿六日　銀札發行許可ノ令大名旗本ニ下ル　金札ハ許サレズ

上納金出願ノ事アリ所ハ幕府ニ於テ大事件アル時ニ諸大名ヨリスル援助ナリ弘化元年ニ江戸本丸燒失ノ時ノ如シ其ノ五月十五日ノ令ニ曰ハク御本丸御普請ニ付萬石以上ノ面々願ニ付上納金被仰付候納方ハ當辰年ヨリ來ル巳年十二月迄都合次第上納候樣可被致候尤三度ニ割合上納候儀

京都府立総合資料館所蔵

ハ可爲勝手次第候

同十八日江戸瀬戸物町商人伊兵衛眞加ノ爲トテ金千兩獻納ス是レヨリ町人ノ獻金多シ旗本ニ於テモ五百俵以上ノ分　百俵ニ付金一兩三分ノ割合ヲ以テ上納セシメラル　同二年十一月三日令ス西丸炎上ニ付一萬石五百兩ノ割ヲ以テ上納金セシム

安政六年己未十二月朔日本丸造營上納金ヲ命ゼラル

寛永七年藤堂高虎妻ヲ江戸邸ニ從シ又其ノ壻生駒正俊ヲシテ其ノ妻子ヲ江戸ニ置カシム　十三年證人ヲ送リ質トス三年交代ス　丹波大名翌年ヨリ屬々コレニ習フ　元和元年公家法度十七條ヲ頒ツ其ノ第七條ニ　一武家ノ官位者可爲公家當官之外事トアリテ官位ヲ幕府ノ隨意ニ稱呼スルヿトナレリ

元和十二年　萬石以上侍五人或ハ四人草履取一人挾箱持一人六尺四人傘持一人下馬ヨリ下乘マデ　下乘ヨリ内ハ侍二人草履取一人

寛永十二年六月晦日發令諸法度箇條中諸大名交替ノ事定メアリ加賀中納言始ニ十六人ヲシテ國ニ就カシム是レ大名四月交替ノ始ナリ從前參覲交代ノ制確定セザリシヲ是ヨリ至リテ規定セラル

京都府立総合資料館所蔵

城普請ニ付キテハ些細ナル修繕工事タリトモ出願又ハ伺ノ上許可無キ時ハ着手ス可ラザル掟ナリ但無城大名ノ爲メ所ハ隨意ナリ（船井郡園部藩ノ部及ビ氷上郡柏原等ノ部參看ノ事）

貝原益軒西北紀行

たい乃坂是山城丹波乃境也本名ハ大江山也大江乃坂を誤てたいの坂と云成べし大江山生野の道の遠けれバやゝ小式部ゲよみしハ此處乃事也生野も天の橋立ふゆく道ふあり又丹後ふも大江山あり昔酒顛童子ゲ住たる所也と以ふそれハ天乃橋立ふゆく道ニあらざれバ小式部ゲ歌ニよめる大江山ふあらず大江乃坂の少西ふ地藏堂ふ見其側ふ龍山城主の休所あり地藏堂の少北ふ山城丹波の境あり嶺より京都及山城諸山能見えて佳景也地藏堂の西南ふ一村の松林あり是酒顛童子ゲ首塚なりと俗ニ云へり王子村（たいの坂五町ばかりより之ゲ）りの宮とて小社あり鳥居あり（此邊桑田郡ナリ）八幡宮ふ足利尊氏都没落の時此社ニ詣で願書をこめ供ニありし軍士共矢を納し所を矢塚と稱して社の西ニ小

塚あり愛宕山を東に見保津村を北に遠く見やる
保津は嵯峨川の上の北にあり保津山名所也丹波
の奥くり材木薪木を取て船筏にして保津に出し保
津にて筏を組直し材木薪をはなくつゝ山間の狹
き所乃川を下りて嵯峨に出る其間瀧の如くなる
急流多く又岩間のまがれる所多くしてあやうし
とゝれども筏士共能乘ならひたれば乘あやまる
事無しといへり保津より嵯峨へ二里あり亀山は
久世出雲守殿五萬石乃居城なり誤文ナルベシ町長し旅人の
宿驛也茶店あり民家いやし亀山より北東乃山の
根ふ出雲と云里あり亀山より一里あり此所に出雲の大社を
勸請すと云此所の事字治拾遺徒然草などふも見

たり宇津根村並河村大井村（此邊仙洞御領）に正一位大井明
神の社あり延喜式神明帳に栗田郡大井神社と有
小林村小川村高辛塔婆川関八木村此ノ西北ノ山
ふ内藤法雲が城址有鳥羽（園部領也）馬驛也今夜ハ鳥羽
に宿す京よりさゝまで八里九此間ハ京に近くし
て大江の坂乃山一へだゝりなり以れど民俗人家
をべて畿内ふ大ふかゝりていふせくいやしせ大
日雨ふる卯の刻ふ鳥羽を出鳥羽より関へ二里半
大谷へ五里九丹波より嵯峨へ出る材木おほくハ
大谷より谷川につけて出し関ふて筏うくんで保
津（大谷より七里半）まて下して嵯峨に至る保津より川上ハ
瀬ひろし保津より川下ハ山間を流れ行故うへり

て狹し又大栗ハ船井郡高崎（鳥羽より一里半）邊より出是を
てゝうちくりとゝ云室河原小山（園部鳥羽より一里）ぱ小出
伊勢守殿在所なり宅あり町長く民家よゝらず京
より九里是より西ふ篠山道あり但馬へ行く通な
り三戸野嶺（園部より一里）上下一里あり坂ハ嶮からず坂
乃上ふ民家あり其所をハ嶺とハ云山椒太夫が関
をすゑし所也（此邊船井郡須知村園部より二里ナリ）あり民家多し曾根村印内
村此西ふ紅新田とて民家少しくあり其邊に廣野
あり紅野（或ハ蒲生野）と云方一里ありと云紅村ハ名所也
山内村あり是土佐大守山内氏ゞ祖先の住めりし
所なりと云此邊茶種多し澤瀉を田ふ植て利とす
中尾村檜木山村尾細水原大久保村爰に遠見岩強

京都府立総合資料館所蔵

盜岩なりと云大石なり中世此邊盜賊多くりし故
此名ありと云此邊朝倉山椒多し又子乃小なるを
ば里人びんせうと云びんせうハ何國ゟも有よの
つね乃山椒也朝倉乃木ニハ刺少くびんせうの木
ゟハ刺多し是しりはうその嶺大なる坂にして嶮しを越莵原村
を過千束ニ至る日既ゟ薄暮なれバ爰ニ宿り奴鳥
京ゟ十六里より千束迄八里 廿七日乃朝つとめて宿を出ル今日も
亦雨降る生野村名なり所民家頗多し大江山いく野乃
道のと詠めるハ此所乃事也岩崎長田旅所より福知山
ゟ着く山上ニ城なり城下町廣からず朽木伊豫守
殿居城也大川其東北ゟ流る川舟多し是より舟ニ
のりて丹後の由良ニ下ると云此川ハ三戸野嶺よ
り西北の水南丹波より流来る水なり三戸野嶺よ
り東乃方ハ亀山川ニ出で嵯峨ニ流れ出つ鬼ヶ城
ハ福知山の北ニ在り高山なり福知山より鬼ヶ城
の禁まで一里あり荒河村是より西乃方ニ但馬路
乾の方ゟ丹後路乃岐ありうるしがた天づあり
天津より鬼ヶ城の山上まで半里もより山上西北
ゟ岩窟あり其内暗し十間餘ハ人乃出入容易しそ
れより奥ハ上をり土石落やすくらし故ニくハし
く見たる人なしと云天津より十町許ゆきて境川
と云所ニ民家少あり是丹波丹後乃境なり谷川を
限とす細流なり石表を立て境川とり宮津まで六
里三十町三十間と書り

名所

稲村山　盤坂山　保津山　千瀧山　千年山　神奈備山　桂山　うな井山　村雲山　高倉山　大江山　四ら山　櫻山　笛吹山　藤浪山　ゆふの山　水尾山　青葉山　朝倉山　皮山　いるさ山　坂田山　むらり谷　くら岡　生野　増井　生り、里　長田り里　柔原り里　けふりの里　日置り里　岩根り村　ながうの村　歌なでの村　紅井の村　くと田の村　さら井の里　ちぐ尾の宮

京都府立総合資料館所蔵

雅俗四時遊興案内

千金ヲ抛チ豪遊ヲ買フハ都府ニ其ノ所アリ丹波ノ地ハ其ノ適スル所ニ非ス其ノ地ニ在ルモノハ其ノ地ノアル所ニ從フテ娛ム亦可ナリ

都會ノ豪遊ニ飽キタランモノヽ駕ヲ枉ケ塵壞ヲ一洗スルモ亦可ナリ案内狀ヲ左ニ揭ク隨所隨意讀ム人ノマニ〳〵

花時保津峽ヲ舟遊シ下リテ嵯峨ニ向フ　同時天引峠ノ新道ヲ東ヨリ登ル

多紀郡大川代瀧ノ藤花ヲ看ル　保津峽ノ躑躅花ヲ舟中ヨリ眺ム

篠山川ノ螢火ノ人家ニ入ルヲ采ル　四十八瀧ヲ探究ス

愛宕山麓ニ鹿鳴ヲ聞ク　和知谷大山等ノ栗子ヲ拾フ

後川ノ温泉ニ身心ヲ醫ス　長老山ノ秋晴ニ北海ヲ望ム

半國山頂ニ半國ヲ俯瞰ス　千ケ畑ノ古刹ニ杜鵑ヲ聞ク

諸郡到ル處秋遊シテ探蕈スヘシ　穴太ノ應擧寺ニ畫幅ヲ賞ス

和知川ノ上流ニ香魚ヲ釣ル　大江山ノ雪ヲ望ム

北桑田郡ニ暑日ヲ送ル　古戰場ニ古ヲ偲フ

與郡及ヒ北方諸村ノ古風ヲ認ム　盆期ノ踏歌ヲ看ル

雪中ノ獸獵　春山ノ捕雉

古文書中ヨリ得タル一束

奉獻雉二翼

右只今或人ノ所持来也山梁之味何以如之也如此之物出来之時雖有進覽之志臂鷹之輩多以貢之無乏少之物可類遼東之豕但可賜貴諭也謹言

京都府立総合資料館所蔵

送理禪人歸丹波　仙叟繹古梁

聲羽峰前嵩容
題仙臺歲月風
雲松春風一夜吹
歸夢已落丹山
第幾峰

二月晦日

副解由次官殿

丹波道中

江村愚亭

野水東流夕日西烟山嵐嶂碧高低王孫草色連天遠
帝女桑條與屋齊柳絮池塘穿浪鴨菜花蘿落浴沙雞
恰逢村店酴醾熟兩袖春風路欲迷

入丹途中作七首　錄二

岩垣月洲先生

旅征却是屬閑行鞋杖不須貪路程携客獵人時作伴
奇花怪鳥試猜名亂峯御日吞還吐曲逕入雲陰又晴
攀盡攻頭初放眼幾層嵐靄幾層城
春陰釀雨暮天愁行客舟々如避仇山屐憂形呈畫本
泉長送響作吟儔菜花韮嶺僧歸寺梨雪滿溪牛飲流

今昔物語一節

行近亀城城不見冷雲老樹鎖丹州

丹波ゐを馬てはく日や遅さくら　井上猛夫

今昔物語ノ一節　今ハ昔丹波ノ国□ノ郡ニ住む
もの有リ田舎人なれども心ふか情あるものなり
其れが妻を二人持つて家を並べて住ミける本ノ
妻ハ其国の人にてなん有りける其れをバ静ニ思
ひ今ノ妻ハ京より近へたるものにてなんありける
それをバ思ひ恨たる様なりけれバ女の妻ハ疎
しとおもひてぞ過ける而るに秋北方にて山々よ
て有けれバ後の山の方に糸哀れなる琴まて庶の
吹けれバ男今の妻の家に居たりける時よて妻に
はハ何ノ少さたなふりとゐひけれバ今ノ妻煎物

みても甘し炙物にても羨き奴そうしと云ひ侍れ
バ男仏ふ遠ひて京の者なれバ此乃様のすきい興
ずらんとこゝを思ひけるこゝろしと思て只
女乃書乃家にゆきて男此乃咏きたる歌の言い閑
係ひつやと云ひけれハ女の書うくなん云ひる
られもしろ咏きてそ君よ恋ひられし今こそ君をとゝまるのゝすく
(新古今)と男これを咏て極じく哀れと思て今乃書の言ひ
つるを思被合ハて今乃書の志矢こゝれバ京と送て
けり然而女の書とおん極ける思ふ四条人なれど
も男も女乃心思知てはなん有ける赤心もんぞへ
う咏りけれハ是なん和歌を読ける となん読り
侍へたるとゝや

常陸房海尊ハ丹波ノ人其父次知五郎源義朝ニ事
フ海尊幼ニシテ僧トナリ心了ト呼フ人ト為リ魁
偉岸緑力量人ニ過ク牛若嘗テ備前守兼房ノ家ニ
在リ海尊數〻兵ヲ擧ゲ父ノ讎ヲ復シ源家ヲ興
コサンヿヲ勸ム平氏ノ偵者コレヲ聞キ六波羅ニ
告ク捕卒来リ牛若ヲ鞫ス海尊禍難ノ及フヲ知リ
身ヲ逸リ奔リ出ヲ踪迹ヲ匿ス後四國ニ漂泊シ復
ク京ニ入リ牛若ヲ鞍馬山本光坊ニ訪ヒ其ノ出家
ヲ諫メ条ニ義兵ヲ擧ケシヿヲ勸ム然レドモ平氏
ノ捜索嚴密ニシテ身ヲ容ルヽノ地無シ乃チ又逃
レテ常陸ニ至リ舟夫トナリテ時ノ至ルヲ待テリ
牛若ガ奥州ニ下ルト聞キ大ニ喜ヒ其ノ音信ヲ待

京都府立総合資料館所蔵

ツ人アリ牛若ガ義經ト改名シ頼朝ノ名代トナリ軍ヲ帥ヒテ上京スルヲ窺ヒ途ニ於テ再會シ更ニ主從ノ契ヲ結ヒ從フテ平氏ヲ四國ニ斬伐ス時ニ颶風俄ニ起コル義經コレニ乘シテ敵軍ヲ擒カン ト欲ス蓋シ海尊ガ天候ニ精シク之ヲ豫期シテ舟船ヲ供給セシメタルニ由リ事易々タリシナリ能登守敦經舟ヲ矢嶋ノ磯ニ進メ三十騎計リト陸ニ上リ戰ヲ挑ム東國ノ兵水戰ニ慣レズシテ躊躇ス海尊辨慶二人馳セ向ヒ奮鬪突擊シ敵兵ヲ逐ヒ走ラセ武功ヲ顯ハセリ義經ノ蝦夷ヘ渡ラントスル時海尊復タ豫メ船ヲ艤シ鹿島浦ニ待チ義經ヲ乘セテ發シ共ニ渡リ其ノ終ル所ヲ知ラズ

陶器ノ事ニ付キ鄙見ノ一二ヲ左ニ演ヘン熟〳〵古史ヲ案スルニ其ノ因リテ來ルヿ久シ神代ノヿハ知ラス人皇ノ世ニ於テ早クヨリ之アリタルハ土師アリタルニテモ知ラル雄畧天皇ノ十七年ニ土師ノ連等ヲシテ御器ヲ作テシメ玉フ御器ハ陶器ナリ是ニ於テ吾筍ト呼ベル土師ガ摂津伊勢但馬因幡及ヒ丹波ノ私ノ工人ヲ獻ジ供御ノ器ヲ作ラシムト史傳ニ明記セラレタルヲ見テ此ノ國ニ私人トシテ斯業ニ從事シタルモノアルヲ知ル當時ノ蹟ハ邈タリ降リテ中世ニ至リ名工アリテ其ノ手ニ成レルモノ謂ヘ所ル古丹波ト呼ハルヽ名品コレアリ而シテ産地ハ判然タラズ存スルモノヽ

京都府立総合資料館所蔵

中ニ就キ壺類ヲ多シトス茶碗ニ至ツテハ希有ナリ漢土韓泥ニテ造レルモノニヤ質硬クシテ雅致アル石器ナリ世ノ奇賞スル所トナリ一器十金猶且ツ求メ易カラズ鑒賞家ノ説ニ縁レハ永禄年間製出ノモノト云フ古丹波ト云ヘド其ノ實ハ中古丹波ナリ本願寺ノ大谷家什寶ノ内ニ茶入アリ底書茶博宗旦ノ判アリ認得齋ノ折紙附六閑齋ノ箱書等アリ考古家好事客ヲシテ垂涎数寸ナラシム其ノ窯法ハ渋藥ノ内ニ安南渋藥ヲ雜ゼタリ又黄交リ下藥渋ニ上黄藥ノ懸カリタル安南物ヲ古丹波ト見違ヘ来ルアリ又呂宋モノヽ澁味強キモノ又剥毛目類ノ丹波ニ似タルモノヲ以テ古丹波ト

唱フルアリ元来丹波焼ハ糸切上作ナルヿ他国産ノ企及スル所ナラズ底ニ青キ水藥ヲ吹キ出シタルハ呂宋モノヲ見誤リテ丹波モノトセシナリ丹波物ハ熟レモ水藥ハ懸ケラレタリ萩焼ヲ誤リ朝鮮ヲ謬マリ出雲ヲモ誤謬中ニ入ルヽハ免レ難キ渦中タリ　土質ノ細緻ニシテ堅実而モ其ノ焼ケ縮ミ焼ケ脹レナド相交ハリザンクリトシタル所ニ砂味存ス天正年間ノモノ又永禄ヲ篤セントス足利氏ノ衰フルヤ諸職工ノ離散流亡スル頻々トシテ其ノ迹タニ認メ得ス丹波窯ノ微ク其ノ間ヲ繕縫スルアリテ陶器ノ余脈ヲ維キタリ工人土着ノ效見ルベシ　寛永年間ニ焼キ初メタル丹波焼

京都府立総合資料館所蔵

仁清作藤書茶壺

アリ古瀬戸又ハ膳所ニ似テ其ノ優勝品ニ至リテハ外面ニ絲條數十線アリ中下等品ハ其ノ質往々南蠻製ノ如ク朝鮮作ニ似テ或ハ燒膨レアリテ奇相ヲ呈シ茶士ヲ欣ハシム陶層赤褐色ニシテ釉ニ光澤無シ水壺酒盞平盆等ニ多シ下等品ハ骨董店塵埃中ニモ見得ベシ本山亀妙山（三永）ノ款識アルモノハ近来ノ物タリ（仁清）（人仁清）ノ款識アルモノ、内巧妙ノモノアリ大谷家ニ仁清笹耳平水指鶴首腰耳水指等アリ丹燒ノ代表タリ野々村仁清俗稱清兵衛土佐ニ至リ韓人佛阿彌ニ就キ陶法ヲ學ヒ元和元年京都ニ来リ陶工宗伯ノ門ニ入リテ研究シ京都近郊處々ニ窯ヲ開キ製造セリ技術精巧

京都府立総合資料館所蔵

後世ニ産シゼザル又画ヲ善クス仁和寺宮ニ事ヘ
仁和寺村ニ住スルヲ以テ仁清ト稱ス万治年間没
ス父子其ノ名ヲ同フシ技モ亦等ヲ同フスルヲ以
テ製品ヲ判別シ難シト云フ元和間ノ人
丹波人ニシテ出所ノ詳ナラザル人及ヒ丹波ニ居
住シテ其ノ地ノ判然セザル人
大村福吉　承和元年姓ヲ宿禰ト賜フ武内ノ子孫
ナルヲ以テナリ二年右兵衛トナル其ノ治瘡術ニ
妙ナルヲ以テ仁明天皇勅シテ宅地ヲ賜フ後年詔
ヲ奉シ治瘡記ヲ撰ス
韓鍛冶首淡麻呂　刀劍ニ工ナリ
弓削部名麻呂　同

京都府立総合資料館所蔵

来國俊　國光　國真（藤八郎トモ云フ布次ト云フ所ニ居シリト）　國實（國真ノ子是トモ布次ニ居シリト）

幸次　幸真　幸貞　光助　光包　童利　有正

有元　菅恒　國紀　有元　正次　月山　童宗

童利同名十人（大和伯耆備前備後及ビ丹波ニ在リ）　月山同名五人（出羽豊前河内薩摩及ビ丹波ニ在リ）

有正ハ建武前ノ人幸次ハ康永頃ノ人ニシテ栗田口正光ノ第子正次ノ子トモ云フ　幸貞ハ文和頃ノ人永末ノ子ニシテ幸次ノ第子　一説有正ノ子應永年間ノ人　光助ハ應永ノ頃　光包ハ永德頃ノ人童利ハ遠壽トモ銘セリ　有元ハ長久頃ノ人幸貞ノ子　國紀ハ栗田口吉光ノ第子幸真ハ永德頃ノ人　菅恒ハ萬壽頃ノ人

ニシテ山城ニ住シタルヿモアリ寅年寅日寅時三月三日打ノ銘アリ三寅ノ名アル所以ナリ頼朝カ伊豆ノ田中ニテ權現ヨリ授カレリトノ傳說アル源家ノ童寶ハ此ノ三寅ノ手ニ鍛ハリタルモノトテフ　月山ハ奥州ヨリ來ル天福中ノ人　國俊國光ハ多紀郡畑村ノ部ニ出ダス

龍舍亭正林圖書武顯ハ南都一乘院ノ医トナリ京都ニ住シ六十八歳江戸ニ歿ス

内田海山名ハ嵩字ハ子元書ヲ善クス　海山（印）

小原慶山初号溪山京ニ出デ山城國小原ニ住シ遂ニ氏トスル小少丹青ノ術ニ從事シ狩野益信ヲ師トシ中年長崎ニ赴キテ漢畫ノ法ヲ私淑シ長崎奉行

京都府立総合資料館所蔵

ノ命ヲ受ケ御用畫師系畫目利役トナル

秋嶽字ハ林周幼ヨリ畫ヲ學ビ壯年ニ至リ周文ノ風ヲ慕ヒ之ヲ摸ス故アリテ中年畫事ヲ止ム

那須與市宗高ハ下野ノ人太郎資高ノ子ナリ壇ノ浦ノ役ニ扇的ヲ射テ源氏方ノ高名ヲ顯ハシタルル勸賞ニテ丹波信濃若狹備中武藏等ノ國々ニ邑ヲ賜ヘリ（亀岡ニ與市ヲ祭ル寺アリ）内藤虎彈守如安後ニ德菴ト改ム父ヲ源左衛門トシテ封地二十萬石ノ侯ニシテ丹波ノ人尾張ニ赴キ如安ハ織田氏ニ事ヘ十六歲ノ初陣ニ功アリ父歿シテ封ヲ襲グ（傳記ニ由ル）久シカラズシテ致仕シ小西行長ニ倚リ文祿ノ役ニ朝鮮ハ渡リ行長ノ爲ニ明國講和ノ使節トナリ往返措辨ス

行長ヲ辭シテ後ニハ加藤清正ニ事ヘ五千石ヲ給セラル慶長元年又去リ前田利長ニ事ヘ四千石ヲ給セラル父ノ實名ハ忠俊ナルガ父子如安ヲ別名トスユキヤスト訓メドモ洋語ノジヨンニテ神援ノ號ナリ父子基督教ノ信者ニシテ往ク所識合ハズ洋教ノ禁令出ツルニ及ヒ其ノ悛ムル能ハザルヲ以テ逐ハレ呂宋ニ遁ガル嶋居二年ニシテ歿スル子アリ休甫ト曰フ

丹波ノ七頭　高屋筑後　中川駿河　荻野河内　安富和泉　開田五郎兵衛　松田丹後　波々伯部九郎兵衛（南桑田郡馬路村ノ部ニ中川駿河屋數ノ一出ヅ）

右ノ人々ハ謂ハ所ル丹波衆ノ筆頭ニテ口舌ニ上

京都府立総合資料館所蔵

リ書籍ニモ見ヘ當國ニ於ケル由緒正シキ武士ト
ス衆トハ尊稱ニテ室町家ニテ稙々ニ用ヒラレタ
リ　承久ノ役ニ當國ノ士人ハ大半官軍ノ檄ニ應
シ敗後領地没收セラレ其ノ關所ヲ承ケテ來レル
士人當國本貫ノ武士トナリ加フルニ足利氏ヨリ
一所懸命ノ領ヲ得テ來住シタル團結アリ又應仁
ノ亂ニ中國武士等ノ來住スルモ加ハリ戰時ニハ
相助ケ相與シテ攻守ヲ共ニシタルヨリ此ノ名起
コル明智光秀ノ拔擢シタル七頭モ右ニ示セル家
系ニ羅カル
高屋ハ光秀亡後關東ニ赴キ結城秀康ニ倚リ四千
石ヲ給セラル内千七百石ハ與力料ト聞コエシ

中川ハ光秀ノ給米二千石ナリシカ光秀亡後其ノ
所在ヲ知ラズ　荻野ハ二千石ノ給米ナリ所在不
明中川ニ同シ　波々伯部ハ七百石ヲ給セラレタ
リ所在同上　松田モ光秀ノ給與ヲ受ケ天王山ノ
役ニ堀尾茂助吉晴ノ奇襲ニ遇ヒ戰死ス　開田モ
亦其ノ役ニ於テ木下秀吉軍ニ敗ラレ山下ニ討死
セリ
西尾光教ハ叔井信光ノ子ナリ祖父西尾兵庫頭光
秀ニ養ハレ丹波ヨリ美濃ニ移ル光秀ノ本國ハ參
河ニシテ姓ハ源氏本國ヲ出デ美濃ニ移住シ曾根
城ニ居住ス子無キヲ以テ光教養子トナル外孫ナ
リ信光出雲守ト稱ス光教初名小六郎揖斐ニ移住

京都府立総合資料館所蔵

シ野口ノ邑三千貫ヲ食ミ氏家友國ノ被官トナリ
齋藤氏ニ屬ス後友國ト共ニ織田氏ニ屬シ功ヲ累
ネ二萬石ニ封ゼラレ名ヲ與右衛門ト改ム信長ノ
殺セラルヽヤ秀吉ニ仕ヘ豊後守ト稱ス豊臣氏滅
ビテ德川氏ニ事ヘ慶長庚子德川氏ニ從ヒ上杉景
勝ヲ征ス其ノ迄御家ト姻アルヲ以テ妻孥ヲ托シ
東行ス蓋シ三成等ノ陰謀ヲ知レバナリ奉行等光
敎ヲ招ク從ハズ之ヲ圍ミ其ノ質ヲ取ラントシテ
邸内ニ入ナシ光敎大谷吉隆ニ垂井ニ逢フ吉隆コ
レヲ拘シ其ノ謀ヲ告ク且ツ佐和山ニ適カシム光
敎伴リ應シ宵闇ニ乘シ遁レ出テ潛行シテ小山ニ
至リ具ニ敵情ヲ陳ス家康喜ビ言フ簡報其ノ畧ヲ

聞ク今ソノ詳ヲ得タリト金レテ先鋒ニ隸シテ西
上セシム吉隆其ノ已ヲ敗クヲ怒リ兵ヲ發シ光敎
ノ邑ヲ奪ヒ取ル又蜂ヲ大阪ニ求ム得ス遂ニ其ノ
邸ヲ焚ク光敎進ンテ美濃ニ入リ遠藤廣隆金森可
重ト郡上ノ城ヲ攻ム家康美濃ニ入ルニ及ビ金ヲ
承ケ水野勝成松平康長津輕爲信ト大垣城ヲ攻ム
九月十五日黎明安八郡須賀邑ノ人久瀬助兵衛潛
ニ光敎ニ語ゲテ曰ハク三成等昨夕他ニ出ヅ孤城
兵少シ請フ之ヲ攻メント光敎悅ビ勝成ト謀リ冒
根ヲ發シ急ニ大垣ヲ攻ム諸將先ヲ爭フ光敎前門
ニ乘リ傳馬町口ヲ破ル士卒死傷スル多シ敵ノ備
禦固シ勝成謀リテ敵ヲ誘フ秋月種長等降ヲ乞ヒ

京都府立総合資料館所蔵

熊毛直陳ヲ斬殺シテ牙城ニ薄ル遂ニ之ヲ拔ク十一月美濃ノ田壹萬石ヲ加賜ス大阪冬夏ノ役ニ從ヒ首ヲ獲ル七級元和二年十一月卒ス年七十三子敬次信濃守ト稱ス慶長三年父ニ先ダチ卒ス初光敬外孫某ヲ養フ次ヲ氏敬ト云フ主水ト稱ス東府ニ質タリ光敬卒スルニ及ビ食邑五千石ヲ領チ幕府ニ事ヘシム嘉敬ヲ以テ嗣トス大野安八本巢加茂四郡ノ内二萬五千石ニ食ム叙爵シ出雲守ト稱ス元和九年四月卒ス嗣無ク家絶ユ

丹波古来雲水ヲ出ダスヿ他國ニ讓ラズ其ノ郡村ノ知リ得ラレタルハ各其ノ郡村ノ部ニ出ダス左ニ記載スル所ノ七僧ハ何郡何村ナルヤ將又何年頃ノ生ナルヤ詳ナラザルモノ有リ古書トロ碑ヲ便リニ之ヲ拔載ス且其ノ住寺モ何郡何村ナルヤ詳記スルヲ得ス遺憾トス

仙命ハ幼ニシテ台山ノ無動寺入リ止觀ヲ學ブ兼テ淨業シ聖像ニ對レ指頭ヲ燃シ青龍ノ形ヲ顯ハスニ感シ又足指ヲ燃セバ空中ニ讃嘆ノ聲アルヲ感ス嘉保年中豫メ死期ヲ衆ニ告ゲ西向シテ寂ス年八十三

竹馬光篤ハ圓通寺（丹波ニ住ス）ノ住職ニテ奥州白石ノ人佐竹義澄ノ子幼ニシテ學ニ敏ニ十五歲ニテ父ヲ喪ヒ俗ヲ厭ヒ十七京ニ入リ一休ニ參ス一休コレヲ愛シ得度ス丹波ノ虛堂ニ參シ首山竹篦ノ語ニ契悟ス長

京都府立総合資料館所蔵

祿己卯虛堂ニ嗣ギ住持ス文明三年青原寺ニ於テ遷化五十三歲法臘三十七

青雲ハ醫道ニ精通スルヲ以テ幾百人ノ難病ヲ治療シ門前常ニ患者ノ溢ルヽヲ見ル得ル所ノ財物積ンテ百千金ニ至ル常ニ之ヲ貧氓ニ貸與シ併セテ貧病ヲモ醫治セシカ晚年偶南他典ヲ閱シ戒律ノ條ニ至リ翻然トシテ悟ル所アリ從前預カリアル券書數十百通ヲ取リ火中ニ投シ一片ノ烟トナルヲ見テ欣々タリ又貯金ヲ閱スルニ數百金アリ一朝コレヲ隣保邑里ニ頒與シ殘金二百兩ヲ一沙彌ニ托シテ曰ハク時々食ヲ作リ吾ニ饋レ是レ其ノ資ナリ事無キニ漫ニ來リ問候ス可ラズト更ニ山深ク栖ミ結跏趺坐只〳〵道ヲ修ス一日大雷雨ス沙彌來リ安否ヲ候ス青雲曰ハク汝何ノ余ニ背キ約ヲ破ルヤト復タ他ヲ云ハズ年八十小菴裡ニ化ス

宗忽　羅ヲ天倫ト云ヒ別ニ不可得叟トモ云フ十二歲ニシテ紫野大德寺ニ入リ清岩長老ニ謁シ一見ソノ非凡器ナルヲ透看セラレ名ヲ驅烏ト命シ指導セラルル朝ニ受クル所ノ古則考案ハ暮ニ誦ス強記絶群ニシテ登ク三藏ニ達ス三十歲ノ春ヲ迎フルヤ嘆息シテ曰ハク世尊成道孔子而立我今不成不立正是有氣之死人ト自後孜々坐究シ數年ニシテ終ニ大悟ス清岩コレニ法語ト伽梨一頂トヲ

京都府立総合資料館所蔵

援ク時ニ年三十六延寶三年朝廷其ノ德望ヲ賞賛シ紫衣ノ賜與アリテ大德寺ノ世數ニ加ヘラル同五年泉州ノ南宗寺ヲ再興シ住持ス天和元年々饑工人多ク仆ル乃チ出資馳驅シテ五十餘金ヲ活カセリ元祿二年將軍綱吉命シテ東海寺ノ住職トス其ノ七月回祿ノ厄ニ遭フヤ台命アリテ復興セシメ殿閣廚厠美ニシテ閎ナルコト舊觀ヨリ優ナリ其九年辭シテ孤身翛然舊巢ニ歸ル泉民大ニ喜ビ迎テ曰ハク憶ハザリキ古佛ニ再會セントハト問道ノ俗ト研精ノ僧四方ヨリ麕集ス其ノ五月京都紫野ニ赴キ祖塔ヲ拜セントシテ途ニ上リ遂ニ病ヲ得タリ六月二十日門徒ヲ清源菴ニ會シテ後事ヲ托シテ偈ヲ作ル曰ハク

生亦不可得死亦不可得喚為不可得々々々々

二十二日鐘ヲ鳴ラサシメ衆ト共ニ毘盧ノ法雨ヲ唱フルヿ數百度端坐シテ化ス年七十僧臘六十謚號國英法鑑禪師ト賜フ俗姓上月氏ト云フ

正祖　年十三ニシテ永澤寺ニ入リ通幻ヲ師トシテ落飾シ大原寺ニテ普濟ニ參ス普濟コレヲ奇トシ左右ニ侍セシム勵精勤修遂ニ心印ヲ傳フ諸寺ニ歷住シ終ニ永澤ニ歸住シ心忠等七人ニ心印ヲ傳ヘタリ

玄球　弘誓寺ニ住持スル鈞叟禪師ニ事ヘ其ノ法嗣トナリ豐後ノ崇祥寺ニ住ス將軍義滿招聘ス病

京都府立総合資料館所蔵

ヲ以テ辭ス後年播磨ノ東漸寺ヲ開キ他數寺ノ開
祖タリ永和三年夏定光寺ニ在リテ病ヲ示シ六月
廿六日早晨危坐シ問酬平日ノ如クニシテ寂ス年
六十塔ヲ定光寺ニ設ク

園芝清馨ハ圓通寺ノ住職ナリ姓ハ源ニシテ佐々
木ノ裔タリ年十三ニシテ父母ヲ喪フ因リテ深ク
浮俗ヲ厭ヒ終寧寺ニ入リ十五ニシテ剃度ス偶〻
六祖ノ壇經ヲ閲シ中ニ曰ヘル所ノ心迷ヘバ法華
ニ轉ゼラレ心悟レバ法華ヲ轉ズトノ句ニ到リ嘆
ジテ曰ハク我レ口ニ之ヲ誦スレドモ心ニ悟ラズ
何ヲ以テカ父母ノ德ニ報イント之ヲ棄テヽ叢林
ニ參ス十餘年ヲ歷テ悟ル能ハズ大透ノ道ヲ聞キ
往キ參ス旬日ナラズシテ竟ニ深奥ニ達ス天文壬
子師瞳ヲ接ギ住持シ永祿癸亥四月十日寂ス

人見卜幽軒名ハ壹字ハ道生ト幽軒ハ其ノ雅ナリ
又白賁園ノ名アリ丹波ノ人本姓ハ小野ナルヲ單
ニ野トス或ハ林塘庵主人ト呼ブ貝原氏養フテ子
トス之ニ詩撃ヲ教ヘ又ハ傭書ノ業ヲ為シ家計ヲ
立テシム年二十ニ至リ更ノ業ノ賤キヲ嘆ジ奮然
起ツテ讀書ニ志セドモ家貧ニシテ書籍ナシ乃之
ヲ人ニ借リ手寫シ且ツ記ス夜以テ日ニ継ク義父
歿シテ本姓ニ復ス是ヨリ菅得庵林蘿山ニ就キ學
ブ鄉里ソノ篤志ヲ稱シ名聲漸著ハレ業ヲ請フモ
ノ日ニ至ル後水尾天皇詔シテ宋朝類苑ヲ官版ニ

京都府立総合資料館所蔵

鐫セシメント幽軒ニ命シ點ヲ加ヘシメ訓ヲ施サシム既ニ成リ上ガリシカバ夏ノ一部ヲ賜フ鷹司左大臣學ヲ好ミ常ニ延キ其ノ講ヲ聽ク近衛關白鷹山公及ヒ下冷泉羽林譚云孚ク之ヲ遇ス其他當朝ノ貴顯搢紳ニシテ好學ノ輩來リ學ブモノ少カラズ寛永戊申初メテ江戸ニ來遊シ水戸威公ニ仕ヘ侍講トナル是レ江戸ニ於ケル儒者ノ始ナリ幕府諸家ノ系譜ヲ纂集セル時ニ其ノ編者ニ加ハル寛永系圖コレナリ林春齋ガ本朝通鑑ヲ修セシ時衰老ノ身ヲ以テ日々國史館ニ至リ之ヲ校讀シ以テ春齋ヲ輔ケタリ其ノ七十ノ賀筵ニハ義公ソノ廬ニ至リ鳩杖ソノ他ノ物ヲ賜ヒ且詩ヲ賦シ之ヲ賀セリ後日目ヲ病ミ退居ス寛文十年七月八日病死ス五經童子問答莊子口義棧航林塘集束見紀ノ著書アリ其ノ餘記スル所多シ遺文殘稿ノ如キハ推々トシテ皆ニ滿ツト云フ

楊

橘屋五郎左衛門ト俳優アヤメ

浪華梨園ノ大立者トシテ寛永ヨリ享保ヘカケ盛名ヲ馳セタル芳澤アヤメハ女形トシテ無雙ノ盛名ヲ博レ是レ以上ニ女形ナク是レ以後ニ女形無シ本姓ハ齋藤五歳ニシテ父ニ後ル眉目麗ハシク生レタルヲ以テ男倡タルベク大阪道頓堀ノ某家ニ賣ラレタリ世ハ元祿ノ華奢ニツレ男色ノ流行カゲマ茶屋ノ繁昌ハ骨頂ニ達シタリ彼ハ綾之助

ト呼バレ若衆姿ノ扮装ニ笑ヲ含ンデ歩ミ行ク風情ハソモ如何ナリケン時ニ丹波ノ郷士橋屋五郎左衛門ナルアリ綾之助ガ容色ヲ愛シ之ヲシテ男倡タラシメンヨリモ俳優トシテ一部ノ喝采ヲ博セシメントシテ初代嵐三右衛門ニ身ヲ投セシメタリ是ヨリ女形トナリ彼ノ天才ト手腕モテ熟心ナル修行ヲ積ミ以テ五郎左衛門ノ志ヲ成シ遂ゲタリ自後已レガ家ノ紋ナル逆蔦ヲ五郎左衛門ガ定紋ナル桐ニ代ヘ之ヲ舞臺ニ上ケ用ヒタリ

策彦　一名井上周良　天龍寺ノ住職タリ　後ニ妙智院ニ住ス　天文十六年足利義晴ノ命ヲ受ケ明ニ使ス明年歸ル珍書ヲ齎ス詩文ニ長ス入明ノ日錄ヲ策彦和尚初度集再度集ト云フ

天保ノ頃ニ纖多吉ト呼バレタル者アリ丹波ヲバ人ノ寢静マル頃ニ出テ京都ニ入リ一仕事シテ歸リ人ノ起キ出ル時分ニハ同レク起出テタルヲ以テ誰一人ソノ強盗ナドスルヲ知ラザリシト云ヘバ亀岡アタリカ周山アリタカ遥ニ京都ヲ隔テタル所ノモノニテハアラジ此奴ノ體ヤ捷ソノ足マタ捷而シテ頗智ニ富ミタリ一朝失脚シテ京都町奉行ノ手ニ捕ハレ入牢ノ身トナリタルガ其ノ縣伴ニテノ親分ナルモノカラ牢ニ入ルヤ牢頭トナリ他ノ小盗輩ヲ嗾使シ破牢ノ企ヲ爲シ先ヅノ計

京都府立総合資料館所蔵

ヲ輩下ニ授ケ日々給與セラルヽ塵紙ヲ捻リ之ニ飯ヲ塗リ幾度モ之ヲ重スレバ細繩ノ如ク又細キ棒ノ如シ其ノ先ヲ割リ之ニ飯ノ煉リタルヲ附ケ試ニ之ヲ床ノ下ニ降シ引キ揚グレバ土ナリ砂ナリ粘ツキ来ル當時幕府ノ牢獄ハ六角大宮ニアリテ堅固ニ造ラレ六寸角ノ木モラ少シ宛ノ間ヲ明ケ並ベラレタレバ其ノ紙捻ノ上下スル隙ハアリ晝間ハ不時ニ牢番ノ見廻ハルモノカラ夜毎ニ之ヲ行ヒシニ終ニ陶器ノ一小片ヲ釣リ揚ゲタル者アリテ之ヲ識多吉ニ示ス吉大ニ喜ビ毎夜窃ニ之ヲ用ヒテ六寸角杙ヲ截リ初メ數十日ニシテ一本ノ上下ヲ截リ拔ク

フヲ得タルガ尚コノ外ニ一重アリ毎夜身ヲ細クシテ一重ヲ出デ又外ノ一重ニ取懸ラントセシニ偶番其ノ出入口ノカニ任セテ推サバ破ルベキヲ見テ一同ニ深夜窃ニ出デ共ニカヲ揃ヘテ外戸ヲ推シ外シタリ之ト共ニ逃出シタルモアリ畏レテ鎮マリ居タルモノモアリ半途ニ捕ヘラレタルアリ出損フテ舞ヒ戻リタルモアリ吉ハ直ニ獄屋ノ裏手ノ垣ヲ超エ西ニ奔リテ千本ニ出デタル時ハ曉天ニ程モ無シ南ヘト走リシニ牢番ハ之ヲ知リテ四方ニ追手ヲ出セシニゾ千本通リヲ下ヘ一組ノ追手驅ケ来ル當時コノ邊ニハ家少ナク只農家少許アルノミナルガ一農家ノ前ニ蓑ヲ吊レ傍ニ

京都府立総合資料館所蔵

糞桶アルヲ見テ急ニ獄衣ノ上ニ蓑ヲ襲ヒ糞桶ヲ擔フテ北行ス追手ノ者其ノ吉ナリトハ知リ得ベクモアラズ之ニ問フ南ヘ逃ゲタルモノアリヤ吉答ヘテ曰ハク在リ彼處ニ在リト杖モテ指ス追手南走スルヲ看テ吉ハ桶ヲ路傍ニ舍キ西奔シテ山路ヲ辿リ丹波ニ入ル

二度破獄シタリ二度目ハ獄吏ノ點檢ノ際ニ腕力ヲ振ヒ衆カモテ關ヲ斫リ突進シテ千本通リヘ出デタルニ追手ノ追及スルヲ知リ俄ニ跛者ニ粧ヒ勝行シテ兩手ヲ地ニ附ケ徐々ニ向ヒ來ル追手顧ミズシテ前行ス吉小逕ヲ田間ニ索メテ又西行シ終ニ逃ルヲヲ得タリ

京都府立総合資料館所蔵

西山

嵯峨山
角倉了以

第一號圖
第二號圖
第三號圖
第四號圖
第五號圖
第六號圖
第七號圖
第八號圖
第九號圖
第十號圖
第十一號圖
第十二號圖
第十三號圖
第十四號圖
第十五號圖
第十六號圖
第十七號圖
第十八號圖
第十九號圖
第二十號圖
第二十一號圖
第二十二號圖
第二十三號圖
第二十四號圖
第二十五號圖
第二十六號圖
第二十七號圖
第二十八號圖
第二十九號圖
第三十號圖
第三十一號圖
第三十二號圖
第三十三號圖
第三十四號圖
第三十五號圖
第三十六號圖
第三十七號圖
第三十八號圖
第三十九號圖
第四十號圖
第四十一號圖
第四十二號圖
第四十三號圖
第四十四號圖
第四十五號圖
第四十六號圖
第四十七號圖
第四十八號圖
第四十九號圖
第五十號圖
第五十一號圖
第五十二號圖
第五十三號圖
第五十四號圖
第五十五號圖
第五十六號圖
第五十七號圖
第五十八號圖
第五十九號圖
第六十號圖
第六十一號圖
第六十二號圖
第六十三號圖
第六十四號圖
第六十五號圖
第六十六號圖
第六十七號圖
第六十八號圖
第六十九號圖
第七十號圖
第七十一號圖
第七十二號圖
第七十三號圖
第七十四號圖
第七十五號圖
第七十六號圖
第七十七號圖
第七十八號圖
第七十九號圖
第八十號圖
第八十一號圖
第八十二號圖
第八十三號圖
第八十四號圖
第八十五號圖
第八十六號圖
第八十七號圖
第八十八號圖
第八十九號圖
第九十號圖
第九十一號圖
第九十二號圖
第九十三號圖
第九十四號圖
第九十五號圖
第九十六號圖
第九十七號圖
第九十八號圖
第九十九號圖
第一百號圖
第一百一號圖
第一百二號圖
第一百三號圖
第一百四號圖
第一百五號圖
第一百六號圖
第一百七號圖
第一百八號圖
第一百九號圖
第二百號圖
第二百一號圖
第二百二號圖
第二百三號圖
第二百四號圖
第二百五號圖
第二百六號圖
第二百七號圖
第二百八號圖
第二百九號圖
第三百號圖
第三百一號圖
第三百二號圖
第三百三號圖
第三百四號圖
第三百五號圖
第三百六號圖
第三百七號圖
第三百八號圖
第三百九號圖
第四百號圖
第四百一號圖
第四百二號圖
第四百三號圖
第四百四號圖
第四百五號圖
第四百六號圖
第四百七號圖
第四百八號圖
第四百九號圖
第五百號圖
第五百一號圖
第五百二號圖
第五百三號圖
第五百四號圖
第五百五號圖
第五百六號圖
第五百七號圖
第五百八號圖
第五百九號圖
第六百號圖
第六百一號圖
第六百二號圖
第六百三號圖
第六百四號圖
第六百五號圖
第六百六號圖
第六百七號圖
第六百八號圖
第六百九號圖
第七百號圖
第七百一號圖
第七百二號圖
第七百三號圖
第七百四號圖
第七百五號圖
第七百六號圖
第七百七號圖
第七百八號圖
第七百九號圖
第八百號圖
第八百一號圖
第八百二號圖
第八百三號圖
第八百四號圖
第八百五號圖
第八百六號圖
第八百七號圖
第八百八號圖
第八百九號圖
第九百號圖
第九百一號圖
第九百二號圖
第九百三號圖
第九百四號圖
第九百五號圖
第九百六號圖
第九百七號圖
第九百八號圖
第九百九號圖
第一千號圖
第一千一號圖
第一千二號圖
第一千三號圖
第一千四號圖
第一千五號圖
第一千六號圖
第一千七號圖
第一千八號圖
第一千九號圖
第二千號圖
第二千一號圖
第二千二號圖
第二千三號圖
第二千四號圖
第二千五號圖
第二千六號圖
第二千七號圖
第二千八號圖
第二千九號圖
第三千號圖
第三千一號圖
第三千二號圖
第三千三號圖
第三千四號圖
第三千五號圖
第三千六號圖
第三千七號圖
第三千八號圖
第三千九號圖
第四千號圖
第四千一號圖
第四千二號圖
第四千三號圖
第四千四號圖
第四千五號圖
第四千六號圖
第四千七號圖
第四千八號圖
第四千九號圖
第五千號圖
第五千一號圖
第五千二號圖
第五千三號圖
第五千四號圖
第五千五號圖
第五千六號圖
第五千七號圖
第五千八號圖
第五千九號圖
第六千號圖
第六千一號圖
第六千二號圖
第六千三號圖
第六千四號圖
第六千五號圖
第六千六號圖
第六千七號圖
第六千八號圖
第六千九號圖
第七千號圖
第七千一號圖
第七千二號圖
第七千三號圖
第七千四號圖
第七千五號圖
第七千六號圖
第七千七號圖
第七千八號圖
第七千九號圖
第八千號圖
第八千一號圖
第八千二號圖
第八千三號圖
第八千四號圖
第八千五號圖
第八千六號圖
第八千七號圖
第八千八號圖
第八千九號圖
第九千號圖
第九千一號圖
第九千二號圖
第九千三號圖
第九千四號圖
第九千五號圖
第九千六號圖
第九千七號圖
第九千八號圖
第九千九號圖
第一萬號圖
第一萬一號圖
第一萬二號圖
第一萬三號圖
第一萬四號圖
第一萬五號圖
第一萬六號圖
第一萬七號圖
第一萬八號圖
第一萬九號圖
第二萬號圖
第二萬一號圖
第二萬二號圖
第二萬三號圖
第二萬四號圖
第二萬五號圖
第二萬六號圖
第二萬七號圖
第二萬八號圖
第二萬九號圖
第三萬號圖
第三萬一號圖
第三萬二號圖
第三萬三號圖
第三萬四號圖
第三萬五號圖
第三萬六號圖
第三萬七號圖
第三萬八號圖
第三萬九號圖
第四萬號圖
第四萬一號圖
第四萬二號圖
第四萬三號圖
第四萬四號圖
第四萬五號圖
第四萬六號圖
第四萬七號圖
第四萬八號圖
第四萬九號圖
第五萬號圖
第五萬一號圖
第五萬二號圖
第五萬三號圖
第五萬四號圖
第五萬五號圖
第五萬六號圖
第五萬七號圖
第五萬八號圖
第五萬九號圖
第六萬號圖
第六萬一號圖
第六萬二號圖
第六萬三號圖
第六萬四號圖
第六萬五號圖
第六萬六號圖
第六萬七號圖
第六萬八號圖
第六萬九號圖
第七萬號圖
第七萬一號圖
第七萬二號圖
第七萬三號圖
第七萬四號圖
第七萬五號圖
第七萬六號圖
第七萬七號圖
第七萬八號圖
第七萬九號圖
第八萬號圖
第八萬一號圖
第八萬二號圖
第八萬三號圖
第八萬四號圖
第八萬五號圖
第八萬六號圖
第八萬七號圖
第八萬八號圖
第八萬九號圖
第九萬號圖
第九萬一號圖
第九萬二號圖
第九萬三號圖
第九萬四號圖
第九萬五號圖
第九萬六號圖
第九萬七號圖
第九萬八號圖
第九萬九號圖
第一億號圖
第一億一號圖
第一億二號圖
第一億三號圖
第一億四號圖
第一億五號圖
第一億六號圖
第一億七號圖
第一億八號圖
第一億九號圖
第二億號圖
第二億一號圖
第二億二號圖
第二億三號圖
第二億四號圖
第二億五號圖
第二億六號圖
第二億七號圖
第二億八號圖
第二億九號圖
第三億號圖
第三億一號圖
第三億二號圖
第三億三號圖
第三億四號圖
第三億五號圖
第三億六號圖
第三億七號圖
第三億八號圖
第三億九號圖
第四億號圖
第四億一號圖
第四億二號圖
第四億三號圖
第四億四號圖
第四億五號圖
第四億六號圖
第四億七號圖
第四億八號圖
第四億九號圖
第五億號圖
第五億一號圖
第五億二號圖
第五億三號圖
第五億四號圖
第五億五號圖
第五億六號圖
第五億七號圖
第五億八號圖
第五億九號圖
第六億號圖
第六億一號圖
第六億二號圖
第六億三號圖
第六億四號圖
第六億五號圖
第六億六號圖
第六億七號圖
第六億八號圖
第六億九號圖
第七億號圖
第七億一號圖
第七億二號圖
第七億三號圖
第七億四號圖
第七億五號圖
第七億六號圖
第七億七號圖
第七億八號圖
第七億九號圖
第八億號圖
第八億一號圖
第八億二號圖
第八億三號圖
第八億四號圖
第八億五號圖
第八億六號圖
第八億七號圖
第八億八號圖
第八億九號圖
第九億號圖
第九億一號圖
第九億二號圖
第九億三號圖
第九億四號圖
第九億五號圖
第九億六號圖
第九億七號圖
第九億八號圖
第九億九號圖
第一兆號圖
第一兆一號圖
第一兆二號圖
第一兆三號圖
第一兆四號圖
第一兆五號圖
第一兆六號圖
第一兆七號圖
第一兆八號圖
第一兆九號圖
第二兆號圖
第二兆一號圖
第二兆二號圖
第二兆三號圖
第二兆四號圖
第二兆五號圖
第二兆六號圖
第二兆七號圖
第二兆八號圖
第二兆九號圖
第三兆號圖
第三兆一號圖
第三兆二號圖
第三兆三號圖
第三兆四號圖
第三兆五號圖
第三兆六號圖
第三兆七號圖
第三兆八號圖
第三兆九號圖
第四兆號圖
第四兆一號圖
第四兆二號圖
第四兆三號圖
第四兆四號圖
第四兆五號圖
第四兆六號圖
第四兆七號圖
第四兆八號圖
第四兆九號圖
第五兆號圖
第五兆一號圖
第五兆二號圖
第五兆三號圖
第五兆四號圖
第五兆五號圖
第五兆六號圖
第五兆七號圖
第五兆八號圖
第五兆九號圖
第六兆號圖
第六兆一號圖
第六兆二號圖
第六兆三號圖
第六兆四號圖
第六兆五號圖
第六兆六號圖
第六兆七號圖
第六兆八號圖
第六兆九號圖
第七兆號圖
第七兆一號圖
第七兆二號圖
第七兆三號圖
第七兆四號圖
第七兆五號圖
第七兆六號圖
第七兆七號圖
第七兆八號圖
第七兆九號圖
第八兆號圖
第八兆一號圖
第八兆二號圖
第八兆三號圖
第八兆四號圖
第八兆五號圖
第八兆六號圖
第八兆七號圖
第八兆八號圖
第八兆九號圖
第九兆號圖
第九兆一號圖
第九兆二號圖
第九兆三號圖
第九兆四號圖
第九兆五號圖
第九兆六號圖
第九兆七號圖
第九兆八號圖
第九兆九號圖
第一京號圖
第一京一號圖
第一京二號圖
第一京三號圖
第一京四號圖
第一京五號圖
第一京六號圖
第一京七號圖
第一京八號圖
第一京九號圖
第二京號圖
第二京一號圖
第二京二號圖
第二京三號圖
第二京四號圖
第二京五號圖
第二京六號圖
第二京七號圖
第二京八號圖
第二京九號圖
第三京號圖
第三京一號圖
第三京二號圖
第三京三號圖
第三京四號圖
第三京五號圖
第三京六號圖
第三京七號圖
第三京八號圖
第三京九號圖
第四京號圖
第四京一號圖
第四京二號圖
第四京三號圖
第四京四號圖
第四京五號圖
第四京六號圖
第四京七號圖
第四京八號圖
第四京九號圖
第五京號圖
第五京一號圖
第五京二號圖
第五京三號圖
第五京四號圖
第五京五號圖
第五京六號圖
第五京七號圖
第五京八號圖
第五京九號圖
第六京號圖
第六京一號圖
第六京二號圖
第六京三號圖
第六京四號圖
第六京五號圖
第六京六號圖
第六京七號圖
第六京八號圖
第六京九號圖
第七京號圖
第七京一號圖
第七京二號圖
第七京三號圖
第七京四號圖
第七京五號圖
第七京六號圖
第七京七號圖
第七京八號圖
第七京九號圖
第八京號圖
第八京一號圖
第八京二號圖
第八京三號圖
第八京四號圖
第八京五號圖
第八京六號圖
第八京七號圖
第八京八號圖
第八京九號圖
第九京號圖
第九京一號圖
第九京二號圖
第九京三號圖
第九京四號圖
第九京五號圖
第九京六號圖
第九京七號圖
第九京八號圖
第九京九號圖
第一垓號圖
第一垓一號圖
第一垓二號圖
第一垓三號圖
第一垓四號圖
第一垓五號圖
第一垓六號圖
第一垓七號圖
第一垓八號圖
第一垓九號圖
第二垓號圖
第二垓一號圖
第二垓二號圖
第二垓三號圖
第二垓四號圖
第二垓五號圖
第二垓六號圖
第二垓七號圖
第二垓八號圖
第二垓九號圖
第三垓號圖
第三垓一號圖
第三垓二號圖
第三垓三號圖
第三垓四號圖
第三垓五號圖
第三垓六號圖
第三垓七號圖
第三垓八號圖
第三垓九號圖
第四垓號圖
第四垓一號圖
第四垓二號圖
第四垓三號圖
第四垓四號圖
第四垓五號圖
第四垓六號圖
第四垓七號圖
第四垓八號圖
第四垓九號圖
第五垓號圖
第五垓一號圖
第五垓二號圖
第五垓三號圖
第五垓四號圖
第五垓五號圖
第五垓六號圖
第五垓七號圖
第五垓八號圖
第五垓九號圖
第六垓號圖
第六垓一號圖
第六垓二號圖
第六垓三號圖
第六垓四號圖
第六垓五號圖
第六垓六號圖
第六垓七號圖
第六垓八號圖
第六垓九號圖
第七垓號圖
第七垓一號圖
第七垓二號圖
第七垓三號圖
第七垓四號圖
第七垓五號圖
第七垓六號圖
第七垓七號圖
第七垓八號圖
第七垓九號圖
第八垓號圖
第八垓一號圖
第八垓二號圖
第八垓三號圖
第八垓四號圖
第八垓五號圖
第八垓六號圖
第八垓七號圖
第八垓八號圖
第八垓九號圖
第九垓號圖
第九垓一號圖
第九垓二號圖
第九垓三號圖
第九垓四號圖
第九垓五號圖
第九垓六號圖
第九垓七號圖
第九垓八號圖
第九垓九號圖
第一秭號圖
第一秭一號圖
第一秭二號圖
第一秭三號圖
第一秭四號圖
第一秭五號圖
第一秭六號圖
第一秭七號圖
第一秭八號圖
第一秭九號圖
第二秭號圖
第二秭一號圖
第二秭二號圖
第二秭三號圖
第二秭四號圖
第二秭五號圖
第二秭六號圖
第二秭七號圖
第二秭八號圖
第二秭九號圖
第三秭號圖
第三秭一號圖
第三秭二號圖
第三秭三號圖
第三秭四號圖
第三秭五號圖
第三秭六號圖
第三秭七號圖
第三秭八號圖
第三秭九號圖
第四秭號圖
第四秭一號圖
第四秭二號圖
第四秭三號圖
第四秭四號圖
第四秭五號圖
第四秭六號圖
第四秭七號圖
第四秭八號圖
第四秭九號圖
第五秭號圖
第五秭一號圖
第五秭二號圖
第五秭三號圖
第五秭四號圖
第五秭五號圖
第五秭六號圖
第五秭七號圖
第五秭八號圖
第五秭九號圖
第六秭號圖
第六秭一號圖
第六秭二號圖
第六秭三號圖
第六秭四號圖
第六秭五號圖
第六秭六號圖
第六秭七號圖
第六秭八號圖
第六秭九號圖
第七秭號圖
第七秭一號圖
第七秭二號圖
第七秭三號圖
第七秭四號圖
第七秭五號圖
第七秭六號圖
第七秭七號圖
第七秭八號圖
第七秭九號圖
第八秭號圖
第八秭一號圖
第八秭二號圖
第八秭三號圖
第八秭四號圖
第八秭五號圖
第八秭六號圖
第八秭七號圖
第八秭八號圖
第八秭九號圖
第九秭號圖
第九秭一號圖
第九秭二號圖
第九秭三號圖
第九秭四號圖
第九秭五號圖
第九秭六號圖
第九秭七號圖
第九秭八號圖
第九秭九號圖
第一壤號圖
第一壤一號圖
第一壤二號圖
第一壤三號圖
第一壤四號圖
第一壤五號圖
第一壤六號圖
第一壤七號圖
第一壤八號圖
第一壤九號圖
第二壤號圖
第二壤一號圖
第二壤二號圖
第二壤三號圖
第二壤四號圖
第二壤五號圖
第二壤六號圖
第二壤七號圖
第二壤八號圖
第二壤九號圖
第三壤號圖
第三壤一號圖
第三壤二號圖
第三壤三號圖
第三壤四號圖
第三壤五號圖
第三壤六號圖
第三壤七號圖
第三壤八號圖
第三壤九號圖
第四壤號圖
第四壤一號圖
第四壤二號圖
第四壤三號圖
第四壤四號圖
第四壤五號圖
第四壤六號圖
第四壤七號圖
第四壤八號圖
第四壤九號圖
第五壤號圖
第五壤一號圖
第五壤二號圖
第五壤三號圖
第五壤四號圖
第五壤五號圖
第五壤六號圖
第五壤七號圖
第五壤八號圖
第五壤九號圖
第六壤號圖
第六壤一號圖
第六壤二號圖
第六壤三號圖
第六壤四號圖
第六壤五號圖
第六壤六號圖
第六壤七號圖
第六壤八號圖
第六壤九號圖
第七壤號圖
第七壤一號圖
第七壤二號圖
第七壤三號圖
第七壤四號圖
第七壤五號圖
第七壤六號圖
第七壤七號圖
第七壤八號圖
第七壤九號圖
第八壤號圖
第八壤一號圖
第八壤二號圖
第八壤三號圖
第八壤四號圖
第八壤五號圖
第八壤六號圖
第八壤七號圖
第八壤八號圖
第八壤九號圖
第九壤號圖
第九壤一號圖
第九壤二號圖
第九壤三號圖
第九壤四號圖
第九壤五號圖
第九壤六號圖
第九壤七號圖
第九壤八號圖
第九壤九號圖
第一溝號圖
第一溝一號圖
第一溝二號圖
第一溝三號圖
第一溝四號圖
第一溝五號圖
第一溝六號圖
第一溝七號圖
第一溝八號圖
第一溝九號圖
第二溝號圖
第二溝一號圖
第二溝二號圖
第二溝三號圖
第二溝四號圖
第二溝五號圖
第二溝六號圖
第二溝七號圖
第二溝八號圖
第二溝九號圖
第三溝號圖
第三溝一號圖
第三溝二號圖
第三溝三號圖
第三溝四號圖
第三溝五號圖
第三溝六號圖
第三溝七號圖
第三溝八號圖
第三溝九號圖
第四溝號圖
第四溝一號圖
第四溝二號圖
第四溝三號圖
第四溝四號圖
第四溝五號圖
第四溝六號圖
第四溝七號圖
第四溝八號圖
第四溝九號圖
第五溝號圖
第五溝一號圖
第五溝二號圖
第五溝三號圖
第五溝四號圖
第五溝五號圖
第五溝六號圖
第五溝七號圖
第五溝八號圖
第五溝九號圖
第六溝號圖
第六溝一號圖
第六溝二號圖
第六溝三號圖
第六溝四號圖
第六溝五號圖
第六溝六號圖
第六溝七號圖
第六溝八號圖
第六溝九號圖
第七溝號圖
第七溝一號圖
第七溝二號圖
第七溝三號圖
第七溝四號圖
第七溝五號圖
第七溝六號圖
第七溝七號圖
第七溝八號圖
第七溝九號圖
第八溝號圖
第八溝一號圖
第八溝二號圖
第八溝三號圖
第八溝四號圖
第八溝五號圖
第八溝六號圖
第八溝七號圖
第八溝八號圖
第八溝九號圖
第九溝號圖
第九溝一號圖
第九溝二號圖
第九溝三號圖
第九溝四號圖
第九溝五號圖
第九溝六號圖
第九溝七號圖
第九溝八號圖
第九溝九號圖
第一澗號圖
第一澗一號圖
第一澗二號圖
第一澗三號圖
第一澗四號圖
第一澗五號圖
第一澗六號圖
第一澗七號圖
第一澗八號圖
第一澗九號圖
第二澗號圖
第二澗一號圖
第二澗二號圖
第二澗三號圖
第二澗四號圖
第二澗五號圖
第二澗六號圖
第二澗七號圖
第二澗八號圖
第二澗九號圖
第三澗號圖
第三澗一號圖
第三澗二號圖
第三澗三號圖
第三澗四號圖
第三澗五號圖
第三澗六號圖
第三澗七號圖
第三澗八號圖
第三澗九號圖
第四澗號圖
第四澗一號圖
第四澗二號圖
第四澗三號圖
第四澗四號圖
第四澗五號圖
第四澗六號圖
第四澗七號圖
第四澗八號圖
第四澗九號圖
第五澗號圖
第五澗一號圖
第五澗二號圖
第五澗三號圖
第五澗四號圖
第五澗五號圖
第五澗六號圖
第五澗七號圖
第五澗八號圖
第五澗九號圖
第六澗號圖
第六澗一號圖
第六澗二號圖
第六澗三號圖
第六澗四號圖
第六澗五號圖
第六澗六號圖
第六澗七號圖
第六澗八號圖
第六澗九號圖
第七澗號圖
第七澗一號圖
第七澗二號圖
第七澗三號圖
第七澗四號圖
第七澗五號圖
第七澗六號圖
第七澗七號圖
第七澗八號圖
第七澗九號圖
第八澗號圖
第八澗一號圖
第八澗二號圖
第八澗三號圖
第八澗四號圖
第八澗五號圖
第八澗六號圖
第八澗七號圖
第八澗八號圖
第八澗九號圖
第九澗號圖
第九澗一號圖
第九澗二號圖
第九澗三號圖
第九澗四號圖
第九澗五號圖
第九澗六號圖
第九澗七號圖
第九澗八號圖
第九澗九號圖
第一溪號圖
第一溪一號圖
第一溪二號圖
第一溪三號圖
第一溪四號圖
第一溪五號圖
第一溪六號圖
第一溪七號圖
第一溪八號圖
第一溪九號圖
第二溪號圖
第二溪一號圖
第二溪二號圖
第二溪三號圖
第二溪四號圖
第二溪五號圖
第二溪六號圖
第二溪七號圖
第二溪八號圖
第二溪九號圖
第三溪號圖
第三溪一號圖
第三溪二號圖
第三溪三號圖
第三溪四號圖
第三溪五號圖
第三溪六號圖
第三溪七號圖
第三溪八號圖
第三溪九號圖
第四溪號圖
第四溪一號圖
第四溪二號圖
第四溪三號圖
第四溪四號圖
第四溪五號圖
第四溪六號圖
第四溪七號圖
第四溪八號圖
第四溪九號圖
第五溪號圖
第五溪一號圖
第五溪二號圖
第五溪三號圖
第五溪四號圖
第五溪五號圖
第五溪六號圖
第五溪七號圖
第五溪八號圖
第五溪九號圖
第六溪號圖
第六溪一號圖
第六溪二號圖
第六溪三號圖
第六溪四號圖
第六溪五號圖
第六溪六號圖
第六溪七號圖
第六溪八號圖
第六溪九號圖
第七溪號圖
第七溪一號圖
第七溪二號圖
第七溪三號圖
第七溪四號圖
第七溪五號圖
第七溪六號圖
第七溪七號圖
第七溪八號圖
第七溪九號圖
第八溪號圖
第八溪一號圖
第八溪二號圖
第八溪三號圖
第八溪四號圖
第八溪五號圖
第八溪六號圖
第八溪七號圖
第八溪八號圖
第八溪九號圖
第九溪號圖
第九溪一號圖
第九溪二號圖
第九溪三號圖
第九溪四號圖
第九溪五號圖
第九溪六號圖
第九溪七號圖
第九溪八號圖
第九溪九號圖
第一谷號圖
第一谷一號圖
第一谷二號圖
第一谷三號圖
第一谷四號圖
第一谷五號圖
第一谷六號圖
第一谷七號圖
第一谷八號圖
第一谷九號圖
第二谷號圖
第二谷一號圖
第二谷二號圖
第二谷三號圖
第二谷四號圖
第二谷五號圖
第二谷六號圖
第二谷七號圖
第二谷八號圖
第二谷九號圖
第三谷號圖
第三谷一號圖
第三谷二號圖
第三谷三號圖
第三谷四號圖
第三谷五號圖
第三谷六號圖
第三谷七號圖
第三谷八號圖
第三谷九號圖
第四谷號圖
第四谷一號圖
第四谷二號圖
第四谷三號圖
第四谷四號圖
第四谷五號圖
第四谷六號圖
第四谷七號圖
第四谷八號圖
第四谷九號圖
第五谷號圖
第五谷一號圖
第五谷二號圖
第五谷三號圖
第五谷四號圖
第五谷五號圖
第五谷六號圖
第五谷七號圖
第五谷八號圖
第五谷九號圖
第六谷號圖
第六谷一號圖
第六谷二號圖
第六谷三號圖
第六谷四號圖
第六谷五號圖
第六谷六號圖
第六谷七號圖
第六谷八號圖
第六谷九號圖
第七谷號圖
第七谷一號圖
第七谷二號圖
第七谷三號圖
第七谷四號圖
第七谷五號圖
第七谷六號圖
第七谷七號圖
第七谷八號圖
第七谷九號圖
第八谷號圖
第八谷一號圖
第八谷二號圖
第八谷三號圖
第八谷四號圖
第八谷五號圖
第八谷六號圖
第八谷七號圖
第八谷八號圖
第八谷九號圖
第九谷號圖
第九谷一號圖
第九谷二號圖
第九谷三號圖
第九谷四號圖
第九谷五號圖
第九谷六號圖
第九谷七號圖
第九谷八號圖
第九谷九號圖
第一山號圖
第一山一號圖
第一山二號圖
第一山三號圖
第一山四號圖
第一山五號圖
第一山六號圖
第一山七號圖
第一山八號圖
第一山九號圖
第二山號圖
第二山一號圖
第二山二號圖
第二山三號圖
第二山四號圖
第二山五號圖
第二山六號圖
第二山七號圖
第二山八號圖
第二山九號圖
第三山號圖
第三山一號圖
第三山二號圖
第三山三號圖
第三山四號圖
第三山五號圖
第三山六號圖
第三山七號圖
第三山八號圖
第三山九號圖
第四山號圖
第四山一號圖
第四山二號圖
第四山三號圖
第四山四號圖
第四山五號圖
第四山六號圖
第四山七號圖
第四山八號圖
第四山九號圖
第五山號圖
第五山一號圖
第五山二號圖
第五山三號圖
第五山四號圖
第五山五號圖
第五山六號圖
第五山七號圖
第五山八號圖
第五山九號圖
第六山號圖
第六山一號圖
第六山二號圖
第六山三號圖
第六山四號圖
第六山五號圖
第六山六號圖
第六山七號圖
第六山八號圖
第六山九號圖
第七山號圖
第七山一號圖
第七山二號圖
第七山三號圖
第七山四號圖
第七山五號圖
第七山六號圖
第七山七號圖
第七山八號圖
第七山九號圖
第八山號圖
第八山一號圖
第八山二號圖
第八山三號圖
第八山四號圖
第八山五號圖
第八山六號圖
第八山七號圖
第八山八號圖
第八山九號圖
第九山號圖
第九山一號圖
第九山二號圖
第九山三號圖
第九山四號圖
第九山五號圖
第九山六號圖
第九山七號圖
第九山八號圖
第九山九號圖
第一海號圖
第一海一號圖
第一海二號圖
第一海三號圖
第一海四號圖
第一海五號圖
第一海六號圖
第一海七號圖
第一海八號圖
第一海九號圖
第二海號圖
第二海一號圖
第二海二號圖
第二海三號圖
第二海四號圖
第二海五號圖
第二海六號圖
第二海七號圖
第二海八號圖
第二海九號圖
第三海號圖
第三海一號圖
第三海二號圖
第三海三號圖
第三海四號圖
第三海五號圖
第三海六號圖
第三海七號圖
第三海八號圖
第三海九號圖
第四海號圖
第四海一號圖
第四海二號圖
第四海三號圖
第四海四號圖
第四海五號圖
第四海六號圖
第四海七號圖
第四海八號圖
第四海九號圖
第五海號圖
第五海一號圖
第五海二號圖
第五海三號圖
第五海四號圖
第五海五號圖
第五海六號圖
第五海七號圖
第五海八號圖
第五海九號圖
第六海號圖
第六海一號圖
第六海二號圖
第六海三號圖
第六海四號圖
第六海五號圖
第六海六號圖
第六海七號圖
第六海八號圖
第六海九號圖
第七海號圖
第七海一號圖
第七海二號圖
第七海三號圖
第七海四號圖
第七海五號圖
第七海六號圖
第七海七號圖
第七海八號圖
第七海九號圖
第八海號圖
第八海一號圖
第八海二號圖
第八海三號圖
第八海四號圖
第八海五號圖
第八海六號圖
第八海七號圖
第八海八號圖
第八海九號圖
第九海號圖
第九海一號圖
第九海二號圖
第九海三號圖
第九海四號圖
第九海五號圖
第九海六號圖
第九海七號圖
第九海八號圖
第九海九號圖
第一河號圖
第一河一號圖
第一河二號圖
第一河三號圖
第一河四號圖
第一河五號圖
第一河六號圖
第一河七號圖
第一河八號圖
第一河九號圖
第二河號圖
第二河一號圖
第二河二號圖
第二河三號圖
第二河四號圖
第二河五號圖
第二河六號圖
第二河七號圖
第二河八號圖
第二河九號圖
第三河號圖
第三河一號圖
第三河二號圖
第三河三號圖
第三河四號圖
第三河五號圖
第三河六號圖
第三河七號圖
第三河八號圖
第三河九號圖
第四河號圖
第四河一號圖
第四河二號圖
第四河三號圖
第四河四號圖
第四河五號圖
第四河六號圖
第四河七號圖
第四河八號圖
第四河九號圖
第五河號圖
第五河一號圖
第五河二號圖
第五河三號圖
第五河四號圖
第五河五號圖
第五河六號圖
第五河七號圖
第五河八號圖
第五河九號圖
第六河號圖
第六河一號圖
第六河二號圖
第六河三號圖
第六河四號圖
第六河五號圖
第六河六號圖
第六河七號圖
第六河八號圖
第六河九號圖
第七河號圖
第七河一號圖
第七河二號圖
第七河三號圖
第七河四號圖
第七河五號圖
第七河六號圖
第七河七號圖
第七河八號圖
第七河九號圖
第八河號圖
第八河一號圖
第八河二號圖
第八河三號圖
第八河四號圖
第八河五號圖
第八河六號圖
第八河七號圖
第八河八號圖
第八河九號圖
第九河號圖
第九河一號圖
第九河二號圖
第九河三號圖
第九河四號圖
第九河五號圖
第九河六號圖
第九河七號圖
第九河八號圖
第九河九號圖
第一湖號圖
第一湖一號圖
第一湖二號圖
第一湖三號圖
第一湖四號圖
第一湖五號圖
第一湖六號圖
第一湖七號圖
第一湖八號圖
第一湖九號圖
第二湖號圖
第二湖一號圖
第二湖二號圖
第二湖三號圖
第二湖四號圖
第二湖五號圖
第二湖六號圖
第二湖七號圖
第二湖八號圖
第二湖九號圖
第三湖號圖
第三湖一號圖
第三湖二號圖
第三湖三號圖
第三湖四號圖
第三湖五號圖
第三湖六號圖
第三湖七號圖
第三湖八號圖
第三湖九號圖
第四湖號圖
第四湖一號圖
第四湖二號圖
第四湖三號圖
第四湖四號圖
第四湖五號圖
第四湖六號圖
第四湖七號圖
第四湖八號圖
第四湖九號圖
第五湖號圖
第五湖一號圖
第五湖二號圖
第五湖三號圖
第五湖四號圖
第五湖五號圖
第五湖六號圖
第五湖七號圖
第五湖八號圖
第五湖九號圖
第六湖號圖
第六湖一號圖
第六湖二號圖
第六湖三號圖
第六湖四號圖
第六湖五號圖
第六湖六號圖
第六湖七號圖
第六湖八號圖
第六湖九號圖
第七湖號圖
第七湖一號圖
第七湖二號圖
第七湖三號圖
第七湖四號圖
第七湖五號圖
第七湖六號圖
第七湖七號圖
第七湖八號圖
第七湖九號圖
第八湖號圖
第八湖一號圖
第八湖二號圖
第八湖三號圖
第八湖四號圖
第八湖五號圖
第八湖六號圖
第八湖七號圖
第八湖八號圖
第八湖九號圖
第九湖號圖
第九湖一號圖
第九湖二號圖
第九湖三號圖
第九湖四號圖
第九湖五號圖
第九湖六號圖
第九湖七號圖
第九湖八號圖
第九湖九號圖
第一海號圖
第一海一號圖
第一海二號圖
第一海三號圖
第一海四號圖
第一海五號圖
第一海六號圖
第一海七號圖
第一海八號圖
第一海九號圖
第二海號圖
第二海一號圖
第二海二號圖
第二海三號圖
第二海四號圖
第二海五號圖
第二海六號圖
第二海七號圖
第二海八號圖
第二海九號圖
第三海號圖
第三海一號圖
第三海二號圖
第三海三號圖
第三海四號圖
第三海五號圖
第三海六號圖
第三海七號圖
第三海八號圖
第三海九號圖
第四海號圖
第四海一號圖
第四海二號圖
第四海三號圖
第四海四號圖
第四海五號圖
第四海六號圖
第四海七號圖
第四海八號圖
第四海九號圖
第五海號圖
第五海一號圖
第五海二號圖
第五海三號圖
第五海四號圖
第五海五號圖
第五海六號圖
第五海七號圖
第五海八號圖
第五海九號圖
第六海號圖
第六海一號圖
第六海二號圖
第六海三號圖
第六海四號圖
第六海五號圖
第六海六號圖
第六海七號圖
第六海八號圖
第六海九號圖
第七海號圖
第七海一號圖
第七海二號圖
第七海三號圖
第七海四號圖
第七海五號圖
第七海六號圖
第七海七號圖
第七海八號圖
第七海九號圖
第八海號圖
第八海一號圖
第八海二號圖
第八海三號圖
第八海四號圖
第八海五號圖
第八海六號圖
第八海七號圖
第八海八號圖
第八海九號圖
第九海號圖
第九海一號圖
第九海二號圖
第九海三號圖
第九海四號圖
第九海五號圖
第九海六號圖
第九海七號圖
第九海八號圖
第九海九號圖
第一河號圖
第一河一號圖
第一河二號圖
第一河三號圖
第一河四號圖
第一河五號圖
第一河六號圖
第一河七號圖
第一河八號圖
第一河九號圖
第二河號圖
第二河一號圖
第二河二號圖
第二河三號圖
第二河四號圖
第二河五號圖
第二河六號圖
第二河七號圖
第二河八號圖
第二河九號圖
第三河號圖
第三河一號圖
第三河二號圖
第三河三號圖
第三河四號圖
第三河五號圖
第三河六號圖
第三河七號圖
第三河八號圖
第三河九號圖
第四河號圖
第四河一號圖
第四河二號圖
第四河三號圖
第四河四號圖
第四河五號圖
第四河六號圖
第四河七號圖
第四河八號圖
第四河九號圖
第五河號圖
第五河一號圖
第五河二號圖
第五河三號圖
第五河四號圖
第五河五號圖
第五河六號圖
第五河七號圖
第五河八號圖
第五河九號圖
第六河號圖
第六河一號圖
第六河二號圖
第六河三號圖
第六河四號圖
第六河五號圖
第六河六號圖
第六河七號圖
第六河八號圖
第六河九號圖
第七河號圖
第七河一號圖
第七河二號圖
第七河三號圖
第七河四號圖
第七河五號圖
第七河六號圖
第七河七號圖
第七河八號圖
第七河九號圖
第八河號圖
第八河一號圖
第八河二號圖
第八河三號圖
第八河四號圖
第八河五號圖
第八河六號圖
第八河七號圖
第八河八號圖
第八河九號圖
第九河號圖
第九河一號圖
第九河二號圖
第九河三號圖
第九河四號圖
第九河五號圖
第九河六號圖
第九河七號圖
第九河八號圖
第九河九號圖
第一湖號圖
第一湖一號圖
第一湖二號圖
第一湖三號圖
第一湖四號圖
第一湖五號圖
第一湖六號圖
第一湖七號圖
第一湖八號圖
第一湖九號圖
第二湖號圖
第二湖一號圖
第二湖二號圖
第二湖三號圖
第二湖四號圖
第二湖五號圖
第二湖六號圖
第二湖七號圖
第二湖八號圖
第二湖九號圖
第三湖號圖
第三湖一號圖
第三湖二號圖
第三湖三號圖
第三湖四號圖
第三湖五號圖
第三湖六號圖
第三湖七號圖
第三湖八號圖
第三湖九號圖
第四湖號圖
第四湖一號圖
第四湖二號圖
第四湖三號圖
第四湖四號圖
第四湖五號圖
第四湖六號圖
第四湖七號圖
第四湖八號圖
第四湖九號圖
第五湖號圖
第五湖一號圖
第五湖二號圖
第五湖三號圖
第五湖四號圖
第五湖五號圖
第五湖六號圖
第五湖七號圖
第五湖八號圖
第五湖九號圖
第六湖號圖
第六湖一號圖
第六湖二號圖
第六湖三號圖
第六湖四號圖
第六湖五號圖
第六湖六號圖
第六湖七號圖
第六湖八號圖
第六湖九號圖
第七湖號圖
第七湖一號圖
第七湖二號圖
第七湖三號圖
第七湖四號圖
第七湖五號圖
第七湖六號圖
第七湖七號圖
第七湖八號圖
第七湖九號圖
第八湖號圖
第八湖一號圖
第八湖二號圖
第八湖三號圖
第八湖四號圖
第八湖五號圖
第八湖六號圖
第八湖七號圖
第八湖八號圖
第八湖九號圖
第九湖號圖
第九湖一號圖
第九湖二號圖
第九湖三號圖
第九湖四號圖
第九湖五號圖
第九湖六號圖
第九湖七號圖
第九湖八號圖
第九

天正十一年十月六日豊臣氏ヨリ松下嘉兵衛行綱
ニ丹波船井河内讃良三千石朱印ノ地ヲ賜ヒシ壯
ノ時ニ受ケタル恩遇ニ報ノ秀吉ガ松平家ヲ辞ス
ルノ時ニ餞別トシテ金錢ヲ與ヘタル等ノ好意ヲ
モ謝セントナリ俗説ニ大黒天ノ像ヲ奪ヒ脱走シタ
ル等ノ小説ハ信ズ可ラズ嘉兵衛ハ主家今川義元
死後氏真没後德川氏ニ歸屬シ遠江國ナル本國ニ
於テ濱名郡西塚村三十貫ノ地ヲ給セラレ山崎合
戰後德川氏ニ乞ヒ之ヲ京都ニ呼ビ臣列ニ加ヘ寵
養シタルナリ
寛永二年大阪豪商淀屋辰五郎闕所ノ刑ニ處セラ
ル地所左ノ如シ

京都府立総合資料館所蔵

八幡地行高二百石田百八十町　淀田地十二ヶ所
太和田八町　丹波田地百八十ヶ所　阿波田地四
十八ヶ所　和泉田地八町　淡路田地五町
淀屋ノ先祖ナル岡本與三郎ハ林木渡世ヲ為セシ
ガ大阪冬夏ノ兩陣ニ茶臼山ニ小屋ヲ建テ獻納シ
タル功ニヨリ八幡ノ田畑山林三百石ノ地ヲ賜ハ
リタルヨリ諸方ニ手ヲ擴ゲ丹波ニマデ及ビタル
ナリ辰五郎ノ祖父ナリ

鞍馬ノ竹切　丹波方ノ話

京都ノ北ナル鞍馬ニテ例年六月廿日ニ竹切祭會
式アリ毘沙門堂ニ於テ行ハル一名蓮華會式トモ
云フ其ノ起原ハ寛平年間ニ肇マリ今ニ至ル迄之
ヲ廢格セズ該年間ニ峯延上人ガ住職中法式ノ廢
タレアルモノヲ擧興シタルニ其ノ一夏護摩供修
行ノ時雄蛇出現シテ上人ノ業作ヲ害セントスル
ヲ毘沙門天出現シテ咒文ヲ誦ヘテ加持シタルニ
ヨリ其ノ蛇ハ寸斷〳〵ニ切レテ斃レタリ暫シテ又
其ノ雌蛇出デヽ復讎ニテモ為サンズル樣ナルヲ
法力モテ悔悟解脫セシム其ノ雌雄蛇ノ出現セル
迹ニ閼伽井ノ湧泉ヲ出ダス上人コレヲ閼伽井護

京都府立総合資料館所蔵

法善神ト祝シ竹ヲ以テ犯蛇ノ追福ヲ祈ル世ニ之ヲ竹切祭ト云フ之ヲ六月二十日ニ行フハ蛇ノ出デタル日ニハアラズ上人ノ遷化セラレタ命日トス昔ノ六月二十日ニハ蓮花ヲ供ヘタ故コレヲ蓮華會ト唱ヘタナレ𪜈新暦ニテハ蓮花未開カズ故ニ有名無實ナルモ是非ナシ供花ニ花菖蒲夏菊ナド代用セリ　毘沙門堂ノ外陣ノ板縁階段ノ左右ニ二本ノ棒ヲ立テ雌雄各四本ノ竹ヲ横ニ縛リ付ケ南面ノ堂ノ右卽チ東ニ當ル方ガ近江方ニシテ其ノ左卽チ西ニ當ル方ガ丹波方ト定メラレタリ竹ハ根ノ方ヲ向ヒ合セニシテ置カレ雄ノ方ハ徑一尺ニ三寸ノ太サアリテ根ハ無シ雌ノ方ハ土附キノマヽノモノデ普通ノ竿竹位ノ太サトス　是ハ竹鈎ト云フテ十八日ニ執リ行フタルモノ而シテ今日切ルモノハ此ノ中ノ雄竹ニ本トス　其ノ日ノ午後三時ヲ過グル頃鞍馬法師ノ一人白袴ニ黒紹ノ羽織様ノモノヲ着タルガ法螺ヲ下向ケテ吹クヤ否近江方四人ト丹波方四人出デ来ル此ノ八僧ガ昔ノ鞍馬法師ノ扮装ニテ白ノ汗止白ノ法衣白ノ脚袢白ノ襷ニ黒漆ノ袈裟様ノモノヲ着込ミ背中ニ南天ノ枝ヲ紙ニ包ミテ挿シ両刀ヲ腰ニシ武者草鞋ヲ穿キ手ン手ニ菊ト葵ノ模様アル金襴ノ切ニ包ミタル近江守丹波守ト銘ノアル巾廣ノ刀ヲ捧ゲ外ニ大総一人ト物見ノ小法師二人総

京都府立総合資料館所蔵

ベテ十一人徐々ト上ガリ来ル其佩刀モ拵カモ一時悉ク寶前ヘ供ヘテ禮拜シ更ニ導師ヘ挨拶ニ行ク　間モ無ク鐘聲起コル　彼ノ縛リ付ケアル竹ノ中ナル雄竹ノミヲ外シ上方ノ枝ヲ切リ去リ二間程ノ長サニ揃ヘ而方共ニ本堂内陣ノ格子ニ立テ掛ケル　導師ハ緋衣ニ鞍馬丈ニ羽圓扇ノ刺繍シタル紫袈裟ノ裝シ役僧三人ヲ隨ヒテ内陣ノ正面ニ顯ハレ列讃行道讃伽陀（經ニ節ヲツケテ誦ムモノ）ヲ四十分間ニ讀ミ法會ヲ了ルスルト中央一段高キ所ニ昇リ檜扇ニテ三度擧手スル其ノ三度目ノ下リタト思フ瞬間　之ヲ待兼ネ居タル大総ハ高聲ニオーイト一聲叫ブヤ其ノ餘音ノ在ル内ニ二人一組都合八人ノ法師ガヨウ〳〵ト言フ間アラセズポン〳〵ト各自一本ノ竹ヲ一節アケテ約三尺ヅヽニ四斷ス　孰レカ勝　孰レガ負　此ノ時早クモ大総ガ審判下リ一聲高ク近江勝チトカ丹波勝チトカノ判語ヲ發ス　スルト勝ノ方ハ其ノ竹ヲ悉皆拾ヒ揚ゲ抱ヘ込ンデ下ノ本坊ヘ驅ケ入リ勝負全ク判カル　此ノ竹切ノ時間ハ三分ニシテ式中ノ時間ハ五十分ナルベシ　而シテ近江ノ勝ニ歸スルヤ其ノ年ヲ全國平均ノ豊作トシテ大ニ祝フ其ノ昔大蛇出デ山中ヲ荒ラシ人家ヲ害スルヲ以テ時ノ住持僧峯延上人ガ兩國ノ内ヨリカ人ヲ募リテ退治セシメタルヨリ今ニ至ル迄江丹二國

京都府立総合資料館所蔵

より其ノ式ヲ行フノ故事ヲ存スルモノト云フ

竹切や近江丹波のあらしふき　弄鵜

大正十年六月二十日午前二時半ヨリ本堂ニテ擧式ス竹切神事ノ古式ナル蛇焼ハ前日ノ午後十一時後御向山一名龍ヶ嶽ノ頂上ニ於テ行ハル是レハ村ノ總立ト呼ブモノ四人ガ高ク松火ヲ掲ゲ嚴ナ町ノ山路ヲ懸ケ登リ一人ノ指揮者ヲ中央ニ圍ミ四人ハ松明ヲ打チ振リツヽ幾回モ廻轉シテ其ノ式ヲ了ル此ノ時分ヨリ丹波方面郎ち西國ト近江方面郎ち東國トノ米作ヲ占フ相場師等ガ熱心ニ見物スル樣頗ル雜沓ナリ　間モ無ク村ノ舊家ヨリ成ル總立ト呼バルヽ輩八人各自僧服ヲ身ニシ太刀ヲ肩ニシ法螺ヲ吹キ鳴ラシ鞍馬山八町ヲ悠々ト登リ朱塗ノ樓門ニ入ルヤ本堂ニ在ル信樂和尚ハ一山ノ僧侶數十人ヲ率ヒ真言秘密ノ誦讀ヲ成シ本堂階段上ノ鳩旌大蛇ニ比シクル旌竹雄竹四本中ノ旌竹二竿ヲ取リ出シテ墨染ノ衣ニ襷ヲ掛ケタル法師ニ令スレバ該法師ハ進ミ出デ太刀ヲ揮ヒ懸聲勇マシク一定ノ長サニ切リ放シ之レヲ本堂ノ内ニ持チ込ム切ラレタル四竿ヲ配置能ク並ベ右二本ハ近江方ト為リテ讀經ノ聲起コリ信樂僧正高壇ニ登リ立チ檜扇ヲ以テ竹斬祭執行ノ合圖ヲ為スヤ勇ミ立チタル僧侶ガ襷堅ク衣ノ袖ヲ搾リ又イヽ聲シテ進ミ出デ堂宇モ破レンバカリノ懸聲ヲ合ハセ太刀真

他ヒラミハ林シケウニノ意

甲ニ振リ揚ゲ一本ヲ四ツニ切リ離シ都合十六本ニシ以テ其ノ式ヲ畢リ僧正以下退出シ今回ノ勝ハ丹波方ニ歸シ其ノ切レ味ヲ顯ハセリ　前條ト併ハセ見ヨ

他しらみ見ふく侍るゝんころ　作人知ラズ

京都府立総合資料館所蔵

士風ノ變遷　大名ノ臣下ハ上ヨリ下ニ至ルマデ
堅苦シキモノデ假令内心ハ柔和放埒ニ傾クトモ
外面ハ武々敷ク淫靡ヲ禁ゼラレアルヨリ少年輩
モ國元ニテ割烹店ニ入ルヿハ絶エテ無カリシニ
万延元治ヨリ世ハ騒ガシク武家ハ何日何時國難
ニ趣クヤモ計ラレヌヿトナリ他藩ノ交際モ始マ
リ周旋方ト云フ新役興ヨリ杯盤狼藉絃歌相和ス
ルノ間ニ國事ヲ横議スルノ風習ヲ成セルヨリ國
元ニテ其ノ餘波ヲ受ケ藩中ノ諸生嘴ヲ世事ニ
容レ初ハ吟詩高唱任ナリシモ慨世ノ詞調漸激昂

スルヤ幕府ニ當テツケタル口調モテ俚歌ヲ唱フ
ルニ至ル諸藩ノ大目付ナル職務ハソレ等ノ取締
ヲ爲シ一藩ノ方向ヲ立ツベキ任ニアルモ志氣ノ
興奮ヲ怕レテ敢セズ流潮ノ向フガ儘ニ一任シタ
ルヲ以テ壯年輩ハ學校ニテ論孟ノ講席ニ列ナル
モノ日ニ少キヲ加ヘ文天祥ノ正氣歌ヲ唱ヘ名臣
奏議ヲ讀ミ靖獻遺言ヲ懷ニシ勤スレバ舊志操論
者ト衝突スルヿアリテ何レノ藩モ士氣ノ統一セ
ザル秋トナリヌ當時京都ヨリ輸入シ亀山ニ入リ
漸次西行シタル流行歌ニ曰ハク

さくーら花（神）さくーら霧が山系花鬱波（掛）
乃さつきろ（下ゲ）今宮ク　萩仰山な（嘉）菊大原

氏（同）葛蒲杜若ふ女郎花（平）蘭公英花ケ（早）

〜（高早）蓮華花咲かせろ　白ゲ好きなら（ロ戸辯）

もつも（高）牡丹ふ美人草

右ノ内草木ニテ菊ハ申ス迄モ無イガ萩ト牡丹ガ利目ノ多キ點デアル萩ハ長州藩毛利大膳大夫家ノ紋ニシテ牡丹ハ五攝家中ノ紋デアル其ノ内下ガリ藤ノ紋ヲ附ケタルモアリ五攝家中二條家ハ下ガリ藤ヲ專用ヒタルガ是レノミ幕府方ノ隨一デアツタ此ノ歌ヲ口ニスルモノハ勤王ヲ以テ自任スルモノヽ目標ニテアリシ

△コヽドウコ　丹波ノミ一チ　丹波ノ道ニハ　チヤーガ（蛇）ナル

領主ガ領民ヲ保護幣勵スルノ方法ハ封建制度ニ

△京都ノ小唄歌

○如何ニ丹波ガ京都ノ人ニ嫌ハレ視セラレシカ

テハ一定ノ準則アラフ筈ハ無キモ名君良主ノ出ヅルアレバ往々法令ヲ出ダシ又ハ代官ヲ派シテ金令ヲ傳ヘシメ改善ノ道ニ就カシムルヿ朝セズシテ同シ下文示ス所ノ制札文ノ讀ミ聞カセ百ケ條ノ大意説明其ノ外福知山ノ部（天田郡）ニ示セル岩間ノ水ナル文ノ如キ田井縄村改革方法ノ如キ（氷上郡蓋田村参看）徳川氏三百年間ニ於ケル施治方一々枚擧ニ堪エス今畧ス

ふれ〜こ空多んぢのこ空と以ふるよ枚つきふるひたるふ以なれバこ空と以ふ多ゑれこ空と以ふべきをあやまりてたんぢのとハ以ふなりこゝ

つれ〜草

京都府立総合資料館所蔵

維新ノ王政ヲ驩迎セシモノ贊助セシモノト動氣
幕末ノ政治ガ優柔不斷朝令暮改ナルヲ厭嫌シタ
ルモノ　士民ノ大半
朝廷ノ緣古アルヨリ朝廷ノ臣民タラシヿヲ希望
セルモノ　神職　北桑田郡人等
幕府ノ處置ニ不平ヲ抱キ蟄伏セルモノヽ奮起
南桑田郡馬路村鄕士
勤王主義ヨリ起コレルモノ
北桑田郡山國隊
日本外史政記及ヒ水戸派學術ヨリ來ルモノ
諸藩士學者民間ノ學者
幕府代官諸藩從人旗下私領ノ誅求贈賄ニ苦ムモ
ノ　悉百姓
膝栗毛ニ於ケル滑稽中彌次郎兵衛北八ガ丹波人
ノ高野山ヘ納メントテ妻ノ遺骨ヲ菓子ト取違ヘ
テ喰リタル丹波人ガワレニ對スル野呂間加減ハ
一九ガ丹波人氣ヲ能ク飲ミ込ミ能ク吐キ出シタ
ルノ妙味アリ

丹波堅氣一節　丹波口碑一節

丹波人ガ門閥ヲ尊ビ血筋ヲ貴ブハ全國民種中希
ニ見ル所ナリ今其ノ因リ來ル所ヲ左ニ摘記シ國
家ニ事アレバ奮勵躍起スル事條ヲ叙シ維新ノ際
ニ北桑田郡ヨリ山國隊ヲ出ダシ南桑田郡ヨリハ
馬路兩苗隊ヲ出メシ國家ニ貢獻シタルノ原由ア

京都府立総合資料館所蔵

ル歴史ヲ茲ニ著スベシ之ヲ丹波侍氣風トス畧シテ丹波堅氣トス

主基御領ノ國ト云ヘバ丹波國ノ代名詞トモナリタルヿ　丹波權頭ハ丹波人ニシテ七莊司頭長ヲ以テ補任セラレタルヿ　京都叢雲御所廳ニ屬隷シタルヿ（多紀郡村雲村ノ部ニ出ヅ）陣ノ座ナルモノヲ設ケ朝廷ノ公卿補任ニ模シタルヿ　當國ヲ初メ諸國ニ令シ賦租貢物名産上宜ヲ納徵セシムルノ特權アリタルヿ　年中行事ヲ分掌シ附庸ノ輩ヲ率ヒ交代登廳シタルヿ　七莊司ノ下ニ七下司アリテ職事ヲ勤ム賴朝起ルニ及ンテ七莊司七下司ヲ七組七頭トシ之ニ武役ヲ充テ將長トナセレヨリ再後武威ノ下ニ服シ京風ヲ失フ　雄井丹波守ガ當國ノ守護代トナリ土肥次郎實平ガ入京シタル時ヨリ當國ノ人氣ヲ鎌倉ニ向ハシメタルトブ　北條義時ガ篝番ヲ京都ノ四外ニ置クヤ六波羅ノ兩檢斷ヨリ本莊波多野家ヲ其ノ首長トシ七組七頭ニ令シテ資財ヲ供給セシムルニ止メ篝役ヲ課セズ丹後但馬ハ半減ナリ是レハ元ノ一國タリシヲ以テノ故トカヤ　叢雲ノ管長本莊三丹國ヲ支配シ貢獻納物ヲ掌ル　七莊司七下司七頭七組ナルモノハ本宗廢流ハコレアルモ皆名門高家ニシテ新庄今庄中庄手庄芋毛大芋洗小芋洗生雲穴人穴道薗部住田余田内藤原冨路小泉小山野尻栗住野波々伯

京都府立総合資料館所蔵

部福住芳賀野酒井長澤鳥養本目三草小野原等ヲ
言フ　奥名左大臣ノ三男美作守兼土佐介末茂卿
八世ノ後胤正二位修理大夫内藏寮太宰大貳春宮
亮左兵衛督丹波守兼播磨守帥隆卿始メテ本莊ノ
館ヲ移住シテヨリ庶流繁盛ナリ宇合卿十三世ノ
後胤植楫童房卿ノ子孫入リテ本莊家ヲ續ク　波
多野次郎中務丞澁口ノ忠綱カ賴朝ノ時ニ檢斷ト
ナリ同後ノ足立右馬允遠光ト共ニ目代山内三郎
須藤經俊同道シテ下向シ下知ヲ三丹ニ傳ヘ遂ニ
其ノ子孫ヲ當國ニ移住セシメタリ　右三使モ主
基ノ國タルノ故ヲ以テ禮ヲ厚フシテ當國ノ士ヲ
待セリ　忠綱ハ知慧武勇ノ士ナルヲ以テ鎌倉ノ

計ヒトシテ其ノ養子彌三郎經康ヲ澁口ニ召サレ
從五位下左衛門佐ニ任セラレ藤判官問注所兼田
公職事丹波權頭兼丹後守本庄童方カ女ヲ嫁シテ
其ノ家ヲ續ガシム　八上管領ノ家ナリ之ヲ童方
カ庶流トスレドモ正統ヲ續キ本庄ヲ名乘リ平太
郎童氏ト言フ八上兵部丞宇土秀童ソノ後胤ニシ
テ荒木兵部少輔氏好山城守氏綱等本庄ノ庶流ニ
ラ其ノ陣代タリ波多野上野介元秀備前守秀忠ハ
一族ノ黨長ニシテ名代ナリ　久下權守直光カ子
彌次郎直童梶原刑部丞友景荻野彦三郎朝童等モ
上使トシテ來住シテ子孫ヲ遺セリ朝童ハ荻野三郎
景繼カ子ナリ　文覺上人ハ賴朝ニ於テ儒ナキ恩

京都府立総合資料館所蔵

人ナルガ（南桑田郡保津村文覺寺参看スベシ）叢雲ノ莊ヲ所望シタレドモ頼朝ノ遠慮ニテ之ヲ許サズ他ノ庄園ヲ倍シ遣ハセリ　毛利元就ガ陶全薑ヲ誅伐シタル綸旨御教書ノ請願モ八上ノ晴秀氷上ノ雄秀ガ口入シタルナリ　兩家ハ軍勢ヲ出ダシ但馬因幡ノ堺ニテ尼子勢ヲ牽制シ備前ノ浮田ニモ毛利ヨリ式對アリテ主家ノ仇ヲ復スルヲ得タリ　大内義隆ノ遺言ニヨリ彼ノ一迹七州ヲ元就隆元父子ニ賜ハル　此ノ敕命幕令ヲ謝シ奉ラシガ爲ニ正親町天皇御即位資料ヲ獻ズレドモ元就父子ハ藝州ヲ出ヅルヿヲ得ス晴秀雄秀ハ元就ノ末子小早川隆景ヲ伴ヒ丹波勢壹萬三千餘ヲ帥ヒ上洛シ山ナス獻上物シテ洛中ノ目ヲ驚カシタリ　將軍足利義昭ガ織田氏ト確執アルヤ元弘ノ例トシテ丹波ヘ勤坐アルベキノ所毛利家ノ望ニヨリ備後ニ移サル　織田ト丹波家ト確執ニテ波多野家ハ詭計ニ陷ヰリ遂ニ亡ブ　弓箭ノ道ニ於テハ瑕瑾ナキヲ丹波衆ノ特色トシ後世ニマデ弓箭ノ家トシテ永ク其ノ法ヲ傳ヘ失墜セズ

七莊司由緒　本莊家ハ叢雲管領長官ナリ平太郎棟用ハ從四位下式部大輔ニシテ丹波守ヲ兼ネ三丹押領使山陰知事諸國公稅朝供朝貢大職事大領タリ　叢雲縣宍人縣ニ住シ肆基悠紀ノ貢稅ヲ掌ル　洛陽叢雲御所ソノ所ナリ　棟用ハ藤原伊賀

京都府立総合資料館所蔵

守保方ノ四男ニシテ保方ハ武智麻呂三世ノ孫從五位上皇后宮大進兼武藏守經邦ノ次男ナリ　師隆卿（前文參看スベシ）ハ本莊家ヲ相續シテ中興ノ祖トナル正二位修理大夫内藏頭太宰大貳春宮亮左兵衛督丹波守兼四國美作播磨等七州刺吏タリ　前ニ示セル新座以下二十九姓ハ此ノ叢雲黨トス　大芋洗家ノ紋左ノ如シ　此ノ本庄家ヲ宗家トシテ次ヲ第二陣ノ座トシ第七陣ノ座ニ至ル卽チ七莊司ノ家格ナリ　波多野ヲ以テ丹波管領家ト呼ブハ此ノ七莊司ノ第一座ニアル本庄叢雲ノ地ニ住シ其ノ跡ヲ襲ギタルニ因ルナリ

第二陣ノ座　長澤一ニ永澤ニ作ル　此ノ家丹波摂津ノ境ナル長澤縣ニ居リシヲ氏トス長澤縣元ハ丹波ナリ後ニ居ヲ小山ニ移ス（船井郡園部村大字大山參看）永ノ字ヲ長ニ改ム小山忠門ハ六郎ト稱ス從五位下丹波權守田長官兼御廚職軍膳所ノ兼資財塩錢使兼中宮大進タリ巨勢麻呂ノ第經邦ノ嫡男ナリ元暦中長澤六郎遠種ノ息女判官義經遺腹ノ子ヲ産ム依リテ之ヲシテ長澤ノ箕裘ヲ襲ガシム之ヲ六郎次郎義種トシ爾後子孫源姓ヲ犯ス

第三陣ノ座　丹波權少野繼從五位下ニ叙セラレ公田職事管路内檢斷貢稅使兼内侍供饗齋宮佐内藤判官澁口ト稱ス末茂卿ノ二男ナリ野繼九後子

孫中絶ス殿木丹後守従五位上内藤原判官根乙麻呂當職ヲ兼帯ス　武智麻呂――従一位右大臣兵部卿横佩豊成――○――三世――○――従五位上右衛門權佐長道――○根乙麻呂――齋院長官従五位下右衛門權助佐伯永雄磨――永雄――摂津守従五位下藤岑　曾路縣ニ居ル此ノ家ノ相續ヲ爲ス

第四陣ノ座　酒井三郎ノ家新ニ興リ第三座ノ陣トナル　祭酒所造酒正新嘗司従五位下南庄檢斷田所貢税守兼悠基使兼異國朝貢使兼隠防舟梁使兼驛路使右衛門尉丹波權介公明巨勢麻呂四男従五位下右衛佐弓主四世ノ孫ナリ

第五陣ノ座　新座　本莊庶流　平三郎瀧口安綱警衛大夫普門長官従五位下兵衛佐兼典廐所左馬權頭兼兵庫頭兼内藏寮兼山林使衛仙掌兼封境判官丹波權介タリ魚名卿四世ノ孫ナリ

第六陣ノ座　住田八郎茂繼　内侍所供饗使典膳職事御薗守住田守膳所大夫従五位下采女寮兼布帛掌織部寮縫殿寮兼門注所判官丹波權守タリ

第七陣ノ座　余田　權太郎經成　殿守大夫肆基御尉大椽藥薗守余田守従五位下丹波郡司兼河海使兼魚塩使兼朝貢使判官タリ野繼ノ子ナリ

以上

七下司　第一陣ノ座　太秦弓削栗田山國高藤等八皆長官ノ家ナリ　太秦八秦川勝ノ子孫ナリ弓

京都府立総合資料館所蔵

削モ亦同シ或ハ謂フ道鏡ノ遺種ナリ弓削六郎道
秦アリテ名ヲ残シタルモ其ノ先姓ヲ詳ニセズ
桒田氏ハ藤原桒田麻呂長雄ノ苗裔ニシテ長雄麻
呂ハ（一ニ永雄ニ作ル）殿木丹後守根乙麻呂ノ子ニシテ丹後檢
斷トナル　弓削庄ノ内ニ殿木大前両家アリ根乙
ノ子孫トシテ殿村氏ハ殿木氏ノ庶流ナリ桒田永
雄麻呂ノ後ニ云フ或ハ云フ大前ハ秦姓ナリト両
秦倭大隅大宅川上モ秦ナリ隅南隅手西田西山西
村河合河江等ハ太秦ノ庶流ナリ　桒田永雄麻呂
ニ御刀部姓ヲ賜フ一ニ身人部ニ作ル御隨身ニシ
テ寶劔ヲ載抱スルノ家ナリ　主基改補ノ最初ナ
ル七下司之職永暦ヲ以テ筭一陣ノ座長トス後人

御刀部ヲ以テ水戸部トナス永麻呂弓削ニ居リ之
ヲ梨間縣ト呼ブ後ニ山國縣ニ移ル高野縣ト呼ブ
地ナリ縄野縣ニ堺ス其ノ流水ノ口ニアルヲ以テ
水戸ト呼ブ子孫コレヲ氏トス其ノ宗家ハ山國ト
呼ヒ規矩ト呼ブ直作頭職事タリ　高藤ハ桒田ノ
庶流ニシテ一宮大明神ノ祠官ナリ　其ノ子孫ニ
鳥居アリ佐伯アリ（南桒田郡佐伯ノ部参看）桒田郡佐伯庄山國庄
永上郡中村庄ニ居ル　弓削及ビ三十六黨ナルモ
ノアリ弓削六郎道秦ハ弓削縣主田公文職事从新
當下司兼山林押領使掾従五位下普門警衛大夫兼
内藏人式部少輔タリ祖先ヨリ弓削ニ居ル　前示
ノ秦姓外ニ東太秦西太隅稲那美香稚志摩等アリ

比果モ亦然リ一ニ比賀ニ作ル西方真喜村波洋麻
貴士師隅倉西野鴨庄與西等ハ太秦姓ノ別種ナリ
道鏡ニ与前山國西莊ヲ賜ヒ三十六人ノ官人ヲモ
賜ヒ其ノ黨與トナル越智甲良日下部寺川太田小
早川黨ノ庶流繁多ナリ　越智孝靈天皇第二皇子
伊豫越智ノ姪ナリ推古天皇ノ時河野道益桑田郡
ニ入リ住ム河野モ亦越智姓ナリ甲良ハ百濟ノ甲
良皇子川勝ノ招キニ應シテ来朝シ工匠ノ事業ヲ
起コス廐戸皇子ノ為ニ技藝ヲ顯ハシ桑田郡ニ封
セラル　日下部ハ孝德天皇ノ有馬皇子ノ嫡男表
米麻呂ニ出ヅ麻呂カ外國兵ト戰ヒ功アルヲ以テ
此ノ姓ヲ賜ヒ但馬國ト桑田郡トニ地ヲ賜フ朝倉

八木勢坂雄井加勢田等ハ日下部姓ナリ
山國氏ト三十六黨　山國縣主規矩少副造創大職
事内匠寮木工寮修理寮大夫御殿守分兼掃部助山
林御杣使大領國永ハ百濟國甲良王ノ後裔嫡流ナ
リ一說ニ川勝ノ裔ト云フ國永大領永雄麻呂ノ妹
ヲ娶ル殿木根乙麻呂ノ女ナリ國永ノ子孫斷エ永
雄麻呂ノ嫡孫嗣ヅ甲良ヲ改メ藤原姓トス　桑田
大領ハ野々村鄕河志摩縣ニ住ス後ニ山國邑繩野
縣ニ移リ又高野縣ニ居ル　田文田公貢献朝貢使
太夫山林御杣大職事兼河海使少領兼問注所内記
從五位下齋院長官右衛門佐御刀部永雄麻呂ハ從
五位上殿木丹波守根乙麻呂ノ子ナリ横佩豊成ノ

京都府立総合資料館所蔵

曾孫ナリ或ハ云フ永麻呂改任ノ後弓削六郎道泰ノ女ヲ永麻呂ニ嫁シ道泰其ノ職ヲ継ギ改メテ之ヲ弓理右近將監ニ譲ルト

第二陣ノ座　葦田小太郎警衛大亮普門大副兼檢非違使藤判官従五位下左兵衛佐矢田棟違ハ従四位下式部大輔兼丹波守棟用ノ子ナリ　源義家ノ男河内判官義忠ノ三代矢田判官義清ノ子爲光此ノ國葦田庄ニ配流セラル子孫アリ小槻兵衛尉家光及ビ黒源太光忠芽武威瞻畧アリ棟違ノ女ヲ以テ家光ニ嫁シ之ヲシテ家業ヲ續ガシム依リ藤姓トナル後ニ源姓ニ復ス　赤井ノ族ハ此ノ葦田ヨリ出ヅ

第三陣ノ座　平太夫武庫寮大職事従五位下兵庫頭兼内藏頭兼舎人助兼警衛普門少副保雅ハ従四位下皇后宮大進正雅ノ子ナリ経邦卿ノ四男従四位下内藏頭興方ノ孫ナリ後ニ植楫童房卿ノ子孫芋氏ヲ相續ス叢雲ノ庚流大芋次男ノ家ナリ小芋ハ小芋洗ノ嫡流ナリ

第四陣ノ座　水尾村上兩流　水尾縣主舞曲田歌執奏使兼警衛普門藏人兼貢祝朝貢太夫兼水尾御廟守義堅ハ元保津庄素生人ナリ愛宕郡水尾縣ニ住ス川勝ノ子孫氏云フ仍テ神樂曲領八十章ノ故實ヲ傳フ川勝制スル所ノ謠曲ナリ故ニ子孫ナル義堅モ舞曲田歌ノ執奏ヲナセルナリ或ハ云フ水

京都府立総合資料館所蔵

尾天皇ノ遺詔ニテ御廟ヲ守リ源姓ヲ賜フト或ハ云フ水尾ノ村上モ保津ノ一族ナリト或ハ云フ當職交替シテ勤ム馬路川原瓦関井関皆一黨ナリ而シテ一族ナリト

村上小次郎警衛晉門權守貢祝朝貢太夫新嘗祭供少職事典膳使少副從五位上隼人正義次ハ保津素生人ニシテ保津ニ居レリ或ハ云フ村上天皇々子具平親王ノ後裔ナリト或ハ云フ元弘建武ノ間護良親王ノ隨臣村上彦四郎義照ノ息男次郎義則當家ノ女ヲ娶リ其ノ家ヲ續ク二條黄門隆資卿當國々司タルノ時守護代雄井丹波守盛景ヲシテ媒妁ヲ爲サシムト或ハ云フ主基改任ノ時ニ藤原末茂卿ノ三世從五位下藏人頭經右下司トナリ保津ニ住ス其ノ頃水尾縣主ノ後裔下司ニ除セラレ舞曲田歌執奏使トナリ水尾御廟守職事ヲ兼ネ經右ノ女ヲ娶リ以テ家ヲ建フ經右ノ外孫ナルヲ以テ藤氏ヲ稱シ藤氏ノ紋ヲ用フト

第五陣ノ座　中澤次郎ハ小山ノ長澤廣流ナリ典膳使大膳亮兼御薗守藥園使兼田公々文大副從五位下主膳重成コレナリ大澤小澤田澤村前澤三澤澤野中路中小路中西今西寺西寺服山服寺町寺澤寺島寺村寺井寺川等當國丹後ノ素生人皆中澤ノ流派ナリ重成ハ丹波權守東宮大進小山忠門ノ子ニシテ巨勢麻呂ノ九男從五位上近江守ノ嫡男經

邦ノ第ナリ或ハ云フ植楫室房卿子孫中澤ヲ相續
スト或ハ云フ大永天文ノ頃細川右京大夫ノ附庸
中澤新兵衛正綱當國ニ入ル正綱元ハ寺服ヲ氏ト
ス細川高國ノ長臣寺服新左衛門興行ハ正綱ノ庶
流ナリ或ハ云フ明應正慶ノ間ニ細川右馬頭政國
ノ附庸大石與三左衛門秀家栗田船井兩郡令トナ
リ佐伯ニ住ス明德文明ノ間石原五郎右衛門尉佐
伯ニ居ル公家方昵近ノ士ニシテ大石石原共ニ佐
伯ノ素生ナリ佐伯公秀ノ後亂ニシテ栗田佐伯ハ
一流ナリ大永天文ノ始ニ高國ノ長臣寺町三郎右
衛門通賢八木與次郎景勝當國ノ郡代トナル二人
ハ寺町縣ハ木縣ノ素生人ナリ　八上管領秀治東

軍ト戰フヤ佐伯一族附屬ノ輩吉孫緒方大宰臼杵
規矩澄杉谷別府戸澤福光等黑井八幡山下等ノ戰
ニ死ス

第六陣ノ座　鷲尾　鷲取　鷲尾　十郎太夫春峰
ハ丹生山田判官代山林御杣使大副兼藥園使兼御
廚使奏入梅使御牧使御牛車使從五位下木工權頭
タリ鷲尾春峰ト稱ス齋院長官右衛門佐從五位下
永麻呂ノ孫ニシテ從五位下攝津守藤峯ノ子ナリ
母ハ魚名左大臣ノ次男從四位下鷲取春茂ノ孫ナ
リ丹生山田產田田井友田谷田伏田宮田尾多田谷
山和田神田伊田三種小野原日出崎深尾村尾畑小
畠小泉泉原中泉野中草山野々垣今泉棚間馬岡紅

京都府立総合資料館所蔵

井一原佐治桴柴小柴隈等ハ警取藤原ノ後亂ナリ
或ハ云フ明德文明ノ間細川右京大夫賴元ノ附庸
産田式部丞丹生山下ニ住ミ後ニ産田ニ移リ當國
ノ守護代トナル攝丹兩國ヲ支配ス
第七陣ノ座　小島次郎永繼ハ藤判官肆基大尉田
所公文貢祝新嘗供御大職事運送大副按察使兼布
帛使資財使土産魚塩使權頭從五位下右近太夫タ
リ丹波權守野繼ノ次男永藤ノ子ナリ小山長澤ノ
庶流ニシテ中島森嶋藤島高嶋皆同シ小島後ニ兒
嶋ニ改ム建武亂後兒島備後三郎高德義清法師小
山ノ長澤中澤ヲ憑ミ多武峰ヨリ當國ニ入リ兒子
ヲ以テ之ニ授ク小嶋三郎次郎ト呼ブ小嶋ノ女ニ

ヨリ其ノ家業ヲ繼ガ兒嶋次郎左衛門高亂ト稱シ
將軍家ニ仕ヘ其ノ家ヲ惣ニス子孫ニ至リ嶋ニ改
ム或ハ云フ隱岐五郎次郎秀亂隱岐五郎高賢等ノ
後亂ナリト當國ノ隱岐氏ニ二流アリ其ノ一ハ兒
嶋黨ナリ其ノ一ハ塩冶黨ナリ

京都府立総合資料館所蔵

足利氏ト丹波トノ關係

足利氏天下ヲ取リテヨリ正平年間ニ其ノ臣仁木頼章ヲ以テ守護トシテ仁木義尹ニ至リ江田行義ト之レヲ分領シ山名時氏同満幸氏清氏時ノ領スル所トナリ明德中細川頼之ノ領地トナリ頼元持元勝元政元ニ至ル

細川武藏守政元ハ齡既ニ四十ニ至ル迄當ニ魔法ヲノミ業トシ婦女ヲ近ヅケザルモノカラ代ヲ繼グベキ男子無キニ由リ讃岐ノ代官香西又六元近ヲ始メ衆議ノ上九條關白尚經公ノ次男ヲ乞ヒ政元ノ幼名ヲ繼ギ總命ト稱シ又改メテ澄之トス政元之レヲ聞キ他姓ヲ入レテ吾ガ血統ヲ紊ス可ラズト云ヒ細川

京都府立総合資料館所蔵

政春ノ子高國ヲ養子トスルノ内約ヲ定ム高國西國ニ在リテ將軍義稙ニ追隨シ居レバ阿波ノ細川六郎澄元ヲ迎ヘ入ル、ニ一決ス澄元ハ細川讃岐守之勝入道ノ孫ニシテ文武ノ達人ナリト曰ハル、人ナリ藥師寺與一赤澤宗益コノ事ヲ周旋シ遂ニ以爲ヘラク狂主政元ヲ退ケ六郎澄元ヲ家督トセント竊ニ其ノ計畧ヲ施ス政元薄々其ノ陰謀ヲ察シ誅伐ノ詮議アルベシト聞コエケレバ先キ立ツニ如カジト永正元年九月初旬宗益ハ伏見竹田ヨリ切リ上ラントシ與一ハ淀城ニ籠モレリ與一ノ第與次ヲ始メトシ與一ノ大ネ忠ヲ惡ミケレバ一味スルモノ一人モ無シ淀城ハ攻メラレテ十八日ニ落チ與一等自殺ス

同二年ノ夏政元ヨリ澄元ノ迎トシテ藥師寺與次改名三郎左衛門ヲ阿波ニ遣ハス澄元上洛シ三好筑前守長輝等供奉ス京謠アリ是レヅ細川ガ二流レニナル印ナリト九郎澄之ニハ丹波ヲ與ヘ其ノ住所トシ之レニ赴カシム澄之ノ惑リ太甚シク軍議ヲ講ゼリ

同年秋九月謀議一決シ澄之伐ツ可シトテ其ノ中旬政元大將ト爲リ香西ヲ山科ニ攻メントス香西コレヲ聞キ嵯峨嵐山ノ烏ケ嶺ノ城ニ入ル福井四郎竹田孫七藥師寺三郎左衛門等同意シテ政元ノ近臣戸倉次郎ニ賄賂シ政元ノ隙ヲ伺ハシム四年六月廿四日政元愛宕山參詣ノ爲トテ潔齋シテ湯殿ニ在ルヲ好機ナリトシ戸倉浴室ニ入リ政元ヲ刺ス波々伯部伯

京都府立総合資料館所蔵

香守之レヲ見テ一太刀切リ付ケタル所ヲ巧ニ遁ケ去レリ是ニ於テ藥師寺香西等ハ九郎澄之ニ細川本家相續ヲ為カシメントテ翌廿五日澄元ノ屋形ヲ攻ム澄元三好長輝ヲ具シ江州甲賀ニ奔ル香西等澄之ヲ丹波ヨリ迎ヘ細川ノ家ニ入ル然ルニ澄元江州ヨリ攻メ上ルト聞キ澄之大將トナリ藥師寺香西戸倉福井竹田等嵐山ニ籠モル澄之ハ還リテ京都ノ館ニアルヲ知リ江州勢押シ寄セ戰フ所ヲ嵐山勢來リ救ヒ大ニ戰ヘトモ防グ能ハズ澄之自殺ス是ニ於テ澄元ハ再細川ノ館ニ歸リ長輝其ノ政ヲ專ニシ法制大ニ紊レ京ニハ奈良元吉攝津ニハ伊丹元扶丹波ニハ内藤備前守眞正等澄元ヲ背キ甲賀ノ方ヘ退去セリ

永正八年　細川澄元ハ如何ニモシテ京都ノ敵ヲ追落トシ義澄ヲ將府ニ入レト欲シ七月七日細川政賢ヲ始メ一門ノ人々ト共ニ堺浦ニ着船ス京都ヨリ高國方ノ勢寄セ來リ合戰ニ及ビ高國方敗シ五ニ勝敗決セズ　前將軍義澄近江ニ奔ズ同十七日將軍義植丹波長坂ニ退キ敵ヲ避ク細川政賢赤松勢ト京都ニ入リ舟岡山ニ城キ之レニ據ル將軍義植丹波ヨリ出ヲ來リ高雄山ニ陣シ舟岡ヲ攻擊シ大戰ス丹波住人竹内太夫手勢五百人ヲ率ヒ一方ノ防戰ヲ為セシガ城陷ルヲ以テ落チ行ク所ヲ打クレ鏖殺セラル九月朔日將軍入洛ス

丹波ノ門徒ニ弓手アリ　元龜天正年間織田信長ヨリ

京都府立総合資料館所蔵

大坂本願寺ヘ使者ヲ以テ退去命令ヲ發スヽ曰ハク今般大
阪ニ築城スベキニ由リ退去スヽ可シ他ニ適當ナル地ヲ
乞ニ應ジテ與フベシト門徒應セズ是レニ依リテ戰
爭始マル
此ノ役ニ大阪方ヨリ螢ハ笹下針鶴頭發中但中封
無ニナド云フ妙手ノ砲術銃者アリ此等ハ越前加賀
能登紀伊丹波ヨリ馳セ集マリタル兵ニシテ心モ勇ミ
カモ强ク目モ利キタレバ浮矢ソレ玉ハ一ツモ無カリケ
ル

管領波多野秀治ヨリ丹波地附ノ旗頭畑中三郎淡
谷伯耆并河内匠田井内膳名和又左衛門五人ヲ以
テ藝州ヘ使節ト指シ向ケ云ハセタル中ニ以後丹
波侍ニ對セラレ努々無禮爲シ玉ヒソ丹波ノ國ハ
朝家主基ノ御領トシテ元來百官ノ人々蹤ヲ停メ
テ候故鎌倉殿ニモ大ニ御心ヲ置カレタル由ニテ
候將軍家ニハ御懷國ト思召サレ厚ク御心ヲ掛ケ

京都府立総合資料館所蔵

玉ノ國士ノ風俗他ニ越エテ意地合強ク候ゾ服部大云々

以上

毛利家ト丹波家ノ關係　軍畧上丹波京都ノ關係ハ

頃ハ天正年間織田信長尾張ヨリ起コリ東北ヲ攻畧シ西南ニ及バントス特ニ足利將軍義昭ヲ守リ立テ名實ノ在ル所向フ所靡カザル少シ此ニ於テカ其ノ將明智日向守光秀ヲ以テ正軍トシ木下筑前守秀吉ヲ以テ奇軍トシ東西ヨリ丹波ニ入ラントス此ニ於テ飛報日ニ丹波ニ入リ人心恟恟タ赤井刑部少輔幸家（氷上郡黒井村ノ部ヲ參照セヨ）等一味同心ノ者ヨリ使者ヲ以テ安藝國毛利家ニ送リ吉川元春ニ連合策ヲ勸告シテ曰ハク

急キ丹波ノ國ヘ御馬ヲ出ダサレ候ヘ面々御先ヲ仕リ愛宕山ヘ攀躋リ京都ヲ目ノ下ニ見下シテ諸術ニ手遣仕リ候ハンニ必勝ノ術計誠ニ竈上ノ塵ヲ掛フニ異ナラズ路中ニ遺チタルヲ拾フヨリ易ク候ヒナンズ信長ハ定メテ本能寺ニ在リテ諸軍士ハ皆嗟嘆鳴鏑邊ニ張リ出シ陣取リ候ハン其ノ時味方ノ士卒共ヲ洛中ニ隱シ置キ相圖ヲ定メ風ヲ待チ東南ニ火ヲ放チ西北ヨリ切ツテ入リ候ハ

京都府立総合資料館所蔵

ゞ如何ニ猛キ信長ナリトモ一日ノ中ニ敗績タルベク候ヲ京都ノ合戰ニダニ利ヲ得候ハゞ逃ルヽ敵ノ勞レニ乘リ安土迄押シ入リ織田ノ一族ノ根ヲ斷チ枝ヲ枯ラシ候ハン事何ノ難キ事カ候ヲベキ是非ニ就キテ近日御發向候ヘカシト勸メ申シケリ元春頷テ靭ノ公方義昭公（當時義昭ハ信長ト不和ニシテ靭ノ津ニアリ）ヘ此ノ儀言上有リケレバ公方ハ何分ニモ元春能キニ取リ計ヒ候ヘト台命有リケル間元春ハ先ツ兒玉市ノ助春種青彦三郎春任ノ兩人ヲ丹波但馬ヘ遣シ國人共ノ申ス計策ノ細大委ク尋問シ彼已ノ利失ノ工夫ヲ爲セシガ赤井等ハ元春既ニ領諾セリト聞キ大ニ悅ビ丹波國鬼ガ城ヲ（天田郡巷我村ノ部ニ出タス）取リ誘

ヒ元春ノ本陣トスベシトテ特々ト経営シ不日ニ成就セシカバ元春ノ出張ヲ今ヤ遅シト待チ居メリ斯カリケル處ニ宇喜田和泉守直家ヨリ隆景ヘ云ヒ送ラレケルハ尼子左衛門尉勝久山中鹿之助以下二千騎播州上月ノ城ニ籠モリ美作国ヘ入ラントス某甲一身ノ謀ヲ以テ攻メ落トサンヿ難キニ非スト雖モ羽柴筑前守ガ後詰仕ルベク左候フテハ由々敷キ大事ニ候フ條御出馬候ヘ某先陣ヲ翔ケ敷代ノ御敵尼子ノ遺孽此ノ時根本ヲ斷チ滅おサレ候フベシト申サレタリ　隆景ハ吉田ヘ立チ越ス輝元ト評定アリテ上月出陣ニ決シ元春父子ヘモ丹波発向ハ延引シ播州ヘ參ラレ候ヘト申シ送ラル　元春山陰道出陣中此ノ由ヲ聞テヤ返書シテ曰ハク上月ヘハ吾等馳セ向フ迄モ無シ南方ノ軍ヲ催サレナハ宇喜田ガ勢ヲ併セテ三萬五千乃至五萬ハ候フベシ此ノ勢ニテハ假令秀吉後詰候フトモ危キ事ハ候フマジ某甲ハ雲伯石ノ勢ヲ相催シ候ハンニ二萬五千カ三萬ハ之レ有ルベシ此ノ内五千人ハ所々ノ押ヘニ残シ候フ共猶残ル所二萬五千ハ候ヘトナン丹波但馬ノ國人モ一萬餘ハ候ハン乎両勢ヲ合ハセバ三萬五六千候フベシ此ノ勢ヲ以テ愛宕山ヘ登リ色ヲ張リ候ハヽ信長我等ノ對陣タル間羽柴ニ加勢モ成ルマジキ乎然ラバ秀吉勢微ナレテ中々後詰センヿ叶フ可ラ

京都府立総合資料館所蔵

ザル間上月城ハ十日ガ中ニ没落セン上月落城セバ三木神吉ノモノ又大阪ノ門迹等大ニカヲ得候ハン程ニ攝津國中ノ敵城ハ攻メザルニ明ケ渡シ可申候ヲ其ノ時輝元殿ノ旗本勢ヲ合ハセテ大阪ヘ漕キ上リ門迹ト牒シ合ハセ京都ヲ十里ノ内外ニ納メテ陣ヲ張ラレ候ヘバ荒木村重モ森蘭丸ガ諫ニヨリテ信長ヲ恨メル子細コレアル由ヲ承ツラ候ヲ故山伏一人指シ上セ内意ヲ引イテ候ヘバ十ニ八九ハ同心スベキ旨趣ニテ候間大阪愛宕両ロヨリ京都ヘ攻メ入ル威イニ至リテハ村重モ必定味方ニ志ヲ通スル紀州ノ根來雑賀ノ者共モ彌〳〵カヲ得テ馳セ加ハリ候ヒナンズ迚モ信長ヲ鉾楯ニ及ビ候ヲ上ハ國家ノ存亡安危ヲ此ノ一舉ニ決斷シテ輝允殿隆景殿上月ヘ御出張候ヘ元春父子ニ於テハ彌〳〵丹波ヘ上リ候ヲ可シトノ意味ナリケレバ同意ノ旨返答アリケリ元來隆景ハ智勇兼備ノ人ナレバ危戰ヲ避ケ元春ヘ先ヅ上月ヘ上リ給ヘト言ヒ送ル元春日ハク假令村重ハ同心セズトモ苦シカラズ此ノ一途ハ村重ヲ倚頼ニスル合戰ニアラズ候ヲ間上月ヲダニ攻メ落トサシ候ハヾ直ニ京都ヘ攻メ上リ給ヘ某ハ彌〳〵山陰道ヨリ丹波ヘ攻メ上リ候ヒナンズ丹州登行ノ條若シ今延引スルニ於テハ其ノ間ニ信長ヘ漏レ聞コヱテ糸ニ退治セラルベシ惟ヲニ彼ノ國人等ハ勢ノ

京都府立総合資料館所蔵

慶長十年ノ事情
徳川二代將軍秀忠拜賀式ヲ京都ニ行フヤ前路軍家康二條城ニ在リ豊臣秀頼ニ面會ノ事ヲ申シ込ム從君慎料レ難シ一言ヲ発レ秀頼ハ切腹自分モ自害セント言ヘリ扨ロ耳相傳ヘ今ニモ德豊兩軍相戰フベシトテ人心洶々タリノ事四方ニ聞コヘ西海南海山陰山陽ノ大名トモ城ノ高クレ池ヲ深クレヲ最トモ警ヲ設シ

三千トモ称タセタル者ニアラズバ國中五十日ガ内ニ亡ぶサル可シ赤井波多野等亡滅シテ後ハ丹州ヘ上ル共何ノ益カ候ノベキ其ハ役等ニ約ヲ堅クセシ一ナレバ兎角丹州発行ニ治定候ヒナンズト言フニ對シテ輝元ヨリ危道ヲ捨テヽ全勝ヲ期セヨトノ使者再三ニ及ブヲ以テ元春モ心ナラズ播州発行ニ決シタリ

評ニ曰ク三丹士之所請吉川氏所謀不可謂不必中矣當此時大阪未平荒木村重之去就未可計也元春果據愛宕山則畿内動搖城播往來絶豊公雄畧或無所施乎斯謀而不行惜哉

明智光秀ノ丹波入リ

永禄三年桶峡ノ一戰ニ織田信長ハ今川義元ヲ討取リ美濃近江ヲ手ニ入レ同十一年ニハ畿内ヲ平ラゲ將軍ノ柳營ヲ造リ禁裏ニ出入シ業已ニ天下ヲ呑ム勢アリ是ニ於テ未ソノ管内ニ入ラザル國々ヲ諸臣ニ與ヘ九州ノ名家ナル惟任氏ヲ新參ノ臣明智光秀ニ與ヘ名桑ラシノ樹ノ部ヲ看テ日向守ニ任ジ當時朝廷衆微シテ國守ヲ任命スルタルガ近クハ丹波一國ノ未ソノ手中ニ帰ゼザルヲ以テ光是レヨリ手ヲ下サントテ頃ハ天正三年正月元日年始ノ式ノ行ハレタル後ニ惟任ト呼ビ光秀ヲ坐前ニ出デシメ嚴命シテ曰ハク汝ヲ以テ丹波征伐ノ先陣トスト光

京都府立総合資料館所蔵

秀吉ハ謹ミテ御請仕ルト信長辞ヲ改メテ曰ヒケル夫レ丹波ノ國ハ古ヨリ公方領ニシテ地侍數多コレアリ近年義昭卿滅却ノ上ハ主無キ所タリ（足利將軍義昭）ハ信長ノ奉スル所トナリテ京都ニ入リ信長ト不和トナリ毛利氏ニ行ケルコト今度汝ヲ以テ此ノ國主トシ行ク々々ハ本名（惟任日向守）ノ通リタラシメントスルノ首途（カドデ）ナリ案内者トシテハ長岡兵部大輔ヲ遣ハサン（長岡藤孝ハ京都ノ西方ナル西岡ニ居テ數回丹波ニ往返シタルモノ）汝往キテ一國ヲ取リ鎮メヨト光秀唯々シ坐中ニ面目ヲ施シテ退キ即日御禮トシテ獻上シタル品ハ來國ノ名刀二尺七寸銘夢切ト江帥大藏卿匡房ノ手迹トニテ夢切ハ家重代相傳由緒アル鍛ヒ物匡房ノ手迹ハ蜀江ノ錦ヲ以テ表裝シ水晶ヲ以テ軸トシタル

古今和歌集ニテ執レモ無類ノ名品ナリ信長ヨリ猪子兵助ヲ使者トシテ命ズル様ハ急ギ在所（近江坂本）ヘ下リ追ッ付ケ丹州ヘ向フ可シ三月上旬ニハ上洛スベキニ付キ其ノ心得アルベシトテ暇休養ヲ與ヘラレシカバ正月廿一日岐阜ヲ出發シ坂本城ニ入リ領内ノ兵ヲ催セシカバ三千人ノ到着ヲ得テ勇ミニ勇ミ竊ニ使者ヲ出ダシテ丹波ノ地侍ニ檄ジ合ハセ二月五日京都ニ道シテ洛西桂川ニ陣シ翌日大坂（江）ニ向フニ敵兵ヲ見ズ斯カル嶮隘ニ防禦セザル丹波國主ノ愚サヲ嘲リ居タルガ長岡藤孝モ信長ノ命ニ應シ己ガ居城ナル乙訓郡勝龍寺ヲ打チ立チ子息與一郎忠興ト同郡田能村（クノムラ）ヨリ西向シテ丹波ニ入ル斯カ

五郎兵衛ハ足利將軍義昭ニ事ヘ入リ元亀年中ヨリ天正二年ニ至ル

ル所ヘ故龜山城主内藤五郎兵衛忠行ノ遺臣同苗忠郎三郎右衛門及ビ和田木工之助等來リ陳ズル横ハ今度當國御拜領ナサレ御進發アル趣ハ不肖ノ身ニ取リ賀シ奉ル事憚リ乍ラ且ハ身ノ賀ニ仕セ祝ヒ奉ル我等ノ先主内藤五郎兵衛儀去年冬頓死仕リ親子兄弟御坐無ク家來ノ者都合五百餘人流浪ノ體ニ罷リ成リ候ノ是レニ由リ御入國ノ殊更賀シ奉リ向後ハ譜代恩顧ノ者ト思シ召サレ扶助アランヿヲ乞ヒ奉ルト曰フ明智左馬助面會シ其ノ趣旨ノ光秀ニ告ゲタレバ光秀大ニ喜ビ早速彼ノ者等ニ出會ヒ打解ケテ物語リシ所望ノ通リ下々ニ至ル迄召シ抱ユ可シト申シ渡シ前途ノ幸善シト馬ヲ進メテ龜山城ニ入ル此ノ時味方トシテ馳セ參ジタル一城一砦ノ主將タルモノハ

四王天但馬守　荻野彦兵衛　波々伯部權頭

尾石與三　中澤豊後守　酒井孫右衛門　加治石見守

與丹波ニテ高見城以下潰走シタルモノハ

中澤越後守　并河四郎左衛門　釋迦牟尼數頁

河田甚右衛門

籠城シタルモノハ　福井丹波守　亀岡町余部記事参看アルベシ

時ニ天正三年乙亥以後同十年迄光秀在國ニ近郡諸所ニ働キケルニ與丹波ニテ命ニ應ゼザル者多カリケレバ是レヲ切リ従ヘバヤト思ヒケルガ祈禱ノ為ニ連歌

師里村ノ家ハ明治初年マデ京都一條
鬼昌叱ヲ招キ通リ室町西ヘ入リ町ニヤリタリ
發句ノ所望アリ紹叱

山路ヲ

ト詠ミ出ダシ百韵興行アリテ其ノ年ハ左右シテ打
チ過ギ十年二月十日ニ二千餘騎ヲ引率シテ打チ立チ
十一日辰下刻前山ノ庄水上郡ニ着陣シ所々ニ高札ヲ
卓テ云フ

與丹波諸侍名主百姓中

某光秀爲當國一城之主與之黒井鹿集余田之三黨
者從往古龜山之幕下也然處近来不受龜山之下知
依之今度爲退治令發向於攻寄者即時敗北眼前也
然則鄉々村々可落行者乎落武者討取於城主之首

者千石其以下一族諸侍之首者五百石永代可充行
於金銀望者以右之趣可究行之八幡大菩薩相違有
之間敷者也仍如件

天正十年壬午二月十一日　惟任日向守

トゾ書キタリケル爰ニ鹿集ノ城主鹿集式部少輔則
重ハ一族諸臣ヲ呼集メテ云ハク今度光秀發向ニ就
テ一番ニ黒井次ニ余田當城ヲ攻ムベシ然レバ敵多
勢ナレバ三城ナガラ悉ク滅亡ス可シ我多年黒井ニ
一味ノ志ヲ固クセリ愚息助太夫守重ト大澤喜龍兩
人ハ黒井ニ趣キ直政赤井悪右衛門ナリニカヲ戮ハセ渠ト一
所ニ討死シ朋友ノ誓ヲ九泉重路ノ外マデモ堅固ニ
相守リ候ヘト念比ニ暇乞シテ同十一日黒井ヘコソ

京都府立総合資料館所蔵

ハ遣シケル父子朋友兵ニ五倫ノ一ツナレバ何レ捨テ難キトハ云ヒナガラ其ノ親愛ノ深浅ハ論ゼザシテ知ル所ナレドモ義ガ恩ニ勝ツ途ニ臨ンデハ父母ヲ離レテ朋友ト一所ニ赴キケル寺重ガ心ノ程如何ニ名残ノ深カルラント満城ノ士卒皆永訣ノ別ニ添テ袂ヲ絞テヌハ無カリケリ斯クテ則重今ハ心ニ掛カルフモ無ケレバ敵定メテ明日ニモ寄センズラン者ガ来各酒醼シテ今生ノ暇乞セントテ其夜ハ終夜酒呑ミ謡舞ヒシテ明カシケル翌レバ十二日光秀ガ先陣明智左馬助五百餘騎ヲ帥キテ鹿集ノ城ニ押寄セ三方ヲ圍ミテ関ヲ作ル城中ニモ策ネテ思ヒ設ケシフナレバ同ジク闘ヲ合ハセタリ良アリテ則重ガ家臣足立彦十郎氏真シソコ引キ給フヲ参リソウトテ五十騎許ヲ引具シテ一面ニ抜キ連レ五百餘ノ敵中ヘ面モ振テズ斬テ蒐カリ一二遍敗レテ廻ヘルト見ユシカ就レモ引組ミ々々刺シ貫キテ死ニ、ケリ則重ガ次男助三郎虎重遥ニ之レヲ見テ一族近習ノ若黨十九騎ニノ九ヨリ討ツテ出デ敵ノ槍衾作リタル真中ヘ翔入リタリ虎重兵ニ向テ多勢ノ中ヘハ勢ノ蒐ケ入ランニハ残ラズ生禽ト成リヌベシ唯一筋ニ馬ノ足薙キ倒シ引組ンデ討死セヨト下知スル間各敵ニ中ヲ破ラレシト一所ニ九ガレ戦セシガ十四騎マデ討死セリ虎重ハ猶モ討タレシ首二ツ鋒ニ貫キ其外ノ者共モ手々ニ首取リテ城中ニ恥セ帰リ則重ニ對面シテ今ハカウニテ候

ヲ御自害候ヘト勸メタリ則重之レヲ聞キ誠ニ強ナル
擧動カナ吾レ雜兵ノ手ニ懸カラニハ無念ナガ妻
柳コノ合戰ト申スハ一家計リノ滅亡ニ非ズ後ニアル
黑井余田トテモ殘ラバコソ然ルニ於テハ彼等ガ為ニ
ハ敵一人ニテモ討取ラントト思フナリ倡面々ト一同ニ
討死セントテ大長刀ヲハイ脇ニ掻込ミ六騎一所ニ翔ケ
出デ四面八方ニ當クリテ切テ廻ハリ皆我レ先ニト討
死ス則重ハ身ニ樹ツ所ノ矢數十本ナレバ息モ斷ヱヌ
可ク覺エ少シ引キ退キ自害セントスル所ヲ敵三四人
追詰メ終ニソコニテ討タレケル其ノ後鄉民共舊君棠
下ノ餘恩ヲ報ゼント古城ノ蹤ニ一宇ノ廟社ヲ經營シ新
八幡トゾ崇ガメケル柳時重ノ先祖ヲ尋ヌルニ三河
守範賴ノ三男助重ノ末孫ニ出ヌル永正十四年八月廿四日
舟岡山合戰ニ討死セシ監物武重ガ孫ナリトカヤ
明クレバ十三日惟任勢余田監物為家ガ居城ヘ推寄
セタリ城中防戰嚴クスト雖無勢ナレバ叶ハズ悉ク
討タレニケリ其内ニモ余田彌平太等三人僅ニ三人
討テ殘サレ為家ニ供奉シ城中ヲ出デ黑井ヘ籠モラ
ントテ鴨坂ヲ越エントスル敵コレヲ見テ多勢追ヒ蒐
ケクレバ為家今ハ力無ク三人ノ者共ニ防ギ矢射サ
ヒ其ノ隙ニ坂ノ峠ナル岩ノ上ニ坐シ鎧脫キ捨テ腹
ヲ文字ニ掻キ破リテ伏シニケリ去レバ其ノ蹤ヲ監
物岩ト號シ小祠ヲ建テ年々村翁奔走シテ祭禮スル
コソ殊勝ナレ去ル程ニ惟任勢鹿集余田ノ兩城ヲ攻

京都府立総合資料館所蔵

ノ落トシ武威所々トシテ翌日三月十四日黒井ノ城近邊マデ押シ寄セタリ　以下黒井外數所ニ出タス参看アルベシ

亞米利加來艦以後ノ事件ニシテ丹波ニ影響スル

モノヽ畧載

嘉永六年丑六月三日亞米利加合衆國軍艦四隻相模國浦賀海上ニ漂泊シ通商ヲ請フ　幕府戒嚴同七日武藏國海岸分守ノ令出デ七大藩出役ス丹波大名ハ與ラズ　將軍家定諸大名ヲ召シ特勵優待ス　諸藩ノ武備俄ニ興ル　海岸防禦御用取扱役始マル　同十五日六大名ノ特召アリ將軍ノ旨ヲ以テ菓子煮染ヲ賜ハル綾部藩主九鬼式部大輔大番頭ヲ以テ與ル海岸見分ヲ命ゼラル　七月藩々家來ノ扶持米ヲ國邑ヨリ運漕セシメテ江戸常備米ノ充實ヲ圖ル　七月十八日魯西亞船長嶋港ニ入ル四隻

京都府立総合資料館所蔵

同七寅年合衆國船艦十隻伊豆海安房海ニ碇泊ス
品川沖ニ臺場三基ヲ築キ之ヲ守ル　合衆國大
統領獻狀幕府ノ答狀等ヲ諸藩ニ示ス通信交易ノ
請乞ト其ノ拒絶書トノ寫書ナリ　魯西亞國亦同
ジ　諸大名ノ建白書儒者浪人等ノ著書張紙捨文
等出デ流言浮說起コル　安政元年甲寅四月六日
正午内裏炎上　彦根藩京都守護ノ爲ニ人數ヲ入
京セシム　六月大名供連ノ節減ノ令ヲ命ズ徒士
駕脇一萬石以上十三四人五萬石以上十七八人十
萬石以上二十人ニ限ル國主大名タリトモ二十四
五人ニ過ダ可ラズ是レハ近來世上物騷ナルヲ以
テ供連ノ侍多數ニシテ城ノ内外混雜スルヲ以テ此
ノ令ノ出デタルナリ然レ𪜈列外ニ平服ノ衛護士
ヲ隨行セシムル故虛令トハナレリ　十二月梵鐘
ヲ火砲小銃ニ鑄換フベキ宣下アリ　外交ニ付キ
宮中ヨリ下ル詔令ノ第一着ナリ由ツテ外國事情
ヲ奏聞ス　同四巳年二月廿五日老中堀田備中守
上京奏聞ニ付外國通商ニ對シ幕府ノ處分ヲ不可
トスル公卿八十八名九條關白ニ迫ル　主上ヨリ
御自ラ御褒

京都府立総合資料館所蔵

美ヲ賜フ　非藏人三十六人與ル　禁裏附旗下都築駿河守荒神口ノ役屋敷ニテ割腹自殺ス（著者ノ支配ヲ受ケタリ）

老中堀田ヨリ議奏東坊城大納言ヘノ贈賄傳達露顕ニ由ル

同五年戊午七月將軍家定薨去　元ノ紀伊藩主家茂續グ　井伊掃部頭大老タリ皇女和宮関東ニ下リ將軍ノ夫人トナル（文久元酉年）事ニ付関東ヨリ内願ス

同六年未三月三日水戸浪士大老井伊掃部頭直弼ヲ櫻田門外ニ殺ス

京都ニテ暗殺謀殺起コル被害者ハ堀田方ノ開港論者トス

諸大名ニ對シ丙申正月諸國川普請ノ役ヲ免ズ

京都府立総合資料館所蔵

文久元酉年六月二十九日老中松平豊前守登營ノ
際水戸浪士コレヲ途ニ要シテ襲撃ス（滝岡ノ部ニ出ダス）後ニ
又安藤對馬守暴擧ニ遇ヒヌ皆水戸家臣ナリ
朝廷ヨリ直接ノ御沙汰薩長二藩ニ下リ漸次諸藩
ニ及ブ幕權日ニ墜ツ
二年德川慶喜將軍ノ後見タルベキ朝命アリ　幕
府ノ大改革始マル
虛禮廢止　大名ノ護衛虛飾廢止　年始八朔參覲
交代家督相續ノ禮獻ヲ除ク外獻上物廢止八月朔
日ハ德川初代將軍ガ豊臣氏ヨリ關東八州ニ封ゼ
ラレタル祝日ナルヲ以テ特ニ例祝日タリ　慰斗
目長袴廢止　股高袴細足袋着用ヲ許シタリ

但馬生野暴動　暴動ニ付出石藩應援出兵ノ令アリ出兵ニ先ダチ事治マル
三年參覲交代ヲ廢シ國邑ニ於テ武事ヲ鍛錬セシム
參覲交代ノ起因ヲ案ズルニ幷ハ德川氏ノ創意ニアラズシテ大名ヨリ爲セシ事ニゾアル今コレヲ
畧載シテ參考ニ供セン彼ノ關ケ原大戰以來天下
ノ大勢德川氏ニ帰スト雖將軍ノ安否ヲ問フモノ
ハ諸代ノ大名ノミニシテ大國大藩ニ至リテハ東
行スル者之レ無カリキ獨リ前田利長百二十萬石三
州ノ大名ノ資格ヲ以テ始メテ江戸ニ至ル將軍秀
忠コレヲ板橋驛ニ迎フ利長大ニ喜ブ登城スルヤ

京都府立総合資料館所蔵

將軍上段ノ間ニ坐シ利長ヲシテ中段ノ間ヨリ拜セシム利長大ニ愧ヅヽヲ饗スルヤ殊ニ盛禮以テ待ス甫後利長江戸ニ到ラズ慶長八年池田輝政到ル之ヲ聞キ到ル者次第ニ增シ遂ニ到ラザルモノ無キニ至リ茲ニ始メテ參覲ノ制立ツ毎藩記事ヲ參考セヨ　但三年毎ニ百日限リ在府セシメ妻子帰國隨意タラシム諸大名輿方帰國行裝蒔繪ノ輿程々緋袋長刀金紋散ラシ狀箱女中黑塗駕　嶋津侯ノ建言ニ由ル（東海道岐蘇街道ノ重關即チ人質脱匿防禦線不必要トナル）

丹波大名年別在府表　亀山侯ハ在役常府ニ付之ヲ除ク

戊午夏　綾部侯　同秋　筱山侯　亥年春　山家侯

同秋　柏原侯　同冬　福知山侯　子年春　園部侯

七月叡慮ヲ以テ越前侯隱居松平春嶽ヲ政事總裁職ニ任ゼラル甫後京都江戸ヨリ政令二途ニ出ヅ

衣服制度改革　慰斗目長袴廢止　服紗ハ袖染惟子麻上下ヲ以テ代フ　正月元日二日神忌（東照宮祭典）重キ法事　敕使對覆ハ從前ノ如ク裝束　其他ノ式服ハ羽織小袴襠高袴トス紺足袋相用ユルヿ隨意

大名參府三年毎ニ一度（溜間詰大名ハ一年在府其他ハ大約百日ヲ限リ在府トス）春園部侯柏原侯秋綾部侯次年春筱山侯秋山家侯冬柏原侯次年春福知山侯以下畧亀山侯ハ尤中トシテ常府ノヿ

京都府立総合資料館所蔵

正月諸初　六月嘉定　十一月亥猪其他月次諸式
廢止
萬石以上ノ馬乘登城ヲ許シ從者ノ大節減ヲ命ズ
獻上物廢止但初鶴初菱喰初鮭ハ京都ヘノ獻上品

ナルヲ以テ從前ノ通リ
八月麻疹暴瀉病ノ爲ニ死歿スルモノ二萬四千二
百八十七人當時人口五十二萬八千百九十八但諸
藩ハ此ノ内ニアラズ故ニ丹波大名旗下ノ家臣ノ
丁詳ナラズ
改革令　將軍御成跡固ノ廢止　方角火消廢止
老中若年寄役宅ヘノ廻勤廢止　諸大名留守居附
合廢止　藩改革　側用人以上三ツ紋附割羽織
知行中小姓無紋割羽織以下同
老中伏立徒士五人駕脇六人之ヲ五六供トモフ　從前徒士八人駕脇八人ニテ八々供ナリ
京都ニ對スル處分不宜トテ罰セラルヽモノ井伊
掃部頭大老直弼ノ父ノ爲ニ　十萬石没收

京都府立総合資料館所蔵

老中内藤紀伊守一萬石没收　間部下総守一萬
石没收ノ上隠居　所司代酒井右京大夫蟄居
以下旗下奥醫師伊藤長壽ニ及ブ迄合二十三人
文久四年子正月將軍海路上洛　右大臣昇進　廿
一日參内
公武御合體ノ詔下リ御受書將軍家茂ヨリ上ル
陸軍総裁　松平肥後守　禁裏守護職　松平春
嶽無届帰国ニ付　松平肥後守
將軍上洛中獻上品丹波大名六藩同様高三由リ相違アリ二十萬石以下一萬
石以上同様ナルヲ以テ六藩同ヒキナリ
禁裏ヘ御太刀馬代黄金一枚　准后ヘ白銀五枚
関白ヘ白銀十枚　傳奏議奏ヘ同三枚ヅヽ　摂
家親王家ヘ三枚ヅヽ
公卿殿上人ヘ一枚ヅヽ
勾當内侍ヘ三枚
上洛ニ付宿泊料賄方定　一汁一菜　泊二百四十
八文　晝飯百二十五文
在京中相對賄　一日三百八十八文　下人三百
三十八文　蒲團料一枚一ヶ月七百文
京都三條小橋旅籠屋主人ハ舊浪人ニテ古高販次
郎ト稱スルモノ朴屋喜右衛門ト詐稱シ内々諸浪
士ヲ宿泊セシメ武器ヲ運入スルヲ以テ町奉行ヨ
リ捕縛セラレロ供スル所ニ由レバ御所ヲ焼却ス
ルノ隠謀ナリ没収品中ニ銃アリ火藥アリ所司代
ヨリ建ミアリ諸藩ノ在京家来又者ニ至ル迄身分

京都府立総合資料館所蔵

姓名年齢等符合スルヤ否嚴密調査スベシト丹波
来往ノモノ城丹境界ニ於テ密檢セシム
長州藩ニ限リ印鑑ヲ以テ入京セシムベシ無ケレ
バ往来ヲ許サズ　丹波丹後但馬ニ領分アル面々
ハ通行ノ旅人ヲ急度可相糺旨所司代ノ達アリ之
ニ由リ丹波諸藩俄ニ領分ノ要所々々ニ自身番ヲ
設ケシメ藩ヨリハ藩番所ヲ設ケ士人ヲ檢査シテ
通行セシム
五月十六日將軍江戸歸着
元治元年（文久四年二月改元）八月京都大亂　大和伊勢行幸攘
夷親征中止　攘夷説ノ公卿黜罰　長州藩人入京
差止　堺町門長藩警衛免ゼラレ　同藩人歸國

七卿脫走　中山侍從大和五條ニテ擊殺許ス無ク
鎮靜　江戸城燒失　大阪大火
諸大名妻子再ヒ江戸住居　舊儀復興ヲ達スレドモ
西南國主ノ應ズルモノ少シ
同年子篠山侯ハ四位ニ栢原侯ハ從五位ニ綾部侯
モ同位ニ叙セラル從前ハ幕府ニ於テ叙任シタル
カ今ヤ朝廷ヘ推任上申ノ上許可ヲ經テ行フヿト
ナリ稍ヤ朝臣ノ如シ
七月十九日ヨリ長州勢天王山伏見嵯峨ニ入ル
長州家尤ヨリ書面ヲ左ノ五藩ヘ送ル　藝州　柳
川　福山　高松　亀山（文面亀岡ノ部ニ出ダス）
嵯峨天龍寺ハ薩藩ニテ　山崎天王山ハ會津藤堂

京都府立総合資料館所蔵

郡山ニテ焼拂
京都ニテハ幕軍諸大名軍ニテ長州軍ヲ追討チ北
グルヲ追フテ南下ス京都大火
八月十三日長州征伐令出ツ二十八藩ノ出兵丹波
大名與ラズ
大名江戸參覲交代儀仗衣服以下復舊令下ル
加賀侯ヲ第一ニ仙臺薩州肥前ノ三侯ヲ第二ニ
丹波諸侯モ共ニ夫人世子ヲ携ヘテ東向ス
下野國常陸國ニ水戸浪士蜂起シ日光山以下處々
ニ屯集ス幕兵國兵コレヲ伐ツ
備中國倉舖賊徒蜂起月ヲ經テ平グ
十二月長防處分終了諸軍歸京歸國

蜂起ノ水戸浪士渠魁武田耕雲齋以下北陸ヨリ上
京セントシテ途中加賀軍ニ降ル
尾張侯長州處分出張ノ處其ノ寛大ナルニ不服ノ
輩會津ヲ初メ其ノ黨派ハ公卿ヲ煽動シテ朝議ヲ
撓サントシ攘夷派公卿ハ脫走公卿三條以下及ビ
長藩ノ入朝ヲ斡旋スル等更ニ一大紛議ヲ出ダス
慶應元年（元治二年四月改元）征長ノ役起コリ五月十六日將軍
々裝ニテ江戸出發五月廿二日入京シ直ニ參内聖
朝マテ宮中會議廿四日下及征長部署ヲ城中ニ定
ム
老中阿部豐後守松前伊豆守免職　勅許ヲ待タズ
シテ兵庫港ヲ開市シタル故ナリ十月四日將軍密

京都府立総合資料館所蔵

々上京　藩士三十二人ヲ特召シ諮詢スル所アリ
丹波諸藩ハ與カラズ
同廿七日將軍參内　同二年八月將軍大阪ニ薨ス
年二十一　慶喜將軍トナル
同月天皇崩御　皇太子踐祚　十月十四日將軍政
權奉還
四年正月三日德川軍上京　薩長土ノ軍伏見鳥羽
ニ拒戰シ東軍ヲ破ル舊將軍海路東歸謹慎正月廿
九日書文ヲ群下ニ下示ス曰ハク
祖宗以來今日ニ至ル迄各抽忠勤以爲感謝之至
ニ堪然ルニ余ガ薄德不行届ナル不計也近日ノ形
勢ニ立至リ迚畿内西ニ知リ而有シ而シハ自然

朝廷より御沙汰シ居也有シ趣ニ付関東ニ罷
立ハ丶采地ニモ難れ難渋ニ及誠以歎然ニ至
ニ付間敷ニ存寄次第京地ヘ罷越
朝命遵奉ス民ヲ塗炭ニ陥ル
是ニ由リ旗本ノ柴田藤縣以下小祿ノモノモ
勤王願書本領安堵願書差出シ京都ニ逗留シ願意
聞届ケニナリタル者漸次丹波ニ入ル　明治元年
三月十四日　五事御誓文出ヅ　三府諸縣ノ制出
デ　大名ノ領地ハ藩トシ幕領ヲ縣トス　大名以
下藩籍領地奉還（二年正月二十日薩長土肥四藩之ヲ始ム）各藩主ヲ知藩事トシ
現高十分ノ一ヲ賜フ　七月十四日廢藩置縣トナ
リ三府七十三縣ノ制出ヅ

京都府立総合資料館所蔵

學政　大中小及ビ師範學校制定マル　明治五年

軍政　徴兵令出デ　諸藩兵廢ス

地租　貢納ヲ廢シ地價百分ノ三ヲ金納セシム六年改メ百分ノ二分五厘トス　同十月

區制　大區ニ區長　小區ニ戸長ヲ置ク　一村一町ニハ私ニ総代ヲ置ク

區町村會　十三年　府縣制　二十三年

警察　維新ノ際ノ取締ヲ改メ選卒トシ又巡査ト改稱シ地方ニ警察署ヲ置ク

慶應四年正月三日ノ戰ニ東軍ハ伏見鳥羽ニ敗レ將軍（前）ハ大阪ニ退キ官軍之ヲ追擊南進ストノ報知頻ニ至ルモ往來ノ不便ナルヨリ事實詳ナラズ且數年來京都ニ大亂屢々之アリト雖其ノ餘弊ヲ被ルヿノツキ國人ハ左迄ノ注意ヲ拂ハズ相看ハラズ新年ノ祝酒ニ歡醉セリ殊ニ亀山藩主（今ノ亀岡ニテ領主松平氏）ガ舊幕府ヘノ勤トシテ大阪ニ入リタルモ暇ヲ得テ歸藩セラレタル際ニテ若シモ戰爭ノ起ルアランニハ支藩タル松平家ガ平然タルヿアル可ラズ其ノ平然トシテ在國セラルヽト非常手段モ取ラレヌハ大亂ニテハヨモアラジナド噂シ藩士サヘ過半平常ノ如カリシニ誰云フト無ク山火事カ松明ノ光カト彼ヨリ此ヘト相傳ヘ人氣騷々シク亀山藩ノ如キハ驚愕怪訝ニ打タレ物見ヲ出ス非常防禦ノ手段ヲ取ルナドスル内ニ炬火ノ光ハ雲ニ

京都府立総合資料館所蔵

映シ保津村ノ邊マデ迎ヅキタリシヲ五日晩景ヨリ初更ニ至ルノ時トス人氣次第ニ立チ騷キ種々ノ流言行ハレタルガ其ノ實ハ敕使トシテ正三位西園寺公望其ノ臣廣崎和泉守薩藩隊長黒田嘉右衛門川南東右衛門伊藤四郎右衛門長州藩參謀小笠原美濃外隊長中山九八郎等三百餘人ヲ引率シ間道ヲ取ツテ不意ニ寄セ來リタルニゾアル保津ヲ過キ西ニ下リ馬路村ニ到着ス（馬路村紀軍參看ヒヲ）卿士人見龍之進中川祿左衛門以下兩姓ノ者四十餘名各奔走盡カシ兵食ヲ給シ宿處ヲ供シタルガ座未タ煖マラザルニ軍議ハ開カレタリ今夜亀山城ヲ焼却ニスベシ明朝ノ朝驅ヤ宜シカランナド云フ内曉天ニ至ル朝食了ルヤ二藩ノ兵砲ト銃トヲ以テ亀山ニ向フ其ノ藩ヨリ使者来リ勤王ノ志ヲ陳ジ降伏ノ意ヲ叙フルモ要領ヲ得ズ且ツ氷上郡ノ領地及ビ備中ニアル領地ヲ獻ジ代フルニ近傍ノ地ヲ賜ハランヿヲ請フ敕使參謀其ノ勤王ノ眞ナラザルヲ察シ一擊其ノ城ヲ屠ラントシタルニ童臣又来リ懇請已マザルヲ以テ參謀小笠原美濃外ト亀山藩ノ童臣ハ亀山ノ本陣ニ相會ス（本陣トハ大名ノ往還スル時休宿スル旅館ナリ）降伏ノ實成リ盟書出デ雙方調印シテ官軍ノ士ハ馬路ニ返リ兵ハ銃ヲ擔ヒ砲ヲ引キ自矢スルガ如クニシテ引揚ゲタリ然リト雖未タ藩士ノ從軍ヲ許サズ（十數日ノ後許可アリ因幡

京都府立総合資料館所蔵

鳥取ヨリ從軍スルヿトナシリ

六日官軍馬路村ニ留陣シ賊軍ノ襲来ニ備ヘテ警戒頗最ナリ　幕府領旗下領ニ掲示ノ制札ヲ却シ代フルニ新令ヲ以テシ人民ヲ安堵セシメ諸村ノ幕府旗下芽ヘ納ムベキ貢米貢銀ヲ没收シ倉庫ヲ封シ村役人ヲシテ保管セシム

七日敕使發陣

先拂　馬路村庄屋中川淳九郎　上下着　兩姓惣代人見嶽之進　目上　薩州藩兵　半洋式
先拂　馬路村年寄人見權八郎　上下着　兩姓惣代中川祿左衛門　同上　薩州藩兵　半洋式
……兩姓郡士　裏金陣笠手槍持參　島崎ヲ樹衣　薩州守衛士……
……兩姓郡士……裏金陣笠手槍持參　敕使乘馬　薩州守衛士……
……長州守衛士……薩藩隊長川崎東右衛門　伊藤四郎右衛門

……長州守衛士……小荷駄
長州參謀小笠原美濃介　薩州勢……長州勢……
馬路ヲ出デ大川舟渡シ山陰本道ニ出デハ木村小休小出藩士多人數引率出迎ヘ恭順ノ意ヲ表ス再出デヽ園部ニ向フ出迎ノ士卒ハ列後ニ在リテ隨從ス午後園部本陣着

八日滞陣　園部藩ノ待遇懇到ニテ勅使以下安心ノ体ナリシニタ方条鞍ノ到ルアリ曰ハク大阪ヨリ摂津天王ヲ越エ福住筱山ヘ向ケ来ルノ賊徒アリ明日ニモ攻来ルノ勢ナレバ此邊ニテ防戰スベキカ筱山街道ヘ逆撃スベキカノ軍議アリ急ニ桑田船井二郡ノ弓箭組ヲ募集スベキニ一決シ參謀

京都府立総合資料館所蔵

ヨリ龍之進祿左衛門ニ令シ兩郡其他弓箭組ノ取締役タラシメ左ノ命令書ヲ携ヘ馳セ歸リテ勤王ノ有志ヲ募集セシム

丹波弓箭組勤王ニ者筱山口御発行ニ付急ニ人數入用ニ間支度調次第明日の後日ニ内御本営ヘ駆付可申事

慶應四年正月九日　官軍執事○

馬跡支藩惣代

人見弐ニ郎

中川孫左衛門

兩人ハ命ヲ奉シ早籠ニ打乗リ大急ギニ急キ手分シテ郡村ニ布告ス茲ニ於テ幕府ノ政事ニ不滿ナルモノ藩主領主ノ壓制ニ不服ナルモノ等相率ヒテ之ニ應ジ二百餘人ノ連判ヲ得テ兩人ハ更ニ馬路ノ人見勝次中川城之介人見彦太郎ヲ伴ヒ筱山街道ニ向フ

官軍本隊ハ九日出立シ山路ヲ經テ多紀郡ニ入ル福住驛着宿屋ヲ以テ本營トス

十日十一日滞陣　流言百出　筱山藩ノ向背知レズ　天王村ヨリ賊軍来リ迫ルノ報アリ募集セシ所ノ郷士二百人餘到着軍威大ニ張ル毎夜炬火ヲ盛ンニシ前路數町ノ間ニ列ス居民東西ニ走リ避ク　一山脈ヲ隔テタル天王村ニ若狭國主酒井氏

京都府立総合資料館所蔵

藩士數百人屯集ス所ハ舊幕府將軍ノ徽ニ應シ大
阪ニ居タルニ去三日伏見淀鳥羽ノ一戰ニ幕軍敗
績シ將軍舊以下東歸シタルヲ以テ本國ニ歸ラン
トテ途ヲ茲ニ取レルナリ官軍部署左ノ如シ

官軍　薩長三百餘人　馬路鄕士三十餘人
兩郡弓箭組三百人　因部藩百人

使番櫻井新三郎中川百助等二十餘名天王村ニ赴
キ其ノ向背ヲ詰問ス酒井家老山川五右衛門來リ
テ參謀ニ面會シ朝廷ニ對シ二心ナキ旨ヲ誓フ斯
ニ於テ歸國ヲ許サレ途ニ上ルヲ得タリ
氷上郡柏原藩主織田出雲守使者澁又左衛門來リ
今日出雲守大阪ヨリ歸藩ノ旨屆出ヅ是ハ聞濟ト

ナリ使者歸途ニ就ク
京都ヨリ御使番西池左衛門同勢二十餘名着到軍
威益〻振フ　篠山藩降伏城内明渡シ他意無キ旨
ヲ表白シ物頭一名士卒百名來リ迎フ福知山藩兵
來リ加ハル
十二日巳刻福住驛出發　出石藩兵來リ加ハル

篠山藩士卒　福知山藩兵　出石藩兵
篠山藩士卒　福知山藩兵　出石藩兵
薩州藩兵　馬路兩名　長州藩兵
薩州藩兵　馬路兩名　長州藩兵
因部藩兵　柏原藩兵　桑田船井二郡弓箭組鄕士
因部藩兵　柏原藩兵　桑田船井二郡弓箭組鄕士

京都府立総合資料館所蔵

……小荷駄奉行 小荷駄
……小荷駄奉行 小荷駄

十二日 篠山着 申下刻 本營 河原七兵衛 本陣

十三日 篠山城巡見濱嶋和泉守以下内外隈無ク藩士ノ案内ニテ鑒視シ了ル ヤ本軍出發宮田小休追入小休柏原宿陣 同夜廻達アリ明日行軍表左ノ如シ

青山一手 朽木一手 園部一手 織田一手

長州守衛士 勅使 両苗卿士 薩州守衛士

仙石一手 卿士惣勢 小荷駄

十四日 發陣 福知山着陣

十五日 大雪 滞陣 十六日 同

青山ハ篠山藩
朽木ハ福知山藩
園部ハ小出家
織田ハ柏原藩
仙石ハ但馬出石藩

十七日 何鹿郡旗下士藤懸左京家来石井某々勅使ノ機嫌伺トシテ来ル

錦旗着到 御所使番木下隼人携帯シ来ル隨従ノ者ヘ拜見ヲ許サル

十八日 朝七ツ時錦旗ヲ押立テ威風凛々進行シ船場ヨリ乗船一艘ニ一小隊十數艘舳艫相啣ミ丹後ヲ指シテ下ル兵粮面々持参福知山藩船手奉行出張指揮シ家老重臣奉送シタリ

右勅使巡行紀事畧采 終 馬路村紀事参省スベシ

廢藩置縣

伊藤博文明治二年兵庫縣令タルノ時ニ之ヲ首唱

又

京都府立総合資料館所蔵

大小名ノ藩知事タルモノ自任スルニ耐エズ辞職シタルヿ之ガ動機トナレリ

諸大藩ノ封土返上ヲ首唱シタルハ木戸孝允大久保利通トス

廢藩置縣全ク成ルハ同四年ナリ

領事裁判権廢止　内地雜居　明治三十二年

京鶴線沿革

明治二十一年京都府知事北垣國道男ガ府技師田邊朔郎ヲシテ沿線ノ調査ヲ爲サシメ鐵道問答ノ一書ヲ公ニス

目的　交通ノ利便ト産業ノ發達ヲ主トス

國防上機関　一方政府側ニテハ川上兒玉兩將軍ノ意見ニテ沿海線路ノ危險即チ敵彈横擊ヲ避クルノ方法トシテ内地山間ヲ采ルニ決シ京鶴線トナリ播州土山驛分線ハ否決セラル

國有鐵道第一期線　右之理由ニヨリ第一期線ニハ編入セラレナガラ他ノ有利ナル線路工事ニ先鞭ヲ著ケラレ此ノ線ノ運命ハ冷却セラレタリ

私設鐵道　是ニ於テ急設ヲ希圖スル有志家ナル濱岡光哲田中源太郎諸輩率先シ私設ノ願書ヲ出シ株式會社トシテ組織シタルニ假免狀ヲ得タルハ二十五年ナリ而シテ翌年ニ本免狀ヲ下附シタリ

着手　二十九年ノ春ニ於テ七條ト嵯峨トノ間ニ

京都府立総合資料館所蔵

工事ヲ起コシ三十年ニ竣工シ直ニ運轉シ更ニ大堰川ニ沿線ヲ布キ亀岡ニ及ボシ三十二年八月園部ニ達ス

資金三百萬圓ヲ費シテ僅ニ京都園部ヲ連結シタルヲ而已ニテ收資相償ハズ　此ノ難關ニテサヘ民業ノ成シ難キヲ知ルト共ニ前途ノ難關ハ更ニ大且長キヲ以テ中止シ三十四年其ノ既得布設權ヲ政府ニ返還シタリ

園綾間實測　政府ハ此ノ線路ノ必須急施スベキヲ唱道シタルモ時節柄大藏省ノ財政ニ省ミ三十九年ニ至リ四年ノ繼續事業トシテ着手シタルモ地方大水ノ爲ニ用材ノ流失シタルモノ多ナルヨリ且ハ道路橋梁ノ大破ニテ通行運搬ノ不自由ナルヲ以テ四十一年度マデ遷延シタリ

全通　四十三年八月二十五日

工費概算　五百萬圓　一哩ニ付約貳拾萬圓

五工區　二十六哩六鎖　第一工區　綾部山家間　五哩六十鎖　第二工區　山家和知間　四哩六十九鎖　第三工區　和知質美間　三哩五十二鎖　第四工區　質美胡麻間　六哩四十五鎖　第五工區　胡麻園部間　六哩二十七鎖

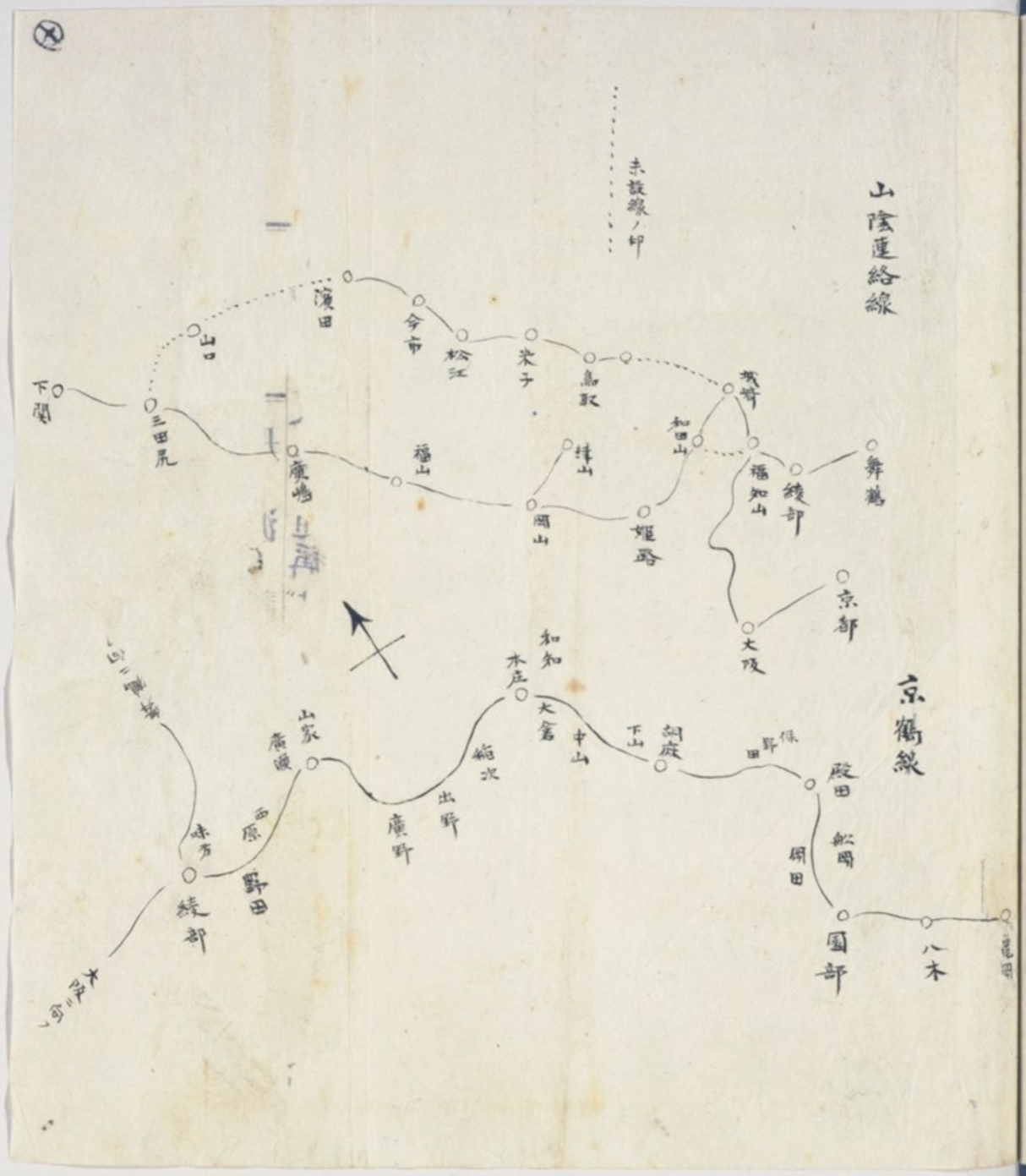
道路十一所　長六千八百四尺　最長ノモノ新前山ノ千百五十五尺　最短ノモノ船岡山及ビ堅岩山ノ各二百八十三尺

京都府立総合資料館所蔵

橋梁九十四所

運動　京鶴線ノ必要ハ前示陸軍方ノ希望與論ノミナラズ海軍方ニ於キテモ西郷樺山山本等大將連ノ唱導デ魯國ニ對スル方畧上舞鶴ニ軍港ヲ置カレタルカラニハ此ノ線路ヲ以テ適當ノモノトセラレタルニ意外ノ線路アリテ此ノ線路ノ運命ヲ左右セントスアリ所ハ土鶴線トラ播磨國高砂ノ近所ナル土山驛ニテ山陽線ト分岐シ加古川ニ沿フテ丹波ニ溯リ氷上ニ出デヽ舞鶴ニ達セントスルモノトス　是レニハ大阪以西ノ土地ニアルモノ大ニ望ヲ屬シ運動ヲ初メタレバ内閣モ之ニ傾ケントノ状情ヲ耳ニシタル京丹人ハ大ニ考フ

京都府立総合資料館所蔵



セラレタルニ意外ノ線路アリテ此ノ線路ノ運命ヲ左右セントスアリ丹ハ土鶴線トラ播磨國高砂ノ近所ナル土山驛ニテ山陽線ト分岐シ加古川ニ沿フテ丹波ニ溯リ氷上ニ出デヽ舞鶴ニ達セントスルモノトス　是レニハ大阪以西ノ土地ニアルモノ大ニ望ヲ屬シ運動ヲ初メタレバ内閣モ之ニ傾カントノ状情ヲ耳ニシタル京丹人ハ大ニ考フ

京都府立総合資料館所蔵

ル所アリテ京鶴鐵道期成同盟會ナルモノヲ組織シテ一切ノ名譽職及ヒ有志者ヲ網羅シテ加入セシメ土鶴線ノ對抗運動ヲ講セリ遊説委員トシテ出張シ豫定線路ノ有志者ニ利害ヲ叙ヘ賛助ヲ求ムル爲ニハ如何計リカ苦惱シタル其ノ土鶴線主張者トノ折衝禦侮ニハ十二分ノ働キヲ爲シ遂ニ東京麹町區ニ出張所ヲ設ケ政府當局者及ビ貴衆兩院ニマデ運動ヲ初メ京鶴線ノ勝利ニ歸スルヲ得セシメタリ

主動者關係者　北垣國道　田中源太郎　濱岡光哲　近衛篤麿　神鞭知常　中村栄助　中安信三郎　中野忠八　堀五郎兵衛　鈴鹿辨三郎

京都府立総合資料館所蔵

以下略ス

下男下女ノ惡習慣

家中士族ノ家民家等ニ雇ニ入ル、男ハ畫仕事ヲアレバ夜ハ其ノ隨意ニス下婢ハ口入レ目見ヘノ際ニ約束ヲ為シ朔日十五日其ノ外庚申甲子等休日ノ夜ハ暇ヲ取リ其ノ日ハ夕飯後情夫ノ家又ハ媒合者許ニ密會スヲ夜馬ト呼ブ

普通一年二回ノ休暇ヲ得ルモノトス正月中ニ一回九月中ニ一回ソノ生家ニ歸ル九月ハ多ク村祭アルニ由ル謂ハ所ル藪入ナリ

荷物運送ハ牛馬ニテ為セシガ牛馬ノ通シ難キ險路多キヲ以テ大抵人力ニ由レリ車道ハ國中僅々ナリシナリ

京都府立総合資料館所蔵

忠孝札

一忠孝をもげなし夫婦兄弟諸親類よむつまじく
只使乃ものニ至るまで情愛を加ふべし若不忠
不孝ニ者あらバ一ノ為罪科事

一あるかぎり殺生屠作衣服飲食等ニ及
ぶまで倹約をお守るべき事

一悪心を以て叶つまり或ハ参詣を口実或ハ利慾
をうまへて人乃宝をなすべからざる為ニて家業
をつとむべき事

一盗賊并ニ悪党のたの有ニバ訴人ニ出べし急度
褒賞て仰付事

附竹槍鉄砲制禁事

京都府立総合資料館所蔵

一喧嘩口論仕候止ミ自然有ミ時其場へ猥ニ不可
出而又ハ負たるものを除置くべからざる事
一死罪ニ被ハ行ハ族ハ刎ミ刎ミ外不可聴
集事

人賣買札

一人賣買堅令停止ミ并年季ニ召使下人男女共十
ヶ年を限るべし其の定数を過バ可為罪科事
附譜代ミ家人又ハ其所ハ他所へ被
在日雇子をも令所持ハ上ミ者科者ハ不可
咎返事
右ミ條ミ可被於有違犯ミ者ハ可被處罪科者
仍作如件

天和三年五月日　奉行

右ハ被ミ仰出ミ趣欽内ミ堅急度可被申渡者也

領主名

領主ノ名ハ松平紀伊守ナレバ紀伊ト書シ青山下野守ナレバ下野ト書ス
奉行トアルハ幕府ノ老中ナリ

毒薬札

條々

一毒薬并ニ致種類賣買ミ仮令密和禁ミ者於商賣
仕者可被科罪科ハ因新たりとも訴人ニ出
るニ於ハ可ハ多度内褒美ニ被下仕事
一ニ致金銀賣買停止たるべし自然相糺るニ於ハ
ハ両替屋ニ而ハ可ハ過ぶしを上ニ返ミ并むりし
乃金銀ニ致金銀ハ金座銀座へつゞけもしハ古改

京都府立総合資料館所蔵

事

附ヨセ物すべからさるる事

一寛永ノ新銭金子壱両ニ四貫文加増を分ニハ壱貫文佛領私領共ニ年貢収納ニ心ゆ之ノ数たるべき事

一新銭ノ儀以つれ乃訴ニ心ゆ之なくして一国不可捻出ノ若違犯ノ者有ノハ可為罪科事

附悪銭似鈔古銭ハ乃分撰べからさる事

一新作ノ焼ならざる黄和高麗焼きべからさる事

一諸色ノ黄買或ハ一所ニ買置きしめうり或ハ中会合ニ不可焼事

一諸職人ヤ会作料を負債之ニすべからず恩加

誓約をなし徒党を結ぶ儀可為曲事ニ

右條ノ一のお字ハ若違犯ノ族於有ノハ可為罪科ヤ仍而ノ如件

天和二年五月日

太尽院 作出ノ新銭用ノ事急度可申付事

ヤ

切支丹れ

定

領主名

きりしたん宗門ハ累年御制禁ノ事ノ自然不審なるヒの有ノハ申出べし御褒美として

ばてれんノ訴人

銀五百枚

京都府立総合資料館所蔵

いろはんの訴人　銀三百枚
立うちうちの訴人　同断
同宿并宗門の訴人　銀百枚
右之通訴下らべしたとひ同宿宗門のものと
訴人に出る品こゝろ銀五百枚迄下賜しうく
しおき他人よりあらそうと称命ハ其所の名
主立人並近一統とゝもに厳科ニて仰渡ものや仍
下知如件

天和二年五月　奉行

右之通ゝ作出し趣旨内し堅く申聞べし役
宗門於訴人者御書付之外自分より急度ほう
びて出らるものや

領主名

唐物札

唐物抜荷あり儀先年より度ゝ御達ありしに
愛買致す者有之類相あり命ハ其ハ海陸方
町村間道筋且於牛ゝて也怪敷者知足無ハい
お紀し不可為致ハ万迷惑致人とも其度ニ
止めおき為抜ハ所役人為立会封印し上領り
置長崎へ所訴又ハ其所へ奉行或ハ代官領主地
以ハて中出若為立寄領ハ取逃しハハ役人と
も立会為封印せしめて訴出る
一たとひ同類たりとも訴出るニ於てハ其罪をゆ
るし為ハに後ひ五分ニ褒美銀ハ下ス

享保三年ヨリ四年五年ノ間ニ捕縛セラレタル抜荷犯人大阪ノ人ハ
櫨門ハ金元トシテ以下六十餘人内ニ女モアリ
ヲ長崎ニ於テ多クハ
連坐セラレ中ニハ京坂
大阪ニ於テ入牢セラレ
タルモノモアリ密貿ノ
刑ニ處セラレ流罪トセ
ラルモノ

京都府立総合資料館所蔵

一 拵為筆御入用ハ町村役人ハ勿論都而不而
為相勤候ものゝ名筆御於請出す其文面筋役人
怖而ものて始末方等相ハ事取可而出於
紙ハ右之者を行而不及筆出問屋会之處不
成筆御手出之む其為相勤候ハ為ハ多分之費義張
てなるもの

一 藩内より白絹羅紗ニ張り家紋付定紋付
り對物ハ蓬物ハ蓬物其他雪程数度拵し紙數品
ハ名請之上解者之方江紙し賣者送状等
を以て御筆庶人送状を以て迎俵ニ付右
しか為筆庶人毛持渡之品ハ出崎表ニ而買請
立ヶ所高到番所を版許文原方迎ハ俵ニ付

手板を以為相しかハ而勤之者を告て
あるハ事

一 右之外之年より拵高筋之分ニ付度ニ付 仰
渡書之紙出之紙世書之為之方を守し者也

二月

一 右之通ハ 仰出ハ 流領内之筆留を守るべき
とのも

徒党訴札

定

ゆるてらるずるしらるる事を性方勝中令七
ゝをとたらうとなくとたらして者ひてねらひる
くはだつるをごうをと以ハ或ハ中令七村方たち

京都府立総合資料館所蔵

のきゝゆをてうさゝと申前に より伺仕度と申除右
数し候ものれあるゝハ居村他村ニかゝはらず早
〻其ぢの役所ニ申出べし伺ひのうへとして
とたうの訴人　銀五枚
ごうその訴人　同所
てふさゝの訴人　同所
右之通下され其品ニより帯刀苗字ゆ免あるべ
きものたとひ一たん回数ゆ おなりとも發言いたし
ゝものの名前申出るニ於ては其科をあらされ法
ばうびあるべし
一右訴人既すものゝ村ニ隣立ゝ市村内の
者を差押へ出たうゝ人ハ召捕せ人ゝさし

出さゝる村方百〻ハ村役人にてもゆ咎ゆ
重ゝとりしらめゝものゝ伺ひのうへ銀五枚帯
刀苗字伺免さしつゞきまづめひあるもゝ百〻
ハそれ〳〵法ばうびあるべしおうるゝものも
明和七年四月　奉行
右之通ゝ仰出ゝ候間ゝ堂宮ゝ社寺ゝ
領名主
博奕札
博奕ゝけゝものゝ法勝負以前伺仕度ゝ厳重ゝ
統ニゆるみ博奕ゝけゝものゝ勝負ゝ銀ゝ名目を
つけゝて武士百姓ゝ社又ゝ寺院ゝ出ゝ於ゝ右
体不埒ゝ儀以ゝ聞ゝ届ゝ出ゝ事右体ゝ儀ゝ

京都府立総合資料館所蔵

山ハ、急度申付べくハむ味あれしと上ハ勉り合
乃之ゝ迫と妻用捨あれし仕置下申付ハ右体ふ場
ゝ赤ハれ有りハハ、毛そうよ事ハ、この訴出ゝ
急度陽襲義ハ訴ハハ日新しものたりとも訴出自分
驚恐をも相改ふふ於てハ是又陽母らび下ゝ

五月

右ゝ通達

分藩ハ 仕出ゝ 詰領内ゝ家宝下ゝ出ものや

天明八年二月

幕府ノ掟書餘書　地方農民ニ関スルモノ　以下條
項多キモノハ之ヲ帳面トシテ一冊ツヽ制札ノ下
ニクヽリツケ置ク

覺

一此ハ、おゝ仕出ゝ市制法ゝ通百姓お書ふ
仕農業専ハ迫退ふ立ゝ掟ニ心得ハ事
一庄屋百姓ハ自分ハ後布意ハ不可仕但道
節ゝ所家人宿仕ゝ所ハ一の為掟別ゝ
一百姓ゝ衣類ハ前ゝ通ゝ以氏帯法庄屋ハ妻子
ハふ絹紬布木綿腸百姓ハ布木綿半一の者ゝ以外
袴帯とふこの類ゝ
一庄屋百姓ハふ布限男女衣類ハ紫紅ニ染ふ度
ハ也
ハハ色ニなりとも かくなりニ際一の者ゝ
ふ

寛永五年達
百姓分ノモノ布木綿
クルベシ
但名主其ノ外百姓
ノ女房ハ紬ノ着物ニ
ハ不苦ノ上ノ衣
常ニ着ルハ、四年
クルベキ

京都府立総合資料館所蔵

一百姓ハ食物常ニ雑穀を専用来ハ猥ニ不食様ニ
可仕事
一名主惣百姓男女共ニ無駄作止ル事
一新盆結ぶ灯あやつり等之儀ハ在所ニ勿置
事
一神事祭礼年忘ル佛事或ハ婚礼祝儀之類ハ
其時ニ不似合様仕間敷事
右之趣堅く申渡し相守ル様ニ庄屋常ニ改め可申付
ハ若違背仕る者有之ハ庄屋五人組より訴ル
事ハ代官ニ可申遣旨ニ付
付為也
寛文八年申三月

右之通仕 候所ニ仕ル作物ハ堅く出合さる
べきもの也
五月八日 堺下陣屋おし地名 鳥山篠山ヶ下書ノナリ

覚

一梁ハ高サ三尺 桁ハハ巾四方
一佛壇ハハ長サ三尺四方を一の限
一ひら木作りハ上ル法橋ニ為無用
右堂舎家殿方之文度ニ東ヲ外ハ可申定ル
ハ梁ハ高サ三尺作ル可申旨ハ有之
ハ方社ハ作ル中窟ニ可仕為用ハ以上
寛文八年申三月
右之通仕 所ニ仕ル作物ハ堅く出合さる可

すこしの地

五月八日　塚下陣屋ホ地名

定

一　公儀御制禁之御宗旨ヲ農業ヲ怠リ不仕者ヲ
まして儀長ヲ孫ヲ付ル
附火之元ヲ切ニ可申渡ル
一　切支丹宗門ハ公儀ハ不及申慈悲ヲ以厚法度ヲ仰蒙
ル事不及ヲ施慈悲ヲ法華宗領内ニ不移居
孫ヲ付ル毎年人別帳面ヲ以宗門ヲ改ル
一　元メヲ名捨之ヲ節村ヲ立ル入名之分仕地方
御仕法ヲ名捨之ヲ方ホ定ル儀ヲ遠ニ

吟味弥異ヲ孫ヲ付ル事ヲ無相違定
ヲ極ル分ヲ右吟味ヲ紙ヲ以其所庄屋ヲ
申渡ル
一　在ル御屋敷ヲ無用ヲ於者ハ御定所ハ根
ニ不ヲ入用ヲ者ヲ市ハ年ヲ元メ年ヲ越屋敷
ヲ元ヲ地方組ヲ仕ル外御定役ヲ名猥ニ御屋敷
并ヲ地新宅ヲ吟用ヲ成ル成ク者用ヲ
ル
一　年貢ヲ遅ル儀不滞様ヲ中日迄御清ヲ入名御定
ヲ可致農密ヲ
一　御中公ヲ御法ヲ儀遠分ヲ入名御屋敷ヲ中御ヲ
軽出入事分ニ可会議許ハ元メ役人ヲ能ヲ遠

京都府立総合資料館所蔵

お許和之を之り中毛以依怙贔屓なく理非を
糺し審査して下度存候

一 御中へ役儀に付役人を罷出し市町地を賜に
不可使常に町人百姓より少し宜敷かゝ不可
受候

一 許役人代交其外手代かに手る迄私怨系儀を
手伝役者に不達遂吟味系述下り、差今用
捨外より嘆願かハ、之メ役人或ハ目付役人
に出て為越事

一 御定所許役人毎日手数を勤為帰遂吟味
異事成仕間敷

一 金銀未済許御一式入念可被為きらえ儀

を以て御定に対し可仕ハ少分に候とも許文無しハ
御定に対し為可申事

一 金銭為済定式に外時に成分ハ年賀に吟味
書下可被事

一 許金調知に儀細遂吟味無之に付急ゝ下役
人に取掛り御下し吟味に之メ役に名
下御帰

一 出参し者に不及申候に成分ハ今年へ繰り赤
御下し儀ハ経年不可遂失事に付に中付
至中出許牛遂穿鑿科に軽重に随命て合御片
り

右に御下之規に通急度可被下者也

京都府立総合資料館所蔵

享保二丙辰年春日　寺内

條々

一仏像彫刻ハ名く御寺年貢諸役免除ふ事勿論
附記ふ者を書し之事勿論ハ者ハ
不申ハ者の所ハ中出ハ不申ハ者ハ
其罪を記し書ハ者ハ齋藤を無ふべし

一村内彫刻ハ俗中世ハ節季毎ニ勤事

一彫刻者ハ家ハ者毎一年ハ半ハ出ふ

一竹木并ニ自然ハ者ハ許可無ハ禁ハ事

一樵ハ外練砲所竹樹ハ勝手ハ伐ハ

一家作并婚礼ハ俗ハ計略ハ送ハ法構い
さ事べからふ

附家作婚礼時節ハ俗農作ハ妨ハ不可申ハ
ふ事

一高山ハ自然ハ生者ハ木竹ハ樹ハ伐採ハ
可申事

一之地ハ返納ハ者の并物者ハ一枚ハ名ハ仕可
ふ

附金仏御修山供ハ数年ハ俗人ハ至る迄入
会ハ紀ハ怪数俗ハ可ハ一ハ命出ふ

一銀用ハ男女ハ者ハ自他所ハ者ハ出ハ申
者ふ

附手代俗ハ四方ハ役人ハ迄ハ受免国ふ

一旅籠屋ハ者人ハ宿ハ日ハ及ハ外ハ支配ハ役人ハ

京都府立総合資料館所蔵

達して受取申候

一雲蓋とのゝ又ハ手負人ハ於町中出ベし為在
置於ハ知ハ不申候事

一家中屋敷并城下町自然出火ハ町人ハ消防
ハ勿論其出火所ハ町人通行
為用ハ不申事

一侍分ハ云ふ迄なく其外ハ不申
して喧嘩等仕ること
附家中ハ下ハ長屋ハ後町方ハ相応ハ申付
ふ事を致ハ名前ハ慰を致し本長せざ
ふ様ハ取成ハ不べし其ハ
ハ不ば町ハ内ハ密ハ所出ハ不べしとゞめだ

てをしうるしのたる仕方あらば理非を糺せ
ず侍ハ附ハ手続ハ裁定ハ可為急事

一役人ハ高知所ハ
一四国山林永代賣買ハ
用ハ調ハ節ハ
ハ對ハ私ハ
一作物ハ出ハ
他村ハ
附年貢米ハ
一不依ハ
扱婚聚并仏事ハ
軽く致ハ

あるべき取扱方しゝ急度申渡すべき

一父子兄弟田畑所持しゝ者ゝ其能き代度ゝ
あるべし其上にて村方
附村内切係かゝる仕方中出る

一衣服に俄木綿布に限るべし婦女に限る洋
ト色々に衣服不申用る

一庶民名主ゝ羽織袴着用の儀其外平町人に
ゝ脇差不申用候様在郷より筋目正しき者ゝ役
人ゝ申渡し第四次外なるべきも

一衣服仕立其外出費不慎との書置に俄に仕
立ゝ

一火しゝ之常に気入て申ゝ

有ゝ條に背く者ゝ有ゝ守るべし違犯し案件出ゝ
ゝ

寛政三辛年十月

觸書　寛政二年戌十月

一公儀御制禁ゝ御番所ゝ仰渡ゝ御條目并御
触ゝ御掟ゝ心を用ゝ急度申渡ゝ村々
庶市諸宮ゝ出ゝ出ゝ遠方ゝ於ゝ心
得違ゝ有ゝ條人ゝ出ゝ組番頭ゝ前て
申出ゝ

一悪者ゝ并人ゝ委て状面委敷ゝして家業
ゝ精を出し人ゝ流ゝして不ゝ者ゝ
ゝ其所ゝ名主庶組頭状を書置て申

京都府立総合資料館所蔵

也

但女ハ男姉之事ニ候ハ其ノ記ス可申事

人ニ被雇たる者あらバ又ハ申出

一七十ニ餘り養子又ハ夫ニ離れ稼ニ出業ノ者又

ハ十家ニ満たず一ツ家ニ成り引受ケ成し

ハ者と雖ども医業ニ者或ハ片輪者ハ長

病ニてたゝる方なく身上ならこゝろ者あらバ

名を書き記して申出

右之條ニ洩ハ之候ハ 仮出ハ仮其所ニ役人并

役人ハ名主ニ人ハ右神ニ者あらバ知れしハ上

在方ハ村ニ代支町方ハ年寄迄申出

是迄村方ニ於ル庄屋行蔵を有る取ル時共ニ村

動定会ニ係り毎ニ及出入ハ申ス可しハ向後ハ村

ニ大小ニ拘ハ時年貢并諸役勤ル或ハ村入用等

ニ至迄毎年庄屋役長ハ時ハ名主ハ名帳ニ記し置

方時ニ名主動定ニ於ル相違ハ銘ニ印形永置申ス庄

屋行蔵役ハ右帳面ニ国印ハ記し申ス年頃ニ仕

廻ニ成ハ名ニ動定帳面ニ時印形を以取置

及出入ハ名ハ行蔵役ハ名主ハ

一庄屋名主行蔵役ハ村ハ其村庄所ニ於ル

或ハ印形ニ成ル者又ハ取ル迄ニ成ル者

ニ者者又ハ少ハ違ハ一ツ者ハ名ハ俱ニ

立ニを加ハ平生相応し農業家業ニ怠らざる様

ニ申付候ハ可申ハ 英右様し者あらバ再

庄屋怨を報く導き甚よしと不届の用いたし候ハヽ申出
ハ急度仰付候ニ付組頭ハ五人ハ不申及
手代并庄屋名主組頭并親族迄も相談し候て可申付
候ハヽ右之趣奉行所取計可申付候
一田畑山林家屋敷二重質入二重売ニ致し候ハ御法度
ニ候ニて右様之者あらバ本人ハ御仕置ニも可
被申付名主庄屋加判人ニ至迄も急度可申付候
付田畑ニ質入ニ至る迄も其ヶ所遂見届名主質取主
ニ無之候ハ上質取可申筈二重質入之候者有取
之者又其段可申事
一捨子之儀ハ兼而厳敷御制禁被仰付候間右様ニ捨子
有之候ハ其所之村役人町役人迄其段可申出候

自然捨子有之候ハヽ養育御仕置之儀ハ可申付之通
一捨子有之候者ハ其届け可申出其所
之御役所ニ而者其地町村又ハ捨子之者共可
申付ヶ所々節之可為事
一公儀御構者ハ御料御領分并他領他外者ニ而も
其外悪者有之候ハ一日も留置不可他領者入込候人ニ
而も又ハ引受候者之者ハ其可申出筈ニ候間
名主頭より段々家頭之者并又ハ其者に付出入之
ハ其事ニも不存名主并又ハ奉行所
江可達奉行所可申付候事
一養子縁組并他領其外他所縁組之儀者遂年月を経
て相談之上相違不埒之儀ハ其分事ニ可

京都府立総合資料館所蔵

新出自然不新出田畠変有之ハ雙方被座下申事

一帯刀之儀ハ御免無くしてハ雖為神主之處所人々姓之内他所ニ於て帯刀致し候者有之欤

之上ハ重き御仕置ニも可申付事

一鉄炮ハ御猟職為御免之者玉入を打或ハ持留場ニて殺生等致事兼之御制禁之處近来心得違之者も有之哉ニ相聞へ向後堅く可相慎若心得違之者有之ハ急度可申付事

一吉田家之許状を不請猥ニ烏帽子を着し其上神職之身ニ而村持之社或ハ村長官座抔と称し人数を極置年寄毎ニ神事致候儀ハ致官座抔と称し神職無之村ニ而仕来之通村役人又百姓之内

白張又ハ麻上下或ハ袴着用神職紛敷振致し候儀ハ御領神事等他所より神子神職ニ而仕来之通致来候處ハ吉田家之許状を受不申候ても不苦候得共吉田家より神職之儀強而相勤め候得共許状不請候ものハ猶又其趣相礼し候儀御免通りニて無之神職許状を請候者とても近来之修し上ハ下ケ仕候ニ付此度儀今神職之儀相勤め候ても勝手之旨堅く可相守事先

致可申事

一都下町人百姓之内盲人ニても琴三味線針治導引を渡世ニ致し候ものハ検校之仲間弟子ニ不相成ものは常業之中三絃等を帯候儀堅く無用之事

事

育ゆるあり本地換租を請ふ後を山林を開墾する場所人作し分ハ是亦格授し所ならんべくハ為後ら為事

一百姓年貢し儀ハ第一ある動ハ中変或ハ借金銀ハ是ハ人ハ其方へ及差引年貢米切手を買入れ而ハ其価を除て皆価ハ市ハ銀ハ差支係る訳方ハ及難儀ハ数ハ多ハ皆価市代及并ハ代ハ内分ハ有之ハ差出皆商及分ハ暫く用捨願ハ是迄ある事ハ〻ハ年貢し儀ハ方切ハ〻ハ仕儀ハ方様ハ計為為為為中ハ置ハ自然為価為ハ村役人とも為

然ハ中付儀ハ為蒙ハ其為を存ハ中

但為ハ中ハ為ハ為迄ハ〻ハ村役人ハ為

諸仕為ハ五人組迄ハ〻ハ助ハ為ハ様ハ計ハ

為ハ自然為ハ〻ハ振舞如ハ為ハ為ハ為ハ

為ハ為ハ市ハ為ハ中ハ為

一役人共ハ婚姻ハ儀ハ寄命ハ制禁命諸ハ〻ハ

料又ハ為ハ自然為を受ハ為ハ為ハ寄ハ

中為ハ且役人迎ハ又ハ見為ハ為ハ為ハ

為ハ市ハ蒙命ハ為ハ為ハ為ハ野菜

為ハ為ハ為為為為為為為為為為為為

一家善悪并方法為ハ山林を伐取ハ節ハ

為為為為為為為為為為為為為為為為為

京都府立総合資料館所蔵

ハ事

但於村方建家又ハ諸普請等ニ成しハ事砂風抑
ハハ〻ケ村方ニ居住致五人組ハ加海村方
ニ而ハ遂懇願ニ成候ハ節者しハハ〻ハ右村役人
共ニ相無代ヒ〻て回株并他株ニ而者五人印
形加ハ砂風抑ハ右人ヨリ引取ハ
右印形ニ而右抑ハ新ニ可取上是迄砂風抑不
在ニ〻ハ加海砂風抑其ハ節目ニ者ニ〻ハ
自然新ニ右砂風抑ハハ〻砂風取ハ
度可申ハ旦又抑ハ山林伐取ハ俵南村抑
村ニ俵ハ海ニ者ニ〻ハ迄ニ〻ハ
ニ者是ハ〻ハ右村ニて是迄通ハ

一在〻ハ於加海村ハ乃ハ〻ハ或ハ佛像建立ハ俵
ハ仏ハ止ハ〻ハ旦怪者乃迄抑中絶ハ人心を迷
ハ又ハ村ハ佛ハ其外乃俵ハ事村ハ
ハ無乃ハ俵ハ是ハ敬ハ〻ハ者ハ細者
ハハ新出中而ハ止ハ抑ハ
一年村ハ俵者て　仏俵而ハ自分ハて作
ハハ者一所ニ皆ハハ〻ハ荒廃村ハ
ハハ遂ハ乃ハ
一仏金抑ハ新ハ其外ハ無命ハ者ハ
ハハ自然乃者乃ハ其所ニ面置ハ

出入人らし市寺送り被文し俄可為入るもの且
那寺たるもの得と御紀しても外寺送り者し
とのを男那と成し葬れ外しの者銭文を中付り
一度北人弔し俄男那なるより支配方へ届出し上取
計ても中外自分として取置き俄所為者し怪
捕候事しんハし早く この届出事
一俵俵たるとの女犯し俵に業数市利禁ずて第一
お背きたるものハ金弐罪こと一の文り第しハ
ハ出くお信ても御以不如法し俄品しハハ
毒用捨急を遂吟味ても中外の為命真方を一存ず
但寺院ゑ者を以婦人第宜申聞者し義近き
現放れ毒授事第し市ハ手為支配方へ移出ず

一被ら院ら捨命擬こ真るし本当付如佛具おを書
入まくハ毒度し被文を以て金銭俵入し度出く
行止しるしハ為金を知るもの右ら所お警和こ
取或ハ毒度こて金子使しハハ多殺ても付事
一捨又又ハ少れを居り又ハ毒被授人ら悪るを申
紛しハとのハ悪ハより殺りハるしハ業殺
吟味を遂げても中り為常こお信ても事
一田畑山林家屋敷他人ハ勿論たるハ父子兄弟親
類へ譲りハとも早速を節し役人へ左遷帳面被
置ても中ハ自然お棄置候る及出入ハハ取上こ
ふを本ハら真ら棄ての在事

一田畑を質入に致し金銭借用の節質に取り右借
主に渡を以て作り取に致一質置主より年貢諸
役納めるハ勿論なれ共右質入の節ハ
双方熟慮之上取結ぶ事
一質無りし後ハ兼而申渡し候通
後を取結び無り致し後ハ
速に返済致すべし
一他領より来る公人を抱ハ市論人取置之方宗門
おゐて其人を抱ハ市論判不取
置ニ於ては其人相応なるべくハ引入金取計
可申事
一博奕取扱者之筆附おゐ後ハ兼て申渡置し

近来ハ公儀も業変り 御出も有之ハ前
以お触ハ通り自然違犯之者有ては急度遂吟
味申ハ自然ハ特奥宿田舎ハ名主組頭
為預置ニ成り片袖片手を刎り町村中引廻し
敲ニ申付ニ仕置等申付ニ引ハ人ハ重き科ニ
ハ申付ニ右新ニ科ニ成りて ハ是ハ上和尚
ニ成ニ人ニ出し有り事ハ寄子着屋迄も此
段申聞置ニ寄引ニ文ハ有之ニ乃数有りとも故
引受ハ新ニ役人ハ申渡ハ仲立人但ニ寄る迄も有之
ニ人を附置ハ者ハ者ハ相違無之
右個條ニ付ハ是迄自然人ハ重犯しハ犯しハ右有之
ハ也 是迄ニ候ハ一向ニ申渡ハ沙汰ニ及ハ

急度あるべき事 一つゆれ時度あるべきハ 仏像
佛仕置ゆ後 新宮ゆ時仕置 てゆゑ
を存し 眷科ゆ隔らざる 物ゆ覚候まべき所ゆ 作
物ゆ その他

慶長年間豊臣氏ゆ代ハり徳川氏より下セル
宗門寺檀請合之掟

一 切支丹ゆ法ハ死を不顧 身より血を出して
死を成すを成佛と立る故天下ゆ法度厳密ゆ
實ゆ邪宗邪法也依ゆ死をあやまふするとの
を可遂吟味事

一 切支丹ゆ元附者ハ闔單國より毎日金七厘を
あたへて天下を切支丹宗ゆなし神國を妨る
邪法なり此宗ゆ元附者ハ釋迦ゆ法を不用故
ゆ且那寺ゆ檀役を妨け佛法ゆ建立を嫌ふ依
ゆ可遂吟味事

一 頭檀那たりとも其乃宗門ゆ祖師忌佛忌盆彼
岸先祖ゆ命日ゆ絶而参詣せざるとのハ割形
を引宗旨改所ゆ斷り急度可遂吟味事

一 切支丹不受不施ハ先祖ゆ年忌ゆ僧ゆ弔いを
不受當日宗門寺へ一通ゆ志を述内證ゆてハ
俗人一類ゆ寄弔僧ゆ来るる有時ハ不興ゆし
て不用依ゆ可遂吟味事

一 檀那役を不勤しゆも我意ゆ任て宗門請合ゆ
住持人を不用 宗門寺ゆ用事身所相應ゆ不

京都府立総合資料館所蔵

不受不施の日蓮宗より出ずるの新流なりトスフ政令ニ従ハズ不信者の供養を受ケズ

勤内心邪法をいだきたるを不受不施と言可
相心得事

一 不受不施と云ハ法華宗門ばかりを不請不施と云ふ外ハ他宗門より神仏を不施ず又他人他宗と志を不受不施ず邪法の人ハ天地恩を請て地に施し親に恩を受て子に施し仏恩を受て僧に施さず法の法を依て逐吟味

一 切支丹非田宗不受不施三宗共に一流の徒ら為む而しかるハ切支丹頂切死丁頂仏と言ふこと頂大うと名ふること仏を敬ふ事鏡を見れハ仏面を拝べバ鏡と新丈と思

ゆる是邪法と絶之一度此絶を見る者ハふうく牛仏吉利死仏を信仰し日本を魔国と成た錯乱宗門吟味と神国ハ一通り宗門ハ不受不施て宗門ハ出人に交り内仏不受不施て宗門ハ入ず依て逐吟味

一 親代より宗門に元附八宗九宗と内ハ宗門ハ邪法に紛ふ其子吟味する進めるず四度邪法に紛し居中に知れ外宗門者より此段逐吟味仏法を進め議論を成し糸詰段させ壇那役を以て丈に寺に仏用修理建立勧めさせ宗門宗門ハ一切不勧世間交り一通りにして内仏仏法を破り僧に勧

を不用依て之の遂吟味する

一 死後死骸乃以ると刹乃を為あるを戒名をさつけ中る是ハ宗門寺乃僧死相を見届け邪宗なて善と為慥に合點と上るて引導の数為と結て之の遂吟味する

一 宗門寺を指置外寺乃僧を於て用ひ其宗門寺乃住持を退け中る刹乃数設邪宗西法の遂吟味する

一 先祖ら仏事他寺く頼持条法事勤ける望禁制したりといへとも他國他在るて死去ら者ハ検別ら事之好こ之の遂吟味事

一 先祖ら仏る行歩慥なる者不致条法不所法よ

修行申者ハ可遂吟味且又平者ら持仏堂へ備物能ら足届け邪法西法の遂吟味事

一 天下一統西法ら紛条ら者ハ研判を加へ宗門請合ら中る武士ハ其寺ら請状こ證印を加へ条上を外血判こ致物者ハ諸人請合を以て訴文ら条出る

一 相果ル時ハ一切宗門寺ら持図を承け取行ひ之の中事

一 天下の欲萬氏乃怨ハ切支丹不受不施非田宗と軽じい名数族た果ル者ハ寺社役所へ為り捨者を受て宗門寺ら住僧弟子の中る改所へ不沙弟中時ハ其僧ら秘度結ら之の遂吟味る事

又相承者退且邪役等ハ宗門ハ不相意ニ成ハ宗門
寺より用捨ニ可有ニ事信心を以て佛法を尊び
王法を敬ふものハ正法之
右十五條ニ趣一ツニ於相背ハ上ハ梵天帝釋四大
天王五道ニ明宮日本　伊勢大神宮八幡大菩薩春
日大明神其外氏神日本六十餘州ニ神明可奉蒙神
罰者也

慶長十八年癸丑五月日　奉行

天下諸寺院宗門請合ニ面ニ此内壱ヶ條ニ
相欠ル而者違反ニ　作付ル紙ニ可有者
や

七拾五ヶ條佛法度書　并ニ註解　○印

一從是以前度ニ被　仰出ル佛法度ニ趣御寺方
佛法役方切ニ相勤ル耕作精入佛事貢奉　当
屋住僧ニ銘々ニ可勤事
○法度ト八法律意ニテ慶長以来ノ申シ渡シ数
多アリ　公役ト八上納夫役等ヲ云フ郷人足
牛馬運送又八宿驛出張人馬等ヲ含ム
一切支丹邪宗門御改ニ義御高札ニ趣猶以相守毎
年九月中総方姓併屋敷ニ下人ニ至迄名ヲ
入相改帳面ニ記シ一ヶ所ニ集ル檀那寺受判ハ役人
立會可有ニ事
○高札ノ文面前示ノ如シ　受判ト八寺僧ニテ
證明スル印形　役人ハ宗門改役ナル者アル

京都府立総合資料館所蔵

丁天田郡福知山町朽木家由緒事情畧載ノ部
ニ出ダス参看セヨ旗本支配地ニ於テハ代官
コレニ當タル

一御公儀御用ト人馬御觸有ル時ハ時刻を遲滯大
切ニ心相勤ル
附御用ト人馬御配符を負ふ者日附時附仕次
ニ付ハ為後永世形ニ文永置事
○公儀トハ幕府ノ尊稱　人馬御觸トハ宿驛繼
キ立テニ使用スル運送又ハ駕人足ノ類ヲ云
フ　配符ハ人馬ノ數及ビ出張所日時等ノ書
面ヲ云フ　多紀郡福住村参看

一往　御公儀法度その縱雜訴類緣者不隱置急度

この中出ル切御印ヲ陸ニ居宅裏屋木屋有社山林藪
ニ中迄屋ニ入ル役ヲ家出者有ハ當面ヲ今屋
遊事

一鉄砲ニ儀前ニ寄ハ　作毛ハ通ノ害ヲ防度
自分ニ求めハ儀ハ不及言親類緣者ニ拵砲ヲ
ハ一切御印申ス事

○大名旗本以下由緒アル郷士ノ外ハ武器ヲ所
有スルヿ禁制ナルヿ前々ヨリノ法ナリ但獵
師ト山村ニ用ル猪鹿ノ銃ハ許可セラレタリ

一往還ニ道幅ハ不中及田畑ハ通ハ時ニ成とても
作ニ人馬ニ往来自由成程ニ可仕事

一洪水ニ節野山より土沙流出ル場所ハ木苗を植

京都府立総合資料館所蔵

え本ゝ根ハ深ク地中ニ孫ニ可仕申候ゝ時節有
ゝ者向後望ニ出土沙除出さ原根ニ可仕事
一百姓役ゝ者下人立人ニ対シ悪口を申ケ乱暴
儀有ゝ者を立人用捨致置ハ其外ゝ百姓見通ニ
不仕事
附下人男女共召抱ハハ、急入請状可取置
世なく抱置ハ、ゝ立人異存申立ハ仕年数
ハ十ヶ年ニ可限事
一百姓ゝ下人ニ可致給金ハ何角と申延義置出
代銀ニ致候ゝ種類を申勿ケ給金を不渡吸出
ハ立人ハ後日ハ聞ハ申ス可致候事
一紀之足弟むつ[illegible]ゝ仕ハ為不孝者有ゝハ

下ヶ出見通聞通ニ仕置申ス如ハハ、其五
人組ハふ及云度々年寄庄屋ニ可為義度事
一村中ゝ用ハ書状ゝ金を入れ下ヶハ為ゝ事ゝ
事ハ村中ハ拾所蔵場而差ニ出火ゝ怖而ハ、ケ
仕法ケ下ヶハ自然喜場ハ不出会有ゝハ役人
方ハ可為通事
口御蔵場所ハ領主代官所等ノ税米郷倉ヲ云
フ
附反ハ家を[illegible]ハ[illegible]ゝ屋敷ニ[illegible]ゝ家
主ハ不及申下人ハ田畑を作り仕ケ[illegible]
を[illegible]ゝ[illegible]ハ門脇ニ[illegible]申[illegible]ハ従
而枝ハ[illegible]ゝ[illegible]ゝ迫りハ[illegible]ハ事

一火付又ハ空し札を張り仙名有しを見合ハ
直に役人方へ知べく仙足随に致置直而本人
白状しと申歌ハハ一つ為用罪事
○放火ヲ爲スヤ又ハ焼ヤこスベシナドノ文句
アル札ノ丁 相断ルトハ届ケ出ヅル丁
一村中密夫不儀し有者し ハ早速役人方へ可申
隠置脇より頭ヲ〻ヲ於て ハ庄屋年寄友隣五人
組ニ為度事
但如ヲ為ヲ後家長ハ寡ニ妻子長し男一宿
仕ラ為ハ常ニも記載し外ハ出入を立ての致事
一往還筋他領より送りの者ハ長吏俗法及ケ地
以内ハ村次ニ送り届ケ下ハ次〻ハ村請取不申

ハハ〻連帰り随ラ以たをり置庄屋ヲ人京都ハ
罪登り所郡代所ハ時所ヲ中出事
○送り者トハ病者創人ノ類ヲ云フ
一旅人并乞人を食ヲ所領内ニて相果ハハ〻番人
を附け置キ早〻役人方へ可相断ハ三日過ぎて
も右し死人不申出ハハ〻甚所〻出家ヲ僧ヲ幷
郡置キ其乃四ツ二切ヲ結ハ死人し年頃衣服
し色并ニ所持し品し板札ヲ記し辻ニ立置くべ
し死人為ヲ負ハ者ニハハ〻疾し大小箇所お
改焼潰ニ致し置役人し差図ヲ受事
○頭人トハ盲人ガ位記ヲ乞フ爲ニ京都ノ久我
家ニ赴クノ類 番人トハ番太トモ云フ村雇

ノ捕手ヲ云フ

一魚鳥ヲ取リ家業ニ致ス者ハ役人方ヘ訴ヘ遂ゲ
ヲ受差図ヲ以テ殺生一切仕ラズ殺生シ訴ヘ
ザル者ハ敬ハ有ルトモ殺生取ヲ免ス
○鶴ハ將軍家ヨリ天朝ヘノ獻上品中ニアリテ
人民ハ之ヲ捕獲スルヲ許サズ其ノ他鵠鷺類
ノ白色ナルモノハ祥瑞ノ者トシテ禁中ニア
リ鳩鴿類ニ於テモ同シ

附鷲落シ鶴白号ヲ拾ひ上ル者有シハ役人方ヘ
訴ヲ受差図事

一牛馬ヲ拾ひ上ル儀依御制禁用ニ立牛馬ヲ乱暴不
知モノ又ハ稼多ナル人ヘ差図ル儀ヲ以テ心ヲ付ケ

シ不届者有シハ急度曲事ニ仕牛馬ヲ乱暴ニ致ス者ハ
也急入ル仕帳面ニ記シ置ク
○曲事ト云ハ刑罰ノ意　或ハ罪科ヲ意味スルモ
モアリ

一不信ヲ以テ一回以来シ徒党ヲ結ビ神水ヲ呑ミ
中ニ成ル儀初メ軍師ヲ大勢相組逆判ニ
テ申出ル訴状詮議シ上大勢ヲ方ヲ非分ハ頭判
シ者ヲ曲ヲ事
○熊野御符ヲ水ニ浸シテ呑ミ誓言スルノ類

一堤井堰堰川除シ儀ニ付ル前書ニ朱墨ル掟ハ
ハ毎年十月中役人方ヘ方ヲ見分シ上申ヲ受

京都府立総合資料館所蔵

西原中百姓隙ヶ節仕置ニ付中
附役人ハ妻乃野間ヶ野道堀ふ及申兼て伐伐
ある野新規仕ヶ茂ヶ中
一山林竹木ハ勿論ヶ百姓四壁ばかりとも猥ニふ伐
義ヶ個有ヶ役人迄相達ニ諸差図事 四壁ハ合壁ノ誤乎
附寺社山林同然ヶ事
一御免状割付ヶ伐大小ヶ百姓不残立會明細ニ割
付仕給ヶ書記ニ為ヶ庄屋年寄以ヶ百姓中合せ
根ヶ為茂伐一切仕ヶ茂事
○免状トハ祖願書ニテ所々字々ノ田畑ニ下ス
書類
一村中免割帳法入用帳明細ニ書記し毎年各月中
役人方ハニ茂出ハ茂不時ヶ入用を信し置き度
旨於ヶ頭ハ庄屋年寄ヶ為茂事
一御年貢米相納め節庄屋伝馬を入付ヶ庄屋より
ヶ中ヶ受取手形取置ヶ為ヶ形ニ引替可申事
一御年貢米拵ヶ伐粗ヶだけしいな麦米ヶ麦ヶ稗
吟味仕縄俵高を入れ米ヶ肝煎ヶ名を以て小札
ヶ書 俵毎ニ入ヶ差札も同然ニ可仕事
一御年貢ヶ為ヶ麦ヶ吟味仕俵全俵米ヶ面倉ヶ仕穀物
一切他ヶ出申ヶ茂ヶ村用ニ為殺費申ヶ茂
事
一常ヶ耕作不怠ヶて村を治すとも見ヶ伐ヶ
くとしてあるヶ廻り多銀ヶ為ヶ茂ヶ村見而

京都府立総合資料館所蔵

くゝさ右有之ハ其乃但田より氣を附け庄屋年
寄ニ申渡り置き作物取入次第急度御年貢取立
一ヶ年ハ御年貢皆済ニ成ハ可申候仕ハハ其乃
御年貢米ハ庄屋年寄五人組より お請へ させ取
立この中ハ乃御代官所ニ為ハ事
一本紙ニ書てこ無之畑作乃物を田方ニ仕付ケ成ハ併
而田水よりくゝさ田方ニ仕付ケ成ハ畑作を仕付ケ成ハハ 畑有ハ
一耕作ニ入れ 年貢ニ仕田畑ニ 芝をうゑし立ハ
右有ハ 後誠ハ上取ケ さ其田畑ハ御年貢不足
有ハハ其田并ニ畑ハ地主ニ お請させ ヶ中ハ兼
而年貢を取ハ近所ニ田畑を作りハ者より異見

を加ハ ヶ中ハ用ハ ヶ中ハハ庄屋年寄へ お申
置ケ事
附病気ニて耕作不情ニハハ其但ハ 今方
この仕ハ 後又極付時分お系ハハ其但ハ 者
を庄屋年寄無之時ハ 後相付ケ中ハ 荒取ハ
事も田畑ハ事
一田畑 成永代ハ 売買一切仕ハ成ハ年季質物ハ
成ハハ田畑ハ庄屋年寄地主ハ 判形
ハ後文取替ハ 違乱無ハハ 相ハ 仕ハ 御請ニ 質
入ハハ 地主ハ 為 度事
附年季ニ 売ハ 田地ハ 地ハ 役ハ田地文
取ハ方ハ御年貢 役ハ 和ハ

京都府立総合資料館所蔵

一村中田畑山林等新開ニても不隠置有坪ニて
ハ勿論其又立毛之分ハ御領内ハ毛を隠し
他領ハ無作を引仕ル所又ハ歩刈ハ籾を密取
ハ〻以後ニ御糺ハ申ス曲事
一田畑ハ竹木ハ植ハ不作仕ル所有ハ庄屋年
寄所百姓立會之計絶種ニ伐採ハ竹木ハ及異
議ハ〻役人方ハ百姓ハ其儘ニ差置見分時
分見合ハ〻庄屋年寄ハ有城啓事
一市蔵番ハ俵ハ不残ハ番を之の殺ハ勿
論ハ盗人ハ逢ハ〻百姓難ニ付仕事
一地百姓耕作怠業を方印ニ相〻百姓難儀を給べ
米酒を貰ハ申ス者ハ自然を授受ニて振舞仕ル

〻〻一汁三菜ニて仕事
附神ハ佛ハ祭礼要用ハ多紙ニ付仕事
一拾石以下ハ百姓持高別ハ其年毎ハ多ハ
〻ハ叶ハ内ハ細有ハ〻役人方ハ御可
受下知事
一百姓五十歳ニ及ハ迄跡目お後ハ〻ものしらと見
請ハ申ハ〻庄屋年寄其五人組ハ右之會在長
を申而百姓ハ在生中ハ中郡ハ伐氣ハ毒ニ存し
ハ〻譲状相認ハ其名封印して庄屋方ハ取
置き相果ハ以後庄屋年寄五人組記名迄之會
封印を切て仕其跡五十歳以下ハ名お果迄目不
相極ハ〻不依男女其筋目を糺し役人方ハお

京都府立総合資料館所蔵

達義図を受迎日相後の仕ハ絶つふしの中迄式
たりとも下ゝ女の計申ゝ為ゝ
○筋目ヲ正シトハ親族血筋ヲ傳フテ相續人ト
スベキ意ナリ

一養子入聟他領より呼入ハ〻身上仕分し後文取
替し其趣を書記しか人并ニ五人組ゝ判形ゝて
庄屋方ヘ一の相渡事

○身上トハ百姓トカ町人トカ仕分トハ一町ノ
田畑アランニ養子聟入ニハ四段歩ヲ渡スノ
類

一借金ニつまり欠落ハ者有ゝハ〻庄屋年寄以
下姓方會迎式情面ヲ記し番人を附置き役人方

へ一の相渡事

○此ノ場合ニハ役人即チ領主ノ代官又ハ手代
出張シテ處分ス五人組頭其ノ遠始末ヲ為ス

一庄屋ゝ役ハ市用取迎下役人ゝ役ゝハ百姓ゝ
最原私欲或候者ヲ百姓方ゝ切ハ仕置百姓ゝ
者ハ為ゝ下級ノ称ハ百姓ゝ役ハ庄屋と
ハ百姓ゝ中ゝ為ハ為ゝ庄屋ゝ小
百姓ゝも或候者ゝ為ゝて庄屋ゝ小
入城ノ称ゝ一の仕ハ庄屋ゝ小百姓ゝ出入ハ〻
許候ゝ○○○○年為百姓ゝ越度ゝ
中ハ迎百姓ゝ為ゝ庄屋年寄を上ゝ立て重外
ゝ為ゝ言為ゝつゝひをも不仕庄屋年寄ゝ中ハ思

京都府立総合資料館所蔵

五人組ハ王朝ヨリ之アリ伍長即五人組頭ヨリ五人組頭トハ云ヘ便宜上四家アリ六家アリテ一定セズ伍長ハ組帳ヲ作リ組内ノ事ヲ記シ之ヲ保存シ組内人々ノ品行ヲ看督シ紛諍ノ仲裁人トナリ法令ヲ讀ミ朝カセ下情ヲ上通スル等ノ機関タリ元禄享保ノ頃ヨリ発達セシガ嘉永安政ニ至リ有名無実トナリ了ンヌ昔ハ領主地頭ヘ直訴直願スルノ権利サヘアリタルナリ其ノ仲裁ヒタル如カハ領主地頭ニ於テ之ヲ見留ム

あるべきなり

一五人組に成る者は毎年寄て相談を致し下に成る者姓をあつらへ申す者なれば組に成る者不届に組下に成る者遠背仕る者多く併し組に成る者不届成やうに心得申す筈に付以来毎年寄合に成る者は村中より給米を取り又は組成を除き籠を上下過分少く賦課を掛し申免割に成る者は勤め申さるゝ事なれば其外に成る者は不届者多く始末の為又は入会者に組入に成る者に組に成る者に帰り合を作又は寄合に成る者は費

寄合に係る相違事

○御免割トハ御年貢免状割當トハ云フ丁ニテ田畑ノ定免即チ豫定ノ収納高ヲ田地ニ割リ當テル丁年々ノ定例ナリ　不作ノ年柄ニハ毛見ノ上コレヲ定ム

附毛見其外一切ニ用事ニつき役人に成る者定宿に成る者ハ年寄頭百姓方に相談ひて取扱ノ義ニ用事あらば呼寄る事

○毛見トハ田畑ノ作毛ヲ検見スル丁ニテ検見トモ云フ　不時ノ不作ニ付作柄ヲ検シ組額ヲ定ムル事

京都府立総合資料館所蔵

一前ニより酒かぶを拵酒帳を付ける者ハ格別
自分給用ニても酒一切作申ス事
○造酒業ニハ造醸株アリテ年々醸税ヲ納メ帳
簿ヲ改メ造リ高ヲ明記シ之ヲ役所ニ出願ス
但濁酒ハ自作自給勝手ナリ
一為差急用ゟ差ス庄屋年寄役人方ヘ見舞ニ来
ル客用ニハ不依何ゟ役人方ヘ不条ハ不
叶事ハ断ゟ用事ニ付方ヘ条ル共申ス仕
ル姓ヘ申ス為ル也甚ゟ長ク庄屋用事断次第役
ル共度頭ル姓ヘ申聞ケ乃新用銀ニ割符ニ付
出ル共ハ申ス自分ニ庄屋ハ用を割符ニ付ス申
ス事

附不急用事ハ役人条ル共ハ近在より
条リ方ヘ申ス又ハ近在より
役役人方ヘ庄屋ハ五軒何ヲ申五軒何ヲ
ル

一公事訴訟ニ付ハ其方五人ニ仕ク先達し
方ヘ申リ其方ヘ庄屋年寄ニ取次を以て役人方ヘ
ヲ申ス断ゟ背ク庄屋年寄ハ役人を差ス
役人方ヘ直ニ申出ヘ事ハ不論理非相糺ス申
付ル併し庄屋年寄を相ゟ仕ル共又ハ役人ニ
為を訴申ス有ニハ格別ニ事
附公事訴訟不依何ゟ四郎ニて取扱ハ俵を勝
相付事ニ申ス事ニ有ニハ後日相紛ル

とゝくとも可為申之事

○公事ハクジト訓ミ事ヲ表立テルノ義ニテ公訴ヲ意味ス貸借上其ノ他ノ私事ヲモ訴訟スル上ニテハ同辭ヲ用ニ

一訴訟ゝ多裁許ゝ時論許双方乃外役人ゝ宅ゝ不可出

但親子兄弟扶持人ゝ格別ゝ事

○訴訟當事者ガ奉行代官ノ私宅ヘ往来スルヿハ習慣ノ許ス所ニシテ役人ノ宅ニテ裁断スルヿサヘ有リ

一小乃姓共庄屋年寄ゝ前ゝ不悖者ゝ名風俗仕式日長服指ゝさし或ハづきんゝもちまゝほう

くふりを仕或ハ言濁をゝけ或ハニヲト訛をゝき男立不作法ゝ為有ゝハ多数可申出見通ニ被し置外ゝ相知れハゝ其者ハ不及申其組乃ヨでゝ乃越ゝ五十軒まゝ病氣者頭しへハ相煩ハ我人ゝ在ハ者ハ庄屋年寄の前ゝてハ一且頭巾をゝとり其乃を遂げかぶり下申ゝ

一博奕形ハ子一切賭乃語淫戯望仕間敷ハ勿論博奕ゝ為仕ハゝ為有ゝハ役人方ヘ多度訴可申ハ隠ハゝ其五人組迄被度可申付事

一夜中何事有ゝとも兄弟ゝ不和ゝて大酒を給村中ゝ者ゝ度ゝ口論被庄屋ゝ異見をゝ不用者或ハ分限不相応ゝ色女

京都府立総合資料館所蔵

きたのこし人を多き方へ毎度雑細仕或ハ賃五政
し人をあるこ中者有しハ左程年寄こ子供た
りとこふとも毎度役人方へ多度この所
事
一百姓共耕作第一ニ精を入れ晝夜無怠相勤め
時年貢上納仕事を専ら心懸け中外こ
無他ゆへ都而百姓不相在こ為事一切仕ら政ハ
事
附身上ハ格有様こて筋目有こ者こても市
色無こ者無こ一切無中ら政ハ出家山伏
醫者祈ハ格別こ事
一長押作こ成有来ら者差置き建直しハ長押作

無用こハ其外新規こ建ハ家ハ梁ら張こ間ト
耕作こ為無ら綱ハ役人方へ為届しら受
指図事
附隣家をこ為れハ新屋敷造ハ成無用こ事
○長押トハ表玄関ヲ意味ス
一男女とも衣服こ成分限不相在こ成仕こ布木
絹等用ハ中事
一金銀米銭ハ百中及何こても貸借り仕ハ〻證文
こ通り為度旨明中ら可〻證文ハしき例を（原文ノマヽ）
中様出来ハ〻訴訟ハ上證文こ通為度中分其上
品こより越度ハ中付ハ借方こ者こ不時無成を
中出ハ〻不届ら為ハ然ハ其又左程年寄印判者

りに紙失ひ候ハヽ役人方へ届ケ印鑑を差出ス小
石地印判を以て〻〻庄屋年寄役人方へ相訴何月
何日に判取ル由を記し置こと事
附 庄屋年寄ハ名跡ある人と印判見知りを置
事
一 於御領内御道相模筋其他遠方人集ル所を不可
相伺参詣之旨ハ役人方へ届ケ之差図を
〇貧窮ニ年貢ヲ納メ兼ヌルヲ口實トシテ興行
スルナドノコトアリ
一 遊女郎ハ不及言行衛不知物乞人ニ一夜ヽ宿
を貸し申間敷事
一 何国有ヽ共見へずもぐり人乃出入多く不審

ニ相ゝ家有ヽハ庄屋年寄致方より相改ヲ
申ハ其時参詣を申出る相ゝ脇ニハ者有ヽハ
役人方へ届ケル事
一 村中ヽ者共参詣を取結び仏神ニ寄りハ〻前方
役人〻方より更差図ヲ
附 晝夜宿りハ格別ニ夜ヽ抜参ニ他所ニ泊り
ハ稀ヽ成ヽてハ〻庄屋年寄組所ヽ者〻
りニ寄り聞ハ〻〻又可申 断参ヽニ他方
迷ヽ抜ヽ相違しハ〻〻名高者ヽ国前事
一 御領内ヽ者徐ヽつき寄りハか又ハ出ハ其外
其記ヲ庄屋ヽ前ヽ記し置き毎年正月中人別帳
牛馬ヲ分帳役人方へ出事

京都府立総合資料館所蔵

一所領内ゝ商人共庄村ゝ家ゝ不及申他所ゝ参り新規ゝ店を取立又ゝしめ賣等仕候ものゝ一味同心仕ら敷事

一似せ銭新銭等をつくり仕候ものゝ有之ハ早速役人方ゝ届可申事

附 所望ゝ秤ゝ外似せ秤似せ枡つくり仕候見付次第可申上事

一於所領内往還ゝ喪喧嘩致し人を打立退可申称子ゝ仕候ゝ村中ゝ者出會長留置き役人方ゝ為ゝ届ゝ理分書ゝ仕候ゝ為ゝ村ゝ為ゝ相置可申ゝ若村人出合不申ゝ者ゝ立退仕候ゝ者ゝ其跡をしたひ追ゝ遣の庄屋年寄方ゝ付留役一ヶ所

附ゝ事

一重罪たるものゝ他所ゝ より忍ひ来り候ゝ者ゝ其少ゝ ゝ内ゝ ても留置ゝ 可致ゝ件ゝ ゝ人記帳迄可申妻子等をあやめ候者ゝ風聞有之ゝ者ゝ当置き役人方ゝ相断可申事

一堂宮山林伐木ゝ不當ゝ者有之候ゝ者ゝ郷中相談仕可立退旨可申聞其上ゝても押而遣留仕候ゝ ゝ無之旨一回参り押掛可申事

○郷中ト ハ郡中ノ諸村ヲ云フ

一所領内ゝ他領ゝ引越度ゝ者ゝ願書を取役人方ゝ差出差図次第可仕縁組ゝ者たりとゝ長吏ゝ差置可申事

京都府立総合資料館所蔵

一近所ニ盗人様細仕ル風体ノ者ニ付ク村中会不
寝ノ番を相廻リ候ヘハ其村ヘ盗人共参リ候
得ハ直ニ出会捕取候人方ヘ早ク一ノ方ヘ右場所
ヘ出会ヒ申ノ者ハ多数可逐詮議ル事
附盗人を捕出し見付ル者ハ日数ノ者あたを
おしつけ引ておろれ候て注進不仕者ハ
ル様ノ者ハ寄ル者ハ書付を以て密ニ注進ニ
仕ル其御及穿鑿ルとも役人より注進人ニ
者を頭ニ与ル事
一衣服其外諸々具等如ニ取ル命ハ其乃出所承り
而ハ慥ニ盗人ニ判形を以て取置ル中ル服指ニ
候ハ別ニ会入ノ者ハ事

○當時ハ質商人ナラズトモ拾當物ヲ以テ金銀
銭札等ヲ貸スハ自由ナリ
附何ニよらず拾会より過分ニ下直なる盗物
ゲ又ハ賣買又ハ質物ニ肝煎仕
ル者事
○當時ハ商人ナラズトモ物品賣買ハ自由ナリ
シ　肝煎トハ周旋スル
一御領内ニ野山河原なぞ隣々より相煩ル乞食
非人牛馬を拵て又ハ拵子か有ニハ他分以たも
リ置其所承出し付而以ル無し早ク引取ラセ一ノ中
ル
○非人トハ怪シゲナル人物ヲ云フ時トシテハ

乞食モ其ノ内ニ入ル

若及違儀申ものハ役人方ヘ訴所可受差図事

附前ニ所ニ住来る山伏通者所人ハ稽程きものこそも役人ヘ参り理不尽ニ追出しや

ら為事

○道者トハ六十六部廻國モノヽ類ヲ云フ

一用事有ル役人方ヘ呼寄せハ帝ハ参返帰急度可申出ハ村次ニ廻状ハ〆〆会入れ写置ク不限書状次ヘ廻ス事ハ急度ヲ中付事

一教中ニ為ハを村出し他所ヘ参りハ者自然盗人拵ヲて人目をしのび中ハと物盗候方しハら何々ニ為ハを何方ヘ村を仕ハと仕仕ヘ別て取出し役所ニ為ハ庄屋ヘ相断ヲ中事

附田畑作物お門畑ヲ人ニみるハことのを盗取ハものハ他村ニ為ハ盗人といハ不相ハ乃村ニ内ニ不富者ニしハら之と不見届ハとも役人方ヘ可相断事

一帝ヲ行所并ニ他領ニ役人方ヘ訴ハがらき我ニ付罪出ハものハ其趣意を書付役人方ヘ相伺参図次第可出ハ断ヲ中ニ取出ハ〆〆ハ此ヲ事起所出張他領ニ公事出入扱等ニ為りハことの有ハ一ツ方越度ハ

但参掛子細あハハ役人方ヘ相断ヲ中事

京都府立総合資料館所蔵

一御公儀御仕置し儀ハ不及申他領ニ成共出来悪
ク証判一切仕ル事
附ハ差用事ニ付ハ無之ハ差用ル事
一御領内ハ役人代支ル所ニ馬子足ル外出
シ申ル為ハ足軽茶賞ニ過ル分ハ差扣ル人
足ニ外ル人ノ出事
○村方ヨリ出ス所ノ馬及ビ人足ノ入費ハ村費
トシテ公租ノ内ヨリ年末ニ辨償スル之
一役人共會所逗留中ハ上下共ニ壱人ニ銀六分宛
の積リ相ル計ニシテ可出其外一切相撰申ル
為ハ扶持米ル儀ハ其所ニ応ジ一時年
貢時御定ニ可相立事

一村切ル用事ニテ役人ニ被逗留ル者ハ有合ル者
迄一汁一菜ル外酒肴ハ一切ル相成ル分ニ
一切仕ル為ル且所ニ有合ル物ニ成ル
儀をうき酒ハ中ニ可ハ一切為ル用事
一役人方ハ金銀衣類ハ不及申相成ル
切出シ申ル為ハ勿論書ル役ル名方ハ言
迄仕ル為ル仕ル事
一御領内ニ役人ニ自然ル相仕ル其所ニ
壹人ニ一代銀賞ニ請ル為ル迄ル役人ニ非分ル
ル事ニ成ル者ハ上事
附役人ル役ル者ニ為ル相ル仕ル一切肝煎申ル為
ハ金銀衣服ル外何ニテモ一切貸ル申ル為

は年貢を免ぜられ又人方へ中ゆて支配国は
密々に皇室の御紋れはく甚名ハ不及申左
度年貢五人組ゆて之の義度事
右之條々毎月二ヶ所宛定て村中大小ゆる姓併
家水呑百姓等ゆて不洩寄合は上ゆて後に申ゆうせ
此方密くあるべき事一事たりとも相背く響行あらハ
曲事に被
仰付ものや

享保六年巳八月

此ノ法令ハ幕府ノ趣旨ヲ敷衍シテ大名旗本ガ領
分支配地ノ人民ヘ公布シタルモノニシテ大同小
異ハアレド其ノ趣旨ヤ一ナリ　當時ノ將軍ハ名
君ノ稱アル徳川吉宗ニシテ前代ノ弊政ヲ革新シ
老中土屋相模守政直阿部豊後守正喬久世大和守
重之戸田山城守忠眞等ニ命シ政令ヲ出ダサシメ
諸大名ヲシテ之ニ則ラシム是レ此ノ七十五ヶ條
ノ出ヅル所以ナリ今日ヨリ之ヲ視レバ消極的ニ
シテ一ノ何上點無キモ當時ニ在リテハ前代ノ驕
奢淫蕩ヲ掃蕩スルノ良方劑ナリシナルベシ尚又
コノ法令ニ由リ民政ニ與ル所ノ奉行役人無限ノ
勢力モ減殺セラルヽ本文所々ニ於テ視ルベシ
此ノ改革ハ享保元年府内ニ始マリ着々其ノ效ヲ
奏シ六年ニ至リ地方ニ及ビタルナリ其ノ委曲ハ
歴史ニアリテ知ル人ゾ知ル地方ニ関セザレハ記

京都府立総合資料館所蔵

セズ

明治維新慶應四年ノ高札　府藩縣下村々ノ制札場ニ掲示ス

定

一人たるとの五倫乃道を正しくすべき事

一鰥寡孤獨癈疾とのを憫むべき事

一人を殺し家を焼き財を盜むもの乃惡事あるべき事

慶應四年三月

覽

王政御一新ニ付而ハ速ニ天下御平定萬民安堵ニ至り諸民其所を得ル樣ニ

御配慮被爲在ル二付折柄天下浮浪之者有之ル樣ニ而ハ不相濟自然今日之形勢を窺ひ猥ニ士民共本國を脫走いたしル儀堅く被差止ル脫走者有之不埒之所行萬一致しル上ハ主宰之者落度たるべくル也此御時ニ付無上下

皇國之御爲又ハ主家之爲筋等存込建立致ル者ハ言路を開き公正之心を以て其趣旨を盡させ依願太政官代へ可申出被

仰出ル事

但今後士奉公人ハ不及申農商奉公人ニ至る迄相抱ル節ハ出所等を相糺し可申自然脫走之者を相抱不埒出來御危害ニ立至りル節ハ其ノ主人之落度たるへき事

府藩縣

宗門寺檀那請合之按

ハ前掲ノ如ト重出ニテ

一言一句違ハサルヲ認メ

書寫ヲ畏ル

（現出ニ前ノ如ハ那ノ字ナシ）

宗門寺檀那請合ニ按

一切支丹ニ法ハ死ヲ顧みず身より血を出して死をなすを成佛と立る故天下に法度嚴密之実に邪宗邪法之依ニ死を殺んずるとのをの遂ゆ味事

一切支丹ハ元陽者ハ隣国より毎日金七匁をあたへ天下を切支丹宗よなし神社を妨る邪法之宗よ元陽者ハ移迦乃法を用ひず故ニ檀那寺乃檀役を妨け佛法ニ建立を嘱ふ之よ依てゆ遂ゆ味事

一歟檀那たりとも其乃宗門ニ初ハ志佛志登彼者之初ニ命日ニ絶て系詰せざるとハ剣所を引

不受不施ノ下文頭書ニ出ダス

宗旨改許ニ付り為後ヲ遂吟味事

一切支丹不受不施ハ先祖ヨリ年忌ニ僧ヲ呼ケず当日宗門寺ヘ一通シ志を述べ内證ヲ以ハ俗人一数ヲ為再信ヲ為る事有時ハ不興ニして不用信ヲ遂吟味事

一檀那役を不勤しかも扶高ヲ付て宗門請居ヲ任ス扶人を不用宗門寺ヲ用ル身計お意ニ不勤内心邪法を以だきたるを不受不施と言ハれんかう

一不受不施乃法ハ何ようても宗門寺より申すを不請ず宗門ヲ祖師お為ヲ用ニ不施務又他人他宗ヲ志を不受不施是邪法ヲ人ヲハ天ヲ恩を請て地ヲ施し祝の恩を請てヲ施し仏乃恩を

請て僧ヲ施ス是乃法ヲ依ヲ遂吟味事

一切支丹浙田宗不受不施ヲ宗旨ニ一流之彼ヲ為む所の本尊ハ牛頭切死丁頂仏と云加と丁頂大うすとなのるヲ此仏を彫ヲ絵を又れバ仏面となり宗旨を彫べハ絵ヲ新太と見ゆる是邪法の絵なり一般式絵を又ヲとのハ保く牛頭去利死仏を信仰し日本を魔国とあす鉦鼓宗門吟味神国加一通り宗門寺ヘ本所尊日人ヲ受り内心不受不施ヲて宗門寺ヘ出入せず依ヲ遂吟味事

一親代ヲ宗門ヲ元附ハ宗九宗乃内何ヲ宗旨に紛ヲ生長ヲ以何成進めヲより何邪法ヲ組

京都府立総合資料館所蔵

し所名を知れず中宗つ寺ハ法門を遂け佛
法を勧め説義講談成し系諸説させむと擬那役
を以て之を寺に佛用修理建立勧めさせ中邪
宗ハ宗つ寺し多一切不動世を交り一通にして
内心佛法を破り偽し勧を不用偽に之遂ハ味事
一死後死骸乃所に刹刀をあたへ戒名をさつけ
中多是ハ宗つ寺に偽死相を見届け邪宗にて世
に隠悪を会題し上にて之を引導之紙に之遂ハ
味事
一宗門寺を拵是外寺に偽を拵に事い寺宗つ寺に
住持を退け中事多邪説諸議邪宗正法の遂ハ味
事

一先祖に佛多他寺へ持系改し法多勧る多堅く禁
制にしりりといへとも他国他立て死去に者
ハ様多に多之ぬに之遂ハ味事
一先祖佛多持歩慣す多者乃殺系諸ふぶ法多修行
中者ハ之遂ハ味且又寺者に持佛堂へ位牌紙に
見届け邪法正法乃遂ハ味事
一天下一統正法に修寺に者に願米を加へ宗つ
請合乃中仏武士ハ寺寺に請状に證印を加へ美
上寺外血米に銭出者ハ請人請合を以證文乃美
出事
一如果ハ時ハ一切宗つ寺に拵図を取て取り寺中
事

京都府立総合資料館所蔵

一天下ノ敵為民ノ怨ハ切支丹不受不施派日宗之
輩ニ比ル者数族有果ル事ハ古社稷ノ者ハ
を為て家ヲ亡シ任侠ヲ中ト致ス者ハ
時ハ平侠ノ如殺生ノ遂吹味ヲ以又模様を
樫那紀等ヲ者多派有ル者より用
捨ヲ各ノ身ヲ信心を以佛法を
者ハ正法ノ者之　王法を弱ス
右拾五ヶ條ノ類一つも於背ハ上ハ梵天帝釋四
大天王五道ノ明官日本伊勢大神宮ハ幡大菩薩春
日大明神ヲ外氏神日本六十餘州ノ神明ヲ蒙神
罰者也

安永十八年癸丑五月日　奉行

天下法ヲ陵家門格式ノ面ニ出ル者ヲ
除ヒ　お久ゆて　ハ蒙免許
仰付ル能ノ一のお宮ヒの也
神官ノ　町村ニ於ケル神職ハ京都東山ノ麓ナ
ル吉田村在住ノ公卿吉田三位ノ免許状ヲ受ケ村
役人ノ奥書ヲ得テ之ヲ地頭ニ願ヒ出デ地頭ノ許
可ヲ得テ就職ス其ノ代替ハリハ之ヲ継目相續ト
云ヒ子孫世襲ス

定

一諸神社ノ社家補宜等於日本國則文武ノ士也
宜學神國文武ノ道奉守御國家者也
一諸社別當神主補宜等其國ノ領主地頭ノ家臣

京都府立総合資料館所蔵

寺社奉行ノ始

こゝ者ハ可爲兼職事并神事祭禮ゝ節ハ以吉田家ゝ裁許可着烏帽子淨衣等事

一從往古神主神官等勿論可爲前條ゝ事

元和元年正月十五日　家康判

日本國中諸神社別當神主中

右仍

仰執達如件

元和元年三月朔日　奉行

社事ノ訴訟并ニ願伺ハ老中部屋ニ於テ之ヲ決シ其ノ命令ハ奉行ノ名ニ於テ之ヲ出ダセシガ寛永十二年十一月堀市正ガ專任トナリ始メテ寺社奉行ヲ置ク

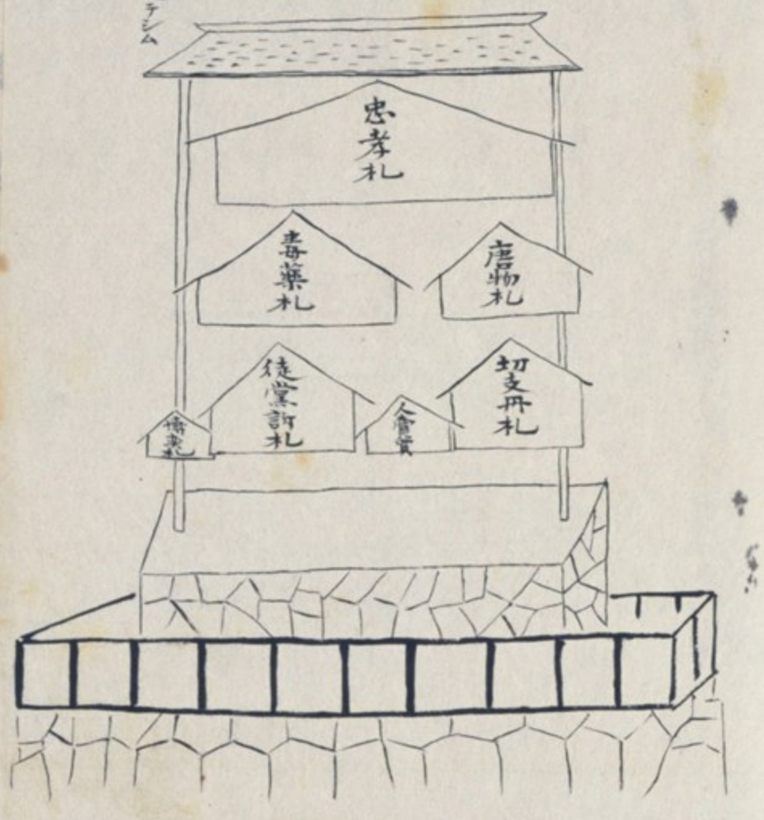
改宗改寺ハ甲寺ノ兼引ヲ經テ領主地頭ヘ願ヒ出デ許可ヲ得テ乙寺ノ檀家トナル紛議ニ寺僧ノ申裁ヲ公許ス

京都府立総合資料館所蔵

諸大名ノ城門大手前ニ
アル制札場

大名旗下藩士浪人ヨリ
町人百姓ニ至ルマデ通行
ノ際ハ敬禮ヲ加ヘルモノ
但公卿ヨリ以下籍
ヲ朝家ニ置クモノハ
此ノ限ニアラズ

寛永十九年五月十四日各國ニ高札ヲ建テシム
寛文元年高札建替アリ四枚ナリ



京都府立総合資料館所蔵

諸村諸驛等ニアルモノ

藩中年中行事

正月元日　家中藩中トハ云フニ同ジ士分卒分トモ年禮出仕

家老年寄ハ君主ニ謁見シテ祝詞ヲ叙ベ表ノ間ニ於テ流ト格君主ガ呑ミナシタル盃ヲ受ケテ順次酒ヲ受クル式以上ノ者賜酒ノ式アリ　以下ノモノハ祝詞ヲ叙アルニ止マル　無格ノ者即チ下輩ハ其ノ支配頭ノ宅ヘ廻禮ス　年寄以上ハ馬廻以上ノ家宅ヘ廻禮シ側用人以上ハ中小姓以上ノ家宅ヘ廻禮ス　配下又ハ縁故アル家宅ヲ廻禮スルハ其ノ人々ノ隨意トス　側用人以上ノ家邸ニハ表関ニ年賀帳ヲ出ダスヲ以テ馬廻以下ノモノハ是レニ姓名ヲ記シ廻禮ヲ證ス

京都府立総合資料館所蔵

二日　町人ノ御禮ト稱シ係カリ役人ノミ出仕ス
座屋年寄定帶刀許可ノモノ上下着用祝詞ヲ叙
ス　其ノ格例ニ由リ獻銀賜盃ノ事アリ
三日　中小姓以上ノモノ七ツ時（今ノ八時）出仕シ馬
術ヲ習フ之レヲ乘初ト云フ藩ニ因リ日ヲ異ニ
ス
四日　社寺ノ式禮アリ神職寺主ノ年賀ナリ　神
佛混淆ノ當時ハ僧侶多分ニテ神職ハ少シ
五日　學校ニ於テ讀初式アリ儒者孝經ノ第一章
ヲ講ズ君主コレニ臨ム中小姓以上聽聞ヲ許サ
ル　亀岡藩記事參看
今日ヨリ諸道ノ稽古初メアリ射初乘初書初ヨ
リ劍術槍術體術其ノ他各師範家ニ於テ又ハ道
場ニ於テ行ハル
七日　七草粥ノ祝事アリ門松ノ下半ヲ切リ上半
ヲ存ス
十一日　鏡開キノ式アリ家中一同出仕賜酒ノ式
アリ二三人榮轉ノ命令アリ一家ノ名譽トス
具足ニ供ヘタル鏡餅ヲ打摧キ之ヲ焼キ雜煮ト
シ又ハ其ノマヽ食ス緣者ヲ招待スル士家モア
リ餅ハ之ヲ切ルヲ忌ム
十五日　門松若飾ヲ取リ拂ヒ郭外ニテ焼却ス兒
童ノ書初ノ紙ヲモ焼キ其ノ飛揚スル程度ヲ見
テ書技ノ巧拙トス看者拍手喝采ストンド左義

京都府立総合資料館所蔵

長ト稱スル私式アリ

十七日　御用初、諸役人ノ登廳執務平常ニ復ス

諸藝稽古始マルモ今日ヨリ

二十日　祝日ナリ骨正月ト呼ブ　紙鳶雙六歌骨

牌福引等ノ遊戯大抵ハ十五日ニ終ハルト雖モ

本日ノ夜ヲ以テ最終トス

二月

初午ノ日ニ稲荷ヲ祭ル大名ノ城内陣屋ニハ必ス

稲荷ヲ鎮座ス幟ヲ立テ太鼓ヲ鳴ラシ町人百姓

ノ参詣ヲ許ルス朝五ツ時即今ノ八時ヨリ午後

ノ七ツ時即今ノ五時ニ終ル庭園拝觀ヲ兼ネ来

詣多シ

三月

三日ハ上巳ノ節句（往古ハ笠ノ巳ノ日トテ上下着用総出

仕　廻禮年始ニ準ズ　女兒新婦ノ家ニハ祝宴

ヲ開リ飾リ物ニ限度アリ　紙雛ニ人形膳具ハ

許サル

四月

朔日ヨリ袷單羽織着用　圍米檢査ノ丁アリ（町村

年中行事及ビ亀岡藩紀事参看）

八日　釋迦誕生日　躑躅花ヲ竿頭ニ挿ミ高ク

掲グ　夕早振印月八日ハ古日より神さけ虫を成

敗ぞすると書キ床柱ノ根元ニ張リ蟲除ノ禁厭

トス

京都府立総合資料館所蔵

五月

五日　端午ノ節句（元ハ初ノ午ノ日ナリシヲ中古ヨリ五日トナル）

帷子（ひとえ）麻上下惣出仕上巳ニ同ジ　帷子ハ蒲色ト稱スル青衣ナリ　此ノ日ヨリ夏羽織ヲ用フ

男子ノ節供（ぶく）ト稱シ男兒アル家ハ紙幟紙鯉槍等ヲ表ニ出シ内ニ大將人形ヲ祭ル粽ヲ製シ緣家ヘ配ル男兒九歲ニ至レバ之ヲ廢ス

六月

朔日　氷ノ朔日ト稱シ氷餅ヲ氷ニ代ヘ食ス搗餅ヲ代用スルモノ多シ

十用入リ三日目ニ出仕ス暑中伺（うかが）ト云フ　暑中見舞トシテ相互訪問ス

雨乞（あまごい）　旱天ニ週以上ニ渉レバ七日間氏神ニ祈禱シ最終日ニ君主ノ代參トシテ奉行社參ス

七月

七日　七夕節句惣出仕　玉子色帷衣（薄黄色ナリ）禮式上巳端午ニ同ジ　葉付ノ竹ニ五色ノ小冊冊又ハ色紙（いろがみ）ヲ結ヒ附ケ庭上ニ掲ゲ其ノ紙ニハ七夕ノ古歌ヲ書キ數多ク竹枝ニ結ビ附ケ下ニ凡茄子野菜ヲ供ス之ヲ棚機（たなばた）祭ト稱ス翌日コレヲ川ニ流ス

此ノ月ニ水泳修行アリ川端ニ小屋ヲ設ケ敷授方ハ生徒ヲシテ游泳セシム

十三日　盆拝（ぼんぱい）ヲ愛ス正月以後掛ケ買ヲ爲セシモ

京都府立総合資料館所蔵

ノ貸借精算ヲ了ス家僕給料半季銀百匁下婢八十匁以内　知行取藩士ハ小物成収入ヨリ其ノ費ニ充ツ　藩廳ノ諸掛亦同ジ　迎ヘ火〻祖先ノ靈ヲ迎フル燈火ナリ

十五日　中元（正月十五日ヲ上元ト云ヒ十月十五日ヲ下元ト云フ）　禮式平服出仕

盂蘭盆會十三日ヨリ今日ニ至ル祖先ヲ祭ル送り火トシテ麻殼ヲ門前ニ焚ク

八月

一日　八朔節句ハ德川家關東入部ノ嘉辰トシテ紀念ノ祝日ナルヲ以テ惣出仕　白帷子麻上下着用コレ無キモノハ薄色ノモノヲ着ス廻禮他式日ニ同ジ

十五日　望月ノ宴ヲ設クル家アリ芒女郎花ナドヲ瓶ニ挿ミ團子野菜芋ヲ供シテ月ヲ拜ス

彼岸會　佛參ス

領主ノ葬狩アリ山奉行コレニ從事シ藩臣數十名隨行ス宴會アリ　領賜ニ與ル者少カラズ好品ハ江戸ニ送リ將軍家ヘ獻上スルヿアリ（藩獻上物品參看）

此ノ月圍ヒ籾米詰ノ督ノヿアリ在方手代立會ヒ精粮ノモノヲ撰ミ米藏ニ入レ封緘シ其ノ鍵ヲ奉行所ニ保管ス

九月

京都府立総合資料館所蔵

一日　此ノ日ヨリ袷ヲ着用ス單冬物羽織

九日　重陽節句　惣出仕賀儀　此ノ日ヨリ綿入袷羽織着用　廻禮他ノ節句ニ同ジ

此ノ月祭禮多シ　諸藩ノ部參看

十月

最初亥ノ日　家中惣出仕平服　中小姓以上ノモノニ小判形黄白色ノ小餅ヲ下賜ス之ヲ去猪（ゲンゲヨト濁音ニス）亥ノ日ノ刻ニ餅ヲ食フハ此ノ月ハ亥ニ建（オザ）スノ月ニテ亥ハ猪ニテ能ク子ヲ産スルヲ以テ婦人神ヲ祭リ之ニ習ハシムヲ祈ル開化天皇ノ十年ニ但馬國ヨリ初メテ餅ヲ獻リタルニ始マルト云フ　江戸幕府ニテハ大小名惣登城（ノボリ）手（テ）歌儀（カシ）頂戴ノ式アリ　第一ノ亥ノ日ニ支障アレバ第二ノ亥ノ日ニ行ハル

十一月

朔望ノ外ニ式日無シ

諸藩ソレ〳〵鬼狩猪狩ノアリ

八日　稲荷社火焚　城内陣屋孰レモ稲荷社アリ之ヲ行フ

此ノ月ヲ祝（ヒ）月ト稱シ兒童ノ髮置キ（是レ迄ハ頭髮ヲ剃ル女兒ハ剃カズ）袴着（初メテ袴ヲ着ス）等ノ私祝ヲ爲ス　冬ハ至アリテ一陽來復スルヲ以テナリ

十二月

八日　針供養　蒟蒻ヲ食ス

京都府立総合資料館所蔵

十三日　事始ノ　新年ヲ迎フルノ準備ヲ爲ス

二十日　御用仕舞　施政上ノ事ヲ了ス　諸役人ニ休暇ヲ賜フ　果ノ廿日ト云フ　收納米ノ結納日ト定ム　月番町奉行以下收納掛カリノ者是レ迄ハ詰切リ日勤ナリ　收納相濟メバ奉行ヨリ月番年寄ヘ届ケ出ダス

三十日ハ大終日ノ禮式アリ小ノ月ナレバ廿九日トス　七ツ時今ノ午後六時頃繼上下（上ト地質モ異ナル物）着用出仕　迴禮ハ支配頭ト親類ノミ匆々ニシテ止ム此ノ夜ハ明旦ノ準備ニ忙ハシク夜半ニ臥シ程無ク百八ノ梵鐘ヲ聞キ起ク

以上

町内村方　年中行事

正月元日

町家ハ此ノ一日門戸ヲ鎖シ休息ス　大晦日ノ算（クリ）臥（ベル）休ミナリ　迴禮者モアリ

二日

在屋年寄常帯刀許可ノ分ハ上下着用ニテ領主ヘ年頭出仕ス　町方ハ早朝ヨリ開店シ賣リ初メ行商スルモアリ　迴禮モアリ

七日

七日正月ト稱シ下男下女ヲ休息セシム

十五日

京都府立総合資料館所蔵

町村トモトンド左義ト稱シ門飾リ輪飾リヲ取
拂ヒ町ハ數町ノ分ヲ一所ニ集メテ焚キ村ハ一
村(今ノ部落)ノ一毎ニ燒却ス書初ノ紙ヲ焚クヿ前示家
中ノ例ニ同ジ

二十日

町村共ニ骨正月ト稱シ祝日トス雇人ヲ休息セ
シム

正月ノ休日ハ今日ヲ限リトス賭博トシテ弄花
ハチ〳〵ヨシ〳〵ナドノ掛勝負モ今日限リニ
シテ止ム是ノ日マデハ役人モ大目ニ見做ス

二月

初午涅槃會ヲ休日トスルヿ前示藩中ニ同ジ

三月

町方村方ニテハ三日ノ節句ヲ祝フヿ貧富ニ應
ジ大差アリ大裏雛五人雛ヒ其ノ他種々ノ粧飾ヲ
爲シ親族知己ヲ招キ祝宴ヲ開ク者アリ　町方
ニ於テハ女兒ノ誕生ト新婦ヲ迎ヘタル家ニテ
ハ初雛ト稱シ盛宴ヲ張リ夫婦共存ノ間ハ毎年
同樣ニ祭ルヲ習慣トス　村方ニアリテハ先祖
以來持來リタル者ヲ幾對ト無ク并ベ其ノ古ル
キ者アルヲ以テ家ノ古ルキニ誇ル風習アリ
彼岸七日間佛參シ餅團子ヲ製シ相互惠贈ス若
連中惣出道直シ

四月

京都府立総合資料館所蔵

町村ニ於テ共ニ籾願ヒヲ爲ス是レハ前年ノ貯米減耗シ麥秋マデノ欠缺ヲ補ハシガ爲ニ領主ヘ圍籾ノ拝借ヲ願フナリ　奉行ハ檢査ノ上許否ス　之ヲ願ヒ出ヅルハ町村ノ體面ニ關スルヲ以テ願フ村ハ寥々タリ

八日

釋迦ノ誕生日トシテノ習慣行事前示藩中ニ齊シ

五月

節句ノ事藩中ニ同ジ

植付休　麥秋ヲ刈リ菜種收取モ了リ揮秧モ了リタル時ノ休養ニテ町村區々一日又ハ二日ノ休息ヲ適宜ノ時ニ爲ス

六月

一日　氷ノ朔日藩中ニ同ジ　暑中見舞亦同ジ

雨乞　山上ニ火ヲ焚クアリ芝生ヲ燒クアリ松明行列ヲ爲スアリ　雨ノ意水ノ心ナド思ヒ〳〵造リ物ニハカ滑稽雜ナドシテ土沙神ヘ練リ行クアリ

雨休　旱天降雨ヲ祝スル意ニテ旱天ノ長短雨量ノ適否ニ由リ一日乃至三日間トス

七月

七夕祝　藩中ニ同ジ　葉竹ヲ建ツル家少シ

此ノ月渙紫出願者ニ許可ヲ與フ　村民町家ニ

京都府立総合資料館所蔵

ハ許可セズ

十三日　二季大掛ノ日ニテ町村共忙シ

十五日　魂祭リ藩中ニ同ジ　盆休ミ

十六日　盆休昨日ノ如シ

盆踊リハ盂蘭盆期中ノ踏歌ニテ大抵十四日ヨリ二十五六日ニ至ル

廿四日　地蔵盆　休日ナリ

八月

朔日　八朔ノ礼藩中ノ如シ

彼岸ノ佛参　春ノ彼岸ノ如シ　若連中ノ道直シ春ノ彼岸ニ同ジ

盥送　彼岸前後ニ之ヲ為ス松明ニテ連行シ松明ヲ川ニ投ズ

田落シ　田水ヲ川ニ落下ス

園籾返上　借用シタル村々町々ヨリ奉行ヘ返納ス

九月

米相場定メ日　一日ヨリ十五日迄ノ内ニ在リ

町村ノ米商入札ス　亀岡藩記事参省

町村祭禮多シ

十月

苅込ミ休　新餅ヲ製シテ祝フ農家ニ限ル

二十日　更子講商家ニ限リ祝宴ヲ為ス呉服商ヲ最トス

最初ノ亥ノ日ニ牡丹餅ヲ作リ祝フ小豆葉ヲ束ネ地ヲ打ク日ハ亥ノ子ノ牡丹餅祝ヒマシヨウ

京都府立総合資料館所蔵

十一月

八日　御火焚ノ祭ヲ爲ス蜜柑小餅ヲ稲荷社其ノ他ノ神祠ニ供ヘ社前ニ火ヲ焚ク鍛冶職ニテハ鞴祭ヲ爲ス

紀童ノ髪置　袴着等之ヲ爲ス家アリ藩中ニ同ジ

十二月

八日　針供養ヲ爲スヿ藩中ニ同ジ併一樣ナラズ

十三日　事始

今日ヨリ煤掃始マル

二十日　庄屋名主年貢納ニ忙殺ス

三十日（小ノ月ナレバ二十九日）　大節季トシテ金銀出納類繁徹夜スルモノ許多　農家ハ納貢後閑寂ナリ

以上

年中行事　遺

正月門松七五三飾（別項ニ出ダス）床間ニ蓬莱ヲ設ク本式ノ鳴臺アリ大根ハ三方ノ上ニ作ル白米橙蜜柑串柿勝栗柏昆布ヲ並ベ又ハ積ム　客来レバ之ヲ其ノ前ニ持出シ箸ニテ昆布勝栗ヲ挟ミ出セバ客コレヲ扇又ハ手ニテ受ケ紙ニ包ミ戴キ持チ帰ル箸紙ニハ祝ノ字蓬莱ノ字ナド書ク

雑煮ニ味噌雑煮アリ澄シ雑煮アリ元旦丈ケアリ三ケ日續ケ用ユルモアリ納豆餅ノ處モアリ（北東田郡）

京都府立総合資料館所蔵

全部何庭船井等郡内一部

節分ニハ豆ヲ撒ク大名上士ノ家ニテハ禮服ヲ着用シ枡ニ豆ヲ盛リ三寶ノ上ニ置キ右手ニ撒キ左手ハ三寶ヲ持ツ　此ノ豆ヲ貯ヘ置キ初雷ノ日之ヲ喫スヨハク雷震ヲ免ルト　此ノタ厄拂來ル厄年ノ男女銭十二文ニ年數ニ一粒ヲ益シタル數ノ豆ヲ紙ニ包ミ之ニ與フ日出度キ俚歌ヲ唱フ

十五日　赤小豆粥ニ餅ヲ入レタルヲ朝食トス

二月初午　小豆飯揚豆腐ノ食事ヲ爲ス

三月三日　一名桃ノ節句　白酒ヲ飲ムワケギノ白味噌アヘヲ食フ

四月八日　卯月八日ト呼フ　寺ヨリ日茶ヲ貰ヒ之ヲ喫シ其ノ汁ニテ千早振ノ歌ヲ書ス別項參看

日待　此ノ月上旬ノ内ニ行フ　徹夜シテ日ノ出ヲ待ツ　飲食ヲ供ス

毎月廿三日ノ日待ハ精進料理ノ夜食ヲ供ス月ノ登ルヲ拜シテ終ル月待ノ觀アリ　家運ノ繁榮ヲ祈ル式アリ

伊勢講　正五九月ニ行ハル　廻ハリ持ニス御札入リノ厨子ヲ祭ル　正月ニハ伊勢ノ御師神官來ル大夫サンノ御越トテ儀式ヲ鄭重ニシ講中ノ者列坐シ大夫ノ下ス盃ヲ以テ順次ニ神酒ヲ拜飲ス平素行儀ヲ正シクスルヲ伊勢講ニ呼バレタル樣ト云ヘルハ是レニ由ルナリ　伊勢講田ヲ設ケ收

京都府立総合資料館所蔵

獲ヲ以テ参宮旅費ヲ補フ村モアリ

盆ノ棚経　盂蘭盆會七月十四日十五日ニ僧侶ガ檀越ノ家ヲ廻リ佛壇ノ前ニ讀経スヲ棚経ト呼ブ亦ハ今ノ如ク家毎ニ佛壇無クシテ棚架上ニ佛像位牌ヲ陳列シタルヲ以テ斯ク呼ベルナリ此ノ起原ハ嶋原一揆ニ懲リタル幕府ガ人民ノ耶蘇教徒タルヤ否ヤヲ檢セシガ爲ニ村々ニ於テ耶蘇及ビマリヤ其ノ母ノ繪像ヲ踏マシメ佛教徒タルノ證ヲ取リタルガ其ノ事ノ煩擾ナルヲ厭ヒ遂ニ僧侶ヲシテ之ヲ檢査セシメタルナリ之ヲ繪踏ニ代ハルノ棚経ト云フ

新宅弘メ　新規家屋ヲ造レバ其ノ成ルニ及ビ向ヒ三軒両隣謂ハ所ル五人組ニ似タル一組ヲ迎ヘ饗應ス　親族故舊ニモ及ブ小人數ナレバ一時ニ之ヲ爲ス　五人ノ家ヨリモ親族故舊ヨリモ黒豆粥ヲ贈リ祝フ　其ノ棟上ゲニハ一字ノ者擧リテ手作ノ縄ヲ贈リ手傳ヒ酒食ヲ贈リ其ノ祝筵ニ出ダス　其ノ家ヨリハ握飯ヲ全村ニ配リ大饗應ヲモ爲セリ

婚姻　領主地頭ヨリ帯刀許可ノ村閥家ハ新夫婦紋服ヲ着用ス上下ヲ用ユルト羽織袴ハ隨意ニシテ婦人ハ襠着否隨意ナリ　其ノ以下ハ羽織袴紋服　一般饅頭ニ新婦ノ名札ヲ添ヘ親族故舊近隣ニ配ル　三日目新婦里歸リ　婿入リノ日隨意

京都府立総合資料館所蔵

葬式法事

三月ヲ花ノ縁ニテ散ルヲ嫌ヒ　七月ヲ佛月トテ死亡ヲ怕レ　十月ヲ神無月ノ縁トテ婚ヲ避ク

葬家ニ贈ル香奠ハ白米ニ野菜ヲ添フ　五十日目ニ忌明廻禮シ　形見分ケス　五十日間ハ忌中トテ除髪セズ外出セズ士家ハ格別之ヲ嚴守セリ

法事　七日目毎ニ供佛シ四十九日ニ至ル五十日目以後行ハズ翌年ノ祥月命日三年　七年　十三年　十七年　二十五年　三十三年　五十年　百年等ノ命日ニ行フ

七月上旬ヨリ中旬マデニ展墓ス　椿溝萩ヲ墓前ニ立テ圓子ヲ蓮葉ニ載セテ拜禮ス　士家ハ麻上下紋付帷子ヲ着用ス町家村人ハ思ヒ〳〵

伊勢參

參宮出發ノ日ト歸宅ノ際トハ大饗宴ヲ張ル中途マデ出デヽ待チ受ケスルヲ坂迎ヘト呼ブ途中ニ饗宴ヲ張リ陽氣ニスルヲ以テ尚ブ　參宮者ハ歸宅後火ノ用心ノ禮トテ近隣ヲ廻禮ス

參拜ス火伏ノ神ナルヲ以テ同意味ヨリスルナリ

愛宕講

愛宕山ノ榮術太郎郎太郎坊ハ火伏ノ神ナリトテ國人ノ崇敬スル所ナリ例月開講シ毎年一回登山ス且又伊勢參宮シタル者ハ必登參ス故ニ到ル處愛宕常夜燈ヲ建ツ今ハ名ノミニテ毎夜ハ點燈セズ所ニヨリテハ堂送リト云フ名稱ヲ以テ夜詣ヲ開クヿアリ

牛祭

牛祭　毎年六月廿五日天滿宮ノ祭日ヲ以テ此ノ

京都府立総合資料館所蔵

祭ヲ行フ牛ハ菅公ノ愛獸ナルヲ以テナリ兼ネテ
大日如來ノ法日ナルヲ以テ并セ祭ル野菜ト豆腐
ニテ酒宴ヲ開キ家用ノ牛ニ就キ無病無難ヲ祈ル
行者參リ壯年者ノ身體强健ヲ祈ル爲メニ毎年八月
農暇ヲ以テ一村（舊村十五名）計ノ團參ヲ大和ノ大
峰ニ行フ之ヲ山上參リト呼ブ之ヲ行ハザルモノハ
農家ニ絶無アリシナリ之ニ加ハルモノハ一七日
七五三繩ヲ家ニ張リ冷水ニテ沐浴シ陀羅尼ヲ唱
ヘ全家精進食ヲ取リ不淨ノ火ヲ禁ス　其ノ不在
中ニハ親類朋友ヨリ留守見舞ヲ爲シ往々干物ヲ
歸ル　賽者ハ新製木綿ノ白衣丈三尺ノモノヲ着
ル脚袴甲掛手覆等皆白色ニシ菅笠金剛杖鈴法螺

數珠等ノ準備ヲ要ス手纏ニハ錢六文ヲ結ビ數珠
ハ頸ニ纏ヒ死者ノ姿ヲ裝フ先達（センダツ）ハ山伏姿ニテ團
長トナリ率ヒテ氏神ニ詣デ以テ途ニ上ル其ノ歸
ルヤ人々御札ニ陀羅尼助藥名ヲ添ヘ土産物トシ
テ配ル人々相逢ヘバ賽者ヲ賀ス
念佛講ハ死人アル家ニテ百萬遍ヲ繰ルヲ云フ世
三日目ニ精進料理ヲ出ス大抵ハ夜間ニ行フ法華
宗ハ與カラズ
祇園講金毘羅講大原講秋葉講稲荷講八幡講高野
講庚申講摩耶講觀音講妙見講ナド種々アリタレ
ド今ヤ寥々タリ
諸社ノ正遷宮又ハ開帳等ハ三日又ハ七日間トス

京都府立総合資料館所蔵

見セ物興行物等アリ
宮相撲盆踊村芝居等豊歳ニハ所々ニ之ヲ行フ
帯ノ祝　産婦ノ着帯ハ五ケ月目戌ノ日ニ於テ之ヲ行フ戌ハ犬ナルヲ以テ犬ノ産ノ極メテ軽キヲ故ニ之ヲ祝日トス産婦ノ實家ヨリ木綿腹帯ヲ贈リ赤飯ヲ添フ　之ヲ親類ニ分シ産婆ヲ取極メル
出産祝　六日目産褥ヲ取リ拂ヒ七日目ヲ一七夜ト呼ビ赤飯ヲ供ヘ仰ノ神ヲ祭ル卯ハ兎ニテ生長ノ早キヲ祈ル兎ノ子ノ如クアレトノ意
宮参リ　三十日目ニ氏神ニ産兒ヲ詣デシメ歸路親族懇意家ニ披露ス　家ニ祝宴ヲ開ク
弓明キ　忌明キトモ云フ七十五日目コレヲ行フ

穢ナキ身トナレルヲ祝ス内筵アリ
誕生日　出産ノ翌年其ノ日ニハ卯ノ神ヲ祭リ内筵ヲ張ル
十三参リ　十三歳ノ春虚空藏菩薩ニ参詣ス智慧ヲ貰フ爲ナリト云フ
元服　十五六歳前髪ヲ去リ一人前ノ男トナル士族ハ常名ノ外ニ名乗リヲ附ク
厄　四十一ヲ前厄トシ四十二ヲ本厄トシ四十三ヲ例厄トス　例厄ハ祝筵ヲ開ク其ノ年ノ正月十五日ニハ八幡々々宮ニ賽ス
還暦六十一歳　祝宴ヲ張ル
古稀七十歳　人生七十古來稀ノ詩句ヨリ取リ名

京都府立総合資料館所蔵

ヅク　祝宴ヲ開ク

米壽　八十八歳ニ枡懸ト呼ブ八十八ノ字ヲ合セテ米ノ字トシソレニ因ミテ老人手自鋸ニテ竹ヲ切リ概ヲ作リ之ヲ親族知人ニ贈ル故ニ米壽ヲ枡懸トモ云フ　大ニ祝宴ヲ張ル

人民生活

藁屋根平家　麥飯米麥折半　自釀濁酒夏時ハ清酒

自造醤油　自作烟草　座敷ハ疊居間具外逆呉坐

普請建築ハ領主地頭ニ屆ケ書ヲ出ダシ古格ヲ守ルヿヲ示ス　時ナラヌ物珍ラシキ物ヲ禁ズ

高直ナル鉢植ヲ禁ズ　以後葬式　華美　壯大ノ墓　十僧以上　院号居士大姉号　石塔臺石ヨリ

四尺以上ノ高サ等禁止　寛延元年

風儀悪シキ旅人河原者ノ俳徊入村入町ヲ禁ズ

捨子ハ官民協同養育

丁銀小玉銀ハ三井組十人組ニテ引換ヘル丁文化十五年二月觸

正租ノ賦課方法并ニ未納者ノ處分

毎年秋季冬初ニ於テ村役人立會ヒ村人ノ持高ヲ調査シ押切帳即チ徴租令書ヲ製作シ課租律ヲ定メ之ニ由リ納米ヲ命ズ　納期ニ至レバ精撰米ヲ五斗俵ニ入レ御倉ニ運入スレバ庄屋コレヲ受納シ調製ノ精粗及ビ數量ノ合否ヲ改メ合格スルモノハ俵裝ヲ見分ケ完備シタルモノヲ領主知行主

京都府立総合資料館所蔵

ノ役人ニ送ルモノトス（亀岡町記事参看スベシ）其ノ不備不合格檢査及ビ刑罰條項ハ亀山藩納税記事ニ出ダス

其ノ旗本知行所ニ於ケルモノハ藩制ト差〳〵其ノ趣ヲ異ニスレバ茲ニ之ヲ畧記ス

旗下士ノ知行地ニ於テハ未納者アル時コレヲ左屋宅ニ呼寄セ懇諭再三シ猶ヒテ納附セシム其ノ事實不可能ナルヲ認ノタルニ於テハ親屬ヲシテ代納セシム其ノ不可能ナルヲ認ムルニ於テハ組合ノモノヲシテ代納セシム左屋コレニ臨ミ全策ヲ采リ尚ホ其ノ不可能ト認ムルニ於テハ家屋敷財産ノ資力限リヲ公賣セシム猶ホ完納スル能ハサレバ代官ニ許フ代官ハ村役人立會ノ上コレニ手錠ヲ加フ其ノ門閥家ナルニ於テハ閉門セシメ青竹ヲ以テ其ノ門扉ヲ蔽塞セシメ知行主ノ命令ヲ待ツ地頭ノ下知ニ由リ庄屋ハ未納者ノ公賣金ヲ没收シ未納者ヲ追放ノ刑ニ處ス

三給四給等ノ租納

知行主ガ一村ニ三名アレバ三給ト呼ビ四名ナレバ四給ト呼ブ納租助定施治上頗ル繁冗ナリ知行主ガ特ニ代官ヲ置クノ資力無キニ於テハ其ノ知行地ノ門閥家ヲ以テ之ニ任ズ慣習施法ノ時ナルヲ以テ代官ノ撰任ニハ學才ヲ問ハズ

免割（ノ）即（チ）高ニ應ズルノ徵收ハ村役人長（ヲサ）百姓立會ヒ之ヲ定ム免割帳ニ由リ押切（前ニ出ダス徵税ヲ作令書ナリ）

り高持百姓ニ配布シ之ヲ徴収ス未納處分ハ正租未納處分ニ同ジ　四給ナレバ各地頭毎ニ計算シ四家ノ草高相當ニ四分シ決算報告ヲ村民ニ公示シ田主小作一同酒食ヲ供ニシ歓聲裏ニ退散ス

年寄役ハ惣百姓代人トナリ勘定相違無キ旨ノ證書ヲ庄屋ニ差シ出シ其ノ事ヲ了ス

未納處分ハ代官ヨリ代官無キ所ニ於テハ庄屋代リテ之ヲ行フ其ノ文ニ曰ハク

申渡書　丹波国桑田郡太田村百姓

持高貳石四斗五升余　利右衛門

其方事去辰巳去未年ニケ年分年貢不納ニ付何方ニ家屋ニ申付ケ候ヘ共不納不埒ニ付依

ミ右の村高弐石四斗五升余取上ケ此段出役ニ及差遣し一の下渡ニ處遠路入用ヲ掛り難ク而其文ハ村役人共より下渡ス如き書を右の村役人ハ村方ニ取調引渡ス下ものも

寅永元甲年五月　地頭㊞

村費種目

溜池拔料　井路井堰常時修繕費　年玉米　溜池敷地米　各神社ノ初穂　藏敷地料　猪鹿追料

村役人ノ給料旗本領ニ於テハ定使ノ給料旗本領ニテハ領主ヨリ上ニ同ジ　上納米藏入費　山林管理費　村役人集會費　警備費火防水防費之　雜費等旗本領地知行所ノ事ニ

京都府立総合資料館所蔵

勘當

不通

於テハ大同小異ニシテ諸勧化世話料　山見分費
水死ヲ人足給料　明暗寺鉢料（虚無僧止メ料ヽ）　諸浪
人足銭取　小堀役所ヘ上納費等ノ目アリ
勘當（カンドウ）　放蕩無頼ノ者アル時ハ之ヲ懲改セシメ用
ヒザルモノニハ父兄親族ヨリ代官ニ出願シ帳外
ノモノトシ其ノ家ヲ逐フ一名久離（キウリ）
不通（フツウ）縁組　身分ニ不釣合ナル高下アル縁組ヲ為
スニハ此ノ名ノ下ニ親族関係ヲ生ゼザルモノト
ス
番人　世襲　村内警備
非人ヒ食浪人追捕　賭博検挙　犯人逮捕
村人ノ冠婚葬祭ニハ外部ノ警備　葬式ニハ門

火ヲ焚キ松明ヲ持ツ
毎朝ヒ飯トテ餅ロス　冠婚葬祭ノ餘慶ニ浴ス
葬後ノ残物ヲ受ク　結髪ヲ内職トス

申渡覚

一村法ハ一ニお守リ不行届ニテ恐入ル儀ミ日ニ長
慢怠ル過リヲ波見又申向有ミ小節ハ早ニ取
出ヲ中ヲ
一村方ニ不届ニシテ御ヽ屋出非人取拂且豆腐
茶屋作リ門燈ヲ置ケル氣ヲ附ケヲ中ヲ
一何用向ヲテモ他出ニ御ヽ留役ヘお伺ヲ取出
ヲ
一何原非人ニ対シ先規通リ差留ヲ中ヲ

京都府立総合資料館所蔵

一能人共村方家別段頼ミ度方へ御掛ケ申木
れを渡しお遣ヒ下ル事
むも相と吟味致し不宜者ハ差止下ル事
一徒派人足抄合ハ有ル事を人お五文ツヽ取
斗て致且遊楫家ハ有ひハヽ足斗ハ一ツ
致ハル事
一四月三ヶ日九月廿ハ他月神事ニ付ハ夕飯代
として米ハ壱ヶ月餘五節句日ハ米ハ出
耳食ニ食ハて差しハ多遣ヒ申
る
一味噌豆腐薬ニハ限ル度と差しハ多申時節
ニ取集ル事

一村方より藁ヒ長ハ藁交換ハ受ハ年多度
百根迄ニ及ハ本葺替ニ古藁ハ繰ル次年ニ一ツ
致ル
但米藁麦藁年貢ハ度取集ハル
ハニ通五ハ俵下ル事
年貢法例
高壹石ニ付米四斗四升五合（五年毎ニ定免改メア
リトシテノ定）御物成（領主知行主ヘノ年貢）
壹升三合三勺五才　口米（俵ヘ詰メ込ム米ノ
名）
三升六合六勺六八　道米（同断）
ノ四斗九升五合〇一八

京都府立総合資料館所蔵

右領主知行主ノ所得
出作ノ分（他所ノ者ノ所有スル田作ノ名）
高壹石ニ付五斗八升九合壹勺六才
前示村民年貢ヨリ増スヿ壹石ニ付九升四合一
勺四才
此ノ増米ヲ以テ村費ニ供ス　惣高ノ五ツニ
分ニ三壹ヲ懸ケ其ノ出デタルモノヲ村免ト
シ村費ノ臨時用トス

公事心得書

御用日　評定所　二日　十三日　同立會日　四
日　十二日　廿五日
評定所ニ於テ御老中　立會日ニ於テハ御目付
御容坐
三奉行（勘定奉行　寺社奉行　町奉行）　宅内寄合　六日　十八日
廿七日
右ヲ式日ト云フ俗言ナリ
御老中所司代大阪御城代若年寄御側衆ヲ評定一
座ト云フ俗言ナリ
右等ノ役人領地知行所ニ係カル訴出ハ一應伺
書ヲ出ス
諸國村々用水新田新堤新地川除等地頭ニ関スル
モノハ御代官手代私領知行所家來ヲ呼出シ雙方
熟談致サセ事件落着セザルニ於テハ公訴取リ上
ケ裁許スベシ

京都府立総合資料館所蔵

國郡村境界ハ繪圖面ヲ許状ニ添ヘシムベシ猶判然セザル時ハ役人出張スルヿアリ　論所町段歩ハ諸帳面ヲ添ヘシムベシ　論外ノ地ハ繪圖面彩色ス可ラズ

御朱印并ニ讓状古證文古水帳ハ證據トナル可キモ寺社縁記ノ類ハ猥ニ取り用ユ可ラズ　寺社ノ願ニハ添状アルベシ　支配ニ於テ添状ヲ拒ムニ於テハ取り上ケラル可シ　支配ヲ相手取ル訴状ハ添状無クトモ取り上ゲラルベシ　寺社領ノ者ヨリ地頭ヲ訴フル時ハ地頭呼出相尋或ハ取り上ゲニ相成ルベシ　宗法ノ出入ハ取り上ゲズ支配ニテ始メ申シ付クベシ　他宗俗人ヲ交ル出入ハ取り上ゲズ

扱ノ事（扱トハ熟談シテ出許セシメザルヿ）

火付盗賊人殺人勾引逆罪名主私欲博奕勝負三笠取退無盡賣女公儀ヘ拘ハル出入等ハ扱フ間敷キ事　日數七日ヲ限ル遠國懸合ハ日數ヲ入ルベシ

誤證文（謝罪状ノヿ）得心ナキニ押テ之ヲ取ル可ラズ　誤リタリトモ理非裁許スベシ

盗賊火付ハ改方ヘ渡サズ其ノ手ニテ詮議スベシ

舊悪　逆罪邪曲人殺火付徒黨人家押込追剥人家忍入　公儀ノ御法度ニ背ク死罪以上役儀私怨

右ノ分永尋ノ上出候ハヽ可伺　此ノ外ノ科其ノ後悪事ヲ止メ十二ヶ月以上舊悪ヲ咎メズ

京都府立総合資料館所蔵

裏書差紙背ハ所拂　御関所ヲ忍ヒ通りタルモノ
女ハ地頭預ケ
隠鉄砲ヲ折ツモノ當人ハ遠嶋名主田畑役儀取上
ケ組頭ハ過料　之ヲ賣買シタルモノハ田畑取上
ケ所拂ロ入ハ過料　御留場鉄砲折ヲ捕ヘタル者
ニハ御褒美銀廿枚訴人銀五枚　御留場鳥殺生
名主過料組頭ハ叱リ　隠鳥賣買過料　人別ニ加
ハラザル者ヲ抱ヘタル者ハ所拂
地頭ヘ強訴シタル者ハ死罪名主ハ重追放組頭ハ
田畑取上ゲ所拂一村百姓村高ニ應シ過料　地頭
非分申付ケタルナレバ一等軽キ御仕置　村々百
姓徒黨ヲ催フシ働キタルヲ取鎮メタル村役人ニ
ハ御褒美下サレ其身一代帯刀御免永々苗字御免
軽キハ銀子下サル　身代限ハ田畑屋敷家藏家財
取上ゲ高割タルベシ小作滞地所取上ゲ年々ノ作
德ニテ滞金濟次第地所取主ヘ返スベシ　店借家
財取上ゲ地借者家作取上ゲ
田畑永代賣主ハ過料加判名主ハ役取上ゲ　證文
ヲ買候者地所取上ゲ　高請ナキ開發新地浪人侍
所持永代賣質取候者作取ニ申候ハヾ元地主年貢
諸役勤候分質置過料質取候者地所取上ゲ過料所
持者中追放
利足法　壹割半以上ハ壹割ニ直ス可シ　但閏月
ハ除ク可シ

京都府立総合資料館所蔵

宛所無キ證文帳面家質々地等ハ取リ上ゲ無キ
地頭ノ借金ニ役人ノ與印無ク地頭ノ裏印ナキ
ニ於テハ地頭ノ借リニ成ラズ
家質金ハ金高ニ應ジ日限濟方申附日限滯ラバ家
質相渡ス可シ料領屋敷家質書入屋敷取上ゲ當人
百日押込　寺社付品々書入賣渡證文ニ付質借主
受人逼塞俗者手銷貸方不埒ニ付濟方沙汰ニ及バ
ズ　二重賣ノモノ取次キタル者質入レシタル者
金拾両以上死罪以下入墨敲キ品取上ゲ　倍金并
ニ白紙質地金銀取遣ハ不埒ニ付濟方沙汰ニ及バ
ズ　過料ハ身上ニヨリ重ク申付ケル　證文宛所
切替ハ爲過怠取上　證文ニ名ヲ替ヘ文句書入借

借金シタル者ハ死罪貸主同斷　讓リ屋敷町内ヘ
弘メ無リ名前改メザル内ニ出入シタル者ハ屋敷
取上ケ　給金帯ハ十日限在町武家ハ證人ヘ濟方
申付　奉公人ト馴合ヒ欠落致サセタル請人ハ重
追放二度以上ハ死罪　取逃雜物金拾両以上死罪
拾両以下入墨放シ　入牢中償フニ於テハ願ノ通
赦免主人助命願ハ願ノ通リ使ニ持タセ遣ハス品
取逃ハ金壹両以上死罪以下入墨主人助命願アテ
バ前條ノ通リ　夫家出シ妻再嫁ナスハ十ケ月後
タルベシ　金ヲ添ヘタル棄兒貰其兒ヲ捨テタル
モノハ引廻ハシノ上獄門　切殺シハ引廻ハシ磔
使ノ者金壹両以上ノ取込ハ死罪以下ハ入墨

京都府立総合資料館所蔵

主人助命頼ノ通リ救サル
隠シ賣女商賣ハ店ニ置クモノハ屋敷家財取上ゲ
百日手鎖五人組名主過料
密通之妻男死罪　密者并ニ妻本夫切害無紛ハ無
構　同心無之女ハ密通申懸ケ或ハ家内ニ入男ヲ
夫殺時不儀申懸ケ證據於分明ハ中追放　主人ノ
妻ヲ密通ノ男引迴シノ上獄門女引迴シノ上死罪
手引候者死罪　主人ノ後家ヲ密通本人追放夫有
ノ女得心無之押テ不儀候モノ死罪　養母姑養娘
不儀男女獄門　主人娘ヲ密通ノ男中追放娘手鎖
親ヘ渡ス　幼少ノ者ハ不儀爲恠我候者遠嶋女得
心無之押テ不儀産追放

密夫ノ僧寺持所化獄門
新神佛事仕出候社僧ハ産ハ所拂　三鳥不受不施
ヲ勸候者改宗候共宿ハ遠嶋　家ハ取拂住所世話
人産追放
内證ニテ葬候寺院五十日逼塞
三笠点者今元宿　博奕筒取宿　無盡頭取宿　遠
嶋　家主過料百日　向側兩隣過料　地主屋敷取
上ゲ　五ケ年追放下　名主越度村役人五人組過料
武士百仕博奕遠嶋　悪筵拵候モノ入墨追放　同
類タリトモ訴出モノ産科被免銀二十枚褒美　婚
姻石打頭取百日手鎖同類五十日
天明四年　施行　麸屋町四條近江屋忠藏　異名

南宮　五月十五日漬ストノ流言アリ驚囲シタル者アリ　五月十三日江戸ニモ米屋漬シアリ　大阪ニテハ橋ヤ漬シアリ　六月九日御所廻リ流言京民町奉行ヘ出訴　樂翁ノ政　所司代公用人加藤治兵衛　役召離シ江戸下リ　所司代戸田兎役屋ノ間　與力筆頭木村書木改易　南室忠藏出奔　江戸ニテ召捕　御尋モノ米伊ハ丹波ニテ逮捕　忠藏ハ罰佛二萬二千両取上ゲ

虛無僧ノ事

徳川氏施政ノ初ニ於テ浪人虛無僧盲人不具者等ノ愛撫ヲ爲セシガ其ノ弊虛無僧ノ放縱トナリ人家ニ立チ入リ無心合カヲ強ニ往々亂妨ニ渉リ無知ノ者ヲシテ恐怖セシメ町村ノ風儀ニ悪影響アルヲ以テ明暗寺ニ照會シテ留札ヲ村町ノ出入口ニ建ツト雖猶押シテ入リ來ル故村々ヨリ之ヲ懸合ヒ左ノ答書ヲ得タリ

丹波国何郡何村ヘ近年虛無僧入込ム法ニ依行ヲ致候ニ付変村ニ居候或ハ寺院節ニ依家ニ立入稼ニ巧言ヲ以テ無合力ヲ申掛村役所弁ニ商業渡世ニ妨ニ成候ヲ厭ヒ家ニ而自極ニ心ム虛無僧家ハ尺八ハ修行一通ヲ以テ法出度経返ム宗法ニ付変太被ニ不法ニ族入込自然無合力ヲ請或ハ虛無僧ヲ及去ハ彼等ヲ以テ れニ門少ヲ中立ムル虛無僧ニハハ寺所村

人足役中附為し小村ニハ一箇所ニ集ル諸村ハ一漢ハ隣村ハ名方ハ遠ク隔テ方ハ七村方ニ付掛ル遠一漢方ハ通達ス故ニ七村方ニ付掛ル遠一漢方ハ通達ス故ニ七役儀差下し為ス宗門ニ仕遣ス中付事

但し宿ニ泊ル儀ハ病ニ付ス中遣ハハ人ナラバ合銀ニ付引合年号月日当限月ニ内ニハハ木銭ハ銭ニ銀料差出ス也ニ付ニ宿ニ銭ハ不成ハ差ハ遣ス銭ハ有ハハ文ニ付文ニ通ニ付中ニ付事

右ニ通ニハ名ニ付村役人定ニ張付ス也ニ差不均ニ遣ス儀ハ不法ニ付有ニハハ右ニ通ニ付ニ出ス中ハ市ハ常山ニ

リ役儀差下ス為ニ付中付事

京大佛　明暗寺院代寛哲

丹波村ニ　年号忘ル

津ノ國奉公

親ノ手ニ合ハヌ横着ナ子供ガアルト親ノ最後ノ辞トシテ夫レデハ仕方ガ無イ津ノ國ヘ奉公ニ遣ルト云ヘバ幾分ノ利目ガアルトハ事實デアル事實奉公ニ行タ者ノ言ヲ聞クニ攝津國ノ北方諸郡村ノ奉公人ニ對スル無情ナルヿ悪辣ナルヿハ言語ニ絶スト朝ハ未明ヨリ草刈ニ追ヒ出シ朝食ニ米麥等分乃至麥七米三ノ食事ニテ月一回乾魚ヲ供スルノミ大抵家製ノ糠味噌汁菜漬大根ノ塩漬

京都府立総合資料館所蔵

利ハ理ナンベシ

ニテ剰ヘ夜業ヲ強ヒ其ノ酷使ノ程度ハ昔話ノ三
庄太夫（亀岡町聖ヵ芝ノ部ニ出ダス）ニモ劣ラヌトブ　左ニ示ス
所ノ請状ヲ見ヨ全ク人身賣買ナリ曰ハク

奉公人請状之事

一丹波桑田郡奥條村長右衛門次郎と申去年
十一歳ニ成ル者ニ度々祝ヘ申候ヘ共出
シ申ル筋ニ上ル未年より已極月迄九拾ヶ
年切申ル別ち代ハ為給銀弐ツ目ニ御定ル八
拾匁ニ成ル所慥ニ受取申ル
即地祝様ヘ此上銀銀ニ差ト申変事ハ自
世ハ銀ハ弐拾目ハ年明ニて此度ニ成可申下
ル代者無ク内故迷ヒ為出奉又ハ利不長ク隙

勝手仕様
柔文ノ低

故十ル共請人方より罷出ル迄ニ御手出シ申
奉公方切ニ御願ヒ申ル其一切不知
ル事ハ太給銀ニ考割五分ヶ利息を付ケ元利
共此度御返ス申ル且又此者ニ代ヘ申ル祝様
ニ代ツ変出来ル代共罷出ル度時ハ
祝様ヘ少変ル代ハ御申変ル
一此者病氣歟死仕ル代ハ祝様ヘ代様ヘ
形ニ成ル事可申下ル時記話記載ハ不及申一
言ヶ妨申ル事ル
一宗旨ハ代ヘ禄宗ニて寺請状ヘ代ハ別帯ニ成
ル申ル為ル年季ニ成ル人一札仍如件

丹波桑田郡奥條村

京都府立総合資料館所蔵

記　表吾郎　印

同　吏人　表八　印

桂岑野西宿村

吏人　左次郎　印

左屋忠蔵　印

年寄　左多郎　印

桂州西宿村

天然痘

法右衛門　殁

天然痘ハ明治初年全般ニ種痘法ノ行ハルヽ迄人間一生一度ハ罹カルモノトシテ居タ著者モ亦コレヲ煩ヒタルガ其ノ病中赤衣ヲ着セ赤頭巾ヲ被セ其ノ治愈スルヲ待ツ童カラザルモノハ醫者ヲ迎ヘズ平愈スレバ産儀ニ赤飯ヲ盛リ手製ノ人形ニ赤紙モテ製リタル衣裳ヲ着セ之ヲ四辻ニ捨ツ曰ハク疱瘡神ヲ送ルナリト

流行風送

流行感冒ニモ亦風ノ神送リアリ所爲一様ナラズ風神ト書キタル丹冊ヲ川流ニ附スルノ類ナリ

時疫送

飲酒ノ習慣モアリ

悪疫ノ流行ヲ時疫ト呼ブ之ヲ送ルニハ丹後ノ大川神社ノ神靈ヲ迎ヘ之ヲ祭ルアリ大般若經ヲ轉讀スルアリ祈禱札ヲ竹竿ノ先ニ附ケ之ヲ村外レヘ持チ行キ之ヲ立ツルモアリ　辻念佛スルアリ之ヲ路上ニ百萬遍數珠ヲ繰ルナリ

京都府立総合資料館所蔵

コレラ病ノ流行ハ安政五年ニアリコロリト呼ビトンコロト呼ブ異様舞ヲ唱ヘ異様舞ヲ爲ス名ヅケテ笹踊ト稱ス一週間コレヲ行ヘリ

藥方　罌粟殼五分　茯苓三分　猪苓三分　蒼朮四分　陳皮四分　藿香二分　澤瀉四分　甘草少　厚朴皮四分　生薑一分

右水二合入レ一合ニ煎じ用ユ　但用心藥ニハけしからハ用ユ可ラズ

京都木屋町二條下ル長松氏印施　取次寺町妙心路角鳩居堂蓮心

禁厭方　八ツ手ノ葉　南天ノ葉　ふんふく　とうがらし　杉ノ葉

右門ニ掛ケル

むらしより所蔵れくむ祈るなたるな災乃神

紅木綿又ハ茜木綿ノ絲ニテ男ハ左女ハ右ノ手ノ親指ヲ三ツ廻ハシテ縛ル

其ノ他種々アレド畧ス

行政　御料代官　手代　刑事ハ京町奉行

行政　藩主―家老―奉行―代官（支配人トモ云フ）―手代

―庄屋

刑事　藩主―家老―大目付―水道目付―同心―手代―番太（番人トモ云フ）

行政　旗本知行主―用人（江戸）―代官（地方）―庄屋

刑事　京都町奉行―知行村住用人或ハ代官―庄

京都府立総合資料館所蔵

屋一番太

庄屋　平常ハ平服羽織小刀ニテ勤務出役ス　褻美帯刀許可ノモノハ両刀ヲ帯ビ羽織袴ヲ着用スルモ妨ゲズ勉励ニ由リ苗字ヲ許ルサルヽアリ祝儀帯刀トテ祝日ノミ両刀佩用許可ノ者アリ常帯刀許可ノモノハ士分ニ同ジ軽キ褻美ハ褻状ニ止マリ銀賜アリ領主知行主ノ紋賜アリ是ハ換紋又ハ本紋ヲ用ユルヿヲ許サルヽナリ

庄屋ヲ勤ムベキ者無キ村ハ隣村ノ同領同知行同支配村ヨリ之ヲ兼ネシム

役人ノ廻村ニ食事入用ナレバ一汁一菜トス

入別帳改ハ庄屋ノ庭ニテ之ヲ為ス

一本紙ト云フモノアリ一家一通ノ宗旨書ナリ名家ナラザレバ之レ無シ

庄屋ノ給料ハ多キモノニテ一年ナニ石少キ村ニテハ一石　肝煎ハ一石ヲ出デズ　百姓惣代即チ五人組頭ハ無給

刑罰　呵責　敲　追放　死刑　正刑　晒　入墨　闕所　逼塞　閉門　蟄居　預ケ　過料　手錠　閉刑　片鬢　半眉毛　敲　賭博刑

公儀ニ於テハ民事訴訟ヲ地方人望家ニ托スル中裁ヲ望ム

往来手形ノ事

江戸ヘ行クニハ東海道ヨリスルヤ將中仙道岐曾

京都府立総合資料館所蔵

街道ヨリスルカ當時海路ハ危險ナリトシテ陸路ヨリスルヲ常トス然ルニ東海道ニハ荒井ノ番所アリ箱根ノ關所アリ木曾ニハ福島ノ番所アリテ審糺嚴察通行容易ナラズ藩臣ハ届書ニテ往來シ得ルモ人民ハ村役人ノ證明書ヲ示シテ許可セラル中ニハ人別寺送（別項ニ出ダス）ニ同ジク寺ヨリ出ダスモノアリ其ノ文左ノ如シ

往來手形ノ事

松田善左衛門殿御知行所　丹波国桑田郡（南北郡）

（別無キ時ナリ）左田村源快ト申者宗旨ハ代々禪宗ニテ松寺檀那ニ紛無ク出ル無之旦那寺ヨリ四国巡拜仕度旨願出ル旨任其意ニ為差出申紛敷者ニ而ハ

此宿ヨリ仰付ル筈ニ候ヘ共ハ第一病死頓死ノ者ハ勿論ヘ度ハ不及申懸命ヲ以テ手形ヲ作法通リ申取置成ル迄後帝ヲ待ツ可ク仍而如件

文久二壬戌年二月　日　日郡日村　龍潭寺印

誌國陸御奚所村ヨリ役人ヲ為ル

江戸ヘ送書送物スルニハ京都ノ三度飛脚ニ托ス

斷獄手續畧載

番人同心水道目付等ノ諸役ニ於テ賭博盜賊其ノ他放火殺傷等ノ犯罪アルヲ探知シ追捕スレバ一應町村ノ番人小屋（即チ番太屋）ニ於テ糺問ス容易ニ白狀セザルニ於テハ縄。サヽラ。タハネ縄。釣縄。抱ヘ石。

京都府立総合資料館所蔵

等ノ拷問方法ヲ用ユルヿアリ伏罪ロ供スレバ調書ニ記載スベシヲ下調書ト稱シ大畧ヲ記スルモノトスベシヲ月番町奉行ニ進達ス犯人ハ直ニ下牢ニ投ズ

奉行ハ日ヲ定メ犯人ヲ調所ニ呼出ス白洲ト稱スル沙敷ノ庭ナリ犯人ヲ縄付ノマヽ坐セシメ前ノ下調書ヲ讀ミ聞カセ相違無キヤヲ糺問ス係カリ奉行ノ外立會奉行用人留役等列坐シ留役其ノ罪迹ヲ更メ書ク其ノ文式左ノ如シ

第一例　口書

何村　何渡世

何宗　何屋　何誰

何月何日何所ニ於テ旅方與坐茂ニ思入リ銀何程錢何程札何程盜ミ取リ飲食ミ料ニ遣ヒ果シ申ム

右毛氏相違無キ段重ネテ申入ム上ハ如何様ノ罰ニ申付ケムトモ申分無キ段

仍如件

年号月日　何誰印

第二例　口書

何村　何渡世

何宗　何誰

何月何日何方ニ於テ何誰外何人ト

京都府立総合資料館所蔵

宴会よしゝと云ふ伺文より伺文
掛けし始末を改しの事を決の處
を以て恐入れ申上いめ伺様に
仰付られとも御中分を以て
年月日　何役印

右ヲ吟味詰ト稱ス是ニ於テ町奉行ハ其ノ軽重ニ
由リ吟味中入牢手鎖町村預ケ等ヲ申渡ス　係カ
リ奉行ハ前口書ニ罰スベキ刑名ヲ具シ吟味伺書
ヲ呈出ス其ノ文例左ノ如シ

吟味伺書

右　何役

右伺役ハ敲キ五拾。所拂。片髮片眉モ。

入墨。ニ相萬リハ吟味仕度旨
仰付被成伺申上候

係　何役印

右ノ伺書ハ吟味ノ際立會ヒタル用人ニ差出ス用
人ハ之ヲ年寄用番ヘ差出ス　協議ノ後伺之通ト
令ス　先例無キ犯罪ニ付キテハ類似ノ者一二例
ヲ引用シ之ヲ伺フ其ノ中ノ軽キ方ノ適例ヲ伺ノ
主トス

伺之通ト云フ命令ヲ得テ奉行ハ犯人ヲ呼出シ罪
名申渡シ其ノ執行ヲ下役ニ命ズ贓品買取人質屋
古着屋等ノ居住知リ得ベキ者ハ呼出シ贓品ヲ取
リ上ゲ其ノ情ヲ知リタルモノハ咎メ申渡サル、ト

京都府立総合資料館所蔵

アリ物品ハ被害者ヘ返付ス

刑名　敲　所拂ヨリ斬罪ニ至リ尚重キハ獄門ア
リ磔アリ火刑アリ　其ノ前例無ク又處刑ナシガ
タキモノハ永牢ニ處スルモアリ

民事訴訟畧載

領地内ノ訴訟ハ山林疆界爭論金錢米穀貸借緣組
ニ付キテノ丁奉行所ニ於テ之ヲ裁判ス　他領公
領ニ管スル出訴ニハ願ニ由リ目安裏書ヲ爲シコ
レヲ與ヘ落着スレバ其ノ趣旨ヲ届ケ出デシム
他領人ヨリ領地人ヲ訴フル時ハ相手人ヲ呼出シ
對談和解セシム三回ニ及ビ和解ナラザルニ於テ
ハ奉行所ニテ裁決ス金錢貸借入被訴人ノ身代限

ヲ程度トシテ止ム

租税法

石盛　土地ヲ丈量シ其ノ廣狹ヲ知リ其ノ收穫ヲ
撿シテ土壤ノ肥瘠ヲ定メ上田中田下田ノ等級ニ
分チ上田壹段歩一石四斗中田一石三斗下田一石
二斗位畑ハ上一石中八斗下七斗位トス之ヲ石盛
ト呼ブ

草高　右ノ等級ニ由リ年貢ヲ定ム之ヲ草高ト呼
ブ　幕府ノ禄制ニ高何萬何千何百何十石ナド
ヨフハ之ヲ根據トシタルナリ

年貢ノ方其ノ一例ヲ示サン　壹段ノ收穫一石四
斗ナレバ其ノ十分ノ四即五斗六升ヲ課ス之ヲ四

京都府立総合資料館所蔵

ツ取リト呼ブ即チ四公六民法トス　禄制ニテハ四ツ物成リト呼ブ　十分ノ五即チ七斗ヲ収ムルモノハ五ツ取リト呼ブ五公五民法ナリ

免　一石免相又取箇免　即チ課税率　石高ニ由リ収納スルモノ故ニ年々検見セザル可ラズ代官以下ノ諸役人ノ臨見ト庄屋名主田主作人等ノ立會ト刈取枡量リ其ノ他飲食宿泊等ノ手数多キヲ以テ定免ノ新法起コル

定免　此ノ方法ハ五ヶ年ノ収穫ヲ平均シ其ノ平均額ヲ基礎トシテ取箇ヲ定メ非常ナル凶作ノ外ハ多少ノ異作ヲ論セズ徴収額ヲ一定スルモノナリ

石代即チ銀納法　定免ノ法タルヤ便法トシテ用ヒ来レル内水旱蟲害風害ニ由リ農民ニ不利多キヲ以テ凶作ニ遭ヘバ上田以下各所ニ於テ一坪ヅヽノ稲ヲ刈リ吏民ノ自前ニテ之ヲ玄米ニシ其ノ多少ヲ量計シ其ノ枡目ヲ標準トシテ取箇ヲ定ムルナリ此ノ法公平ナレドモ其ノ煩ニ堪エズ故ニ銀納ノ制度始マル時ノ相場ヲ以テ銀貨實ハ藩札ニテ納税スルナリ然リト雖モ領主地頭ニ由リ三分ノ一又之ヲ許シ他ハ米納セシムルヲ多シトス　定免ハ五年毎ニ地頭ニ請願スルノ習慣ナリ

口米　年貢米百分ノ三ヲ増納セシム　欠損ヲ豫納スルモノ　寛永享保頃ヨリ始マル

京都府立総合資料館所蔵

道米　年貢米百分ノ十ヲ添納セシム　欠損ヲ豫納スルモノ　其ノ後ニ起コル

三口役米　傳馬宿入用　六尺給米　藏米入用ヲ云フ

右三米ハ大名旗下其ノ他ノ支配者ニ由リ多少ノ相違アリテ有無厚薄ヲ異ニス

免下ゲ願　五年間居エ置キノ定免トハ云ヘ格別ノ凶作ナルニ於テハ免下ゲノ請願ヲ爲ス其ノ時ニハ檢見役人ヲ出張セシメ引キ下ゲヲ爲スカ又ハ願意ヲ聞キ入レヌカヲ決スルナリ遠隔ノ地頭ナランニハ代官ニ委任シ其ノ拒否ヲ決セシム

荒引永荒引　荒引ハ不作ニ付免下ゲノ丁　永ハ其ノ數年乃至無限ノ免下ゲナリ

豆田大豆田　三ツト云フハ十石高ノ地ナレバ三石三斗三升三合三才ノ租米ヲ出ス所ヲ云フ水利無キヲ以テ豆ノミヲ作ル地ナレバナリ大抵三ツ三分三ツ半ナリ

納辻ハ年貢ノ別稱　納辻百石ト云フハ年貢百石ノ事　銀又ハ豆ニモ用エ

物成前條ニ同ジク年貢ノ丁　領主ノ取高ヲ御物成ト呼ブ

納税日ハ領主地頭大同小異大抵十二月廿五日ヨリ大晦日ニ終ル

被下分　領主地頭郎知行主等ヨリ村方ヘ下ケ渡

京都府立総合資料館所蔵

ス分ナリ郷藏舗地田畑ノ免井料池人足川人足ノ
類　用捨米（村ノ損失神助ナリ）　庄屋給米手寄給米下目付
給與　褒美　施米　等ヲ云フ恩惠ノ意ナリ
正租外ノ加徴ハ運上冥加金小物成夫役
運上ハ山川ヨリスル産物得利運搬ヨリ生スル利
益ニ課シ小物成ハ山林原野ヨリ收益スルモノニ
課シ山役山銭川役川銭等ヨリ賢物ヨリスルモノ
ハ藁縄莚糠藁草竹蓆（ムシロタケ）等又ハ茶役乗役ナドモアリ
藁以下松蓆ニ至ルノ類ハ賢物ヲ以テコレヲ納メ
不作ノ時ハ銀納ニス造酒株同ジ
國役金ハ幕府有事ノ際ニ臨時ニ賦課ス　傳馬宿
驛入用六尺給米（六尺ハ輿丁ノコト）日光社参継立人馬賃

銭朝鮮人來聘入費宿場助郷（東海道以下諸道ヘ出ス人馬）渡船川
越入用及ビ軍役等
領主ノ邸ニ於ケル出火又ハ類焼（江戸ニ於ケル地方災難
出水等）知行主ノ出役普請其ノ他入費アルニ際シテ
ハ多ク用金又ハ頼ミ金ヲ富民ニ課シ又ハ草高ニ
課シ安政年度ヨリ外國事件起コリ誅求加ハリ郡
村ノ疲弊一々筆記スルニ遑アラズ

京都府立総合資料館所蔵

昭和十二年十二月より昭和十三年二月末迄約三ヶ月を費して丹波誌全拾五巻浄写完了せり

京都府南桑田郡曽我部村收入役 長谷川秀雄は

右の期間内に於て役場事務の傍 不眠不休の努力にまつて京都に輸出せる貴重文献を再び郷土たる丹波に還して北村先生の遺志を顕揚せんと努むるものなり

興亜の華と謳りにし君の跡

郷土を思ふ心うれしく

梅雪軒

京都府立総合資料館所蔵

京都府立総合資料館所蔵

京都府立総合資料館所蔵